

# 新保田中村前遺跡Ⅰ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

《遺物観察表編》

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



しん ぼ た なかむらまえ  
**新保田中村前遺跡 I**

一級河川染谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

《遺物観察表編》

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 例言・凡例

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊「新保田中村前遺跡」《遺物観察表編》である。

2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に、記載している。遺物の種類ごとに表の書式は異なっている。遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。

①器種 《石器》 UF=Used Flake(使用痕のある剥片)、RF=Retouched Flake(加工痕のある剥片)

②法量 《土器・石器》 口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大直径

石器の厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。

なお、計測値に( )を付したものは復元値である。

《木器》 単位：cm + α：測定値が残存値であることを示す φ：芯持ち材の直径

③色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。

④樹種 《木器》 観察表中の樹種の同定は高橋利彦氏の以下のような26科37分類群(Taxa)の設定に拠る。

イチイ科	カヤ( <u>Torreya nucifera</u> )
イヌガヤ科	イヌガヤ( <u>Cephalotaxus harringtonia</u> )
マツ科	モミ属( <u>Abies sp.</u> )
	マツ属複雑管束亜属( <u>Pinus subgen. Diploxylon sp.</u> )
スギ科	スギ( <u>Cryptomeria japonica</u> )
ヒノキ科	ヒノキ属( <u>Chamaecyparis sp.</u> )
ヤナギ科	ヤナギ属( <u>Salix sp.</u> )
クルミ科	オニグルミ( <u>Juglans ailanthifolia</u> )
カバノキ科	カバノキ属( <u>Betula sp.</u> )
	ハンノキ属( <u>Alnus sp.</u> )
ブナ科	ブナ属( <u>Fagus sp.</u> )
	コナラ属アカガシ亜属( <u>Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.</u> )
	コナラ属コナラ亜属コナラ節( <u>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus sp.</u> )
	コナラ属コナラ亜属クスギ節( <u>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.</u> )
	クリ( <u>Castanea crenata</u> )
ニレ科	ニレ属( <u>Ulmus sp.</u> )
	ケヤキ( <u>Zelkova serrata</u> )
	エノキ属( <u>Celtis sp.</u> )
	ムクノキ( <u>Aphananthe aspera</u> )
クワ科	ヤマグワ( <u>Morus bombycis</u> )
カツラ科	カツラ( <u>Cercidiphyllum japonicum</u> )
バラ科	サクラ属( <u>Prunus sp.</u> )
ミカン科	コクサギ( <u>Orixa japonica</u> )
トウダイグサ科	シラキ( <u>Sapium japonicum</u> )
ウルシ科	ヌルデ( <u>Rhus javanica</u> )
カエデ科	カエデ属( <u>Acer sp.</u> )
トチノキ科	トチノキ( <u>Aesculus turbinata</u> )
ムクロジ科	ムクロジ( <u>Sapindus mukorosii</u> )
クロウメモドキ科	ケンボナシ( <u>Hovenia dulcis</u> )
ツバキ科	ヤブツバキ( <u>Camellia japonica</u> )
	サカキ( <u>Cleyera japonica</u> )
	ヒサカキ類似種(cf. <u>Eurya japonica</u> )
ウコギ科	ウコギ属( <u>Acanthopanax sp.</u> )
エゴノキ科	エゴノキ属( <u>Styrax sp.</u> )
モクセイ科	トネリコ属( <u>Fraxinus sp.</u> )
ゴマノハグサ科	キリ( <u>Paulownia tomentosa</u> )
スイカズラ科	ニワトコ( <u>Sambucus sieboldiana</u> )

## 目 次

1. 溝出土遺物観察表 .....	3
2. 井戸出土遺物観察表 .....	53
3. 河川跡出土遺物観察表 .....	58
河川跡出土植物遺存体一覧表 .....	131
河川跡出土獣骨一覧表 .....	132
4. 畠出土遺物観察表 .....	137

## 1. 溝出土遺物観察表

3号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図10

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
25 63	飴釉香炉 陶器	体部～底部 底 (7.6cm)	F-6G 底面上7cm	浅黄色	筒形香炉の底部片。底部外面に脚を貼り付ける。飴釉を体部外面に施す。	瀬戸・美濃系 18C
24 63	三島手鉢 陶器	体部～底部 底 (13.8cm)	F-6G 底面上2cm	赤褐色	皿か鉢の底部。外面は無釉。高台端部に目痕圧痕。底部内面に目痕。内面は長石釉系の透明釉。	唐津系 17～18C
23 63	錆釉播鉢 陶器	口縁部～体部 口 (33.2cm)	F-6G 底面下16cm	淡黄色	口縁部は外側に折り返し、肥厚させる。口縁部内面は段差を有する。播目は15本単位。内外面に錆釉。	瀬戸・美濃系 18C後半。

3号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図10

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
26 63	瓦 女瓦	破片 厚 2.0cm	F-6G 底面上1.0cm	①白色鉱物粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰N5/	桶巻造り。凹面に1単位1.8cm程の寄木痕。凸面口ク 口整形痕。分割後、側部周辺を縦位に匏撫で。側部面 取り2回。狭端部面取り2回。布目は6cmで56本。	乗附系

4号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図11

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
53 63	染付そば 猪口 磁器	体部～底部 破片 底 (3.9cm)	埋没土中	灰白色	底部器壁は厚い。体部外面の2方に花卉文。高台端部を除き、 透明釉。	波佐見系 18C
65 63	染付碗 磁器	口縁部～体部 破片 口 (11.0cm)	埋没土中	灰白色	口縁部外面に丸文。透明釉はやや青味を帯びる。割れ口に漆 付着。	波佐見系? 18C
61 63	染付碗 磁器	口縁部 破片	埋没土中	白色	器壁はやや薄く、胎土は白色。呉須の発色は良い。	伊万里系 18C
48 63	染付碗 磁器	口縁部～体部 1/4残存 口 (9.9cm)	埋没土中	灰白色	器壁は厚い。呉須の発色は鈍い。透明釉。	波佐見系 18C
55 63	染付皿 磁器	底部 破片	埋没土中	灰白色	底部器壁は厚い。呉須はやや黒味を帯びる。透明釉。	波佐見系 18C
56 63	染付広東 型碗 磁器	完形 口 8.8cm 底 4.1cm 高 4.6cm	埋没土中	灰白色	やや小型の碗。体部外面に菊花散らし文。高台外面に螺旋状 の圏線。底部内面の文様は不明。焼き継ぎ有り。高台内に焼 き継ぎ時と思われる赤褐色の文字。	波佐見系 18C末～19C 前半
49 63	染付蓋物 磁器	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.4cm) 底 6.1cm 高 8.6cm	埋没土中	白色	体部は直線的。口縁部はわずかに肥厚。呉須の発色は良い。底 部に焼きぶくれ有り。豊付は幅広く、無釉。焼き継ぎ有り。 口縁端部内面は無釉。透明釉には貫入が入る。	伊万里系 19C前半

4号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図11

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
64 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.2cm) 底 4.0cm 高 6.3cm	埋没土中	白色。比重は軽い。	口縁部は外反。呉須の発色は濃く、滲んでいる。底部内面の銘は「大化年製」か。	瀬戸・美濃系 19C前半
52 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～底部 2/3残存 口 (10.9cm) 底 4.3cm 高 6.1cm	埋没土中	灰白色	口縁部は外反。呉須の発色は薄い。生け垣文間の2方に花卉文。高台端部無釉。底部内面は松葉文。	波佐見系 19C前半
50 63	染付湯飲 み 磁器	口縁部～底部 1/3残存 口 (7.1cm) 底 4.2cm 高 5.6cm	埋没土中	白色	体部・口縁部は直線的。高台はやや高い。釣り人が主文様。文様は細線で輪郭を描き、後に「濃み」。	伊万里系 19C中
51 63	染付端反 碗 磁器	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.4cm)	埋没土中	白色	口縁部は外反する。呉須の発色は濃く、染付部分は盛り上がる。	瀬戸・美濃系 19C前半～中頃
58 63	染付飯碗 磁器	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 底 3.7cm 高 4.8cm	埋没土中	白色	高台は小さい。外面の染付は「ペロ藍」	瀬戸・美濃系 明治～大正
54 63	紅皿 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (5.8cm) 底 (2.5cm) 高 2.1cm	埋没土中	白色	内面に藍色の上絵。ゴム印か？	瀬戸・美濃系 大正
60 63	飯碗 磁器	体部～底部 破片	埋没土中	白色	外面は型紙刷。呉須は「ペロ藍」	瀬戸・美濃系 明治後期
62 63	小杯 磁器	口縁部～底部 1/2残存 口 (6.2cm) 底 (2.9cm) 高 4.9cm	埋没土中	白色	底部内面に押印文様。外面はクローム青磁釉。内面・高台内は透明釉。高台端部は無釉。口錆。	瀬戸・美濃系 大正
57 63	飯碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.4cm) 底 4.3cm 高 6.2cm	埋没土中	白色	外面に「ペロ藍」で茄子と雲、オリーブ褐色で富士山。「一富士・二鷹・三茄子」か？文様はすべてコンプレッサーによる吹き墨。高台内にゴム印で「岐6066」銘。	美濃 昭和初期
41 63	飴釉碗 陶器	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 底 4.5cm 高 7.5cm	埋没土中	灰白色	外面は口縁部下までヘラケズリ。張り付け高台。高台脇以下を除き釉。	瀬戸・美濃系 18C中頃



4号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図11・12

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
35 63	柿釉碗 陶器	口縁部～底部 1/4残存 口 (9.9cm) 底 3.4cm 高 4.9cm	埋没土中	灰白色	高台は小さい。腰は張り、器高は低い。貼り付け高台。高台脇以下を除き柿釉。外面は口縁部下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半
36 63	腰錆碗 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 (8.8cm)。 底 4.2cm 高 4.8cm	埋没土中	灰白色	口縁部下に螺旋状の沈線を3条巡らす。内面と口縁部外面は灰釉、外面は柿釉に近い鉄釉の掛け分け。高台端部のみ無釉。灰釉部分のみ粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C前半
37 63	腰錆碗 陶器	体部下位～底部 1/5残存 底 4.5cm	埋没土中	明褐色	口縁部下に螺旋状の沈線を巡らす。内面と口縁部外面は灰釉、外面は黒色の鉄釉の掛け分け。高台端部のみ無釉。灰釉のみ粗い貫入。	瀬戸・美濃系 18C後半
38 63	鉛釉碗 陶器	体部～底部 1/4残存 底 5.5cm	埋没土中	明褐色	体部外面はヘラケズリ。高台外面以下は無釉。高台端部は使用により摩滅。	瀬戸・美濃系 18C後半
47 63	青磁皿 磁器	口縁部～底部 1/2残存 口 (16.2cm) 底 (9.2cm) 高 2.4cm	埋没土中	白色	内面に型押しで菊花、花はピンク・葉が青灰色の釉下彩。焼き継ぎか。高台内錆び化粧。釉切れが著しい。	瀬戸・美濃系 大正～昭和
46 63	刷毛目皿 陶器	口縁部～底部 2/3残存 口 (13.5cm) 底 6.5cm 高 3.8cm	埋没土中	灰白色。緻密。	内外面に白土で螺旋状の刷毛目。高台端部を除き、長石釉系の透明釉。やや粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C
45 63	鉛釉汁注 陶器	注口部破片	埋没土中	にぶい黄橙	体部外面下位以下無釉。	瀬戸・美濃系 18～19C
43 63	灰釉片口 鉢 陶器	口縁部～体部 1/5残存 口 (16.0cm)	埋没土中	褐色	口縁端部内面は突出。口縁部外面に沈線。体部下位以下は無釉。外面は口縁部以下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半
42 63	灰釉練鉢 陶器	口縁部破片 口 (32.6cm)半	埋没土中	灰白色	口縁部は外方に折り返す。口縁部外面に銅緑釉を掛け流す。粗い貫入。	瀬戸・美濃系 19C中頃～後
44 64	灰釉徳利 陶器	体部～底部 底 6.2cm	埋没土中	褐色	体部は寸胴型。高台は低い。内面は無釉。体部下位以下の釉は拭い取る。いわゆる「高田徳利」。	瀬戸・美濃系 19C
39 64	燈明皿 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 (10.2cm) 底 (3.6cm) 高 2.0cm	埋没土中	にぶい黄橙	外面は口縁部下までヘラケズリ。外面の錆釉は拭い取る。底部内面に目痕。口縁端部に油煙付着。	瀬戸・美濃系 18C後半～19 C前半
40 64	燈明皿 受け皿 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 10.3cm 底 4.7cm 高 2.2cm	埋没土中	浅黄橙	外面は口縁部以下までヘラケズリ。口縁部外面以下の錆釉を拭い取る。受け部先端は使用により摩滅。	瀬戸・美濃系 19C前半

4号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図12

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
28	火鉢 軟質陶器	口縁部～体部 破片 口 (31.6cm)	埋没土中	灰白色	口縁部は外反。口縁部下に3条の沈線。器表は黒色。口縁部内面のみ灰白色。外面は焙烙の底部と同様の圧痕。	在地製 江戸～明治
30	火鉢？ 軟質陶器	脚部 破片 底 (21.1cm)	埋没土中	灰白色	台端部は摩滅。器表は黒色。28・27と同一個体か。	在地製 江戸～明治
27 29	火鉢 軟質陶器	体部～底部 破片 底 (17.0cm)	埋没土中	灰白色	底部に台の張り付け痕。外面は28と同様の圧痕。28の底部の可能性が高い。	在地製 江戸～明治
31	火鉢？ 軟質陶器	体部中位 1/4残存	埋没土中	にぶい橙	外面に波状文と3条の沈線と回転圧痕？器表は黒色。体部内面上位のみになぶい橙。28と同器形か。	在地製 江戸～明治
32 64	焙烙 軟質陶器	口縁部～体部 1/4残存 口 (36.5cm)	埋没土中	にぶい橙	口縁部外面～底部外面煤付着。残存部に取っては一つ。	在地製 幕末～明治
34 64	不明 軟質陶器	底部破片	埋没土中	白色・赤褐色部分 が縞状を成す 金雲母含む。	外面の器表は剝離。底部のえぐり部以外は摩滅。	在地製 江戸～明治
33 64	播鉢 陶器	口縁部～底部 1/4残存 口 (32.8cm) 底 (14.8cm) 高 13.7cm	埋没土中	淡黄色	播目は16本単位。全面に錆釉を施し、底部外面のみ釉を拭い取る。外面は口縁部下までヘラケズリ。	瀬戸・美濃系 19C前半

4号溝出土遺物観察表《木器》 図12

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1122 64	桶の底	21.2φ×0.7	埋没土中	柁目 モミ属	底部1/2残存	厚さ0.7cm、側板ののる縁は厚さは0.4cmで、幅は1.2～1.5cmである。	

10号溝出土遺物観察表《金属器》 図15

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
6	鎌	先端部と茎尻を 欠損	埋没土中	57.3+α g	刃部と茎の成角は鈍角となり開き出す。棟厚3mm、刃部の厚さ2mmを呈す。刃部の幅は4cmである。茎尻は曲げてまるめてある形状が推測され、近世に類例をみる。	

11号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図17

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
85 64	灰釉碗 陶器	高台部 底 4.9cm	F-16G 底面上20cm	黄灰色	内面は灰釉。外面無釉。張り付け高台	瀬戸・美濃系 18C

## 1 溝出土遺物観察表

11号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図11

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
84 64	燈明皿 陶器	口縁部～体部 1/4残存 口(11.0cm)	埋没土中	灰白色	外面は口縁部下までヘラケズリ。内面から口縁部外面まで灰釉。口縁部以下無釉。口縁端部に油煙付着。	製作地不祥 19C

11号溝出土遺物観察表《木器》 図18～20

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
577 65	角材	49.8+ $\alpha$ ×4.2×2.0	G-16G 底上13.6cm	板目 ヒノキ属	両端部欠損	平坦面をつくり、両側面も平坦面をつくり出しているが、劣化が激しい。	
612 65	杭	36.7×10.0×5.0	G-16G 底上31.5cm	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	完形	先端部は尖らせ、頭部は平坦にしている。節部が残る。	
611 65	板	20.3+ $\alpha$ ×7.5×2.0	G-16G 底上36.0cm	板目 オニグルミ	全体形状不明	一端部はつぶれている。他端方向は不明。側面は斜方向に切断されている。平坦面は削り痕が残る。	
613 65	杭	51.5+ $\alpha$ ×5.5 $\phi$ ×4.6	G-16G 底上24.5cm	芯持 クリ	頭部欠損	杭の先端部分は加工されている。対面から大きく削られている。最先端部はつぶれている。	
582 65	竹	61.5+ $\alpha$ ×4.8 $\phi$	G-16G 底上35.0cm	筒状	両端部欠損	枝が払われている痕跡がある。	
610 65	丸杭	59.2+ $\alpha$ ×10.8×9.8	G-16G 底下1.5cm	芯持 クリ	先端一部欠損	先端部は周辺から削り出す。頭部は平坦に切っている。	
578 65	椀	底径 10.0 器肉 1.4	G-16G 底上6.9cm	ブナ属	1/4残存	内外面とも赤く漆で塗られている。	
606 65	建築材	41.0+ $\alpha$ ×5.5×3.5	G-16G 底下4.0cm	分割材 クリ	一端部欠損	長さ7.5cm、深さ約2.0cmの切り込み部分を一ヶ所もつ。節部が残る。枝を払い節が残る。	
605 65	杭	85.7+ $\alpha$ ×13.9×13.6	G-16G 底下14.0cm	芯持 クリ	先端部欠損	先端部は削り出している。頭部付近は一部が削られている。	
607 66	丸杭	59.4+ $\alpha$ ×8.7 $\phi$	F-16G 底上2.0cm	芯持 広葉樹 散孔材	頭端部欠損	先端部は二方向から削り出され、最先端部分はつぶれている。節部は劣化している。	
609 66	丸杭	19.7+ $\alpha$ ×9.0×6.5	F-16G 底下1.5cm	芯持 クリ	先端部欠損	表面は劣化している。頭部は平坦である。	
608 66	角材	24.0+ $\alpha$ ×7.9×7.6	F-16G 底下9.5cm	芯持 クリ	一端部欠損	角材の一面に幅2.8cm、深さ1.9cmのU字溝が掘ってある。角材の隅は面取りされ、丸みをもつ。	
616 66	杭	36.6+ $\alpha$ ×7.0 $\phi$	G-16G ビット2内	芯持 エゴノキ属	先端一部欠損	節部の一部を削っている。樹皮を残す。	

11号溝出土遺物観察表《木器》 図20・21

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
615 66	棒状木製品	46.2+ $\alpha$ ×3.7×2.0	G-16G ビット2内	柾目 スギ	端部をわず かに欠損	平面に二穴を穿つ。端部寄りの一 穴は長軸方向に長く1.5×0.7cmで 、中央寄りの一穴は短軸方向に長 く、1.2×0.4cmである。両者とも 貫通している。	
621 66	板	10.0+ $\alpha$ ×8.0+ $\alpha$ ×1.9	G-16G ビット2内	芯持 オニグルミ	一端側面が 僅かに残存	表裏面が平滑である。	
619 66	丸杭	11.0+ $\alpha$ ×5.0×4.0	G-16G ビット2内	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	片端部欠損	頭部は平坦面をもつ。節部を残す。	
617 66	杭	13.2+ $\alpha$ ×5.6×3.8	G-16G ビット2内	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	先端部付近 残存	先端部は削り出されている。	
620 66	杭?	16.5+ $\alpha$ ×4.4×4.4	G-16G ビット2内	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	みかん割り1/4が残る。	
618 66	丸杭	15.8×5.8 $\phi$	G-16G ビット2内	芯持 エゴノキ属	先端部欠損	頭部は平坦面を残す。	
614 66	杭	101.0+ $\alpha$ ×17.5×15.0	埋没土中	芯持 クリ	先端部欠損	頭部は平坦面をもつ。	
580 66	板	43.1+ $\alpha$ ×7.4+ $\alpha$ ×0.9	G-16G 底上7.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	端部一面残 存	表裏面を平坦に仕上げている。規 模は不明。	
586 66	板	48.0+ $\alpha$ ×8.6+ $\alpha$ ×1.7	G-16G 底上14.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一端一側面 残存	表裏面はほぼ平坦に仕上げられて いる。	
584 67	角材	48.0+ $\alpha$ ×3.7×2.4	G-16G 底上13.0cm	柾目 ヒノキ属	両端部欠損	片端部は折れ、他端部は劣化して いる。平面・側面は平滑に仕上げ られている。	
581 67	板	26.7+ $\alpha$ ×4.9+ $\alpha$ ×1.0	G-16G 底上5.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一部残存	表裏面を平坦に仕上げている。四 辺とも欠損しているため、規模は 不明。	
583 67	板	19.8+ $\alpha$ ×8.0+ $\alpha$ ×0.9	G-16G 底上15.5cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一端部残存	一端部は斜方向に切られていると 思われる。表裏面は平坦に仕上げ られている。	
587 67	板	22.8+ $\alpha$ ×10.3+ $\alpha$ ×0.9	G-16G 底上16.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一側面わず かに残存	表裏面はほぼ平坦に仕上げられて いる。	
579 67	くさび	17.5+ $\alpha$ ×5.4×4.0	G-16G 底上15.5cm	柾目 ヒノキ属	一端部残存	角材の表裏二面に切り込みを入れ る。一面は長軸に対し直角に2cm、 他面は長軸に対し直角に一段切り 込みを入れた後、斜方向に再度切 り込みを入れて二段にしている。	

11号溝出土遺物観察表《木器》 図21~23

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
585 67	板	22.0+ $\alpha$ ×6.2+ $\alpha$ ×1.1	G-16G 底上2.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一端のみ残存	一端部分は長軸に直角に残る。表裏面は平滑に仕上げられている。	
598 67	板材	99.5+ $\alpha$ ×18.0+ $\alpha$ ×2.8	G-16G 底上9.6cm	柾目 スギ	一側部わずかに残存	表裏面とも平滑に仕上げられている。表面には斜方向に幅4cmの浅い溝がある。	
594 67	板	81.4+ $\alpha$ ×22.3×1.0	G-16G 底上4.0cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一端両側面の一部残存	表裏面とも平滑に仕上げられている。	
591 67	板	56.9×15.8+ $\alpha$ ×1.2	G-16G 底上5.4cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	両端一側面残存	表裏一側面は平滑に仕上げられている。	
592 67	板	23.6+ $\alpha$ ×4.8×1.5	G-16G 底上8.8cm	不明 スギ	多くを欠損	わずかに切り込んだ痕が残る。表裏両面とも平滑である。	
588 67	板状木製品	19.8×7.6+ $\alpha$ ×1.2	G-16G 底上6.5cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	両側面欠損	両端部は残存する。表裏両面は平滑に仕上げられている。3個の釘痕が残る。	
590 67	板	37.4+ $\alpha$ ×10.4+ $\alpha$ ×1.0	G-16G 底上12.2cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一端部わずかに残存	表裏面は平坦につくられている。残存端部は平面方向から押し切られているかのような形状を呈す。	
589 68	板状木製品	46.3×18.4+ $\alpha$ ×2.0	G-16G 底上4.7cm	柾目 マツ属 複雑管束亜属	一部欠損	表面には斜方向に二つの溝が入る。幅は約1.5~3.0cm、深さ約0.5cmである。裏面は平坦である。	
595 68	角材	51.0×6.0×6.0	G-16G 底上7.4cm	柾目(溝面) ヒノキ属	完形	両端部は丸みをもつが、原形を保っていると思われる。一面長軸方向にU字溝が掘られている。	
597 68	建築材?	49.8+ $\alpha$ ×4.9×3.9	G-16G 底上8.3cm	板目 (切込面) ヒノキ属	両端部欠損	角材の一面を両側から0.7cmほど斜めに切り込み、山形をつくり出す。端部は炭化が激しい。	
596 68	棒状木製品	32.0+ $\alpha$ ×4.0×2.2	G-16G 底面直上	柾目 スギ	一端部欠損	表面は滑らかであるが、面取りが行われている。	
600 68	建築材	20.7+ $\alpha$ ×5.3×5.0	G-16G 底上10.9cm	芯持 スギ	片端部分欠損	ほぼ平坦な四面のうち、一面は長軸に対して直角に切り込む。対する欠損端部は二方向から斜めに切り込み、山形の形状をつくり出す。	
599 68	くさび	22.3×4.8×3.5	G-16G 底上9.4cm	分割材 (加工) コナラ属 アカガシ亜属	完形	角材の一面を斜めに削り、同面中央を深く切り込み、端部をも浅く切り込む。裏面の平坦面に2.0×2.3cmの方形で、深さ1.6cmの枘穴らしきものがある。一端部はつぶれている。	
603 68	建築材	33.5×8.7×7.7	G-16G 底上9.0cm	芯持 スギ	一隅が長軸に沿って欠損	一端部に幅3.3cm、深さ8.4cmの切り込みをつくる。表面には削り痕が残る。	

11号溝出土遺物観察表《木器》 図24

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
601 68	建築材	78.3×6.0×5.0	G-16G 底上3.0cm	不明 ヒノキ属	完形	角材の四面は平滑に仕上げられている。端部は同一面で、左右対で約3.0cm切り込まれている。	
602 68	角材	62.3+ $\alpha$ ×3.9×1.6	G-16G 底上3.0cm	柁目 マツ属 複雑管束亜属	片端部欠損	一端部は良好な残存。長軸に沿って欠損端部に向かい薄くなる。	
604 68	建築材	133.0+ $\alpha$ ×5.9×3.5	G-16G 底下6.0cm	柁目 オニグルミ	一端部欠損	わずかに湾曲する。表裏・側面とも平滑面をつくる。表裏面に貫通する柎と途中で止まる柎を切る。	

27号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図25

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
93 64	飯碗 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (10.1cm) 底 3.7cm 高 4.7cm	埋没土中	観察不可	高台は小さく低い。外面と底部内面は型紙刷り。圏線はロクロを使用した手描き。	瀬戸・美濃系 明治後期

27号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図25

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
97 64	土師器 杯	完形 口 11.0cm 高 3.3cm	埋没土中	①中砂・細砂を多く含み、ザラザラしている。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/8	底部外面艶削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁端部は内湾し、小さく、丸く肥厚する。	

29号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図26

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
94 64	白磁湯飲 磁器	ほぼ完形 口 6.6cm 底 3.8cm 高 6.4cm	埋没土中	白色	口縁部は小さく外反。	瀬戸・美濃系 昭和前期
96 64	蓋物 陶器	口縁部～底部 破片 口 (5.2cm)	埋没土中	にぶい橙	粘土紐を螺旋状にしたつまみを貼り付ける。外面に白釉を厚く、内面に薄く掛ける。口縁端部は無釉。	製作地不詳 明治～大正
95 64	内耳焙烙 軟質陶器	口縁～底部 1/4残存 口 (26.8cm) 底 (25.1cm) 高 2.3cm	埋没土中	灰白色	器高は低い。底部との境は明瞭。	在地製 19C前半～中頃

29号溝出土遺物観察表〈木器〉 図26

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
649 64	曲物	14.8φ×0.8	埋没土中	柃目 マツ属 残維管束亜属	底板残存	平坦な表表面をもち、一面は中央付近が焼ける。側面には止め釘(竹)が7ヶ所確認できる。堤灯の底？。	

16号溝出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図27

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
82 70	播鉢 陶器	口縁部破片	埋没土中	にぶい橙	口縁部外面は3条の突帯を巡らす。播目は密に入れる。播目部分を除き柿釉。幅の広い片口を持つ。	益子・笠間系 幕末～明治前期

16号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図27

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
83 70	土師器 杯	口縁部～底部 口 11.6cm 底 7.2cm 高 2.7cm	J-20G 底面上14.7cm	①砂粒を多く含む。 ②普通。 ③にぶい黄橙10YR7/3	左回転ククロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面回転で調整。	

16号溝出土遺物観察表〈石器〉 図27

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
29 70	石臼	径 32.8cm ハンギリ幅5.4cm 厚 10.6cm 重 2030.0g	埋没土中	粗粒安山岩	茶臼の下臼の破片である。はんぎりのふくみは最大深約1cm、分画は8区画、副溝の間隔は6～10mmである。底部からはんぎりの側面までは荒さがみられ、特に底部には工具痕を残す。	石質はやや多孔質。1/8残存

16号溝出土遺物観察表〈木器〉 図27

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1123 70	曲物の底	17.8φ×0.9	埋没土中	柃目 ヒノキ属	底板のみ残存	木目が細かく、良質な板である。一面には二本平行な鋭い刃痕が観察できる。止め釘(竹か木)が側面に2ヶ所確認できる。	

2号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図30

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
18 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (13.2cm) 底 (7.4cm) 高 3.6cm	埋没土中	①細砂・雲母を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ククロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面回転で調整。口縁端部はやや外反する。	底部外面中央に墨書「万」。

2号溝出土遺物観察表《金属器》 図30

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
7	小刀	中央部の一部と 茎尻が欠損する	攪乱層内	31.4 + α g	刀身は鑄作りである庵棟の小刀である。鋒はころあい で鋳は色から銅の合金であると思われる。形状は鑄作 りの庵棟である。全長21.4 + α cm	

5号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図31

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
66 69	須恵器 椀	高台部残存 底 7.4cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部は丁寧になでられている。杯部はやや下半が 膨らむ器形を呈するとみられる。	

6号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
67 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.6cm) 底 (6.6cm) 高 3.3cm	埋没土中	①細砂・中砂を多く含 む。 ②硬質。 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面 回転などで調整。口縁端部は外反し、杯部下半はやや膨 らむ。	
72 69	須恵器 椀	口縁部～底部 1/3残存 口 (15.0cm) 底 8.4cm 高 7.5cm	E-11G 底面上8.0cm	①細砂・中砂を多量に 含む。 ②普通。 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台 接合部回転などで調整。杯部内外面回転などで調整。全体 に薄く仕上げられ、口縁部は外反している。	

6号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図32

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
90 69	須恵器 椀	口縁部～底部 1/3残存 口 (15.0cm) 底 6.8cm 高 5.8cm	D-9G 底面上3.0cm	①中砂・細砂を多く含 む。 ②やや軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部強いなどで調整。口縁端部は外反し、外面に玉 縁状に肥厚する。	
73 69	須恵器 長頸壺	口縁部破片 口 (16.0cm)	E-11G 底面上6.0cm	①細砂・黒色鉱物細粒 を含む。 ②硬質。 ③灰オリーブ7.5Y4/2	紐づくり。頸部接合後、右(?)回転ロクロ整形。内外 面丁寧ななどで調整。口縁端部は大きく外傾し、端部外 面には幅1cmほどの面が取られ、鋭く整形されている。	

7号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
80 69	灰釉陶器 瓶	体部～底部 底 8.4cm	埋没土中	明褐色	貼り付け高台。底部内面の調整は雑。外面に灰釉が薄く掛かる。	



7号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
19 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.9cm 底 6.8cm 高 3.5cm	埋没土中	①砂粒を多量に含む。 ②普通。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。内外面回転 など。口縁部内外面横など。口縁端部は丸く肥厚し、 外反する。	
20 69	須恵器 高台付椀	口縁部～底部 3/4残存 口 14.3cm 底 6.9cm 高 5.0cm	埋没土中	①中砂・細砂・雲母小 片を含む。 ②やや軟質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。低い付高台。 高台接合部など。内外面回転など。口縁端部は丸くお さめている。	
21 69	須恵器 杯	ほぼ完形 口 13.0cm 底 5.8cm 高 3.9cm	埋没土中	①砂粒・小石を多く含 む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面 などで調整。口縁部内外面横など。口縁端部は丸く肥厚 し、外反する。口縁端部内外面に煤が部分的に付着し ている。	
22 69	須恵器 高台付杯	口縁部一部欠損 口 12.6cm 底 6.1cm 高 3.9cm	埋没土中	①細砂・雲母を多量に 含む。 ②軟質。 ③灰白N8/	右回転ロクロ整形。底部静止糸切り離し。付高台。接 合部などで調整。杯部内外面回転などで調整。口縁部横な で。杯部は中位から、大きく外反する。	
79 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.0cm) 底 (7.2cm) 高 4.0cm	埋没土中	①細砂・小石を含むが 緻密な胎土である。 ②硬質。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面 丁寧なで調整。口縁部は、真っすぐおさめられている。	
77 69	須恵器 杯	口縁部一部欠損 口 12.2cm 底 5.8cm 高 3.3cm	埋没土中	①細砂・中砂・黒色鉱 物細粒を含む。 ②普通。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面 回転など。口縁端部は外反する。	

7号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図34

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
70 69	須恵器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 12.0cm 底 6.0cm 高 3.2cm	埋没土中	①細砂・中砂・黒色鉱 物細粒を含む。 ②普通。 ③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面 回転など。口縁端部は外反する。	
78 69	須恵器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 12.0cm 底 6.1cm 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂・細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。杯部内外面回 転などで調整。体部中位がやや膨らみ、口縁端部はやや 外反する。	杯部外面と底 部内面に墨書。 表裏とも「汲」
69 69	須恵器 蓋	摘み部～端部 1/4残存 口 14.0cm	埋没土中	①黒色鉱物細粒を多く 含む。②やや硬質。 ③灰白N8/	右回転ロクロ整形。切り離し技法不明。外面回転篋削 り。内面回転などで調整。端部にカエリはなく、よくな でられている。	

7号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図34

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
71 69	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.2cm) 底 7.0cm 高 3.2cm	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②普通。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。内外面回転 などで。底径が大きく、器高の小さい形態を呈する。杯 部はやや膨らむ。墨書は加の可能性があり、下位に別 字があることも考えられる。	杯部外面に墨 書。 <sup>(加)</sup>
68 69	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (13.5cm)	埋没土中	①細砂・雲母を多量に 含む。②普通。 ③橙5YR6/6	底部外面斲削り。内面などで。指頭痕が残る。口縁部内 外面横などで。口縁端部は丸く、強く内湾する部分もあ る。	
75 69	瓦 玉縁付男 瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①白色鉾物粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰N5/	半載作り。凸面ロクロ整形。自然袖付着。玉縁の接合 はA類。布目は6cmで54本。	吉井系 8C後半
74	須恵器 甕	胴部～底部 破片 底 (24.0cm)	埋没土中	①小石・白色鉾物細粒 を含む。 ②硬質。 ③灰白N7/	粘土紐巻き上げ成形。胴部外面平行叩き整形。基部の み、横方向などで調整。内面横方向斲削り後、青海波状 のあて具痕が残る。内面基部から底部にかけて、斲削 りなどで調整。底部外面斲削り。	
76	須恵器 瓶	底部～胴部 1/2残存 底 (6.6cm)	埋没土中	①黒色鉾物粒を少量含 むが、緻密な胎土であ る。②硬質。 ③灰白10Y7/1	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り離し後、外面の周 縁のみ、回転斲削り。削り出し高台。胴部外面下位と 底部外面周縁に幅2～3mmの沈線を削り出し、高台を つくっている。	

18号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図39

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
700	須恵器 碗	口縁部～底部 口 14.4cm 底 6.6cm 高 6.4cm	J-21G 底面上70cm	①細砂・中砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白5Y7/2	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。内 外面とも回転などで調整。高台接合部などで調整。	
88 70	須恵器 蓋	摘み部欠損 1/3残存 口 (17.0cm)	埋没土中	①細砂・中砂を含む。 ②普通。 ③灰白5Y8/1	右回転ロクロ整形。内外面とも、回転などで調整。	
86 70	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (12.0cm) 底 6.8cm 高 3.9cm	埋没土中	①細砂・黒色鉾物粒を 含む。 ②良好。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。口縁端部が やや内湾し、端部内面がやや肥厚する。	
87 70	須恵器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.5cm) 底 (7.6cm) 高 3.5cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②良好。 ③暗灰N3/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。口縁部はや や外反する。	
89 70	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 (13.2cm) 底 9.5cm 高 (4.3cm)	埋没土中	①砂粒をやや含むが、 緻密な胎土である。 ②普通。 ③にぶい橙5YR7/4	杯部外面横方向斲削り。上半部～杯部内面丁寧などで。 底部外面斲削り。杯部内面に、0.5～1cm間隔で極細い 縦方向の暗文が施されている。口縁端部内面は内湾す る。	畿内系。

18号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図39

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
91 70	土師器 杯	口縁部～体部 1/3残存 口 14.2cm	H-20G 底面上10.8cm	①細砂・石英・黒雲母 を含む。②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/3	杯部外面指押さえ。上半のみ、横方向篋削り。口縁部 外面から杯部内面丁寧なで調整。口縁部は内湾する。 杯部内面には、放射状の極細い暗文が施されている。	89と同巧。
92 70	瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①白色鉱物粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰7.5Y5/1	半截作り。凸面ロクロ整形痕。側面取り3回。狭端 部面取り3回。布目は6cmで60本。	乗附系

30号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図42

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
105	土師器 土釜	体部下位～底部 破片 底 (22.7cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③黒褐2.5Y3/1	体部外面斜方向篋削り後、丁寧なで調整。底部外面 周縁幅1cmのみ、なで調整。体部内面丁寧なで調整。	

34号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図46

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
103 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.6cm) 高 3.4cm	L-34G 底面上61.0cm	①微細砂・雲母を多く 含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面 横なで。口縁部は内湾する。	
102 70	土師器 杯	完形 口 10.9cm 高 4.0cm	L-34G 底面上44.0cm	①細砂・赤色鉱物粒を 含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	底部外面篋削り。内面丁寧なで調整。指頭圧痕が残 る。口縁部内外面横なで。口縁部は薄く仕上げられて いる。	
104 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.7cm) 高 4.7cm	L-34G 底面上60.5cm	①細砂・石英を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面幅広い篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部は内湾し、口縁部下位には、 緩やかな稜が形成されている。	
183 70	土師器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (11.0cm) 高 3.5cm	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物細 粒を含むが、緻密な胎 土である。②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面篋削り後、なで調整。内面丁寧なで。口縁 部内外面横なで。口縁部は鋭い稜をもって立ち上がる。	
101 70	須恵器 蓋	ほぼ完形 口 11.5cm 高 4.0cm	L-32G 底面上30.5cm	①細砂・石英を多量に 含む。 ②普通。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。切り離し技法不明。内面上半回転 なで調整。天井部外面篋削り。内面中央に、篋削り時 に器を伏せた痕跡を調整したと思われるなでがある。 口縁部内外面横なで。	
182 70	須恵器 蓋	口縁部～天井部 1/2残存 口 (11.5cm) 高 3.7cm	K-35G 底面上33.0cm	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右(?)回転ロクロ整形。切り離し技法不明。切り離し 後、外面手持ち篋削り。内面なで調整。口縁部内外面 横なで。	
184 70	土師器 甕	口縁部～胴部 1/3残存 口 (22.6cm)	K-35G 底面上37.5cm	①細砂を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい褐7.5YR5/6	胴部外面斜方向篋削り。内面横方向・斜方向篋なで。 口縁部内外面横なで。長胴を呈し、最大径は口縁部に ある。	

36号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図48

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
110	土師器 杯	口縁部破片 口 (16.6cm)	J-28G 底面上2.5cm	①細砂・赤色鉱物粒を 少量含む、緻密な胎土 である。②普通。 ③橙5YR7/6	内外面とも、なで調整と思われる。大形の杯で、杯部 は深い。	磨耗が激しい。

37号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図49

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
111 70	内耳鍋 軟質陶器	口縁部破片	埋没土中	白色鉱物粒を多 く含む。	口縁部は直線的に外反。口縁部と体部の境に段差。	在地製 15~16世紀

37号溝出土遺物観察表《石器》 図49

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
1 70	砥石	長 7.1cm 幅 4.2cm 厚 2.9cm 重 71.8g	埋没土中	砥沢石	一面は破れている。小口一面は未使用である。他面はすべて 使用面であり、多くの擦痕を残す。表面には煤が付着する。	完形。
2 70	砥石	長 7.3cm 幅 4.3cm 厚 3.2cm 重 119.3g	埋没土中	砥沢石	各面はわずかではあるが磨耗している。部分的に擦痕が残る。	上下両端欠損。

38号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図50

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
113	須恵器 高台付椀	高台部破片 底 (9.0cm)	埋没土中	①細砂を少量含む、緻 密な胎土である。 ②やや軟質。内部まで 還元が及んでいない。 ③灰白5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部、及び椀部内面丁寧なで調整。	

39号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図52

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
108 71	須恵器 高台付椀	口縁部~底部 1/4残存 口 (14.8cm) 底 6.7cm 高 5.4cm	M-28G 埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部などで調整。椀部内外面回転などで調整。椀部下 半はやや膨らむ。口縁端部はやや丸く肥厚し、外反す る。	
112	須恵器 高台付椀	高台部破片 底 8.0cm	M-32G 埋没土中	①細砂を少量含むが、 緻密な胎土である。 ②普通。③灰N5/	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高 台接合部丁寧なで。	
114	土師器 甕	口縁部~肩部 1/3残存 口 (12.2cm)	M-32G 埋没土中	①微細砂・雲母を含む。 ②普通。 ③にぶい褐7.5YR5/4	肩部外面横方向篋削り。頸部外面から内面横などで調整。 頸部内面、口縁部外面に指頭痕が残る。	

39号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図52

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
109 70	瓦 男瓦	破片 厚 1.4cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰黄2.5Y6/2	半截作り。凸面単軸絡条体Ⅰ類を回転押捺後、ロクロ回転整形。凹面布合せ目を指頭で撫で消す。側部面取り3回。広端部面取り1回。布目は6cmで39本。	秋間系 8C後半～9 C後半

40号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図53

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
117	須恵器 椀	口縁部～体部 破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部内外面回転など。口縁部内外面横などで調整。口縁端部はやや外反し、丸く肥厚する。	
115	土師器 甕	口縁部～頸部 破片 口 (20.6cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	肩部外面横方向篋削り。内面横方向篋などで。頸部には輪積み痕が残るが、なでられている。口縁部内外面横などで。口縁端部は内湾している。	
116 71	瓦 女瓦	破片 厚 1.4cm	埋没土中	①白色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰10Y6/1	桶巻造り。凹面に1単位2cmの寄木痕。凸面ロクロ整形後、撫で再整形。端部面取りは2回。布目は6cmで72本。	乗附系

43号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図54

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
118	灰釉陶器 碗か皿	体部下位～底部 破片 底 (7.8cm)	埋没土中	灰白色	貼り付け高台。口縁部のみ施釉。	

43号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図54

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
119 71	瓦 女瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①シルト粗粒を含む。 ②還元・焼締 ③明青灰5PB7/1	桶巻造り。凹面に1単位1.7cmの寄木痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面ロクロ痕。両面自然釉付着。端部面取り3回。布目は6cmで55本。	乗附系 8C

43号溝出土遺物観察表《石器》 図54

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
54	削器	長 3.3cm 幅 4.0cm 厚 1.5cm 重 30.4g	埋没土中	黒色頁岩	下端にスクレイパーエッジを作出している。裏面は自然面。	

48号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図55

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
120	須恵器 杯	口縁部～底部 破片 口 (11.4cm)	埋没土中	①微細砂・白色鉾物細 粒を含む。 ②硬質。③灰7.5Y5/1	回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部外面 削り調整。杯部内外面にて調整。口縁端部は小さく外 反する。	

49号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図57

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
173 71	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 9.5cm 高 3.1cm	埋没土中	①細砂・雲母・白色鉾 物細粒を多量に含む。 ②普通。 ③橙5YR6/6	底部外面削り。杯部内面丁寧な篋にて調整。口縁部 横にて調整。口縁端部はつまみ上げられている。底部は丸 底。	

51号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図60

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
121	灰釉陶器 碗	体部～底部 1/5残存 底 (8.0cm)	Z2A-60G 埋没土中	灰白色	高台端部は使用により摩滅。口縁部のみ施釉。	
122	灰釉徳利 陶器	底部 底 6.6cm	埋没土中	褐灰色	高台は低い。体部下位の釉は拭い取る。内面無釉。いわゆる 「高田徳利」。	瀬戸・美濃系 19C

51号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図60

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
126	須恵器 蓋	体部～端部破片 口 (23.0cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉾物粒を 含む。 ②普通。③灰N6/	天井部外面右回転ロクロによる削り。外面端部から 内面にて調整。端部は内湾し、丸くつくられている。 カエリはやや外反する。	
124	須恵器 羽釜	口縁部～頸破片 口 (17.4cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 多く含む。②やや軟質 ③灰7.5Y6/1	内外面横にて調整。	
123 71	須恵器 羽釜	口縁部1/5残存 口 (20.0cm)	埋没土中	①細砂・雲母細片を多 く含む。②やや硬質。 酸化焰焼成。 ③にぶい橙5YR7/4	内外面とも丁寧な横にて調整。	
125	須恵器 羽釜	口縁部～頸下 破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①中砂・石英粒を多量 に含む。②普通。 ③灰7.5Y6/1	内外面横にて調整。口縁部外面には成形時の粘土紐の 痕跡が残る。頸は薄く、上方につまみ上げられている。	

51号溝出土遺物観察表《金属器》 図60

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
5 7	鋼滓	1/4残存	埋没土中	42.8g	直径9.0cmの4分の1が残る。炉床に接したと思われる部分は、丸みをもち、いわゆる椀形鋼滓といわれるものである。4分の1に切断した2辺はみごとな切れ方である。碰石には、わずかに反応するが着くには至らない。鉄分は少ないと思われる。	

52号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図62

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
132	土師器 埴	口縁部破片 口 (8.0cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を含む。②やや硬質。 ③灰5Y5/1	口縁部外面縦方向斲削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで調整。端部内面は幅9mmの面取りがされている。	
131	須恵器 高台付椀	口縁部一底部 1/4残存。高台 端部欠損 口 (15.2cm)	埋没土中	①細砂・微細砂を多量 を含む。 ②軟質。 ③灰白5Y8/1	回転ロクロ整形。底部中央部欠損のため、切り離し技法不明。付高台。内外面回転などで調整。	
140	須恵器 台付壺	脚部1/5残存 底 (12.8cm)	埋没土中	①細砂を含む。②やや 硬質。③灰白2.5Y7/1	回転ロクロ整形。端部回転などで調整。	
141	須恵器 台付壺	脚部破片	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物粒 を含む。②やや軟質。 ③灰白2.5Y7/1	右回転ロクロ整形。内外面回転などで調整。	
138	須恵器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白10Y7/1	口縁部内外面横などで調整。外面波状文(8条)の間に沈線文1条が施されている。口縁部は外面に幅1.4cmの面取りをし、下端には1条の沈線が巡らされている。	
137	須恵器 蓋	体部一端部 破片 口 (20.0cm) 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。 ②軟質。 ③灰白N7/	天井部外面手持ち斲削り。口縁部から内面回転などで整形。口縁部はなだらかに外傾し、端部は小さく外湾する。	
139	須恵器 小形甕	口縁部破片 口 (13.4cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。②普通。 ③黄灰2.5Y6/1	体部外面横方向斲削り。内面横方向などで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁部は短く外反し、端部はやや内湾する。	
133 71	土師器 甕	口縁部破片 口 (18.6cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 含む。②やや硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。口縁部内外面横などで。いわゆるコの字口縁の甕形土器である。口縁部は内湾する。	
136 71	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (18.4cm)	埋没土中	①細砂・黒色鉱物粒を 含む。②普通。 ③灰褐7.5YR5/2	紐づくり。内外面回転などで調整。口縁部は大きく内湾し、鑿は外湾して、端部は丸く肥厚する。	
135 71	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (20.0cm)	埋没土中	①微細砂・少量の小石 を含む。②やや硬質。 ③淡橙5YR8/3	紐づくり。内外面(左)回転などで調整。口縁部は内湾し、端部は外面が肥厚する。	
130	須恵器 甕	底部破片 底 (25.8cm)	埋没土中	①微細砂を多量に含む。 ②普通③黒褐7.5YR3/1	紐づくり。内外面丁寧な横などで調整。端部外面はやや丸く肥厚する。	
129 71	土師質 羽釜	口縁部破片 口 (30.2cm)	埋没土中	①微細砂・赤色鉱物粒 雲母細片を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい褐7.5YR6/3	紐づくり。外面横などで調整。内面横方向などで調整。口縁部は外面に丸く肥厚する。	

52号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図62

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
134	須恵器 甕	口縁部～体部上 位破片 口 (35.0cm)	埋没土中	①細砂・小石を含む ②軟質。 ③灰白5Y8/1	紐づくり。体部外面平行叩き後、なで調整。内面同心 円状叩き後、なで調整。口縁部内外面横なで。端部は 外面にやや肥厚する。	
127 71	瓦 男瓦	1/5残存 厚 0.8cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰オリーブ5Y6/2	一枚作りか。凹面に寄木痕。凸面には縦位の篋削りを 施し、木目叩き整形後、縦位の撫で再整形。側部面取 り1回。布目は6cmに40本。凸面に調査以後の欠損が ある。	秋間系 9Cか
128 71	瓦 男瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①赤褐色粒子を含む。 ②還元・軟質 ③灰白7.5YR8/2	半載作り。凸面ロクロ痕。側部面取り3回。布目は6 cmで39本。	秋間系

52号溝出土遺物観察表《石器》 図62

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
32 71	UF	長 4.5cm 幅 5.2cm 厚 1.2cm 重 29.7g	埋没土中	黒色頁岩	横長剥片の両側縁を刃部として使用している。下端は欠損し ている。	全体にやや磨 減している。

52号溝出土遺物観察表《金属器》 図62

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
4 71	鉄滓		埋没土中	4.7g	約2.0×3.0×1.5cmの不定形である。表面には気泡状態 であったことがうかがえる。空気孔が認められる。礎 石にはほとんど反応しない。鉄分は少ないと思われる。	

53号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図64

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
106	灰釉片口 鉢? 陶器	口縁～体部 破片 口 (16.0cm)	埋没土中	灰白色	口縁部外面に浅い沈線が入る。口縁部に銅緑釉を流す。貫入 が入る。	瀬戸・美濃系 19C
194	内耳鍋 軟質陶器	口縁部～体部 破片 口 (32.2cm)	2D-63G 底面上7cm	にぶい赤褐色	器壁は厚く、口縁部は短い。内耳の取り付け痕が明瞭に残る。	在地製 14C後半

53号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図64

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
197 71	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 11.6cm 高 4.0cm	埋没土中	①細砂・小石を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。 口縁部は稜をもって大きく外反する。	



53号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図64

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
199	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (14.0cm)	Z-63G 底面上8.3cm	①砂粒を含む。 ②軟質。 ③橙5YR6/8	体部外面鈍削り。内面などで調整。口縁部横などで。口縁部は緩やかな稜をもって、短く内傾して立ち上がる。	
200	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (19.0cm)	埋没土中	①砂粒を含むが、緻密な胎土である。②やや硬質。③橙5YR7/6	底部外面鈍削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は平らな体部から、緩やかな稜をもって大きく外反する。端部は小さく外湾する。	
195	須恵器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.2cm) 底 (5.2cm) 高 3.8cm	埋没土中	①微細砂・雲母細片を含む。 ②やや軟質。 ③浅黄橙7.5YR8/3	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り離し。無調整。体部・口縁部内外面回転などで調整。口縁端部は外反し、丸く肥厚する。	
196 71	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.0cm)	Z-63G 底面上1.4cm	①多量の細砂・雲母細片と少量の小石を含む。 ②軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	紐づくり。内外面右回転ロクロなどで整形。	
198 71	瓦 女瓦	破片 厚 2.1cm	2D-63G 底面上4.0cm	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰10Y6/1	桶巻造り。凹面に1単位2cm程の寄木痕。凸面ロクロ痕。側部面取り1回。粘土板に接合痕があり、接合は“S”。布目は6cmで64本。	秋間系

53号溝出土遺物観察表〈石器〉 図64

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
4 71	砥石	長 8.0cm 幅 4.5cm 厚 4.0cm 重 176.4g	埋没土中	砥沢石	小口に自然面が残る。使用面は5面ある。長軸方向に沿って左上から右下に擦痕が残る部分が多い。一面中央が凹状を呈す。所謂研磨減りがみられる。	1/2残存。
5 71	砥石	長 7.8cm 幅 4.8cm 厚 3.3cm 重 141.4g	埋没土中	牛伏砂岩	長軸に沿い、表裏面中央と一側面短軸方向に細い溝が切られその底面に凹凸がみられる。	
50 72	敲石	長 10.2cm 幅 5.6cm 厚 5.5cm 重 508.8g	埋没土中	ひん岩	上端と側縁の一部に敲打痕がある。	1/2残存。下半欠損。
51 72	磨石	長 9.7cm 幅 5.2cm 厚 5.3cm 重 359.1g	埋没土中	石英閃緑岩	表面の中央部分のみ使用されている。	左右両側欠損。
52 71	軽石製品	長 6.9cm 幅 3.8cm 厚 3.4cm 重 56.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	ノミ状工具による削り痕を残す。幅は約1.2cm。	
53 72	軽石製品	長 10.9cm 幅 7.1cm 厚 7.7cm 重 259.3g	埋没土中	二ツ岳軽石	ノミ状工具による削り痕が明瞭である。	

## 53号溝出土遺物観察表《金属器》 図64

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
3 72	不明	残りが悪い。	埋没土中	0.6+a g	長さ1.7cm、直径0.5cmで中空である。両端は欠損。断面観察では方形に近い形状を呈すと思われる。	

## 54号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図66

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
142	土師器 甕	口縁部～体部 破片 口 (15.3cm)	埋没土中	①微細砂・雲母細片を 多量に含む。 ②普通。③赤灰10R5/1	体部外面縦方向鈍削り。内面斜方向鈍なで。口縁部内外面横なで。口縁部は頸部から緩やかに、短く外反する。	

## 54号溝出土遺物観察表《石器》 図66

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
33 72	敲石	長 7.1cm 幅 4.2cm 厚 1.2cm 重 70.6 g	埋没土中	黒色片石	敲いたときに2枚に割られたものの一つ。側面に敲打痕が残る。	下端欠損。

## 55号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図67

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
143	土師器 杯	口縁部破片 口 (18.6cm)	埋没土中	①細砂と少量の雲母を 含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	杯部～底部外面鈍削り。底部は丸底を呈すると考えられる。内面は丁寧なで調整。部分的に鈍磨が施されている。口縁部内外面横なで。口縁端部は弱く内湾する。	

## 56号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図70

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
157 72	土師器 杯	口縁部～体部 1/3残存 口 10.8cm 高 (3.2cm)	T-55G 底面上8.7cm	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面鈍削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は稜をもって、短く外傾して立ち上がる。端部は丸く仕上げられている。	
256 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.3cm) 高 3.8cm	S-51G 埋没土中	①細砂と少量の中砂を 含む。 ②やや硬質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面鈍削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は稜をもって外傾する。内面口縁部下位には指頭圧痕が残る。	
146 72	土師器 杯	ほぼ完形 口 11.0cm 高 4.0cm	S-51G 底面上6.0cm	①細粒を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部～体部外面鈍削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部はやや膨らんだ体部からほぼ直立し、端部はやや外反している。	

56号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図70

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
158 72	土師器 杯	口縁部～体部 1/3残存 口 12.8cm 高 4.2cm	埋没土中	①細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は、緩やかな稜をもって外傾して立ち上がり、端部はやや丸くなって外反する。	
162 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.3cm 底 11.7cm 高 4.4cm	T-55G 底面上6.5cm	①小石・中砂・微細砂を含む。 ②軟質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	底部外面斲削り。体部外面斲削り後、なで調整。内面なで。口縁部内外面横なで。底部をやや平らにした杯形土器。口縁部は緩やかな稜をもって、外傾して立ち上がり、端部は外反している。	
258 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (13.1cm) 高 4.4cm	埋没土中	①細砂・小石・赤色鉱物粒を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	体部～底部外面斲削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は丸い体部から、極緩やかな稜をもってつくられている。端部はやや内湾する。	
152 72	土師器 杯	口縁部～体部 1/2残存 口 (11.3cm) 高 (2.7cm)	埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面斲削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は稜をもって外傾して立ち上がる。端部はやや丸く仕上げられている。	
154 72	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 (10.4cm) 高 3.9cm	U-58G 底面上5.5cm	①微細砂・ごく少量の小石を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙5YR6/8	底部外面斲削り。内面なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は緩やかな稜をもって外反し、端部は丸く肥厚し、やや外湾する。	
147 72	土師器 杯	口縁部～体部 1/3残存 口 (11.8cm) 高 4.1cm	U-57G 底面上20.7cm	①細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面横方向斲削り後、なで調整。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は器高中で、稜をもって外反して立ち上がる。	
156 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.7cm) 高 (3.5cm)	U-57G 底面上16.5cm	①細砂・微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③橙7.5YR7/6	底部外面斲削り。内面丁寧なで調整。指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。浅い杯部から、口縁部は稜をもって大きく外反して立ち上がる。中位には整形痕があり凹線を巡らす。	
148 72	土師器 杯	口縁部～底部 3/4残存 口 11.4cm 高 3.9cm	S-50G 底面上9.0cm	①微細砂を含むが、緻密な胎土である。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR6/8	底部外面斲削り後、なで。内面なで調整。かすかに指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。口縁部は稜をもって、外傾して立ち上がる。	
150 72	土師器 杯	口縁部1/2欠損 口 11.2cm 高 3.0cm	S-51G 埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR6/4	底部外面斲削り。内面なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は緩やかな稜をもって、やや反傾して立ち上がる。端部は丸く肥厚し、外反する。底部は平らに仕上げられている。	
153 72	土師器 杯	口縁部～体部 1/2残存 口 (11.0cm) 高 (2.9cm)	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③橙2.5YR6/8	底部外面斲削り。内面なで調整。口縁部横なで。口縁部は緩やかに、短く内湾する。	
149 72	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 10.0cm 高 3.5cm	S-52G 底面上7.0cm	①細砂・微細砂を多量に含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部斲削り。内面丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。口縁部は緩やかに、短く内湾する。	

56号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図70

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
151 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (13.0cm) 高 3.4cm	埋没土中	①細砂・黒雲母片を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	底部～体部外面篋削り。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は短く、内湾する。	
165	土師器 杯	口縁部～体部下 位破片 口 (13.3cm)	T-55G 底面上10.3cm	①微細砂・雲母片・赤 色鉱物粒を含む。 ②やや軟質。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部外面篋削り後、などで調整。内面などで。口縁部内外面横などで。体部下位は器壁が厚く、口縁部は丸く内湾して、短くつくられている。	
159 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 14.5cm 高 4.5cm	埋没土中	①微細砂・石英と少量 の小石を含む。 ②やや軟質。 ③橙7.5YR6/8	体部～底部外面篋削り後、横方向篋などで。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は丸く、深めの体部から緩やかな稜をもって、極短く内傾して立ち上がる。	
155 72	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 14.0cm 高 3.9cm	T-56G 底面上4.2cm	①細砂・雲母片を多く 含む。 ②普通。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで調整。口縁部は緩やかな稜をもって内傾して短く立ち上がる。	
145	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (20.5cm)	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③明赤褐5YR5/8	体部外面横方向篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は緩やかな稜をもって、内傾して短く立ち上がる。大形の杯形土器である。	
161 72	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (15.5cm) 高 5.7cm	T-56G 底面上38.0cm	①微細砂と少量の小石 を含む。 ②普通 ③橙5YR6/6	体部～底部外面篋削り後、部分的に縦方向・横方向篋などで。内面などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は丸く、深めの体部から緩やかな稜をもって、極短く内傾して立ち上がる。	
257 72	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (14.3cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物細 粒を多く含む。②硬質 ③にぶい橙7.5YR7/3	体部外面篋削り後、などで調整。内面丁寧などで調整。口縁部は丸く、内湾している。深めの杯形土器である。	
255 72	土師器 鉢	口縁部～体部 破片 口 (15.7cm)	U-58G 底面上9.0cm	①微細砂・中砂を含む が、緻密な胎土である。 ②硬質。③橙5YR6/8	体部外面横方向篋削り。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横などで。口縁部は幅広く、稜をもって外傾して立ち上がり、端部はやや肥厚している。	
169	須恵器 盤	口縁部～底部 破片 口 (21.8cm) 高 2.4cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②普通。 ③灰N6/	紐づくり。底部外面手持ち篋削り。内面及び体部外面回転などで調整。	
166 72	須恵器 蓋	口縁部～底部 1/2残存 口 (11.2cm) 天 5.8cm 高 3.4cm	U-58G 底面上15.3cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③灰N4/	右回転ロクロ整形。整形は回転糸切り離し。後、周縁のみ、手持ち篋削り調整。蓋部外面、及び内面回転などで。蓋部下半が凹められ、口縁部が内湾するかのよう な印象を与える。	
170 72	須恵器 壺	体部1/3残存 胴 18.0cm	T-57G 底面上22.5cm	①細砂・黒色細粒物 を含む。②普通。 ③灰10Y6/1	紐づくり。体部回転などで整形。肩部外面には二条の沈線が巡り、それより上位はカキ目調整。体部外面下半にもカキ目調整。	肩部の一部に自然釉。
171 72	須恵器 壺	体部～底部 1/3残存 底 6.0cm	T-54G 底面上5.5cm	①砂粒・黒色鉱物細粒 を多く含む。 ②硬質。③灰10Y6/1	紐づくり。外面体部下半～底部は手持ち篋などで。上半回転ロクロ使用のカキ目調整。	体部内面の一部と外面上半に自然釉。

56号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図70

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
254 72	土師器 小形器台	器受部のみ残存 口 (9.1cm)	S-52G 底面下7.0cm	①微細砂・雲母細片を 含む。②普通。 ③にぶい黄橙10YR7/3	内外面ともなで調整。器受部の小孔はやや中央からず れている。	
160 72	土師器 甕	口縁部～体部上 位1/2残存 口 14.0cm	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向斲削り。内面丁寧なで調整。口縁部 内外面横なで。口縁部はかすかな稜をもって、ほぼ直 立して立ち上がる。端部はやや外反し、外面は丸く肥 厚する。	
164 72	土師器 鉢	口縁部～底部 1/3残存 口 (25.3cm) 底 (6.8cm) 高 8.3cm	T-54G 底面上2.0cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③褐灰10YR4/1	体部外面斜方向斲削り。内面斜方向斲なで。底部外面 斲削り。口縁部内外面横なで調整。口縁部は大きく開 き、端部はやや外反する。	
163 73	土師器 甗	口縁部～体部 1/3残存 口 (15.5cm)	T-55G 底面上5.0cm	①砂粒・微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR7/3	体部外面縦方向斲削り後、横方向斲なで。内面なで調 整。口縁部横なで。底部は欠損しているが、器形と内 面整形から甗と判断した。	
167	埴輪 円筒埴輪	胴部破片	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面縦方向刷毛目整形(8本/1cm)。内面縦方向斲削 り。突帯は断面台形を呈し、比較的しっかりしている。 突帯上方には、焼成前、外面からの円形透し孔が穿た れている。	
168 73	埴輪	胴部破片	埋没土中	①細砂を含む。 ②軟質。 ③橙2.5YR6/8	外面縦方向刷毛目整形。表面の磨耗が激しい。突帯は 丸い。内面は指なで。	朝顔型の上位

56号溝出土遺物観察表《石器》 図71

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
3 73	砥石	長 12.5cm 幅 5.2cm 厚 6.4cm 重 856.2g	U-58G 底上2.0cm	粗粒安山岩	表面と小口一面は偏平である。他面には自然面の凹凸が残る。	完形。
6 73	磨石敲石	長 7.3cm 幅 8.0cm 厚 5.4cm 重 459.1g	S-52G 埋没土中	粗粒安山岩	周辺部敲打。両面使用により若干磨減。	1/2残存。下 半欠損。全体 に焼けている。
7 73	磨石	長 18.7cm 幅 11.0cm 厚 8.1cm 重 2600.0g	T-57G 底上9.0cm	粗粒安山岩	片面のみ、やや光沢をもつ。使用によるものと思われる。	完形。若干焼 けている。
8 73	磨石	長 4.8cm 幅 7.9cm 厚 8.0cm 重 345.4g	S-52G 埋没土中	雲母石英片 岩	上端面が滑らかとなっている。焼けているものと思われる。	下半節理面で 欠損。
9 73	磨石敲石	長 6.9cm 幅 7.0cm 厚 4.9cm 重 749.1g	U-57G 底面直上	粗粒安山岩	表面の一部が磨かれている。小口一面にはわずかに敲打痕が 残る。	完形。
34 73	打製石斧	長 4.6cm 幅 6.5cm 厚 1.1cm 重 35.7g	埋没土中	砂岩	平坦であり、あまり身は反らない。表面側に磨減面(使用痕) が認められる。	頭部のみ残存。 胴部以下欠損。

57号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図73

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
144	土師器 杯	口縁部破片 口 (11.3cm)	埋没土中	①砂粒を少量含むが、 緻密な胎土である。 ②硬質。③橙7.5YR7/6	底部外面篋削り。杯部内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。口縁部と杯部の境の稜から、口縁部は外反する。口縁端部は外へ、つままれている。	

57号溝出土遺物観察表《石器》 図73

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
35 73	磨石敲石	長 13.0cm 幅 7.1cm 厚 4.5cm 重 731.7g	埋没土中	溶結凝灰岩	側面に鋭い縁辺を敲いたような敲打痕がある。表面及び両側面に光沢痕が認められるが、線状痕の方向は不明である。	完形。
36 73	軽石製品	長 5.9cm 幅 3.7cm 厚 3.5cm 重 40.2g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具による削り痕がある。	正面左側に新しい傷痕あり。
37 73	軽石製品	長 12.0cm 幅 8.1cm 厚 5.3cm 重 256.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	主に表面側に、のみ状工具による削り痕及び刃ならし痕を残す。	
38 73	軽石製品	長 6.2cm 幅 5.6cm 厚 5.5cm 重 106.8g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具で削り込んだ痕が良く残る。	

58号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図74

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
174 74	土師器 杯	口縁部～底部 4/5残存 口 (10.4cm) 底 丸底 高 3.1cm	埋没土中	①細砂・石英・雲母細 片を多く含む。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	杯部外面篋削り。杯部内面丁寧な調整。一部に、指頭圧痕が残る。口縁部内外面横なで。短く、やや外反して立ち上がる口縁は、丸くつくられている。	
172 74	須恵器 台付壺	脚部残存 底 10.2cm	S-50G 底面上9.0cm	①微細砂・黒色鉱物細 粒を含む。②硬質。 ③灰5YR6/1	回転ロクロ整形。脚部中位に凹線が一条巡り、その下に7本櫛歯の波状文が施されている。端部は稜と沈線に画された面取りがされている。	

58号溝出土遺物観察表《石器》 図75

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
39 74	軽石製品	長 5.5cm 幅 3.2cm 厚 2.8cm 重 20.5g	埋没土中	二ツ岳軽石	表面に削り痕及び刃ならし痕がある。	部分破片。
40 74	UF	長 3.8cm 幅 4.5cm 厚 1.2cm 重 15.3g	埋没土中	珪質頁岩	横長剥片の鋭い部分を使用している。打面は剝離面。	右上一部欠損。
41 74	敲石	長 11.8cm 幅 6.1cm 厚 5.4cm 重 547.4g	埋没土中	粗粒安山岩	下端は敲いたときに欠損したものである。側面から裏面に掛けて敲打痕がある。	
42 74	軽石製品	長 8.5cm 幅 8.1cm 厚 7.1cm 重 220.3g	埋没土中	二ツ岳軽石	のみ状工具による削り痕及び刃ならし痕がある。	

## 1 溝出土遺物観察表

58号溝出土遺物観察表《石器》 図75

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
299 74	磨製石鏃	長 3.3cm 幅 1.7cm 厚 0.3cm 重 1.7g	溝底黒色粘 土中	珪質頁岩	薄い板状剥片を素材とし、周辺部を研磨して形態を整えているものであり、表裏両面はあまり磨られてはいない。基部の穴は両側穿孔。	完形。石材は板状に割がれやすく、かなり軟質である。

59号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図76

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
259 74	土師器 杯	口縁部・底部一 部欠損 口 12.7cm 高 4.0cm	T-45G 埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②やや軟質。 ③橙2.5YR7/6	底部外面篋削り。杯部内面丁寧な調整。口縁部は緩やかな稜をもって杯部から外反して立ち上がる。口縁部内外面横なで。口縁部外面中位に凹線を入れる。	器形に歪み。
260 74	土師器 杯	ほぼ完形 口 10.7cm 高 3.6cm	T-53・54G 埋没土中	①細砂を含むが、緻密な胎土である。②やや硬質。③橙5YR6/8	底部外面篋削り。杯部内面丁寧な篋磨き。口縁部は、稜をもって底部からやや外反して立ち上がる。口縁部内外面横なで。	
176 74	須恵器 杯	口縁部～底部 1/5残存 口 (10.6cm) 底 (6.7cm) 高 3.0cm	埋没土中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③褐灰5YR6/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部切り離し後、篋なで。杯部内外面回転なで調整。	

61号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図81

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
178 74	土師器 杯	ほぼ完形 口 10.9cm 高 3.5cm	Q-51G 底面上9.5cm	①細砂・雲母細片を含む。②やや硬質。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面なで。口縁部横なで。口縁部は緩やかな稜をもって立ち上がり、端部がやや外反する。	
181 74	土師器 杯	口縁部～体部 1/4残存 口 (11.4cm)	埋没土中	①中砂・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/4	底部外面篋削り。内面なで。口縁部内外面横なで。底部は丸底を呈し、口縁部は、鋭い稜をもって外反する。口縁端部は丸く仕上げられている。	
179 74	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.6cm) 高 3.8cm	埋没土中	①小石・礫を多く含むが、緻密な胎土である。 ②硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋削り。内面なで。口縁部内外面横なで。口縁部は緩やかに直立する。底部は平らに仕上げられている。	
180 74	土師器 杯	口縁部～底部 1/3残存 口 (10.5cm) 高 3.7cm	埋没土中	①細砂・石英粒を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋削り。内面なで調整。丸底を呈する。口縁部内外面横なで。口縁端部は内湾し、小さく仕上げられている。	
1035	土師器 杯	口縁部～底部 破片 口 (17.0cm) 高 5.9cm	Q-51G 埋没土中	①砂粒・細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部～底部外面横方向篋削り。上半のみ指なで調整。内面丁寧な調整。口縁部内外面横なで。大型の杯型土器。口縁端部は小さく内湾し、内面端部は玉縁状に肥厚する。	
206	須恵器 瓶	肩部破片	埋没土中	①微細砂を含む。②やや軟質。③灰白8Y8/1	紐づくり後、右回転ロクロ整形。肩部に二条の沈線が付されている。	

61号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図81

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
207 75	須恵器 甕	口縁部～体部 口 27.0cm	O-46G 底面上41.0cm	①細砂を含む。 ②軟質。 ③灰白10Y8/1	紐づくり後、内面同心円状。外面平行叩き整形。口縁部から体部上半回転で調整。	
205 75	須恵器 壺	ほぼ完形 口 11.0cm 底 9.5cm 高 16.3cm	P-46G 底面上29.0cm	①細砂を含む。 ②硬質。 ③灰10Y5/1	紐づくり後、内面などで調整。外面回転で調整。体部下位には回転斲削り痕が残る。付高台。肩部には一条の凹線が巡る。底部に不定形な孔がある。意図的な穿孔かどうか不明。	口縁部内面および体部上半に自然釉
177 75	須恵器 羽釜	口縁部～体部 破片 口 20.0cm	O-46G 底面上40.5cm	①小石・細砂・雲母を含む。②酸化焰焼成。 ③にぶい橙7.5YR7/4	紐づくり後、右回転ロクロ整形。銜部端部は内湾し、丸くなる。口縁端部は内面が丸く肥厚する。	

61号溝出土遺物観察表〈石器〉 図81

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
31 75	軽石	長 49.2cm 幅 16.0cm 厚 15.0cm 重 11.2kg	P-46G 底上39.5cm	角閃石安山岩	四角柱を呈する。下端は欠いたままであるが、他の面は幅3cmのノミによって丁寧に削り込まれている。	

66号溝出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図83

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
204	土師器 杯	口縁部～体部 1/5残存 口 (7.0cm)	Y-62G 底上11.0cm	①砂粒・細砂を含む。 ②やや硬質。 ③橙5YR6/8	杯部外面からい篋で調整。粘土紐の痕跡が残る。内面丁寧などで調整。口縁部内外面横で調整。	
202 75	須恵器 盤	口縁部～底部 1/4残存 口 (18.6cm) 高 4.6cm	埋没土中	①小石・砂粒・細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰5Y5/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部切り離し後、回転斲削り。体部内外面回転で調整。	
201	土師器 甕	口縁部破片 口 (20.2cm)	埋没土中	①細砂・石英を多量に含む。②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/4	体部上位外面斜方向斲削り。内面横方向で。口縁部内外面横で。最大径を口縁部にもつ甕と思われる。口縁端部内面には、整形によるかすかな凹線がみられる。	

66号溝出土遺物観察表〈石器〉 図83

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
10 75	軽石製品	長 10.1cm 幅 6.5cm 厚 4.5cm 重 184.4g	Y-62G 底上5.0cm	二ツ岳軽石	表面に削り痕がある。刃ならし痕も認められる。砥石の可能性もある。	完形
43 75	R F	長 3.2cm 幅 2.0cm 厚 0.7cm 重 5.9g	埋没土中	頁岩	横長剥片であり、上端からの数回の調整剥離が認められる。	



69号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図85

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
186	須恵器 甕	体部破片	K-35G 底面上7.0cm	①細砂・黒色鈹物細粒を含む。②普通。 ③灰白7.5Y8/1	紐づくり。内面に同心円状の乱れたあて具痕が残っていることから、叩き整形と思われる。外面には叩き目は残っていないが、横方向のなで調整が施されている。	窯体付着
185	須恵器 甕	体部破片	K-35G 底面上7.0cm	①白色鈹物粒・黒色鈹物粒を含む。②硬質。 ③灰白2.5Y7/1	外面横方向細かいヤキ目。内面同心円状。自然釉。叩き目調整。	

70号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図86

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
193 75	土師器 杯	ほぼ完形 口 12.8cm 底 丸底 高 3.3cm	O-46G 底面上14.0cm	①微細砂・雲母細片を含む。 ②普通。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り後、なで調整。削り面の痕跡が残り、ゴツゴツしている。内面なで。指頭圧痕が顕著に残る。口縁部は稜をもって、短く内傾ぎみに立ち上がる。端部はやや外反する。	
192 75	土師器 杯	口縁部～底部 1/4残存 口 (16.3cm) 高 5.6cm	O-46G 底面上7.0cm	①細砂・雲母細片を含む。 ②普通。 ③橙5YR6/6	底部外面篋削り。内面横方向なで調整。口縁部内外面横なで。丸く、深めの杯で、口縁部は緩やかな稜をもって、極短く内傾して立ち上がる。	
251 252 75	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (13.2cm) 高 4.5cm	O-46G 底面上18.0cm	①細砂・雲母片を含む。 ②硬質。 ③橙7.5YR6/6	底部外面篋削り。内面横方向丁寧ななで調整。口縁部内外面横なで。口縁端部は強く折り曲げられるように内湾している。平面形態がやや歪んで、楕円形を呈する。	

71号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図89

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
187	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (13.0cm)	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②硬質。 ③明赤褐2.5YR5/6	底部外面なで。内面丁寧な横方向なで調整。口縁部内外面横なで。	

73号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図91

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
188	須恵器 高台付椀	体部～高台部 破片 底 (7.6cm)	埋没土中	①細砂を少量含む。 ②酸化焰焼成。やや軟質。 ③浅黄橙10YR8/3	右(?)回転クロ整形。底部回転糸切り離し。付高台。高台接合部なで調整。椀部内面回転なで。	

74号溝出土遺物観察表《陶器・磁器》 図92

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
191 75	灰釉鉢 陶器	体部～底部 1/5残存 底 9.0cm	埋没土中	灰白色	外面はヘラケズリ。高台脇以下無釉。	瀬戸・美濃系 18～19C

74号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図92

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
265	須恵器 蓋	体部～端部 破片 口 (22.6cm)	埋没土中	①細砂・黒色鈹物粒を含む。②やや軟質。 ③灰白N7/	右回転ロクロ整形。天井部外面回転篋削り。端部から内面回転などで調整。カエリは断面三角形を呈し、端部は丸く仕上げられている。	
190 75	土師質 羽釜	口縁部～体部 破片 口 21.0cm	埋没土中	①微細砂・中砂・雲母片を含む。②やや軟質 ③浅黄橙10YR4/1	紐づくり後、体部外面横方向篋削り。鈹部接合部などで調整。体部内面横などで。口縁部内外面横などで。	
189 75	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (16.4cm)	埋没土中	①細砂を多量に含む。 ②酸化焙焼成。 ③浅黄橙10YR8/3	紐づくり後、内外面右回転ロクロ整形。口縁部は大きく内湾し、体部は丸くなる。	

78号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図94

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
227 75	土師器 杯	口縁部～体部 1/5残存 口 (14.0cm) 底 (10.5cm) 高 3.0cm	埋没土中	①細砂を含む。 ②やや硬質。 ③にぶい橙5YR6/4	底部外面篋削り。体部外面弱いなどで調整。内面などで。底部内面には指頭圧痕が残る。口縁部横などで。口縁部は、一度、かるい稜をもって外反するが、すぐ端部は内湾し、小さく仕上げられている。平底の杯。	
226	土師器 杯	口縁部～体部 1/5残存 口 (13.2cm)	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	底部外面篋削り。体部内面などで調整。口縁部内外面横などで。	

78号溝出土遺物観察表《石器》 図94

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
14 75	軽石製品	長 12.2cm 幅 14.7cm 厚 9.8cm 重1172.9g	M-44G 底面直上	二ツ岳軽石	刃ならし痕、削り痕がある。幅は1.5cmから2cmほどである。	完形。

24号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図98

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
98 76	土師器 杯	口縁部一部欠損 口 12.0cm 高 5.7cm	K-26G 底面上7.0cm	①細砂・赤色鈹物粒を含む。 ②普通。 ③橙7.5YR7/6	体部外面篋削り後、上半部横方向・斜方向の丁寧な篋磨き。内面丁寧ななどで調整後、やや粗雑な斜方向の暗文が施されている。口縁部内外面横などで。口縁部は緩やかに短く外反する。端部は丸く仕上げられている。	
99 76	土師器 鉢	口縁部～体部下 位1/4残存 口 14.0cm	K-27G 底面上8.0cm	①小石・細砂を多量に含む。②やや軟質。 ③橙5YR6/6	体部外面横方向篋削り。内面横方向などで。口縁部内外面横などで。口縁部は極短く外反する。	
100 76	土師器 甕	口縁部～胴部 1/4残存 口 (16.0cm)	K-27G 底面上8.0cm	①小石・細砂・赤色鈹物粒を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR6/4	胴部外面斜方向篋削り。内面斜方向篋などで。口縁部～頸部内外面横などで。くの字に開く口縁部は、端部でやや外反する。胴部は丸く、中位よりやや上方に最大径をもつと思われる。	

24号溝出土遺物観察表〈木器〉 図98

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
643 76	丸杭	36.7+ $\alpha$ ×5.0 $\phi$	K-25G 底面下40cm	芯持 スギ	先端部欠損	先端部分は劣化している。頭部は平坦である。節部は良く残る。枝を払ってあり、節が明瞭に残る。	
644 76	杭	45.0×5.0×3.3	K-28G 底面下13cm	分割材 カヤ	上端部欠損	分割材で節部の一部を削り、平坦をつくる。先端部は鋭く尖らせてある。	

善勝寺堀出土遺物観察表〈陶器・磁器〉 図99

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
210 76	染付火入れ 磁器	口縁部～体部 1/4残存 口 (10.0cm)	埋没土中	白色	外面の文様は型紙刷り。内面無釉。口縁端部上面に使用による敲打痕。	瀬戸・美濃系か 明治後期
208 76	瓶 磁器	体部～底部 1/2残存 底 6.7cm	埋没土中	白色	外面の文様は銅版転写。2箇所に転写紙の合わせ目。高台端部無釉。内面無文。	伊万里系？ 明治後期～大正
214 76	飯碗 磁器	口縁部～底部 1/3残存 口 (11.0cm) 底 4.0cm 高 4.8cm	埋没土中	白色	高台は小さい。体部は内湾。内外面の文様は型紙刷り。	瀬戸・美濃系 明治後期
209 76	染付皿 磁器	口縁部～底部 1/4残存 口 (11.1cm) 底 (6.1cm) 高 2.7cm	埋没土中	白色	打型成形で龍や飛雲を浮き出させ、低い部分に濃みを入れる。口縁端部は口錆。	伊万里系 19C中頃
213 76	練鉢 陶器	口縁部 破片 口 (17.4cm)	埋没土中	灰色	口縁部は内傾し玉縁状。	益子・笠間系 明治後期～大正
211 76	燈明皿受 皿 陶器	口縁部～底部 1/2残存 口 (9.2cm) 底 4.1cm 高 2.0cm	埋没土中	観察不可	外面は口縁部下までヘラケズリ。全面に錆釉を施した後、外面口縁部以下の釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系 19C

77号溝出土遺物観察表〈弥生土器〉 図101

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
220 76	蓋	摘み部分 口 5.0cm	Q-47G 底面上5.0cm	①白色鉍物を多量 に含む②やや緩い ③黒褐5YR3/1	摘み部分のみ存在。内面を凹ませている。器肉は蓋との接合部が厚い。外面は縦方向に整形。		
218 76	壺	口縁部残存	Q-47G 底面直上	①白色鉍物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/3	口縁部は直線的に外反する。外面は縦方向、内面は横方向に寛磨きが行われている。		内面に有機質が付着。

77号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図101

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
225 76	甕	1/4欠損 口 19.5cm 頸 17.4cm 胴 22.9cm 底 8.3cm 高 33.0cm	P-51G 底面上12.0cm	①白色・夾雑鉱物を含む。 ②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	胴部は丸みをもち、口縁部はわずかに外反し、立ち上がる。口縁部はわずかに立つ。外面は縦方向、内面は横方向に鈍磨き痕を残す。	口縁端部に1単位、肩部に2単位の櫛描波状文を施文。頸部には9条1単位の2連止左廻りの簾状文が施文されている。	
223 76	壺	体部破片	Q-53G 底面上18.5cm	①白色鉱物・雲母を含む②やや緩い ③にぶい黄橙10YR7/3	体部から頸部にかけての破片。外面は縦、内面は横方向の器面調整。	頸部には7条1単位の櫛描波状文が5段とボタン状貼付文があり、円形刺突文を7個確認。	
224 76	甕	頸部破片	埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②良好③にぶい黄橙10YR6/3	頸部内面は横方向の整形。	頸部は右廻りの簾状文。肩部は櫛描波状文を施文。	
222 76	壺	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物・小礫を多量に含む②良好③橙5YR6/6	口縁部は折り返し口縁である。外面は縦方向、内面は横方向に器面調整。	折り返し口縁外面に斜方向の沈線がある。	

77号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図101

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
219	土師器 高杯	杯部破片 口 (13.2cm)	埋没土中	①細砂・雲母片を多く含むが、緻密な胎土である。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部外面縦方向鈍削り後、縦方向鈍磨き。内面丁寧な調整。口縁部内外面横などで。端部内面には幅4mmの面取りがされている。杯部は丸く、裾の大きく開く脚部が付くと思われる。	
217 76	土師器 埴	口縁部～体部 口 9.2cm	埋没土中	①細砂・石英を含む。 ②硬質。 ③橙5YR7/6	体部外面横方向鈍削り。口縁部内外面などで調整。体部内面縦方向指押さえ。頸部外面などで調整のあと口縁部内外面および体部外面上半に細かい鈍磨き調整。口縁端部は内湾する。	
221 76	土師器 台付甕	脚部2/3残存 底 10.8cm	Q-47G 底面上6.0cm	①微細砂を多く含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR3/6	脚部外面刷毛目(7本/1cm)整形の後、指などで調整。内面横方向鈍削りの後、縦方向指などで。	
212 76	土師器 台付甕	脚部残存 底 9.9cm	Q-48G 底面直上	①細砂を含む。②やや硬質。③灰黄2.5Y6/2	脚部外面斜方向刷毛目(10本/1cm)整形。内面縦方向指などで。	
215 76	土師器 小形器台	口縁部・台部 一部欠損 口 (7.6cm) 底 (12.0cm) 高 8.0cm	Q-47G 底面直上	①細砂・石英粒を多く含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR7/4	器台部外面縦方向刷毛目整形。上半部から、器受部内外面横などで。口縁端部は外反する。器台部内面横方向鈍削り。裾部内外面横などで。器台部中位には、焼成前の三孔が穿たれている。	
216 76	土師器 小形器台	脚部上半残存	Q-49G W162の上	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰黄褐10YR5/2	脚部外面縦方向鈍磨き。内面鈍削り、指などで、横方向鈍磨き。	
732	土製品 管玉	ほぼ完形 幅 0.9cm 長 2.4cm 重 131.0g	底面上 砂利層	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	手捏ね成形。外面などで調整。	

77号溝出土遺物観察表《石器》 図101・102

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
11 77	敲石	長 11.4cm 幅 7.0cm 厚 5.4cm 重 709.7g	埋没土中	石英閃緑岩	端部に敲打痕がある。裏面は若干滑らかであり、使用の可能性が認められる。	下半欠損。表面に煤が付着
13 77	磨石敲石	長 13.2cm 幅 9.6cm 厚 6.9cm 重1109.9g	埋没土中	粗粒安山岩	表面頂部に敲打痕がある。裏面に磨り面がある。	下半及び右側面上半欠損。
24 77	剥片	長 3.6cm 幅 2.7cm 厚 1.0cm 重 6.6g	埋没土中	頁岩	左端は剥片の剥離時に割れたもの。使用痕はない。打面は剥離面。	
25 77	剥片	長 4.0cm 幅 4.0cm 厚 1.2cm 重 11.3g	埋没土中	頁岩	石斧、もしくは石核の調整の際の調整剥片。打面は剥離面(2回以上の打撃により剥離されたものであり、裏面右側にも打点がある)。	
48 77	敲石	長 8.7cm 幅 7.3cm 厚 4.3cm 重 359.9g	埋没土中	粗粒安山岩	側面及び裏面中央に敲打痕を残す。表面には刃ならし痕状の細長い傷が認められる。	完形。
12 77	磨石	長 16.0cm 幅 7.0cm 厚 7.2cm 重1026.0g	埋没土中	粗粒安山岩	石質は多孔質。表面に磨痕、側面に敲打痕を残す。裏面には凹がある。台石として利用したものか。	部分破片。
49 77	磨石	長 16.8cm 幅 10.5cm 厚 9.0cm 重2080.0g	埋没土中	粗粒安山岩	表面及び側面に磨面を残す。裏面は強く深い線状痕を残す。	全体に剥脱が顕著。
298 77	管玉	長 5.0cm 幅 1.1cm 厚 1.3cm 重 13.6g	底面直上	蛇紋岩	断面はやや楕円形を呈する。両側穿孔。上下両端の穴はブレによりやや楕円形を呈する。上下両端ともよく研磨し、光沢を出している。	

77号出土遺物観察表《木器》 図103

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
203 78	糸巻	18.5×9.0×8.3	Q-49G 底上18.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	樹皮が残る。中央の切り込みはV字形を呈す。両端部は周縁部から切断に入る。	
18 78	糸巻	14.6×8.4×8.4	Q-49G 底上16.0cm	芯持 エノキ属	完形	表皮が残る。両端部は周囲から面取りを行い、中央凹部はV字に切り込む。	
15 78	くさび	7.3×6.3×3.2	P-50G 埋没土中	柾目 サカキ	完形	下端部を二方向から斜めに切り落とし、鋭く尖らす。上端部は平坦部をつくる。	
42 78	くさび	9.4×3.9×3.3	P-51G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	四角に削り、一端部は平面、他端部は斜方向に面を落す。一面が炭化している。	
65 78	くさび	9.7×8.3×2.6	P-51G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	刃部は二面から切り出す。頭部は平坦を呈す。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図103~106

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
162a 78	くさび	48.4×5.1×3.6	Q-49・50G 底上18.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	先端部分は二面から削り出される。頭部は周辺から面取りが行われる。	
142 78	くさび	23.9×5.3×3.0	Q-48・49G 底上15.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は二面から尖らせる。頭部は切り込みを入れた後、ねじり切る。表面には削り痕が残る。	
23 78	くさび	17.4×13.3×8.0	P-51G 底上4.0cm	割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	先端部は二面から45~60°角で尖らせる。表裏面には挟みつけられたような幅1.0cm、深さ0.3cmほどの溝状の痕が数本残る。	
12 78	くさび	14.9×7.5×4.5	Q-49G 底上13.0cm	割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形?	表面は全体に磨耗度が高い。表面側面には僅かな溝が斜方向に切られ、頭部は敲かれて凹形である。	
63 78	容器	41.7+ $\alpha$ ×5.6+ $\alpha$ ×3.0 容器の底 約1.5cm	P-50G 底上22.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端・片側 端部欠損	方形の容器と推測できる。中央に挟り部分があり、深さは約1.0cmである。	
21 78	くさび?	25.0×13.8×13.8	Q-48G 底上14.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	両端部は二方向から尖らせる。周縁部は面取りを行う。	
349 78	建築材	175.0+ $\alpha$ ×12.0×12.0 枘穴の長さ×幅×深さ 4.8~8.8×1.2~1.4×2.5	Q-48G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	分割材の表面を削り、整形した後一面に三ヶ所の枘穴が18~30cmの間隔であけられている。	
340 78	柱(股木)	125.0+ $\alpha$ ×18.0×11.0 2本の股木の太さ 7.5 $\phi$	Q-49G 底上16.0cm	芯持 ヤマグワ	一部欠損	先端部は削り出し、股木両端部は周辺部から削り出し、切断。表面にはわずかに削り痕が残る。	
343 79	建築材	138.0+ $\alpha$ ×6.0×3.4	P-50G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	下端部欠損	頭部は面取り。頭部から約3cm下に長さ約9.5cmのあたり痕がある。	
344 79	建築材?	208.0+ $\alpha$ ×9.0×5.0	Q-48・49G R-49G	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	下端部欠損	みかん割りの一部を加工して部分的に角材とする。頭部付近に切り込みを入れる。	
345 79	建築材?	218.0+ $\alpha$ ×8.0×7.6	Q-47・48G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	先端部はつぶれている。頭部は一部が欠損。一面に枘穴が4ヶ所ある。その間隔は19.0~26.0cmで、穴の規模は長さ3.2cm、幅1.4cm、深さ1.2cmである。	

## 1 溝出土遺物観察表

77号溝出土遺物観察表《木器》 図106・107

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
348 79	建築材?	159.0×5.0×3.0	Q-49G 底上5.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部一部 欠損	最先端部はつぶれている。頭部から23cm下位に、長さ3.5cmの浅い抉り部分がある。	
151 79	建築材	130.0+α×8.4×7.2	Q-48・49G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	左右対称の抉り込み部分の幅は約8.4cm、深さは0.5~1cmである。頭部は平坦で周辺は面取りを行う。	
352 79	杭	112.0+α×8.0×6.0	Q-49G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	みかん割りの一部を薄くして、先端部とする。頭部は斜めに切断され切り込みがある。枝払いを行う。	
171 80	建築材	105.5+α×7.0×7.0	Q・R-48G 底上8.0cm	分割材 クリ	一部欠損	先端部分は削り出しているが、最先端部はつぶれている。頭部は切り込みをつくる。	
207 79	厚板	87.0+α×10.0×4.0	Q-48G 底上5.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	端部は斜めに切断。他端部は平坦面部分からの切断面をつくるが、一部はねじり切断と思われる。製作時の割り込み痕と思われるものが中央部にある。	
210 79	建築材	42.5+α×8.6×7.0	P-51G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	現存部分両端部に切り込みを有する。	
161 80	角材	52.8+α×4.7×4.7	P-51G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	しっかりした面をつくり出す。表面は削り痕が残る。	
145 80	建築材	33.7+α×4.6×2.6	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	左右対称の抉り込み部分の幅は約2.5cm、深さは0.6~0.8cmである。	
220 80	角材	46.6+α×3.6×3.6	Q-48G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	先端部はつぶれている。表面には幅1.0~1.5cmの削り痕が残る。	
41 80	角材	21.0+α×1.9×1.6	P-51G 底上18.0cm	柁目 モミ属	片端部欠損	断面はほぼ方形を呈す。片端部は斜方向に切断している。	
179 80	建築材	79.2+α×5.4×5.0	Q-50G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	頭部は一方から斜めに切断。先端部は細くなりつつ、欠損。割材の芯近接部に長さ9.0cm、幅0.9cmの切り込み痕がある。	
121 80	角材	67.0+α×5.2×1.4	Q-50G 底上16.0cm	柁目 モミ属	両端部欠損	板材に近い。四面を成形したと考えられる。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図108-110

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
197 80	板	71.0+ $\alpha$ ×13.0×2.5	Q-47G 底上15.0cm	柾目 クリ	片端部欠損	平坦面は割りっぱなし。側面はわずかに面取りを行っている。	
154 80	板	51.4×10.8×4.0	P-51G 底上24.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	みかん割りによる柾目。一側面は厚く、他は薄い。両端部は切断されている。平坦面の一部が削られている。	
33 80	板	49.5+ $\alpha$ ×5.3×1.2	Q-49G 底上3.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	片端部は長軸にほぼ直角で切断。表面には削り痕が残る。厚さは1cmほどの差がある。	
6 81	板材	26.6+ $\alpha$ ×7.0×3.2	Q-49G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	端部は斜めに切断。割り取ったままで削り痕はない。幅広で一定の厚さをした板材である。	
37 81	板	25.0+ $\alpha$ ×2.9×1.0	Q-48G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表裏面にわずかに削り痕を残す。	
59 81	板	26.5+ $\alpha$ ×4.6×0.6	Q-49G 底上11.0cm	柾目 スギ	側面一部欠損	平面には削り痕が残る。片端部を欠損する。	
130 81	板	41.6+ $\alpha$ ×6.2×1.8	P-50G 底上23.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	平坦面には柾目に沿って、幅2cm前後の削り痕が残る。	
185a 81	板	31.6+ $\alpha$ ×2.9×1.5	Q-49G 底上10.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	平面は幅1.2cm程度の削り痕をもつ。	
234 81	板	55.5+ $\alpha$ ×4.7×2.2	Q-50G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面の削り痕は不明。もろい。	
156 81	板	75.0×9.5×3.0	Q-49G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は切断。みかん割りによる柾目。平面に削り痕が残る。	
172 81	板材	71.2+ $\alpha$ ×23.4×3.0	Q-48G 底面直上	柾目 ヤマグワ	片端部欠損	多少の凹凸はあるが、しっかりした板である。	
124 81	板(用途不明)	71.0+ $\alpha$ ×7.0×2.0	P-50G 底上35.0cm	板目 モミ属	片端部欠損	残る端部は丸みをもつ。端部から板中央部に向かい細くなる。厚さはほぼ一定である。	
341 81	板	128.8+ $\alpha$ ×19.4×2.4	Q-47・48G 底面直上	柾目 モミ属	部分欠損	偏平な板をつくり出している。端部は数回にわたり切り込み、切断している。一面は炭化している。	



77号溝出土遺物観察表《木器》 図110・111

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
339 81	厚板	93.8+ $\alpha$ ×30.5×4.8	Q-49・50G 底上10.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	端部は長辺に対し直角と斜角に切断。両側面は偏平に加工される。	
155 82	角材	89.0+ $\alpha$ ×3.0×3.0	P-51G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	片端部は斜方向に削る。表面は削り痕が残る。断面は四角形。折れが多い。	
196 82	板	95.9+ $\alpha$ ×15.8×1.8	Q-48G 底上9.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	部分欠損	表面は炭化している。残存状態は悪い。端部は弧を描くように丸い。平坦面は削り痕がわずかに残る。	
160 82	板	59.4+ $\alpha$ ×6.4×3.0	P-50・51G 底上24.0cm	分割材板目 ヌルデ類似種	片端部欠損	枝払いを行っている。一部に削り痕が残る。	
214 82	角材	104.2+ $\alpha$ ×7.6×4.3	P-51G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	やせて、もろい。建築材の可能性はある。	
332 82	角材	105.9+ $\alpha$ ×3.2×2.0	Q-49G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	1/4分割材であり、節部を残す。	
158 82	角材	87.8+ $\alpha$ ×5.0×3.6	P-50G 底上20.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割りの一部を調整し、断面が平行四辺形を呈すところがある。表面には削り痕がある。	
320 82	板	53.6+ $\alpha$ ×12.7×1.1	Q-48G 底上6.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	一端部は長辺に対し直角に切断。切断方向は板表裏面からで、表面は偏平に薄く仕上げられ、加工痕が残る。	
120 82	角材	54.7+ $\alpha$ ×5.2×2.6	Q-50G 底上12.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	切断部分は斜めに切り落とす。平坦面を四面つくる。削り痕の幅は約2cmである。	
198 82	角材	51.2+ $\alpha$ ×3.9×2.6	Q-49G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割りであり、節部を残す。表面の加工痕はとらえられない。	
58 82	角材	37.2+ $\alpha$ ×2.0×1.5	Q-50G 埋没土中	板目 モミ属	片端部欠損	下端部は丸みをもち、わずかに薄くなる。	
19 82	角材	24.3+ $\alpha$ ×3.5×3.5	P-50G 底上8.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	端部は斜方向の切口をもつ。表面の約1/2と一端部が炭化している。	
17 82	角材	26.2+ $\alpha$ ×5.0×2.1	P-51G 底上24.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	表面には削り痕が残る。端部は斜方向に切り落としてある。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図111～113

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
70 82	板	13.7+ $\alpha$ ×5.6×2.9	P-50G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割材を加工して板材としている。 平滑面をつくり出しているが劣化が進んでいる。	
216 82	板材	26.0+ $\alpha$ ×4.5×1.2	Q-48G 底面直上	柾目	片端部欠損	端部は丸みをもつ。	
10 83	角材	27.9+ $\alpha$ ×4.3×1.5	P-51G 底上5.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	表面には一定幅の削り痕が長軸方向に残る。厚さは一方がわずかに細くなる。	
68 83	板	18.5+ $\alpha$ ×5.0×1.5	P-51G 底上12.0cm	板目 モミ属	両端部欠損	幅は一定し、側面もしっかりしている。	
4 83	股鋏	51.2×13.5×2.4 柄 16.2×4.0×2.4	Q-48G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部の片側 先端部分を欠く。	片面は平坦につくられ、反対側は丸みをもつ。着柄部には挟り部分があり、紐の痕跡が残る。	
50 83	股鋏	18.5+ $\alpha$ ×3.4×1.6	Q-49G 底上15.0cm	板目 コナラ属 アカガシ亜属	一部残存	股鋏の一刃部の破片と考えられる。 断面から一側部が薄い。	
25 83	着柄鋏・鋏	15.0+ $\alpha$ ×10.2+ $\alpha$ ×0.5	Q-49G 底上13.0cm	柾目 トチノキ	先端部付近	表面には長軸方向に削り痕が残る。 刃部は一方向から面取りを行う。	
114 83	横槌	17.7+ $\alpha$ ×5.0×2.7	P-51G 底上15.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	柄の端部と敲打部端部を欠損する。 この境部は削り出し緩やかな曲線をもつ。	
66	丸棒状木製品	21.0+ $\alpha$ ×2.7×2.7	P-50G 底上9.0cm	割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	割材を削り出し丸棒をつくる。農具直柄になる可能性がある。	
64 83	横鋏	24.9×7.4+ $\alpha$ ×1.3	P-51G 底上24.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄部欠損	刃部付近が残る。長軸方向に削り痕が残る。	
201 83	丸棒状木製品	30.6+ $\alpha$ ×2.4×2.4	P-50G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	上端部欠損	表面を整形し、丸くする。下端部付近に左右対称のあたり部分がある。	
318 83	材	52.6+ $\alpha$ ×7.6×4.1	P-51G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	みかん割り。節部が残る。頭部分は周辺から削り、わずかな丸みをつくる。	
244 83	石斧膝柄	48.0+ $\alpha$ ×4.0×4.0	Q-49G 底面直上	股木 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄の一部を欠損	斧台部はわずかに中央が高く、両側に向かい低くなる。偏平につくられている。装着部分は段をつくる。装着部先端裏側にわずかな凸部をつくり出す。	

77号溝出土遺物観察表〈木器〉 図113~115

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
117 84	横槌	33.4+ $\alpha$ ×9.0×4.8	Q-50G 底上20.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄の一部を 欠損	表面は炭化している。三面の敲打部分には使用痕があり、表面がつぶれている。	
1 84	横槌	23.7×5.5×4.6 柄 10.8×3.6~2.2	P-51G 底上23.0cm	不明 ケンボナン 類似種	完形	握部を削り出す。槌部先端と握部寄りには面取りを行っている。使用痕が残る。	
183 84	梯子	91.0+ $\alpha$ ×19.1×9.6	Q-48・49G 底面直上	分割材 (半載) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	上部欠損	基部から二段分が存在。一段分は約29cmである。足掛部は直角の切り込みと緩やかな削り面とでなる。裏面は縦長に割りを入れた痕が残る。基部は削り出さない。	
241 84	梯子	103.2+ $\alpha$ ×14.8×9.6	Q-50G 底面直上	分割材 クリ	二段分確認	破損部分が多いが段の間隔は29.6cm、段の切り込みの深さは6.3cm、基部の長さ48.5cm、厚さ約9.5cmで、段から緩やかに削り、薄い部分は2.2cmである。	
125 84	棒状木製品	59.0+ $\alpha$ ×3.5×1.4	Q-49・50G 底上24.0cm	板目 モミ属	両端部欠損	先端部は細く、先がつぶれている。頭部に向かいわずかに太くなる。一面が炭化している。	
45 84	股楯	18.5+ $\alpha$ ×5.8×1.0	Q-50G 底上18.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部の破片	股楯刃部分の破片と考えられる。	
101 84	杭?	29.4+ $\alpha$ ×6.8×4.3	P-51G 底面直上	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	状態は悪い。枝を落としている。割材であり、無整形?	
2 84	刀状木製品	71.0×3.0×3.0	Q-50G 底上91.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	刀身部から切先部付近までは直線的に削り出し、切先は削り込みが鋭い。柄部には削り込みがある。	
170 85	杭	48.7+ $\alpha$ ×7.3×4.9	Q-50G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	一端部は細く平坦になる。他部は欠損。みかん割り材を一端部のみわずかに加工したと思われる。	
342 85	板状杭	121.0×11.2×4.0	Q-47G 底面直上	榎目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	先端部を尖らせるが、使用時につぶれる。頭部は一部欠損するが平坦をつくる。表面には節部が残る。	
305 85	杭	12.7+ $\alpha$ ×6.0×1.6	P・Q-50G 底面直上	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	平面には削り痕がある。一端部分はわずかに尖らすように削り出し炭化している。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図116・117

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
88 85	杭	21.6+ $\alpha$ ×3.3×2.1	P-51G 底面直上	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	下端部欠損	杭頭部は敲かれ、つぶれた状況を呈す。	
193 85	丸棒状杭?	25.3+ $\alpha$ ×2.6×2.4	Q-50G 底上12.0cm	芯持 ウコギ属	両端部欠損	枝を払っている。	
199 85	丸杭	25.0+ $\alpha$ ×4.2×3.0	P-51G 底上16.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	上端部欠損	先端部は一方から斜めに切断する。表皮が残る。	
185 b 85	棒状木製品	26.7+ $\alpha$ ×2.8 $\phi$	Q-49G 底上10.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	枝を払っている。	
28 85	杭	27.4+ $\alpha$ ×4.5×4.2	P-51G 底上18.0cm	芯持 ウコギ属	上半部欠損	先端部を鋭く削り出すが、わずかにつぶれる。側面に約1/2の範囲で浅い抉りがある。	
75 85	杭	34.0+ $\alpha$ ×2.9×2.6	P-51G 底上11.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	上端部欠損	先端部は二方向から切り尖らせるが最端部は欠損する。	
152 85	角杭	65.0×10.0×10.0	Q-48G 底上12.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	下端部分は削り出して尖らせている。頭部は段状に切られている。平坦部分は幅1.5~2.0cmで削られている。	
368 85	くさび?	29.4×7.5×7.5	Q-49G 埋没土中	芯持 広葉樹 (散孔材)	完形	両端部を周辺から切断。樹皮を残す。	
162 b 86	枝杭	24.1+ $\alpha$ ×2.5×2.0	Q-50G 底上18.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	両端部欠損	側面の一部にあたり部分がある。先端部に向けて削り痕がある。	
127 86	杭?	33.5+ $\alpha$ ×5.5×5.5	P-50G 底上4.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	両端部欠損	一部に工具痕が残り、節部面を整形している。	
134 86	丸杭?	61.4+ $\alpha$ ×2.5×1.5	Q-49G 底上13.0cm	分割材 ウコギ属	両端部欠損	1/2に分割。わずかに先端部を削り出しているが欠損。頭部には面取り部分がみられるが欠損が多い。	
116 86	角杭	71.0+ $\alpha$ ×8.5×7.2	Q-48G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	先端部一部 欠損	節部を残す。頭部は面取りを行う。先端はわずかにつぶれている。	
223 86	杭	81.6+ $\alpha$ ×8.8×5.6	Q-47G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	片端部欠損	最先端部分がつぶれている。先端部分に削り痕が残る。	
119 86	角杭	46.0+ $\alpha$ ×7.3×6.5	Q-47G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	最先端部と 頭部の一部 欠損	先端部付近は炭化している。	

77号溝出土遺物観察表《木器》 図117・118

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
123 86	杭	55.2×8.6×6.3	Q-50G 底上23.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	杭の頭を切り込んであたり部分をつくる。先端部はつぶれる。	
140 86	丸杭	20.4+α×5.2×4.5	R-49G 底上9.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	頭部欠損	先端部分つぶれている。先端部を8回で削り尖らせている。半面が炭化している。	
218 86	杭	109.8+α×6.6×5.2	Q-49G 底上16.0cm	芯持 ヤマグワ	片端部欠損	篩部が残る。曲状を呈す。先端部分は斜めに切断している。	
324 86	枝杭	101.7+α×3.3×3.3	Q-49G 底上20.0cm	芯持 ヤマグワ	両端部欠損	太い部分の先端部を切断しているが、最端部分を欠損しているため詳細は不明。枝を払う。炭化部分がある。	
159 87	枝杭(丸)	106.0+α×5.0×3.0	Q-50G 底上33.0cm	芯持 ウコギ属	両端部欠損	枝杭としているが、先端部分には割れとつぶれがある。枝払い、篩部の整形痕がある。	
364 87	不明	135.8+α×7.4×5.0	Q-49G 底上6.0cm	芯持 ヤマグワ	両端部欠損	篩部に削り痕が残る。	
168 87	丸棒状杭?	66.0+α×4.0×3.0	埋没土中	芯持	片端部欠損	先端部は斜方向から切断。他端部は欠損。	
52 87	丸棒	36.7+α×4.0×4.0	Q-49G 底上15.0cm	芯持 ムクロジ	両端部欠損	枝払いを行い、道具として使用したものと考えられる。	
202 87	棒状木製品?	39.3+α×2.2×0.9	Q-49G 底上4.0cm	分割材 ヤマグワ	両端部欠損	枝を払っている。	
60 87	棒状木製品	50.4+α×3.5×1.2	P-51G 底上20.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	下端部は丸みをもつ。一部欠損。側面は削り痕をもつ。	
122 87	丸棒状木製品	50.9+α×2.3×2.3	P-50G 底上18.0cm	芯持 広葉樹 (環孔材)	両端部欠損	表面は荒れているが、篩部が残る。	

85号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図119

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
264 88	壺	体部破片	埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む②やや緩い③灰黄2.5Y6/2	内外面とも横方向の器面調整。	棒状工具による沈線文がある。三角連繫文の可能性はある。固体?	263と同一
263 88	壺	体部破片	埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む②器面が荒れる③灰黄褐10YR5/2	内外面とも横方向の撫で。	棒状工具により、2条1単位で沈線文がある。	264と同一 固体?
262 88	甕	肩部破片	埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む②やや緩い③褐灰10YR6/1	内外面は横方向の撫で整形。	棒状工具による沈線文が横方向に3条、斜方向に1条見られる。	

85号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図119

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
261 88	土師器 甕	口縁部破片 口 (23.0cm)	埋没土中	①中砂・細砂・雲母細片を含む。 ②普通。 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴部外面斜方向のなで整形。内面横方向刷毛目(6本/1cm)整形。口縁部内外面横なで。口縁は受け口状を呈し、上面端部には幅6.5mmの面取りをする。口縁部外面中位は緩い稜をなし、櫛歯状工具による刺突を5mmおきに施している。	

85号溝出土遺物観察表《石器》 図119

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
44 88	石錐	長 3.1cm 幅 4.3cm 厚 1.9cm 重 14.8g	埋没土中	黒色頁岩	横長剥片先端に短い尖頭部を作出している。その両側の調整は粗く、鋸歯縁状を呈する。打面は自然面。	
45 88	R F.	長 5.7cm 幅 5.0cm 厚 1.5cm 重 42.1g	埋没土中	黒色頁岩	左側縁は剥離時のヒビのため欠損。縁辺部に二次加工を施している。	

86号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図121

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
671	壺	頸部～口縁部破片 口 (14.4cm) 頸 (9.0cm)	M・N-41G 埋没土中	①白色夾雑鉱物を含む。②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は大きく外反する。外面は横・縦方向刷毛目整形後、鈍磨きが一部行われる。内面には横・斜方向に刷毛目整形痕が残る。	口縁端部は縄文が施文される。頸部には沈線による横線文と波状文が交互に施文される。	口縁付近に円形の穴を穿つ。
672	小形甕	胴上半部破片 口 11.2cm 頸 9.7cm 胴 11.2cm	M・N-41G 埋没土中	①小礫を含む。②良好。③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は外反する。外面は横撫で後、縦方向に櫛目整形が入る。内面には横撫で整形痕が残る。	頸部には8条1単位の櫛描横線文が入る。口縁部と頸部に縦方向の整形を兼ねた文様が入る。	
670	小形壺	口縁部欠損 頸 4.7cm 胴 11.5cm 高 14.0cm残	M・N-41G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。②良好。 ③黄橙10YR8/8	最大幅は胴中位付近にある。頸部は細くしまり、口縁へと開きはじめる。外面胴下半は横方向の鈍整形、上半は斜方向の刷毛目整形が行われている。	頸部には沈線による横線文が施文される。	
249 88	甕	頸部付近の破片	M・N-42G 堰内面	①白色鉱物・雲母を含む②良好③黄灰2.5Y5/1	内面は横方向の器面調整が行われ、光沢をもつ。	頸部に右まわりの籐状文があり、上下に櫛描波状文がある。	籐状文施文後波状文(上)
248 88	壺	頸部破片	堰下	①小礫を含む②良好③灰白7.5Y8/2	内面は横方向の撫で整形。	8条1単位の櫛描波状文と櫛描横線文がある。	
250 88	壺	頸部破片	堰内面	①白色鉱物を多量に含む②やや緩い③褐灰5YR5/1	頸部付近と考えられる。器面は荒れており、整形状況は不明。	棒状工具による沈線文がある。沈線間に爪形の刺突文が2列並ぶ。	
673	甕	胴部破片	M・N-41G 埋没土中	①白色鉱物を含む。②良好。 ③淡黄2.5Y8/4	胴上半部はわずかに丸みをもつ。内面は横方向に器面調整を行っている。	沈線によるコの字重文が施文されている。	

86号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図121

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
675	土師器鉢	口縁部～体部下 部破片 口 (10.5cm)	M・N-41G 埋没土中	①細砂・雲母細片を含 む。②やや硬質。 ③灰黄褐10YR6/2	体部外面縦方向刷毛目(7本/1cm)整形。下半斜方向・横方向斲削。肩部外面横方向など。口縁部は貼り付け下端部をそのまま残し、体部と同じ工具で縦方向刷毛目調整。体部内面など。口縁部内面横など。口縁部外面には幅3mmの面取りをしているが、無調整。	
676	土師器埴	口縁部～頸部 破片 口 (9.0cm)	M・N-41G 埋没土中	①微細砂を含むが、緻 密な胎土である。 ②やや硬質。 ③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部外面など後、縦方向斲磨き。口縁部外面横方向斲磨き。口縁部内面など後、上半横方向、下半縦方向斲磨き。口縁部内面端部には幅7mmの面取りがされている。口縁部全体が緩やかに内湾する。頸部内面には指頭圧痕が残る。	
1124	土師器埴	口縁部～体部下 半1/4残存 口 (8.6cm)	O-43G 底面上15.3cm	①微細砂・雲母細粒を 含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	体部外面など調整の後、縦方向斲磨き。口縁部外面横方向斲磨き。内面口縁部～体部上半横方向斲磨き。	
674	土師器壺	頸部破片	M・N-41G 埋没土中	①小石・細砂・微細砂 を多量に含む。 ②硬質。 ③にぶい黄橙10YR6/3	内外面とも調整の後、有段の壺形土器の頸部破片と思われる。頸部外面には断面四角形の突帯が巡り、上面と側面に櫛歯状工具による刺突文が2～3mmおきに施されている。	
247 88	土師器 台付甕	脚部残存 底 10.2cm	埋没土中	①細砂を含む。②普通 ③にぶい黄橙10YR7/2	脚部外面斜方向刷毛目(6～7本/1cm)整形後、指などで。内面横方向斲磨きなど。	
246 88	土師器 台付甕	脚部残存 底 7.6cm	N-42G 底面上3.0cm	①細砂・石英粒を多量 に含む。②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	脚部外面指などで調整の後、上半部に斜方向の刷毛目(7本/1cm)文様。ザックリした強い刷毛目である。内面横方向指などで。	
244 88	土師器 甕	口縁部～体部 3/4残存 口 15.9cm 胴 11.4cm	N-42G 埋没土中	①細砂を多く含む。 ②やや硬質。 ③浅黄橙10YR8/3	体部外面下半斜方向刷毛目(5本/1cm)整形後、体部外面上半斜方向刷毛目(5本/1cm)整形。さらに上半部には刷毛目による横線文が施されている。体部内面など調整。かすかに指頭圧痕が残る。口縁部内外面横など。	

86号溝出土遺物観察表《石器》 図121

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
46 88	石錐	長 5.3cm 幅 5.0cm 厚 1.7cm 重 30.7g	埋没土中	黒色安山岩	剥片の末端部中央に尖頭部を作出している。両側の調整は粗く、鋸歯縁状を呈する。	
220 88	打製石斧	長 7.4cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 62.7g	埋没土中	硬質泥岩	薄片。表面に自然面を残すが、身はあまり反らない。短冊もしくは撥形を呈するものと思われる。	刃部欠損。

86号溝出土遺物観察表《木器》 図122

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
312 89	杭	55.6+α×6.6×2.8	N-42G 底下10.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	側面二方向から削り、先端部をつくる。最先端部はつぶれる。平坦面は縦長に段があり、割り込んだ痕と考えられる。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図122~124

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
355 89	角杭	54.3+ $\alpha$ ×5.0×3.9	M・N-42G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部残存	頭部は敲かれ、丸みをもつ。先端部は欠損。表面は劣化している。	
292 89	杭	43.1+ $\alpha$ ×6.1×4.3	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	みかん割り。篩部が残る。頭部付近が欠損し、長さ9.0cm、深さは0.5~1.0cmの切り込み部がある。先端部は四方向から切断している。	
249 89	角杭	44.0+ $\alpha$ ×5.6×4.0	N-42G 底面直上 正立	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部は二面から削り、細い。形状は一方向から力を受け湾曲する。	
273 89	角杭	29.3×6.1×5.9	N-42G 8cm頭を出し 以下地中	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部は削り出し、尖らせる。最先端部はつぶれる。篩部が残存。頭部は敲かれ、つぶれている。	
311 89	杭	76.5+ $\alpha$ ×3.2×3.9	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	みかん割りした稜部二ヶ所と一面を削り、杭先としている。頭部は篩で折れている。	
338 89	板	71.1+ $\alpha$ ×8.0×3.0	N-42G 底面直上	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部と他 一部分を欠 損	端部を斜めに切断。他端部は欠損。分割材の一部は板状に加工する。加工痕はあるが不明瞭な点が多い。	
325 90	角材 (杭)	100.8+ $\alpha$ ×6.1×3.9	N-42G 埋没土中	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	先端部が欠損していると思われる。しっかりした角材であり、削り痕が残る。	
354 90	建築材	134.0+ $\alpha$ ×8.0×5.5	N-42G 底上40.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端一部欠 損	篩部が一部に残る。先端部は数回に渡り削られている。端部からわずかに入った所にあたりがある。	
360 90	角材	236.5+ $\alpha$ ×12.8×6.8	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一部に篩部が残る。割材の一部を平坦にし、角材とする。裏面に鋭利な傷(長さ約2cm)が十数個付く。	
329 89	杭	63.6+ $\alpha$ ×11.6×4.0	N-42G 底面直上	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部を二面から削り出す。出土状況は先端部が環の横木の上に横たわるように出土。	
275 90	杭	51.3+ $\alpha$ ×4.0×4.0	N-42G 埋没土中	分割材 (板目) モミ属	頭部欠損	分割材を加工して長い杭をつくる。偏平な面の一部に削り痕が残る。先端部は二方向から尖らせている。	
230 90	杭	54.9+ $\alpha$ ×7.2×3.4	N-42G 埋没土中	分割材 モミ属	先端部欠損	頭部は二方向から斜めに切断される。わずかに篩部が残る。	



86号溝出土遺物観察表《木器》 図124~126

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
233 90	板	53.4+ $\alpha$ ×33.0×2.0	N-42G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損 側面一部欠損	板材であり、厚さは平均2cmである。一部は節があるため厚くなる。	
299 90	杭	28.0×5.1×3.0	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	みかん割り。節部を残す。先端部分は削り、最先端部はつぶれる。	
229 b 90	杭	31.0+ $\alpha$ ×5.5×5.5	N-42G 埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端部欠損	表面を削っている。頭部は周辺から削り成形する。片面炭化。	
306 90	角材	39.3+ $\alpha$ ×8.8×5.7	M-43G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割り。樹皮の一部と節部が残るが、削り痕は認められない。劣化が激しい。	
274 91	棒状木製品	66.5+ $\alpha$ ×4.0×2.4	N-42G 底面直上	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面は偏平であり、削り痕がわずかに残る。	
266 91	杭	67.0+ $\alpha$ ×8.0×8.0	N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部を残す。枝を払っている。先端部に向かい細くなる。頭部は一部を欠損する。	
313 91	杭	37.9×7.7×3.7	M-42G 底上4.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	先端部は細く削られている。最先端部から約10cm上に一面にあたり部分がある。あたりの幅は約7cmである。頭部は敲かれつぶれる。	
296 91	丸杭	35.3×6.8 $\phi$	N-42G 底面直上	芯持 ヤナギ属	完形	先端部は斜方向から切断する。頭部は平たく切断。樹皮が残る。	
272 91	角杭	36.3+ $\alpha$ ×7.0×4.0	M・N-43G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭端部欠損	先端部は両側面から切断する。	
323 91	杭	56.6×5.4×1.8	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部分を尖らせる。頭部は敲かれ、つぶれている。	
308 91	角杭	51.9+ $\alpha$ ×3.4×2.4	M-42G 底上9.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部は尖らせ、一面だけ炭化している。平坦面に削り痕が残る。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図126～128

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
335 91	丸杭	96.4×6.0×5.2	M・N-42G カヤ上21cm	芯持 モミ属	完形	先端部の切断は二方向からであり一方から大きく切る。頭部はつぶれる。先端部から約24cmの表裏と、頭部付近に一ヶ所あたり痕がある。	
353 92	杭	93.2×4.0×4.0	M-42G 底面直上	芯持 モミ属	完形	先端部を尖らせる。篩部を残すが六面で面取りを行う。途中で折れ曲がる。頭部は面取りは行わない。炭化している。	
326 92	杭	82.6+ $\alpha$ ×5.2×3.8	N-42G 埋没土中	板目 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	先端の一部 と頭部欠損	先端部は削り出して尖らせている。平坦部は割材を面取りして八角形に近い形状をつくり出している。	
293	篋状木製品	22.5+ $\alpha$ ×2.1+ $\alpha$ ×0.7	N-42G 埋没土中	板目 モミ属		板状の先端部が4cmほど削られる。最先端部はわずかにつぶれている。全体の形状は不明である。	
246 92	杭	28.7+ $\alpha$ ×3.0×1.7	M・N-42G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 コナラ節	両端部欠損	みかん割りであるが、先端方向に向かい細くなる。表面の一部は炭化している。	
229 a 92	柄?	24.1+ $\alpha$ ×7.9×5.6 1.8 $\phi$	N-42G 埋没土中	芯持 ヤナギ属	枝部の多く を欠損	枝を利用した用具と考えられる。用途は不明。	
359 92	角材	149.0+ $\alpha$ ×10.0×7.0	M・N-42・43G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	両端部欠損	分割材の表面を削っている。	
358 92	建築材?	151.8+ $\alpha$ ×11.0×9.9	M-42G 底上40cm	分割材1/4 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	片端部欠損	頭部と思われる部分は残る。分割材の一面を削って平坦をつくっている。	
361 93	板状木製品	84.6+ $\alpha$ ×16.0×4.0	M・N-42G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	両端部欠損	板材であるが、表面に1.5cmの段をつくっている。裏面は平坦である。	
300 93	角材?	26.7+ $\alpha$ ×9.0×6.0	N-42G 埋没土中	分割材 カエデ属	両端部欠損	1/4のみかん割り。篩部を残す。	
347 93	杭	125.0+ $\alpha$ ×13.0×12.1	N-42G 底上2.0cm	芯持 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	先端部分の 多くを欠損	先端部は尖らせた痕跡がある。頭部は面取りを行い、一面は斜めに面を落し、反対面は抉りを入れる。	
267 93	杭	70.3×10.5×8.5	N-42G 埋没土中	分割材1/2 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	完形	上端部は二股に枝が分かれる一枚を使用。先端部は尖らせている。年輪は読み取れないが丸木の半截と思われる。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図129・130

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
310 93	杭?	75.6+ $\alpha$ ×7.4×3.8	M-42G 底上5.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	1/3のみかん割り。節部が残る。 枝を払っている。	
265 94	杭	75.8×5.0×4.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端の一部 が欠損	割材を加工し、杭をつくる。先端 部はつぶれて丸みをもつ。頭部も つぶれている。	
328 94	杭	57.5+ $\alpha$ ×5.0×6.0	M-43G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	みかん割り。節部をもつ。杭先を 尖らせているが、最先端部はつぶ れている。状態が悪い。	
224 94	杭	67.8+ $\alpha$ ×5.5×2.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部は二面から削られており、 最先端部はつぶれている。	
290 94	角棒状木製品	33.2+ $\alpha$ ×3.0×2.4	N-42G 底上10.0cm	分割材 モミ属	両端部炭化	断面はほぼ四角形を呈す。両端部 とも炭化している。本来は長かつ たものと考えられる。	
286 94	棒状木製品?	35.8+ $\alpha$ ×2.8×1.2	埋没土中	分割材 コクサギ	両端部欠損	半截されている。	
278 94	丸棒	56.6+ $\alpha$ ×4.0×3.6	N-42G 底面直上	芯持 カエデ属	両端部欠損	樹皮・節部を残し、一部が炭化し ている。	
287 b 94	丸棒	46.0+ $\alpha$ ×3.4×1.6	N-42G 底面直上	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	端部欠損	現存する端部付近はわずかに削り 細くしている。削り部分は断面が 長方形を呈す。	
287 a 94	杭	31.4+ $\alpha$ ×2.6×1.8	N-42G 底面直上	芯持 ウコギ属	頭部欠損	先端部は斜方向から削り出してい る。	
222 95	杭	55.6+ $\alpha$ ×7.7×4.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	みかん割り。節部が残る。頭部は 腐り、先端部は欠損している。	
289 95	杭	14.5+ $\alpha$ ×5.5×2.7	M-42G 底上23.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	先端部のみ 残存	杭の先端のみかん割りを利用して、 わずかに削り尖らせている。	
276 95	杭	31.0+ $\alpha$ ×3.5 $\phi$	N-42G 底面直上	芯持 エゴノキ属	頭部欠損	先端部を削る。最先端部はつぶれ ている。	
257 95	杭	34.9+ $\alpha$ ×4.9×3.5	N-43G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	一部が炭化している。節部が残る。 表面は劣化している。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図130-133

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
255 95	角材	21.4 + $\alpha$ × 4.6 × 2.5	M-42G 底面直上	分割材 (柾目) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	表面の削りは一部のみみられる。	
248 95	杭	26.4 + $\alpha$ × 4.5 × 3.2	N-42G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端欠損	みかん割り。節部を残す。	
334 95	角材 建築材?	69.5 + $\alpha$ × 9.0 × 7.5	M-42G 底上3.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部存在 中間部欠損	表面に一部加工痕が残る。長軸に沿いL字の切り込みをもつ。	
291 95	棒状木製品	47.6 × 4.0 × 1.6	M・N-42G 底上31.0cm	分割材 モミ属	完形	断面が三角形を呈す。一端部は丸みを帯びる。	
221 96	板	63.1 × 9.9 × 4.8	M-42G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	表面は炭化している。両端部は斜めに切断される。平面には削り痕が残る。	
314 96	角材	58.8 + $\alpha$ × 5.6 × 3.8	M-42G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	みかん割りであり、一部に節部が残る。部分的に面を加工し、四角の断面にする。	
336 96	板	83.0 × 10.0 × 4.0	N-42G 底上14.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	片端部は斜めに切断する。頭部は段に切られている。表面には削り痕が残る。	
252 96	板	22.3 × 6.6 + $\alpha$ × 0.8	M-42G 底上2.0cm	柾目 スギ	両側面部欠損	木目の細かい柾目取りの板である。両木口は残るが、側面部は欠損。	
307 97	板	51.9 + $\alpha$ × 12.2 × 4.1	M-42G 底上26.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	縦方向に削り込んでいるかのように表裏面に長い段ができる。表面に削り痕が残る。	
242 97	鋤	67.2 + $\alpha$ × 11.0 × 2.5	M-42G 底上1.0cm	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	柄の一部 と鋤部欠損	スコップ状の柄を呈し、握り部分を抉り出している。全体に表面を削っている。	
302 97	股鋸	42.0 + $\alpha$ × 3.7 + $\alpha$ × 0.7	N-42G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄の一部 と片刃欠損	破損の割合が多い。断面では外側の刃部が薄くなる。	
288 97	棒状木製品	23.6 + $\alpha$ × 2.3 × 2.2	M-42G 底面直上～ 底上40.0cm	分割材 (加工) スギ	両端部欠損	角材を削り、丸棒状の製品にしているものと考えられる。	
243 97	鋤	36.2 + $\alpha$ × 9.2 + $\alpha$ × 2.2	N-42G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	着柄の一部 と身先端部 半分欠損	柄と身を分ける肩部は緩やかである。身の上面は丸みをもち、下面は偏平である。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図134～136

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
227 97	股鋏	52.2+ $\alpha$ ×9.0×0.9	M-42G 埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	刃部はつぶれる。上面は曲面をもち下面は偏平である。刃部付近で薄くなる。	226と接合
5 97	股鋏	40.5+ $\alpha$ ×16.0×2.4	N-43G 底上4.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	左右対称の刃部を成し、鋏先は鋭利につくられている。着柄部には両方からくびれが入り、柄には緊縛がみられる。	
3 98	着柄鋏	28.8+ $\alpha$ ×14.2×0.9	M-43G 底上5.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部分のみ残存	全体を偏平に削る。側端部へ向かうにつれて薄く削られている。	
261 97	鋏	26.4+ $\alpha$ ×10.9×2.4	N-42G 底面直上	板目 トチノキ	柄と柄の装着部分を欠損	上面は中央部が高く、周辺が低い。下面はほぼ平坦である。先端部は薄くなる。鋏の可能性が高い。	
259 98	股鋏	20.7+ $\alpha$ ×4.75×0.6	M-42G 底上17.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	二股鋏の片刃の身の先端部は欠損し、身の肩部の緩やかな状態が残る。	
262 98	横槌	24.0+ $\alpha$ ×9.5×7.0 柄 3.0 $\phi$	M-42G 底上38.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	柄部欠損	身先端部分は一方向から斜めに切断されている。柄と身の境は劣化しており、形状を崩す。	
253 98	糸巻	14.3×9.5×7.8	M-42G 底上10.0cm	芯持 ヤマグワ	一部欠損	両端部は周辺から削りが入り、切断する。中央にV字状の浅い溝を切り込む。	
245 98	板状木製品	24.0×13.2×0.5	M・N-42G 底面直上	柾目 ヒノキ属	完形	側面は左右とも緩やかな肩をつくる。上下に2穴を穿ち、糸を通した磨耗痕がある。	
260 98	建築材?	27.4+ $\alpha$ ×5.1×2.7	N-43G 底上5.0cm	板目 ヒノキ属	両端部欠損	全体の形状を推定することができない。一平面をきれいに作り、幅0.9cm、深さ1cmの切り込みによる溝をつくる。この溝周辺は炭化する。	
350 98	作業台	34.6×16.9×8.8	M-42G 底上20.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	下面を平坦にし、側端面を削り、丸みをもたせてある。上面には敲き傷があり、中央が凹面になる。両側面部中央に深さ1cmほどの凹穴を四角に掘る。	
309 98	くさび状木製品	7.9×8.8×2.7	N-42G 底上20.0cm	柾目 トチノキ	完形	断面は三角形を呈している。割材を転用したくさび形をしているが、木目が逆である。	
256 98	くさび	17.4×5.0×4.0	M-42G カヤ上3cm	分割材 カヤ	完形	両端部は任意方向から斜めに切断している。四面とも削り痕が残る。一部は炭化している。	

86号溝出土遺物観察表《木器》 図136

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
251 91	着柄部?	20.1+ $\alpha$ ×3.6×2.0	M-42G 底上2.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	鋤か鎌の着柄部の木片と考えられる。下面は平坦で、上面は面取りが行われ、丸みをもつ。	
232 98	板	15.1×14.7×4.9	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	三角形を呈している。3.0~4.5cmの厚さをもつ。削り痕が平面部と側面部で観察できる。	

87号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図137

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
230	甕	口縁部破片	埋没土中	①黒雲母・白色鉱物を含む②良好 ③灰白10YR8/1	口縁部は外反する。口縁端部は欠損。内面には輪積痕と撫で痕が残る。	頭部に左まわりの簾状文、口縁部には6条1単位の櫛描波状文2段が施文される。	下の波状文は簾状文を切る。
228	壺?	胴部破片	P-47G 底面上6.0cm	①白・黒色鉱物包含②良い。器面摩耗③灰白10YR8/2	器面は荒れている。整形状況は不明瞭である。	胴上半部分の一部であり、わずかに櫛描波状文が確認できる。	

87号溝出土遺物観察表《石器》 図137

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
15 88	敲石磨石	長 11.9cm 幅 5.7cm 厚 2.9cm 重 254.3g	N-45G ビット内	砂岩	上下両端に敲打痕がある。表裏両面中央に磨面がある、細長く、浅く凹む。	一部欠損。
16 88	凹石	長 11.8cm 幅 8.6cm 厚 7.2cm 重 874.6g	N-47G 底面直上	粗粒安山岩	平坦面は磨かれている可能性がある。	完形。

87号溝出土遺物観察表《木器》 図137

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
327	杭	96.8×9.0×4.8	N-46G 底面直上	分割材1/4 ヤマグワ	ほぼ完形	頭部はつぶれ、先端部は削り出されている。	
316	丸杭	52.5+ $\alpha$ ×6.3 $\phi$	N-46G 底面直上	芯持 コナラ属 アカシヤ属	片端部欠損	先端部は周辺から削られている。最先端部はつぶれている。	

95号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図140

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
236 88	土師器 高杯	脚部残存 裾部1/5残存 底(12.2cm)	X-55G 底面上8.0cm	①微細砂を多量に含む。 ②普通。 ③橙2.5YR6/6	脚部外面縦方向刷毛目整形の後、縦方向の鈍磨き。裾部外面横など。脚部内面上半指などで、下半横方向鈍などで。裾部内面横など。	

95号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図140

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
235 88	土師器 杯	口縁部～底部 2/3残存 口 14.0cm 高 (5.8cm)	X-55G 底面上11.0cm	①細砂・赤色鉱物粒を 多量に含む。 ②普通。 ③にぶい褐7.5YR6/3	底部～杯部外面篋削り。内面丁寧なで調整。口縁部 横なで。底部中位には直径2mmほどの凹みがあり、平 底を意識しているとも考えられる。	
237 88	土師器 高杯	脚裾部破片	X-55G 底面下3.0cm	①細砂・雲母片を多量 に含む。 ②硬質。 ③黄灰2.5Y4/1	外面なでの後、2条の沈線文帯の間に、5mmおきに櫛 歯状工具による長さ6mmの刺突文が、羽状に施されて いる。4単位の沈線文+刺突文の内側には、沈線文4 条が確認できる。端部から3単位目の沈線文上には、 文様施文後、焼成前の一孔が穿たれている。端部外面 には幅7mmの面取りがされている。内面なで。端部 のみ横なで。	

96号溝出土遺物観察表《弥生土器》 図141

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
241 88	壺	胴上半部	埋没土中	①細砂粒混入。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	頸部付近に移行する破片である。 内外面とも縦方向に器面調整が 行われている。	頸部には右廻りの簾状文。こ の下位に沈線による鋸歯文の 中に平行沈線文を斜方向に施 文。ボタン状貼付文が各文様 の接点に位置する。	ボタン状 貼付文に は円形刺 突文が4 つ施文。
243 88	壺	胴上半部	埋没土中	①小礫混入②良好 ③淡黄2.5Y8/3	器面は荒れており、表面の一部 に横方向の整形痕がある。	鋸歯文の中に円形刺突文が施 文。	
242 88	壺	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物混入② 良好③にぶい橙7. 5YR7/4	折り返し口縁である。口縁端部 は断面三角形を呈す。外面は縦 方向、内面は横方向に器面調整。	折り返し口縁部に棒状工具に よると考えられる刺突文が整 然と並んでいる。	

96号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図141

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
240	土師器 杯	口縁部～体部 破片 口 (10.4cm)	埋没土中	①細砂・雲母細片を含 む。②やや軟質。 ③橙2.5YR6/6	体部外面下半横方向篋削り。上半横方向・斜方向篋磨 き。内面篋磨き調整。口縁部内外面横なで。口縁部は 小さく外反し、端部はやや内湾する。	

97号溝出土遺物観察表《石器》 図142

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
47 88	敲石	長 5.2cm 幅 4.7cm 厚 3.3cm 重 112.7g	埋没土中	砂岩	表面には極小、両側面には尖端の鋭い工具痕が残る。小口部 はつぶれた状態が確認できる。	

下り柳12号溝出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図151

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
730	須恵器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 12.2cm 底 7.3cm 高 3.9cm	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。 ②硬質。 ③灰白7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部切り離し技法不明。底部切り 離した後、手持ちなどで調整。底面は大きく凹んでいる。 口縁部～体部内外面回転などで調整。口縁端部はやや内 湾する。	



## 2. 井戸出土遺物観察表

井戸出土遺物観察表《金属器》 図165

番号 PL	器種	残存	出土位置	重量	形状・特色・その他	備考
1 99	煙管	雁首・ラウ近接部を欠損		3.2+ $\alpha$ g	火皿の直径は1.4cmで、腕状を呈す。ラウ付近が欠損しているため形状は不明であるが、首部の湾曲は小さい。	
2	銅銭	3/5残存		1.0+ $\alpha$ g	左下部分を欠損する。種類は不明である。判読できる文字は□□通□である。錆が出ており、青白色である。	

1号井戸出土遺物観察表《木器》 図166

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1127	板	29.4×2.9×0.4	埋没土中	柾目 ヒノキ属	完形	両端部付近にわずかな切り込みがある。上端に二つの穴を穿つ。	

4号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図170

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
678	播鉢 陶器	口縁～底部1/2 口 (27.0cm) 底 (10.6cm) 高 11.0cm	埋没土中	灰白色	播目は14本単位。内外面に団子状の目痕が3カ所残る。全面に錆釉。	瀬戸・美濃系 19C末

10号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図174

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
679	長頸型壺 焼締陶器	口縁部破片	埋没土中	灰色	口縁部は小さいN字状。頸部外面に浅い沈線。	常滑系 14C後半

13号井戸出土遺物観察表《木器》 図178

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1116 99	竹筒	8.8+ $\alpha$ ×3.4 $\phi$	埋没土中	竹	わずかに残存		

14号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図179

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
680 99	瓦 棧瓦 (片二寸)	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①粗・白微粒子を含む。 ②燻焼成・並質 ③暗灰N3/	型作り成形後、上端“二寸”を切り落とす。外面は撫で整形(ミガキ)を施し、銀化する。背面は粗い撫で整形。背面離砂は棧瓦にしてはやや粗く、粗いシルトを用いる。	藤岡系 大正以前か

14号井戸出土遺物観察表《石器》 図179

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
221 99	砥石	長 19.9cm 幅 7.1cm 厚 1.7cm 重 470.0g	埋没土中	珪質頁岩	板状を呈し、薄手。表裏ともに長軸に対して、やや斜めに線状痕が認められる。仕上砥。	

14号井戸出土遺物観察表《木器》 図180

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1118 99	桶	14.5φ×1.8	埋没土中	板目 スギ	底板残存	表裏面とも平滑に仕上げられている。わずかに工具痕が残るがカナナと思われる。周辺は面取り行う。	
1119 99	桶	17.0φ×1.2 (短径 16.6)	埋没土中	板目 スギ	底板残存	2枚を隠し釘(竹)で合わせている。一面はきれいに仕上げている。周辺は面取りを行っている。	

18号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図184

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
681	土管	破片 厚 1.6cm	埋没土中	①白色鉱物粒子を含む。 ②酸化・並質 ③橙褐色	紐作り乃至型作り成形。焼成以前の孔一孔がある。土管片と考えられる。	

19号井戸出土遺物観察表《石器》 図185

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
222 99	板碑	長 24.2cm 幅 13.6cm 厚 2.5cm 重1800.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子のみ確認できるが、蓮座の有無は不明。種子は竹彫り。裏面の加工は、のみ痕がなく凹凸が著しいため未調整と考えられる。	15世紀末廃棄か？ 下半部欠損

20号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図186

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
682	土師質土器 皿	体部1/2欠損	埋没土中	にぶい橙	底部左回転糸切り無調整。口縁部は歪む。	在地製 16C

20号井戸出土遺物観察表《石器》 図186

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
223 100	石鉢	口(21.0cm)底(15.7cm) 高 13.3cm 重1210.0g	埋没土中	粗粒安山岩	底部から口縁部にかけて丸みをもち、立ち上がる。口縁端部は丸みをもち、わずかに薄くなる。外面底部中央は上げ底状を呈す。器面はほぼ平行に尖端の鋭利な工具で調整している。	

21号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図187

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
683	白釉小碗 陶器	口縁～底部1/4 底部残存	埋没土中	灰白色	高台脇以下は無釉。細かい貫入の入る白釉を掛ける。高台内に「久吉」の朱書。	瀬戸・美濃系 19C前半

23号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図189

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
693 100	瓦 女瓦	破片 厚 1.2cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰7.5Y5/1	桶巻造り。凹面に1単位2cmほどの寄木痕。凸面に口クロ痕。側部面取り1回。布目は6cmで74本。横断面の曲率は少ない。	秋間系 8C前半か

27号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図193

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
684	内耳鍋 軟質陶器	口縁～底部1/6	埋没土中	にぶい黄橙	底部は平底。口縁部内面はわずかに段差を有する。口縁部のみ横撫で。体部外面のみ煤付着。	在地製 15C

27号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図194

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
686	須恵器 高台付椀	底部1/4残存 底 (8.5cm)	埋没土中	①細砂を含む②やや軟質 ③灰白2.5Y7/1	右回転口クロ整形。底部回転糸切り後、付高台。	
687	土師器 甕	口縁部破片	埋没土中	①微細砂を含む。 ②硬質。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	体部上位外面横方向篋削り。内面横方向で調整。口縁部内外面横で。	
685 99	瓦 男瓦	狭端部側3分尺 1残存 厚 1.3cm	埋没土中	①シルト粒子を含む。 ②還元・並質 ③灰白2.5Y7/1	半載作り。凸面口クロ撫で整形(左回転)。篋傷がある。凹面粘土板剥ぎ取り痕。布合わせ目(左右を繋ぎ合わせた状態)がある。側部面取り1回。端部面取り1回。布目は6cmに58本。	

27号井戸出土遺物観察表《石器》 図194

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
226 100	板碑 完形	長 60.8cm 幅 20.5cm 厚 3.5cm 重7400.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子・蓮座の刻字法は断面がU字形を呈す竹彫りで浅い。裏面と表面根部の端部に側方向よりの、のみ痕が残る。	15世紀 廃棄か?
225 100	板碑 種子下欠損	長 20.5cm 幅 19.6cm 厚 3.3cm 重2900.0g	埋没土中	緑色片岩	二条線・枠線・天蓋なし。種子及び蓮座の刻字は断面がU字形を呈し、竹彫りに近い。裏面の加工はないものと考えられる。	15世紀 廃棄か?
224 100	石臼	直 29.6cm 高 9.5cm 重1839.5g 上縁幅 3.1cm 上縁の高 2.7cm	埋没土中	粗粒安山岩	上臼である芯穴の直径は約4.4cm、供給口の直径は約3.7cm、挽き手穴の直径は約4.5cm、深さ約4.0cmである。磨り合わせ面は磨耗が激しく、副溝がわずかに残るだけである。表面にはわずかに削り痕が残る。	石質は多孔質。

28号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図195

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
694	須恵器 台付壺	底部破片 底 (11.8cm)	埋没土中	①砂粒・黒色鉱物粒を含む。②硬質。内面に自然釉付着。③灰白N7/	左回転ロクロ整形。体部下位外面横方向回転磨削り。付高台。	
688	須恵器 高台付椀	底部1/2残存 底 9.6cm	埋没土上層	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り後、付高台。	
689	須恵器 高台付椀	体部下位～底部 底 (7.2cm)	埋没土上層	①砂粒を含む。 ②やや軟質。 ③黄灰2.5Y6/1	右回転ロクロ整形。底部回転糸切り後、付高台。内外面回転などで調整。	
692 101	瓦 女瓦	破片 厚 1.9cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰N6/	凸面は粗い平行叩きを綾杉状に施す。一枚作りか。凹面寄木痕?・粘土板剥ぎ取り痕・布合わせ目痕。布目は6cmで52本。秋間窯跡群の焼造製品としては比重が重い。	秋間系 8C
691	瓦 裂斗瓦	破片 厚 1.7cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰7.5Y6/1	布目側に粘土板剥ぎ取り痕が顕著。布背面側も粘土板剥ぎ取り痕が認められ、未調整である。側部面取り1回。布目は3cmで32本。	乗附系
690 101	瓦 女瓦	破片 厚 1.5cm	埋没土中	①黒色微粒子を含む。 ②還元・硬質 ③灰白2.5Y8/2	桶巻造り。凸面ロクロ痕。凹面寄木痕。両面粘土板剥ぎ取り痕。凹面の布目の圧痕は極一部のみ。側部面取り1回。狹端部面取り1回。布目の本数は2cmで14本。横断面の曲率は少ない。	秋間系8C 横断面の曲率は少ない。
728 101	瓦 女瓦	破片 厚 1.6cm	埋没土中	①黒色粒子を含む。 ②還元・焼締 ③灰7.5Y6/1	凹面に木骨痕・粘土板剥ぎ取り痕がある。凸面は単節絡条体I類を縦位に回転する。一枚作りか。横断面の曲率は少ない。布目は3cmで37本。	秋間系

29号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図196

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
695	内耳鍋 軟質陶器	口縁部破片	埋没土中	浅黄橙	器壁は厚く、口縁部は短い。体部外面みの煤付着。	在地製 14C後半
698	播鉢 軟質陶器	体部下位破片	埋没土中	橙	内面に播目は認められない。内面は使用により摩滅。	在地製 14～15C

29号井戸出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図196

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
696 101	土師器 杯	口縁部～底部 1/2残存 口 (14.3cm) 高 5.1cm	埋没土中	①砂粒・石英を含む。 ②普通。 ③明赤褐5YR5/6	体部外面横方向磨削り。内面横方向丁寧なで調整。口縁部内外面横なで。	
697 101	瓦 女瓦	破片 厚 2.2cm	埋没土中	①白色鉱物粒子を含む。 ②酸化・並質 ③灰黄褐10YR6/2	凹面に木骨痕。端部側に撫でが施されている。凸面ロクロ回転撫でか。部分的に布目痕が認められる。桶巻造りか。横断面の曲率は少ない。布目は6cmで57本。	乗附系 7C後半～8C前半

32号井戸出土遺物観察表《石器》 図200

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
227 100	磨石	長 16.2cm 幅 13.5cm 厚 9.0cm 重2690.0g	埋没土中	粗粒安山岩	両面に磨面及び線状痕がある。全体に敲打痕が点々と認められる。	

36号井戸出土遺物観察表《陶器・磁器》 図204

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	胎土	器形・整形・施釉の特徴	備考
699	青磁碗 磁器	口縁部破片	埋没土中	灰色	外面にわずかに鎊を有する蓮弁文。軸はやや灰色味を帯びる。	龍泉窯系 14C

### 3. 河川跡出土遺物観察表

1号河川跡出土遺物観察表〈縄文土器〉 図207

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
319 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	L-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	口縁部破片で、直立ぎみに開口する。R L縄文を横位に施した後に、断面カマボコ状の隆帯により、渦巻文や楕円区画文が施文され、隆帯に沿って半截竹管による沈線が巡る。ローリングによる風化が著しい。加曾利E 2式に比定される。	
346 102	縄文土器 深鉢	頸部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	頸部の破片。L R縄文を施した後に、口縁部には隆帯による区画文を、また体部には、半截竹管の背面を使った2本単位の平行懸垂文を施す。体部の縄文は縦位施文である。ローリングによる風化が著しい。加曾利E 3式に比定される。	
306 102	縄文土器 深鉢	体部破片	K・L-25G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	体部の破片。R L縄文を縦位に施文し、蛇行する隆帯の懸垂文を貼付する。ローリングによる風化が著しい。加曾利E 2式に比定されると思われる。	
347 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	N-30G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	舌状の突起を持つ口縁部破片。幅広い沈線により区画文が施され、区画内には縄文が充填される。器面の風化が著しく、原体の種類は不明である。加曾利E 3式に比定される。	
295 102	縄文土器 鉢形	口縁部破片	K-27G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	口縁部の破片で内湾が著しい。口唇下に、断面が半円形状の刺突文を巡らせ、その下に凹線状の幅広い沈線を横位に施す。加曾利E 3式に比定される。	
320 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	L-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部の破片で、内湾する。隆帯と、それに沿った凹線状の幅広い沈線により区画文が施される。区画内には縄文が充填されているが、器面の風化が著しく、原体は不明である。加曾利E 3式に比定される。	
311 102	縄文土器 深鉢	体部破片	L-24G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③褐灰10YR4/1	大形深鉢土器の体部破片。凹線状の幅広い沈線を縦位に2本施した後に、L R縄文を充填する。ローリングによる風化が著しい。加曾利E 3式に比定される。	
335 102	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	M-25・26G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	口縁部付近の破片である。L R縄文を横位に施文する。ローリングによる風化が著しい。加曾利E 3式と思われる。	
299 102	縄文土器 深鉢	体部破片	K-27G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/4	体部の細片であるため、文様構成は不明。L R縄文を不規則に施す。加曾利E 4式-称名寺I式に比定されると思われる。	
325 102	縄文土器 深鉢	体部破片	M-28G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③灰7.5Y4/1	体上半部の破片。棒状工具により細い沈線区画文を施し、区画内には縄文が充填される。器面の風化が著しく、原体は不明。称名寺I式に比定される。	
345 102	縄文土器 深鉢	体部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/4	体部下半の破片である。棒状工具による細い沈線で区画文が施され、その区画内には縄文が充填される。器面が風化しているために、原体は不明。称名寺I式に比定される。	

1号河川跡出土遺物観察表《縄文土器》 図207

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
331 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	M-31G 埋没土中	①かなり多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/4	突起をもった口縁部の破片。突起の頂部には棒状工具により両端部に刺突を加えたC字状文が施される。突起部中央には最大径15mmの孔があり、中空状となる。称名寺Ⅱ式に比定されよう。	
344 102	縄文土器 深鉢	口縁部破片	N-30・31G 埋没土中	①多量の砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	外傾の著しい口縁部の破片。体部上半に矢羽根状の細沈線文が描出される。口唇内側には一条の沈線文が巡り、その区画内にはLR縄文が充填されている。また、口唇上には小突起が付される。加曽利B2式に比定される。	
341 102	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	N-29G 埋没土中	①結晶片岩の砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③褐灰7.5YR5/1	内湾の著しい口縁部の破片。口唇下に細い沈線を、さらにその下位に、細沈線の伴走する隆線を各々巡らせて横位に区画する。口唇下にはLR縄文が充填され、下位の隆線には刻み目が加えられる。器肉は5mmと薄手である。加曽利B2式に比定される。	
315 102	縄文土器 深鉢	体部破片	L-28G 埋没土中	①多量の砂礫を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	体部の破片。半截竹管による沈線懸垂文を施し、その区画内にRL縄文を充填する。ローリングによる風化が著しい。	

1号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》 1 図207

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
339 102	弥生土器 壺	胴部破片	M-30G 埋没土中	①小礫が混入する。 ②良好。 ③灰白10YR7/1	器面には円柱状の突起が付く。器肉は6.5mmである。	地文に縄文を施文後、三重沈線文を施文している。	
329 102	弥生土器 壺	胴部破片	L・M-25G 埋没土中	①小礫・雲母を含む。②良好。 ③灰白5Y8/1	器肉は7.0mmの厚さである。	胴部中位の文様と考えられる。地文に縄文LRを施文後、コの字重文を施文している。	
324 102	弥生土器 甕	破片	L-32G 埋没土中	①小礫・白色鉱物を含む②やや緩い ③灰白2.5Y8/2	器面は荒れている。器肉は6mmの厚さである。	棒状工具によりコの字重文と思われる文様を施文。一部に縄文LRが施文される。	
334 102	弥生土器 壺	肩部破片	M-29G 埋没土中	①小礫・雲母を含む②わずかに緩い ③灰白2.5Y8/2	土器表面には鉄分が付着し、赤褐色になっている部分が多い。	沈線による平行沈線文が4本施文された各沈線間にわずかに太い沈線が施文されている。沈線の下位には縄文RLが充填される。	
316 102	弥生土器 鉢?	口縁部～胴部 破片	L-28G 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む②良好 ③灰7.5Y5/1	口縁部に向い外反する。口縁部は断面三角形を呈す。	胴部には沈線によるコの字重文と思われる文様が施文される。コの字重文の中心と口縁部には縄文RLが充填される。	
303 102	弥生土器 壺	胴上半部破片	M-27G 付近 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好 ③暗灰黄2.5Y5/2	頸部から胴部にかけての破片である。内面は荒れている。	頸部付近に沈線文を横方向に5～6本施文後、烈点文が下位に配置される。わずかに縄文RL充填部を挟み、沈線による波状文7～9本が施文される。沈線間にも縄文は施文されており、沈線施文前後に施文していることがわかる。	

1号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉1 図207

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
352 102	弥生土器 鉢	胴部破片	N-31G 埋没土中	①砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰5Y5/1	器形は内湾している。内外面とも酸化鉄が付着している。	表面には棒状工具による沈線文が縦・横・斜めに施文され、横方向の平行沈線文の間は、わずかに隆起している。	

1号河川跡出土遺物〈弥生土器〉2 図208

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
351 102	弥生土器 壺	口縁部破片	N-31G 埋没土中	①雲母・小礫・白色鉱物粒を含む。 ②緩い。 ③黄灰2.5Y4/1	口縁部はわずかに厚みをもつ。外面は縦、内面は横方向に器面調整を行っている。	口縁部には縄文を施文。	
322 102	弥生土器 甕	口縁部破片	L-32G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②緩い。 ③黄灰2.5Y4/1	受口状口縁を呈す。内外面とも器面は荒れている。	口縁部には縄文、口縁部には2本の沈線による波状文、頸部には櫛描横線文を施文。	
332 102	弥生土器 甕	口縁部破片	M-32G 埋没土中	①砂質であり、白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③明褐7.5YR5/6	口縁部は大きく外反し、横撫で整形が行われている。	口縁部には縄文、肩部には櫛状工具による羽状文が施文されている。	
317 102	弥生土器 甕	口縁部から胴部上位の破片	L-28G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②緩い。 ③黒褐10YR2/2	口縁部は大きく外反する。器面は荒れており、口縁部のみ、横撫で整形痕がみられる。	頸部には6条1単位の櫛描波状文、胴部には櫛状工具による羽状文が施文されている。	
304 102	弥生土器 甕	口縁部破片	K・L-25G 埋没土中	①夾雑鉱物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は大きく外反する。器面は荒れており、口縁部の横撫で整形痕が残るのみである。	口縁部には刻み目を入れる。	
314 102	弥生土器 甕	口縁部破片	L-31G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②やや緩い。③にぶい黄橙10YR7/3	口縁部は外反する。器肉はやや厚く、横方向に器面調整が行われている。器面は荒れている。	口縁部は押捺。	
326 102	弥生土器 壺	口縁部破片	L・M-27G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	受口状口縁を呈す。口縁部は丸く、内面は横方向の撫で整形。	口縁部には羽状の櫛描文が施文されている。	
330 102	弥生土器 壺	頸部破片	M-29G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	器面がわずかに荒れている。	沈線による横線文間に、縄文と縦長の烈点文を施文。	
312 102	弥生土器 壺	頸部破片	L-24G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②やや緩い ③黄灰2.5Y4/1	器面は内外ともかなり火を受けており、荒れている。	烈点文が充填されている。	
336 102	弥生土器 壺	口縁部破片	M-25・26G 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	口縁部はわずかに外反する。口縁上位に2つの円形の穴が貫通する。内外面とも横方向の撫で整形を行っている。	7条1単位の櫛描波状文を、2段分施文している状況は確認できる。	



1号河川跡出土遺物観察表(弥生土器) 2 図208

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
321 102	弥生土器 壺	口縁部破片	L-26G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/3	折返し口縁を有し、口縁部は大きく外反する。外面は縦、内面は横方向に器面整形を行う。	口縁部には櫛描波状文を施文。	
343 102	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②緩い。 ③灰白5Y7/2	上位はわずかに外反をはじめる。全体的に火をかなり受けていると思われ、器面は荒れている。	頸部には縦長の烈点文を2段施文していることが、確認できる。	
305 102	弥生土器 壺	頸部破片	K・L-25G 埋没土中	①細砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/2	口縁部に向けて、大きく外反する。外面頸部は縦方向の櫛面整形、口縁寄りには横撫で整形を行っている。	頸部には沈線による横線文が施文されている。	
294 102	弥生土器 甕	頸部破片	K-28G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②良好③にぶい黄橙10YR5/3	内面は荒れている。外面の一部に横方向の刷毛目整形が行われている。	8条1単位の簾状文が施文されている。	外面にわずかに煤が付着。
327 102	弥生土器 甕	頸部～胴部破片	L・M-27G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③褐7.5YR4/6	器面は酸化鉄分付着により観察しにくい。頸部はわずかにくびれる。	胴部にはボタン状貼付文。頸部には右廻りで横方向、胴部には上から下方向に簾状文が施文されている。	
310 102	弥生土器 甕?	胴部破片	L-33G 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②良好。 ③淡黄2.5Y8/3	わずかに内湾みである。	櫛描波状文が充填され、櫛状工具による垂下文がこれを切っている。	
669 102	弥生土器 甕	頸部～肩部破片	M-30G 埋没土中	①小礫・雲母を含む。②良好。③にぶい黄橙10YR6/3	頸部はわずかにくびれる。外面には斜方向の刷毛目、内面には横方向の磨き痕がある。	頸部には右廻りの簾状文が等間隔に施文。肩部から胴部には5条1単位の簾状文、4条1単位の波状文が垂下文として施文されている。	
338 102	弥生土器 甕	肩部～胴部破片	M-30G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②やや緩い。③にぶい黄橙10YR6/3	外面は荒れている。内面は横方向に器面が磨かれている。肩部はわずかに張っている。	4条1単位の櫛描波状文と簾状文が垂下文として施文され、後者は頸部に、左廻りに施文された一部が確認できる。	
292 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-28G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②やや緩い。 ③灰白2.5Y7/1	内面は荒れている。	沈線による平行線文が施文されている。	
296 102	弥生土器 甕	頸部～胴部破片	K-27G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③褐灰10YR4/1	頸部はわずかにくびれる。外面は荒れており、内面には有機物が付く。	頸部には4条1単位の右廻りの簾状文、胴部には羽状文を施文。	
349 102	弥生土器 壺	胴部破片	N-31G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。 ②やや緩い。 ③黄褐2.5Y5/3	内面は横方向に櫛状工具による器面整形を行っている。	地文に縄文を施文後、沈線による横線文・斜向線文を施文。	
323 102	弥生土器 甕	胴部破片	L-32G 埋没土中	①雲母を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	内面は横方向に器面整形を行っている。	4条1単位の櫛状工具により羽状文が施文される。	外面には煤が付着。

1号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》2 図208

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
297 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-27G 埋没土中	①小礫・白色鉱物を少量、雲母を含む②良好③にぶい黄橙10YR7/3	胴部最大幅部分で大きく張っている。内面は荒れ、外面は横方向の磨きが行われている。	横方向に3本の沈線が確認できる。	
333 102	弥生土器 甕?	胴部破片	M-32G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③にぶい黄褐10YR5/4	わずかに内湾する。	地文に施文された横方向の波状文が櫛状工具による縦方向の垂下文を切って施文される。	
313 102	弥生土器 壺?	頸部~肩部破片	L-24G 埋没土中	①砂質。小礫を含む②やや緩い③にぶい橙7.5YR7/3	頸部はわずかにくびれる。内面は横方向の器面整形が行われている。	沈線による横線文が平行に施文されている。	
308 102	弥生土器 壺	胴部破片	K・L-25G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む②やや緩い③灰白5Y7/2	器肉はやや厚い。	沈線による斜向線文と平行線文が施文される。	
300 102	弥生土器 甕?	胴部破片	K・L-35G 埋没土中	①白色鉱物を含む。②緩い。③にぶい橙2.5YR6/3	わずかに内湾している。器面は荒れているが、内面は横方向の器面整形を行っている。	明瞭な文様ではないが、格子目文が施文されている。	
298 102	弥生土器 壺	胴部破片	K-27G 埋没土中	①白色鉱物粒を含む。②良好。③オリーブ黒5Y3/1	わずかに内湾する。内面は横方向に整形されている。	9条1単位の櫛描波状文が施文されている。	外面に煤が付着。
358	弥生土器 手捏	口縁部欠損 底 2.8-3.3cm	M-27・28G 埋没土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②良好。③灰白2.5Y8/2	器面には凹凸が残っている。外面は鈍削りを多方向に行い、内面は横方向の撫で整形痕が残る。		
282 102	弥生土器 蓋	蓋口辺部1/3 欠損 口 (14.5cm) 摘み部上端径 4.0cm 高 8.4cm	M-28G 底面上1.0cm	①白色鉱物・雲母を含む。②やや緩い。③にぶい黄橙10YR7/3	摘みを有する蓋である。内外面とも櫛状工具による器面調整を主に行っている。		
357 102	弥生土器 円盤	底部残存 底 4.1cm	M-30G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③灰白2.5Y8/1	底部を転用して使用するかのよう、周辺部分を打ち割っている。		
337 102	弥生土器 円盤	底部残存 底 3.0cm	M-28・29G 埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。③浅黄2.5Y7/3	胴最下部を打ち割り、円盤状に作り変えている。		
307 102	弥生土器 甕or壺	底部破片	K・L-25G 埋没土中	①白色鉱物・小礫を多数混入。②やや緩い。③淡黄2.5Y8/3	底部と胴部接合部分は櫛状工具で押さえている。器面はわずかに荒れている。	底部外面に木葉痕がある。	
342 102	弥生土器 紡錘車	完形 直 3.0-3.5cm	M-30・31G 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む。②良好。③褐灰10YR4/1	甕の転用による紡錘車未製品。内外面から穿孔を行っている。内面には2ヶ所穿孔場所がある。	櫛状工具による羽状文が残る。	

1号河川跡出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図209

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
287 103	土師器 鉢(手捏)	口縁部~底部 3/4残存 口 8.4cm 底 4.1cm 高 4.4cm	L-27G 底面上6.0cm	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/4	外面撫で。内面篋状工具による撫で、篋痕残る。口縁部は外湾ぎみに立ち上がり、口唇部は薄く尖る。底部は平底。	
266 103	土師器 罎	口縁部欠損 底 3.3cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 鉱物を含む。②良好。 ③にぶい灰黄2.5Y6/2	外面口縁部横撫で、体部上半篋撫で、体部下半撫で、 底部近くは磨き、頸部の一部は縦方向の撫で。内面撫 で、磨き。底部は平底。	
286 103	土師器 罎	ほぼ完形 口 8.4cm 底 3.0cm 高 8.8cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 鉱物を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/4	外面口縁部横撫で、体部篋撫で。内面口縁部横撫で、 体部篋撫で。口縁部は直線状に外傾する。底部は丸底 状くぼみ底。	
271 103	土師器 罎	体部上半残存 体 9.7cm	L-29G 底面直上	①細砂粒・微量の白色 鉱物を含む。②良好。 ③褐灰10YR6/1	外面撫で。内面指頭状撫で。体部は球状を呈する。	
274 103	土師器 罎	口縁部~底部 5/6残存 口 (11.5cm) 底 4.0cm 高 11.0cm	L-27G 底面上48.0cm	①細砂粒・白色鉱物を 含む。 ②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面口縁部横撫で、体部篋撫で。内面口縁部横撫で、 体部篋撫で。口縁部は直線状に外傾し、口唇部はわず かに内側に屈曲する。底部は平底。	
340 103	土師器 罎	口縁部1/2残存 口 12.4cm	M・N-28G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部内外面撫で後、磨き。口縁部は内湾ぎみに外傾 する。	
273 103	土師器 罎	体部残存	埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③橙7.5YR6/8	外面篋撫で、体部下半粗い篋撫で。内面篋撫で。体部 は偏平な球状を呈する。	
272 103	土師器 壺	口縁部~底部 一部欠損 底 3.2cm	K-27G 底面上20.0cm	①細砂粒・微量の白色 鉱物を含む。②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	外面撫で後、磨き。内面篋撫で。胴部は球形、底部は 平底を呈する。	外面は朱塗り。
278 103	土師器 小甕	口縁部~体部 1/3残存	L-25G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③灰白2.5Y8/2	外面撫で後、磨き。内面篋撫で。頸部は刻み目が巡る。	
293 102	土師器 小広口甕	口縁部~体部 1/5残存 口 (12.0cm)	K-28・29G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③浅黄5Y7/3	外面口縁部横撫で、体部篋撫で。内面撫で。口縁部は 弱く内傾する。	
291 102	土師器 小形甕	口縁部~底部 3/4残存 口 (12.6cm) 底 6.0cm 高 8.7cm	N-31G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR6/3	外面口縁部横撫で、胴部篋撫で。内面口縁部横撫で、 胴部篋撫で。口縁部は外側へ湾曲し、最大径は胴部中 位となる。底部は平底。	
350	土師器 鉢	口縁部~体部 破片 口 (19.4cm)	J・M-28G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③橙5YR6/6	外面口縁部横撫で、体部篋撫で。内面口縁部横撫で、 体部撫で。口縁部は内湾し、屈曲する。	
318	土師器 杯	口縁部破片 口 16.1cm	L-27G 埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③黄褐2.5Y5/3	外面口縁部横撫で、体部篋削り。内面磨き。口縁部は 屈曲し、直立する端部は尖る。	

1号河川跡出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図209

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
328 103	土師器 高杯	裾部欠損	L・M-26G 埋没土中	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	外面磨き。内面撫で、しほり痕が残る。脚部中位は弱く膨らむ。3孔。	
356 103	土師器 器台	口縁部～底部 1/2残存 口 (8.0cm) 底 (10.8cm) 高 8.4cm	埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR8/2	外面磨き。内面寛撫で。器受部口縁端部は弱く内湾する。3孔。	
279 103	土師器 器台	口縁部～底部 1/2残存 口 (9.2cm) 底 (12.5cm) 高 9.4cm	K-27G 底面上3.0cm	①細砂粒・白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白7.5YR8/2	外面磨き。内面寛撫で。器受部口縁部は稜をもち、直立する。3孔。	
284 103	土師器 高杯	口縁部～底部 4/5残存 口 13.4cm 底 15.4cm 高 11.2cm	M-29G 底面直上	①細砂粒を含む。 ②良好。 ③にぶい橙5YR7/4	外面器受口縁部横撫で、体部・脚部磨き。内面器受部磨き、脚端部横撫で、寛撫で。器受口縁部は内湾して立ち上がる。脚端部は外側へ広がる。3孔。	朱塗り。
301 103	土師器 高杯	脚部1/3残存 底 (12.9cm)	K・L-25G 埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい褐7.5YR6/3	外面磨き。内面撫で、脚端部横撫で。脚は端部で開き端部先端に断面をもつ。	
353 103	土師器 高杯	脚部1/2残存 底 (4.0cm)	N-31G 埋没土中	①細砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい橙5YR7/4	外面撫で。内面寛撫で、しほり目痕が残る。脚部に3孔。	
267 102	土師器 高杯	ほぼ完形 口 20.7cm 高 12.2cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。 ②良好。③橙5YR6/6	内外面撫で。器受部内面底部磨き。口縁端部は凹面状の断面。内外面に稜をもつ。	朱塗り。
269 102	土師器 高杯	杯部残存 口 18.6cm	L-28G 底面上4cm	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。 ②良好。③橙5YR6/6	外面器受部上半横撫で後、放射状に研磨、下半寛削り。内面横撫で後、放射状に研磨。底面は磨き。器受部は稜をもち、口唇部は内湾する。	
280 102	土師器 高杯	杯部3/4残存 口 19.0cm	L-28G 底面直上	①細砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③にぶい橙5YR6/4	内外面寛撫で。器受部は弱い稜をもち、弱く外反ぎみに外傾する。	
281	土師器 高杯	杯部下位残存	L-25G 底面直上	①粗砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③明褐灰5YR7/2	外面寛撫で。内面磨き。外面は器壁の剥落が著しい。	内外面朱塗り。
270 102	土師器 高杯	杯部残存 口 19.3cm	M-30G 底面直上	①粗砂粒・白色鉱物・金雲母を含む。②良好 ③にぶい黄橙10YR6/4	外面口縁部横撫で、体部寛撫で後、放射状に研磨。内面口縁部横撫で、体部撫で。器受部は稜をもち、外反ぎみに外傾する。	
268 102	土師器 高杯	杯部1/2残存 口 20.0cm	M・N-28G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を含む。②良好。 ③にぶい橙5YR6/4	外面口縁部横撫で、体部寛撫で。内面口縁部横撫で、体部磨き。口縁部は弱く外反しながら外傾する。	
288 103	土師器 甕	口縁部1/2残存 口 22.3cm	L-27G 底面上13.0cm	①細砂粒、微量の白色鉱物・金雲母を含む②良好③浅黄橙10YR8/3	外面口縁部上半横撫で、下半縦方向磨き。内面横撫で。有段口縁。口縁端部は面をもち、沈線が巡る。	

1号河川跡出土遺物観察表〈土師器・須恵器〉 図209・210

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
283 103	土師器 甕	口縁部～体部 1/5残存 口 (8.4cm)	K-28G 底面直上	①粗砂粒・白色鉱物・ 黒色輝石粒を含む②良 好③にぶい橙5YR6/4	外面口縁部横撫で、胴部篋削り。内面口縁部横撫で、 胴部篋撫で。口縁部は短く直立きみで、胴部は長胴を 呈す。	
277 103	土師器 甕	口縁部～体部上 半残存 口 17.0cm	L-28G 底面上1cm	①細砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③明褐灰7.5YR7/1	外面口縁部横撫で、胴部篋撫で。内面口縁部横撫で、 胴部篋撫で。口縁部は弱く外反して、外傾する。	
276 103	土師器 甕	体部～底部 3/4残存 底 6.7cm	K-25G 底面上19.0cm	①細砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR6/3	外面削り状の篋撫で。内面撫で。底部平底。	
309	土師器 甕	口縁部～体部上 位破片 口 (17.2cm)	K・L-25G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物・ 金雲母を含む。②良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目。内面口縁部横撫で、 胴部撫で。口縁部はS字状を呈し、肩部に横線が施さ れる。	
348 103	土師器 甕	口縁部～体部上 位破片 口 (18.3cm)	N-31G 埋没土中	①粗砂粒・微量の白色 鉱物を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目、肩部に横線。内面口 縁部横撫で、胴部撫で。口縁部はS字状を呈する横線 の上に部分的に斜め刷毛目が重なる。	
290 103	土師器 甕	口縁部～胴部 1/3残存 口 (13.4cm)	N-24G 埋没土中	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	外面口縁部横撫で、胴部刷毛目。内面口縁部横撫で。 口縁部はS字状を呈する。	
285 102	土師器 台付甕	体部下位～脚部 残存 底 9.5cm	L-25G 底面上15.0cm	①粗砂粒・白色鉱物・ 金雲母を含む。②良好 ③にぶい褐7.5YR6/3	外面刷毛目、脚部上半刷毛目。内面磨き状撫で。内面 脚端部は折り返し、指頭状撫でを行っている。	
289 103	土師器 台付甕	脚部一部欠損 底 9.3cm	M-30G 底面上3cm	①粗砂粒を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	外面脚部上半刷毛目。内面撫で。内面脚端部に折り返 しがある。	
275 103	土師器 台付甕	脚部残存 底 12.0cm	L-28G 底面上6cm	①粗砂粒・白色鉱物を 含む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面撫で。内面撫で、接合部指頭状撫で。内面脚端部 は折り返し。	

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図212

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
186 104	剥片	長 7.3cm 幅 3.2cm 厚 1.5cm 重 38.1g	M-29G 埋没土中	蛇紋岩	両側縁を調整している。管玉、あるいは剣形の未成品の可能 性がある。	石材はかなり滑石質で、軟 らかい。
178 104	剥片	長 5.5cm 幅 4.0cm 厚 1.1cm 重 34.3g	M・N-28G 埋没土中	蛇紋岩	石目を利用して板状に割ったものである。	石材はかなり滑石質。
164 104	剥片 (研磨痕 有り)	長 5.5cm 幅 2.2cm 厚 0.8cm 重 12.4g	埋没土中	蛇紋岩	表面には敲打痕を多く残し、その上を研磨している。裏面は のみ状工具により割り込んでいる。研磨痕がある。	石材は滑石質。
181 104	剥片	長 4.2cm 幅 1.2cm 厚 0.6cm 重 3.4g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	右側は折れている。	石材は滑石質。
255 104	剥片	長 3.1cm 幅 2.1cm 厚 1.1cm 重 8.4g	M-32G 埋没土中	蛇紋岩	表面に自然面を残す。裏面は剥離面。	滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図212～214

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
189 104	剥片	長 2.6cm 幅 2.7cm 厚 0.5cm 重 5.9g	N-30G 埋没土中	蛇紋岩	一部に自然面を残す。調整はない。のみ状工具による割り込み痕がある。	滑石質。
206 104	剥片	長 3.0cm 幅 2.7cm 厚 1.1cm 重 10.7g	L-24G 埋没土中	蛇紋岩	打面は節理面である。一面に自然面を残す。	滑石質。
190 104	剥片	長 2.7cm 幅 2.9cm 厚 0.7cm 重 4.0g	N-30G 埋没土中	蛇紋岩	左肩は割り取って全体を三角形にしている。調整痕はなし。	滑石質。
257 104	剥片	長 2.1cm 幅 3.5cm 厚 0.8cm 重 6.8g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	横長剥片であるが、二次加工はない。表面側に二ヶ所の割り込み痕を残す。	滑石質。
182 104	剥片	長 2.6cm 幅 4.1cm 厚 1.1cm 重 8.1g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	打面は自然面である。調整はない。	滑石質。
183 104	剥片	長 2.4cm 幅 3.6cm 厚 1.0cm 重 8.6g	M-32G 埋没土中	蛇紋岩	表面に自然面を残す。頭部にのみ状工具による割り込み痕を残す。	滑石質。
209 104	剥片	長 2.5cm 幅 3.8cm 厚 0.6cm 重 9.8g	L-26G 埋没土中	蛇紋岩	板状剥片の周辺部を割り取っている。割り込み痕を残す。	滑石質。
250 105	剥片	長 1.9cm 幅 3.9cm 厚 0.5cm 重 5.5g	L・M-29・30G 黒色土下溝 埋没土中	蛇紋岩	横長薄片。調整はない。	かなり滑石質。
337 105	剥片	長 1.5cm 幅 3.4cm 厚 0.7cm 重 3.5g	埋没土中	蛇紋岩	横長剥片の周辺部を若干調整している。	滑石質。表面磨滅。
338 105	剥片	長 1.3cm 幅 3.3cm 厚 0.8cm 重 4.1g	埋没土中	蛇紋岩	横長剥片であり、上端に割り込み痕を残す。調整剥離は施されていない。表面は自然面である。	
246 105	剥片	長 1.3cm 幅 3.2cm 厚 0.6cm 重 2.4g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	のみ状工具による割り込み痕を残す。表面下縁には節理面が残る。	滑石質。
174 105	剥片	長 3.1cm 幅 1.4cm 厚 0.9cm 重 4.6g	M・N-28G 埋没土中	滑石	縦長で、上端にのみ状工具による割り込み痕がある。裏面は平坦であり、自然面あるいは節理面である。	全体に磨滅している。
216 105	剥片	長 2.9cm 幅 1.0cm 厚 0.8cm 重 3.4g	L-29G 埋没土中	蛇紋岩	割り込み痕を良く残す。	滑石質。
254 105	剥片	長 2.0cm 幅 1.2cm 厚 0.5cm 重 1.4g	M-30G 埋没土中	変質蛇紋岩	表面に2条の割り込み痕を残す。裏面上端にも残る。	滑石質。
194 104	剥片	長 3.0cm 幅 1.1cm 厚 0.4cm 重 1.9g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	両極打法によると思われる割り込み痕を残す。	滑石質。
335 105	剥片	長 1.5cm 幅 1.5cm 厚 0.3cm 重 1.4g	埋没土中	珪質頁岩	打面は剥離面。玉制作途中でできる小剥片。裏面には上端と右端の二ヶ所に打点が認められる。	
242 107	剥片	長 3.2cm 幅 1.8cm 厚 1.2cm 重 10.7g	L-27G 埋没土中	緑色珪質岩	管玉の素材と考えられるものである。裏面が平坦であり、横断面形状は台形状を呈する。	
146	形割剥片	長 2.5cm 幅 1.6cm 厚 1.0cm 重 8.4g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨を開始した段階のもの。側面及び裏面に研磨痕が認められる。	未成品。石材は滑石質。
149	形割剥片	長 2.4cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 3.8g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	表裏両面に研磨痕を残す。左側面上端にのみ痕を残す。左側面は弱く研磨され、右側面は剥離面のままである。	石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図214・215

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
147	形割剥片	長 2.8cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 5.3g	L-28G 埋没土中	蛇紋岩	表裏両面は研磨後、形割したもの。左側面にノミ痕を残す。両側面は剥離面のままで、研磨は施されていない。	石材は滑石質。
148	剥片	長 1.4cm 幅 0.8cm 厚 0.4cm 重 0.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	一部研磨されている。側面に剥離面を残す。	石材は滑石質。
150	剥片	長 3.3cm 幅 0.9cm 厚 0.4cm 重 2.4g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	右側面及び上下両端を除き、ほぼ全面研磨している。薄手であり、管玉には成り得ないものである。	石材は滑石質。
144	管玉	長 1.7cm 幅 0.9cm 厚 0.6cm 重 2.2g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。部分的に剥離面を残し、全体の形状はあまり整えられていない。上下両端は研磨稜を残す。	未成品。石材は滑石質。
143	管玉	長 (1.7cm) 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.3g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	剥離面を残す。研磨稜は明瞭。端面は研磨していない。左下部に新しい欠損がある。	未製品。石材は滑石質。
134	管玉	長 (1.8cm) 幅 — 厚 0.8cm 重 1.0g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残すが、線状痕はあまり深くない。全体に光沢をもつ。	欠損品。石材は硬質。
145	管玉	長 1.5cm 幅 0.6cm 厚 0.4cm 重 0.9g	埋没土中	蛇紋岩	研磨稜は不明瞭。一部に若干剥離面を残す。上下両端には弱い研磨稜を残す。稜を取り始めた段階のもの。	未成品。石材は滑石質。
136	管玉	長 1.4cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.0g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端にも研磨面がある。一部剥離面を残す。削り口はやや斜めである。	未成品。石材は滑石質。
139	管玉	長 1.3cm 幅 0.7cm 厚 0.6cm 重 1.1g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は線状痕が明瞭で、稜は残さない。一部剥離面と自然面がある。	未成品。石材は滑石質。
138	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 0.8cm 重 1.2g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は線状痕が明瞭で、稜はない。な一部剥離面がある。新しい欠損がある。	未成品。石材は滑石質。
141	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端はほぼ一定方向に研磨、稜はないが線状痕は明瞭である。	未成品。石材は滑石質。
135	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.8cm 重 1.3g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両面の研磨面では、稜はやや不明瞭であるが、線状痕を深く残す。削り口はやや斜めである。	未成品。石材は滑石質。
137	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.0g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は線状痕を深く残すが、稜はない。	未成品。石材は滑石質。一部欠損。
126	管玉	長 1.7cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.6g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	側面の研磨稜には、明瞭な部分と不明瞭な部分とがある。上下両端は研磨稜を残す。一部傷取りを開始し、上端から穿孔途中のもの。	未成品。石材は滑石質。
142	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端はほぼ一定方向に研磨し、稜を若干残す。長軸に対して、削り面はやや斜めとなっている。	未成品。石材は滑石質。
125	管玉	長 2.3cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 3.0g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両面では研磨面はほぼ一面であり、稜はない。上端から穿孔を開始したところ。側面に剥離面を残す。	未成品。石材は滑石質。
83	管玉	長 1.2cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.6g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を残す。上下両端は両側を穿孔後に研磨。光沢はない。	完形。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図215

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
106	管玉	長 1.1cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 1.1g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。下端からのものは穴の開け直しである。	未完成品。石材は滑石質。
97	管玉	長 1.3cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.9g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。出べその錐による両側穿孔。両端は研磨されていない。断面は円形である。	完形。石材は滑石質。
124	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.1g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。穴は上端からのみ。側面の欠損は穿孔時のものである。断面は多角形。上下両端の研磨稜は不明瞭である。	未完成品。石材は滑石質。一部欠損。
110	管玉	長 1.4cm 幅 0.9cm 厚 0.9cm 重 1.8g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
121	管玉	長 1.7cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.6g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	側面及び上下両端に、研磨稜を明瞭に残す。穿孔途中で、貫通寸前のもの。下端の穴は開け直している。	未完成品。石材は滑石質。
114	管玉	長 1.7cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.0g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。一部に剝離面を残す。	完形。石材は滑石質。
140	管玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 — 重 0.6g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。下端の一部剝離面を残す。	石材は滑石質。欠損品。
127	管玉	長 1.7cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端に研磨面は一面である。穿孔途中で貫通していない。断面はまだ四角形に近い。	未完成品。石材は滑石質。
129	管玉	長 1.6cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。一部剝離面を残す。穿孔は上端からのみ。断面は四角形に近い。穿孔途中で欠損。	未完成品。石材は滑石質。
118	管玉	長 2.0cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.0g	M-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残すが、やや光沢をもつ。上下両端は穴開けの途中であり、貫通していない。上端のものは穴の開け直しである。	未完成品。石材は滑石質。
120	管玉	長 1.9cm 幅 1.0cm 厚 1.0cm 重 3.2g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	側面に研磨稜を明瞭に残す。上下両端も研磨稜を明瞭に残し、穿孔途中の穴が認められる。若干光沢をもつ。	未完成品。石材は滑石質。
104	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.9g	L-25G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
117	管玉	長 1.8cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。断面は、まだかなり四角っぽい。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。一部剝離面を残す。	完形。石材は滑石質。
122	管玉	長 1.8cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。断面は歪んだ楕円形を呈する。穴は両側穿孔であるが、途中ですれちがって、上からのものは横に開いている。	未完成品。石材は滑石質。
111	管玉	長 1.8cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.3g	N-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
133	管玉	長 2.2cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 2.3g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜が一部不明瞭な部分がある。上半部は滑石質。上下両端面はやや丸みをもつ。穿孔は下からのみ。	未完成品。石材は滑石質。
128	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.9cm 重 2.6g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	全体に研磨稜を明瞭に残す。断面はやや歪んだ多角形。両側穿孔であり、穴は貫通寸前で止まっている。	未完成品。石材は滑石質。



1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図215・216

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
116	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.9g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。側面の線状痕は縦、もしくはそれに近い斜方向の長いものとなっている。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。削り口が斜めになっている。	完形。石材は滑石質。
119	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.7g	L-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。一部剥離面がある。	完形。石材は滑石質。
115	管玉	長 2.0cm 幅 0.9cm 厚 0.8cm 重 2.6g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
109	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.9cm 重 2.5g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
105	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.4g	L-26G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
113	管玉	長 1.9cm 幅 0.8cm 厚 0.6cm 重 2.2g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を残すが、あまり明瞭ではない。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕は明瞭である。傷取り開始段階のもの。	完形。石材は滑石質。
70	管玉	長 2.1cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.5g	L-26G 埋没土中	蛇紋岩	横断面は楕円形を呈する。出べそ形の錐によって両側から穿孔されており、上下とも穴の周辺が窪む。研磨稜は全く残していない。若干光沢をもつ。	完形。石材は滑石質。
72	管玉	長 1.9cm 幅 0.7cm 厚 0.7cm 重 1.5g	N-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を残さない。両側穿孔後に両端を研磨し、その線状痕が残る。若干光沢がある。断面は円形に近い。	完形。石材は滑石質。
130	管玉	長 2.2cm 幅 0.8cm 厚 0.9cm 重 2.4g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両面には研磨稜はほとんど残さない。両側穿孔。上端から穴開けの際に一部欠損。	未成品。石材は滑石質。
132	管玉	長 2.1cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.2g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端の研磨面は一面。両側穿孔、貫通寸前に一部欠損。	未成品。石材は滑石質。
112	管玉	長 2.0cm 幅 0.8cm 厚 0.7cm 重 1.5g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	石材は滑石質。一部欠損。
108	管玉	長 2.6cm 幅 0.8cm 厚 0.8cm 重 2.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。	完形。石材は滑石質。
123	管玉	長 2.0cm 幅 - 厚 0.9cm 重 1.4g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜はやや不明瞭であるが、線状痕は残る。上下両端は研磨稜を残す。両側穿孔であり、貫通している。傷取り途中で欠損したものと思われる。	欠損品。石材は滑石質。
98	管玉	長 1.3cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.5g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜をほとんど残さない。上下両端は出べその錐による両側穿孔。全体に光沢をもつ。断面円形。	完形。石材は滑石質。
86	管玉	長 1.5cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.6g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	側面に研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
87	管玉	長 1.5cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
89	管玉	長 1.7cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	ほとんど研磨痕を残さない。上下両端は両側穿孔後に研磨。内面も含め、全体に光沢をもつ。断面円形。	完形。石材は滑石質。
78	管玉	長 1.6cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.8g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さないが、光沢はない。上下両端は穿孔後に研磨。断面円形。	完形。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図216

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
81	管玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.9g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はほとんど残さない。やや光沢がある。上下両端は両側穿孔後、研磨。線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
103	管玉	長 1.6cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	廃土 埋没土中	蛇紋岩	側面に横方向の線状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨している。全体に強い光沢をもつ。断面円形。	完形。石材は滑石質。
99	管玉	長 1.7cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	ほとんど研磨痕を残さない。かなり強い光沢をもつ。出べその錐による両側穿孔。断面円形。	完形。石材は滑石質。
80	管玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢はない。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕が残る。断面円形。	完形。石材は滑石質。
85	管玉	長 1.8cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.8g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨による線状痕を若干残す。上下両端は両側穿孔後に研磨し、さらにつや出しをしている。側面も光沢をもつ。断面円形。新しい衝撃により欠損。	ほぼ完形。石材は滑石質。
101	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	側面に若干研磨痕が残るが、光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕は残らず、若干光沢をもつ。断面は楕円形。	完形。石材は滑石質。
71	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.6g	M-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さない。断面も円形に近い。やや光沢をもつ。上下両端が斜めになっている。出べその錐による両側穿孔。	完形。石材は滑石質。
73	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を残さない。断面円形。出べその錐による両側穿孔。上端は穿孔後、研磨。ほとんど光沢はない。	完形。石材は滑石質。
77	管玉	長 1.8cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さず、光沢をもつ。出べその錐による両側穿孔である。上下両端は斜めのままで、研磨してはいない。	完形。石材は滑石質。
102	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、線状痕は残る。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を明瞭に残す。光沢はない。	完形。石材は滑石質。
94	管玉	長 1.9cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 1.1g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕はないが、線状痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、研磨痕を残す。光沢はない。断面円形。	完形。石材は滑石質。
75	管玉	長 0.9cm 幅 0.5cm 厚 0.6cm 重 0.7g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は穿孔後に研磨しているが、光沢はない。穴がずれて、横にぬけている。断面円形。	失敗品。石材は滑石質。
76	管玉	長 2.1cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 0.9g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。光沢をもつ。上下両端は穿孔後に研磨し、線状痕が明瞭に残る。断面円形。	完形。石材は滑石質。
91	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 1.0g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さないが、上下両端は線状痕が明瞭に残る。側面は光沢をもつ。両側穿孔。断面円形。	完形。石材は滑石質。
96	管玉	長 1.9cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。若干光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
131	管玉	長 2.0cm 幅 — 厚 0.8cm 重 1.3g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕を明瞭に残す。上下両端の研磨面はほぼ一面。両側穿孔で、上からの穴は先端が段になっている。	欠損品。石材は滑石質。
79	管玉	長 2.3cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 1.1g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕をほとんど残さない。上下両端は穿孔後に研磨して、線状痕を消している。部分的に光沢がある。	完形。石材は滑石質。
88	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.9g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨痕は残さないが、線状痕は残る。光沢はない。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。研磨時に側面に穴が開いている。	失敗品。石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図216・217

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
92	管玉	長 2.2cm 幅 0.5cm 厚 0.6cm 重 1.2g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜はないが、線状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。光沢はない。穴は中央部でずれる。断面円形。	完形。石材は滑石質
74	管玉	長 2.2cm 幅 0.6cm 厚 0.6cm 重 1.4g	M-28G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜は全く残らないが、若干線状痕は残る。両側穿孔後、上下両端研磨。若干光沢をもつが、つや出し磨き以前のもの。	完形。石材は滑石質
82	管玉	長 2.3cm 幅 0.6cm 厚 0.5cm 重 1.1g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜は残さないが、若干線状痕を残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。光沢はない。	完形。石材は滑石質。
100	管玉	長 2.0cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 0.8g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	側面はほとんど研磨痕を残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
107	管玉	長 1.9cm 幅 — 厚 0.7cm 重 0.7g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。錐の先端は尖らない。	石材は滑石質。 縦割れの片方。
84	管玉	長 2.1cm 幅 0.5cm 厚 0.4cm 重 0.6g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜はないが、線状痕を明瞭に残す。上下両端は両側穿孔後、研磨。穿孔がずれて、側面に穴が開いている。光沢はない。	失敗品。石材は滑石質。
95	管玉	長 2.2cm 幅 0.4cm 厚 0.4cm 重 0.7g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜をほとんど残さない。やや光沢をもつ。上下両端は両側穿孔後に研磨、線状痕を残す。断面円形。	完形。石材は滑石質。
93	管玉	長 2.6cm 幅 0.5cm 厚 0.5cm 重 1.2g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜はないが、線状痕を若干残す。やや光沢をもつ。上下両端は穿孔後に研磨、光沢はない。断面はほぼ円形。	完形。石材は滑石質。
90	管玉	長 2.4cm 幅 0.4cm 厚 0.4cm 重 0.6g	M-30G 埋没土中	緑色珪質頁岩と思われる。	研磨痕をほとんど残さない。上下両端は両側穿孔、研磨後、つや出し磨きが行われている。側面も光沢をもつ。他のものに比べて細身である。	穿孔時に下端一部欠損。
55 106	丁字頭勾玉	長 2.5cm 幅 0.8cm 厚 — 重 2.9g	N-29G 埋没土中	蛇紋岩	やや胴長ぎみのC字形を呈し、頭に三条の刻みをもつ。両側穿孔。全体に光沢をもつ。断面形は丸に近い。	完形。石材は深緑色。
60 106	勾玉	長 1.6cm 幅 0.5cm 厚 — 重 1.4g	M-30G 埋没土中	蛇紋岩	偏平小形。研磨稜を明瞭に残す。全体に若干の光沢をもつ。両側穿孔。	石材は滑石質。
59 106	勾玉	長 1.8cm 幅 0.7cm 厚 — 重 1.7g	L-28G 埋没土中	滑石	頭は幅が狭く薄手で、腰から尾が幅広で厚手となっている。研磨痕は背と腹に良く残るが、光沢も背と腹に認められる。	完形。
58 106	勾玉	長 1.6cm 幅 0.4cm 厚 — 重 0.8g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	偏平小形。全体に研磨痕を残し、稜もしっかりしているが、やや光沢をもつ。両側穿孔。	一部欠損。石材は滑石質。
61 106	勾玉	長 1.3cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.5g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	偏平小形。背と腹に研磨稜を明瞭に残す。両側面の研磨痕はあまり明瞭ではなく、やや光沢をもつ。両側穿孔。	石材は滑石質。
57 106	勾玉	長 1.4cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.6g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	偏平小形。研磨痕を残す。頭の部分には稜が残る。全体に若干光沢をもつ。両側穿孔。	完形。石材は滑石質。
56 106	勾玉	長 1.1cm 幅 0.2cm 厚 — 重 0.2g	M-30G 埋没土中	滑石	非常に小形で偏平である。腹と背側に研磨痕を残す。表裏両面は研磨痕不明であり、あまり光沢はない。	完形。
62 106	勾玉	長 1.7cm 幅 0.6cm 厚 — 重 1.4g	L・M-28・29G 埋没土中	滑石	腹側が厚く、背側が薄い。研磨稜を明瞭に残す。穿孔以前の段階のもの。	
63 106	勾玉	長 1.9cm 幅 0.5cm 厚 — 重 2.0g	L-27G 埋没土中	蛇紋岩	研磨稜を明瞭に残し、全体の形状も角張り、頭と尾も明確ではない。裏面側がやや平坦で、表側が若干盛り上がる。	石材は滑石質。
64 106	勾玉	長 1.5cm 幅 0.3cm 厚 — 重 0.7g	N-31G 埋没土中	蛇紋岩	偏平小形。頭と尾は丸みをもつ。研磨稜を残す。光沢はほとんどない。穿孔以前の段階のもの。	石材は滑石質。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図217・218

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
68 106	勾玉素材	長 2.3cm 幅(1.3cm) 厚 0.4cm 重 3.0g	L・M-29・30G 埋没土中	蛇紋岩	両面とも平坦であり、背側には研磨稜が明瞭に残る。	石材は滑石質。
66 106	勾玉素材	長(1.9cm) 幅(1.3cm) 厚 0.3cm 重 1.1g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	両側面は平坦であり、研磨稜を明瞭に残す。研磨途中に下端が欠損したもの。穿孔以前の段階のもの。	下端欠損。石材は滑石質。
67 106	勾玉素材	長 1.9cm 幅(1.0cm) 厚 0.3cm 重 1.1g	N-32G 埋没土中	蛇紋岩	内側が厚く、外側が薄い。研磨痕を明瞭に残す。特に裏面側の方が粗く、深い研磨傷が認められる。	石材は滑石質。
65 106	勾玉未成品	長 1.8cm 幅(1.1cm) 厚 0.5cm 重 1.9g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	半円状素材に穿孔したもの。穿孔後、両側面研磨。一部に剥離面を残す。背側の研磨稜は明瞭である。	石材は滑石質。
69 106	白玉	長 1.1cm 幅 1.2cm 厚 0.3cm 重 0.6g	L・M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	表裏両面は平坦で、周縁部には研磨稜を明瞭に残す。全体にやや光沢をもつ。	石材は滑石質。
151 106	石製模造品	長 1.7cm 幅 1.0cm 厚 0.8cm 重 1.8g	M-28・29G 埋没土中	蛇紋岩	つまみ部分は、研磨によって磨り減らされて作成されている。底面も研磨され、丸く整えられている。何を模したのかわからない。	完形。石材は滑石質。
177 106	石鏃	長 3.5cm 幅 2.0cm 厚 0.6cm 重 4.2g	M・N-28G 埋没土中	砂岩質頁岩	横長切片の一端に尖頭部を作出しているものである。石鏃未成品の可能性もある。	石材は黒色を呈する。
188 106	石鏃	長 3.1cm 幅 1.8cm 厚 0.7cm 重 4.3g	N-30G 埋没土中	黒色安山岩	片面周辺調整。歪んだ二等辺三角形を呈する。石鏃の可能性もある。	
336 106	石鏃	長 1.7cm 幅 1.3cm 厚 0.3cm 重 0.8g	埋没土中	砂岩(?)	小切片の一端に尖頭部を作出している。調整加工は粗い。左側縁は折り取った後に、表裏両面より調整している。	
247 106	石鏃	長 3.9cm 幅 4.0cm 厚 1.0cm 重 17.2g	L-27G 埋没土中	黒色安山岩	切片の先端部に尖頭部を作出したものであり、その調整加工は鋸歯縁状を呈する。打面は除去されている。	
230 106	石鏃	長 2.0cm 幅 2.0cm 厚 0.3cm 重 1.0g	M-30G 埋没土中	チャート	平面形はほぼ正三角形を呈し、二側縁は直線的で、底辺のみやや外湾する。第一次剥離面を残す。	完形。
234 106	石鏃	長 1.8cm 幅 1.3cm 厚 0.4cm 重 0.8g	L-27G 埋没土中	黒色安山岩	平面形は二等辺三角形であり、底辺が若干内湾する。	先端欠損。
232 106	石鏃	長 2.0cm 幅 1.3cm 厚 0.5cm 重 0.9g	L・M-28・29G 埋没土中	チャート	平面形は二等辺三角形を呈し、底辺は若干内湾する。	完形。
229 106	石鏃	長 2.3cm 幅 1.2cm 厚 0.3cm 重 1.0g	M-28G 埋没土中	黒色頁岩	基部の両側及び底辺に抉入部を有する。薄手であるが、第一次剥離面を残す。	左側縁の一部と先端部欠損。
228 106	石鏃	長 2.3cm 幅 1.9cm 厚 0.3cm 重 1.1g	N-31G 埋没土中	赤色珪質岩	有脚石鏃。比較的薄手であり、調整剥離も奥まで入っていて第一次剥離面は残らない。	
236 106	石鏃	長 2.1cm 幅 1.4cm 厚 0.4cm 重 1.3g	埋没土中	珪質珪岩	平面形は魚形を呈する。両側のかえし部分は一回の剥離によって挟り込んでいる。部分的に第一次剥離面を残す。	先端一部欠損。
233 106	石鏃	長 1.5cm 幅 0.9cm 厚 0.3cm 重 0.6g	N-32G 埋没土中	黒色頁岩	有茎と思われるが、茎部とかえし部分が欠損しているため、全体の形状は不明である。	新しい欠損が右側縁に並ぶ。
235 106	石鏃	長 1.5cm 幅 1.7cm 厚 0.3cm 重 0.8g	L-27G 埋没土中	チャート	有茎であるが231のようにかえし部分は反りかえらない。	
231 106	石鏃	長 3.7cm 幅 2.4cm 厚 0.6cm 重 2.6g	L-31G 黒色土下溝 埋没土中	黒色頁岩	有茎であり、かえしもしっかりしている。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図218・219

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
256 107	剥片	長 3.2cm 幅 2.7cm 厚 1.1cm 重 11.3g	M-30G 埋没土中	玉髄 メノウ	一部縞状に赤くなっている。その他は半透明でやや白っぽい。玉の素材と考えられる。	
176 107	剥片	長 1.7cm 幅 3.1cm 厚 1.1cm 重 6.7g	M・N-28G 埋没土中	珪質頁岩	節理を利用して板状に割り、周辺部を調整している。管玉の材料と思われる。	石材は緑色。
251 106	剥片	長 3.8cm 幅 2.0cm 厚 0.9cm 重 7.3g	M-30G 埋没土中	頁岩	右側縁上半部から先端にかけて調整剥離が認められる。	
193 106	磨製石器	長 3.2cm 幅 3.0cm 厚 0.5cm 重 5.6g	N-31G 埋没土中	細粒安山岩	板状破片を研磨しているものである。破片のため全体の形状は不明である。石包丁にしては薄すぎる。	三辺は欠損している。
172 107	石斧?	長 2.8cm 幅 2.2cm 厚 1.1cm 重 7.7g	M-27・28G 埋没土中	粗粒安山岩	表面側に研磨痕もしくは使用痕と考えられる線状痕が認められる(研磨痕、もしくは使用痕)。	刃部破片?
198 107	石鏃未成品	長 5.3cm 幅 4.6cm 厚 2.0cm 重 47.2g	K-27G 埋没土中	黒色頁岩	全体としては楕円形を呈する。一つ一つの剥離は粗く、交互剥離により鋭い縁辺部を作出している。	
184 107	石鏃未成品?	長 3.2cm 幅 2.7cm 厚 0.9cm 重 7.6g	M-32G 埋没土中	黒色安山岩	上部は調整加工中に欠損したものであると思われる。しかしその後も、極細かい剥離を若干加えている。小形の打製石斧の可能性もある。	上部欠損。
212 107	楔形石器	長 2.8cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 14.5g	L・M-26G 埋没土中	珪質頁岩	上端は敲いた痕跡が良く残る。下端は縁辺に沿って剥離痕が並ぶが、敲き潰れている感じであり、調整痕とは違いが認められる。	
240 107	楔形石器	長 2.5cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 9.6g	M-30G 埋没土中	頁岩	左側縁に帯状に自然面を残す。上下両端に潰れがある。	
243 107	削器	長 2.9cm 幅 5.2cm 厚 0.6cm 重 8.7g	M-28G 埋没土中	黒色安山岩	横長剥片の上縁部を両面とも丁寧に調整している。打面にも調整が及ぶ。下縁部の剥離は非常に細かく、やや不規則であり、使用痕と思われる。	
192 107	削器	長 5.2cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 31.7g	N-31G 埋没土中	黒色安山岩	両側縁を良く調整している。上端には帯状に自然面を残す。下端左側は欠損している。小形石斧の可能性もある。	
237 107	磨製石斧	長 4.5cm 幅 4.3cm 厚 1.0cm 重 30.9g	L-28G 埋没土中	黒色頁岩	偏平小形定角式石斧。周辺部に剥離面を残すが、研磨はほぼ全面に及ぶ。刃部縦断面は片刃平整形を呈する。	
238 107	磨製石斧	長 6.0cm 幅 3.7cm 厚 1.0cm 重 30.4g	埋没土中	黒色頁岩	刃部を中心に研磨が施され、胴部のは弱い。両側縁は全く磨いていない。偏平薄手小形。	頭端は新しい欠損。
248 107	磨製石斧	長 4.6cm 幅 3.2cm 厚 0.7cm 重 11.0g	L・M-29・30G 黒色土下溝 埋没土中	黒色頁岩	表面側に研磨面が認められる。磨製石斧の部分破片であるが、部位は不明である。	破片。
173 107	打製石斧	長 4.0cm 幅 3.5cm 厚 1.1cm 重 20.7g	M-27・28G 埋没土中	黒色頁岩	薄手。小形。下半部は折れたものである。上端に部分的に自然面を残す。	頭部破片。
213 107	打製石斧	長 5.2cm 幅 3.5cm 厚 1.0cm 重 29.5g	L-28G 埋没土中	粗粒安山岩	薄手。両側縁を良く調整している。頭部には自然面を残す。短冊形を呈するものと思われる。	刃部欠損。
180 107	打製石斧	長 11.0cm 幅 6.8cm 厚 1.5cm 重 126.2g	M-30G 埋没土中	黒色頁岩	素材は横長剥片であり、両側縁に抉りを入れて分銅形に仕上げている。表面側上下両端に使用による磨減が認められる。	完形。
201 107	打製石斧	長 6.2cm 幅 3.1cm 厚 0.9cm 重 17.7g	K-28G 埋没土中	黒色頁岩	両側縁を調整している。打面は剥離面。刃部は無調整。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図219～221

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
218 107	石核	長 7.7cm 幅 8.7cm 厚 2.9cm 重 281.0g	L-29G 埋没土中	硬質泥岩?	上半部より剥離が施されているものであり、比較的鋭い縁辺部を残している。礫器としても使用可能な形態を有する。	
249 108	UF	長 2.5cm 幅 3.5cm 厚 0.8cm 重 4.4g	L・M-29-30G 埋没土中	白色硬質頁岩	横長剥片下縁を使用しているものであり、微細な剥離が認められる。	
175 108	UF	長 4.2cm 幅 5.0cm 厚 0.8cm 重 15.3g	M・N-28G 埋没土中	珪質頁岩	縁辺部に不規則な剥離痕がある。使用痕と思われる。	上部欠損。
211 108	UF	長 3.8cm 幅 2.0cm 厚 0.9cm 重 3.9g	L・M-26G 埋没土中	頁岩	両側縁及び下端部にかけて、微細な剥離痕が認められる。使用痕のみではなく、加工痕の可能性もある。打面は剥離面。	
162 108	UF	長 2.2cm 幅 3.3cm 厚 5.5cm 重 6.2g	埋没土中	頁岩	下縁にやや不規則な剥離痕が並ぶ。	上半部欠損。
215 108	UF	長 4.0cm 幅 4.5cm 厚 0.9cm 重 15.3g	L-29G 埋没土中	黒色頁岩	下縁に微細な剥離痕が並ぶ。使用痕の可能性はある。右肩部分は節理面によって欠損している。	風化が顕著。
210 108	UF	長 5.4cm 幅 3.0cm 厚 1.0cm 重 13.8g	L・M-26G 埋没土中	黒色安山岩	右側縁の微細な剥離痕は使用痕の可能性はある。打面は自然面であり、細長く残る。	
202 108	UF	長 3.5cm 幅 3.5cm 厚 0.7cm 重 7.0g	K-28G 埋没土中	黒色頁岩	左側縁の挟入部分を使用している。	
199 108	UF	長 3.4cm 幅 2.5cm 厚 0.5cm 重 3.7g	K-27G 埋没土中	黒色頁岩	左側は剥片剥離時に欠けたもの。右側縁に微細な剥離痕を有する。	
197 108	UF	長 5.9cm 幅 4.7cm 厚 1.1cm 重 31.9g	K・L-25G 埋没土中	黒色頁岩	打面は自然面であり、上端に帯状に残る。両側縁に微細な剥離痕を残す。下端は欠損しているものと思われる。	
163 108	UF?	長 4.9cm 幅 4.2cm 厚 0.9cm 重 17.5g	埋没土中	黒色安山岩	下端の一部と右側縁に極微細な剥離痕が認められるが、これは使用痕の可能性はある。	
217 108	UF	長 3.2cm 幅 7.3cm 厚 1.3cm 重 28.6g	L-29G 埋没土中	黒色頁岩	横長剥片の下縁を刃部として使用している。打面部は節理面より割れている。	
166 108	UF	長 4.5cm 幅 4.8cm 厚 0.7cm 重 12.9g	埋没土中	黒色頁岩	打面部以外は縁辺部すべてに使用痕が認められる。打面部は剥離時に欠損したものと思われる。	
253 108	UF	長 5.3cm 幅 5.1cm 厚 2.2cm 重 61.1g	M-30G 黒色土下溝 埋没土中	珪質頁岩	両側縁を若干調整し、下縁を刃部として使用している。表面下半部には磨痕が認められる。	
244 108	UF	長 4.8cm 幅 6.5cm 厚 2.2cm 重 62.9g	N-31G 埋没土中	珪質頁岩	縦長剥片の左側縁を使用している。刃部には不規則な剥離痕が認められる。	
165 108	UF?	長 6.3cm 幅 6.0cm 厚 1.3cm 重 42.6g	埋没土中	黒色安山岩	下縁部を刃部として使用しているものと思われ、微細な剥離痕が残る。その表面側には横方向に研磨痕が認められる。	
214 108	RF	長 3.0cm 幅 4.4cm 厚 1.2cm 重 17.0g	L-28G 埋没土中	黒色頁岩	両側縁に挟入状の剥離が認められる。打面は剥離面。	下端部欠損。
196 108	RF	長 2.3cm 幅 3.1cm 厚 0.9cm 重 7.1g	K・L-25G 埋没土中	黒色安山岩	表面右下に一部自然面を残す。両側縁に剥離痕が認められる。部分破片のため、全体の形状は不明である。	部分破片。
200 108	RF	長 2.7cm 幅 2.7cm 厚 0.7cm 重 5.4g	K-28G 埋没土中	黒色頁岩	両側縁にわずかに剥離が施されている。石錐未成品の可能性はある。打面は自然面であり、平坦である。	

1号河川跡出土遺物観察表《石器》 図221~223

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
252 108	R F	長 2.1cm 幅 4.2cm 厚 1.0cm 重 8.8 g	M-30G 黒色土下溝 埋没土中	黒色安山岩	下縁に裏面からのみ、調整剥離が施される。全体の形状は不明である。	破片。
203 108	R F	長 4.3cm 幅 4.1cm 厚 0.9cm 重 16.8 g	K・L-35G 埋没土中	黒色頁岩	右肩に扶入部を作出している。打面は剥離面で平坦である。	
205 108	R F	長 5.8cm 幅 3.6cm 厚 0.8cm 重 21.0 g	L-24G 埋没土中 601	黒色頁岩	下縁に調整剥離が並ぶ。	
245 108	R F	長 2.8cm 幅 4.5cm 厚 0.7cm 重 10.6 g	N-31G 埋没土中	頁岩	横長剥片の下縁部に調整加工が施されているものである。	
195 108	R F	長 4.7cm 幅 4.2cm 厚 1.1cm 重 20.6 g	K・L-25G 埋没土中	黒色頁岩	下端部に、尖頭部を作出するように粗い剥離が施される。打面は平坦で、自然面である。	
187 108	R F	長 4.6cm 幅 6.0cm 厚 1.2cm 重 36.1 g	N-30G 埋没土中	珪質頁岩	下縁部に交互剥離による調整加工が認められる。右肩に細長く自然面を残す。	
179 108	R F	長 5.8cm 幅 4.8cm 厚 2.3cm 重 56.2 g	M-29G 埋没土中	黒色頁岩	剥片剥離時に左端は欠けたものである。周辺部に若干の調整剥離を施している。打面は自然面である。	
171 108	R F	長 6.7cm 幅 9.8cm 厚 1.3cm 重 112.3 g	M-27・28G 埋没土中	黒色頁岩	横長剥片の縁辺部の一部に調整を加えて、縁辺部周辺すべてを使用している。特に左側縁は磨滅している。右肩部分は節理面で欠損している。	
191 109	砥石	長 5.7cm 幅 10.1cm 厚 0.6cm 重 60.6 g	N-30・31G 埋没土中	点紋緑色片岩	偏平な板状破片を砥石として用いている。表裏両面とも非常に平らであり、面が平らなものを砥いだものと思われる。	右端欠損。
258 109	磨石	長 6.8cm 幅 6.1cm 厚 6.0cm 重 371.7 g	埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は比較的平坦であり、使用された可能性がある。	風化がすすむ。
241 109	砥石	長 2.3cm 幅 5.9cm 厚 1.0cm 重 18.1 g	M-30G 埋没土中	雲母石英片岩	片岩の破片を利用した砥石であり、器面は砂岩製のものより滑かであり、仕上げ用と思われる。	左右両端欠損。
207 109	磨石	長 10.1cm 幅 7.1cm 厚 3.2cm 重 429.2 g	L-24G 埋没土中	粗粒安山岩	平坦な三面は軟質なものを潰した可能性がある。下端部1/3が両面とも黒っぽく変色し、上2/3は焼けてやや赤く変色している。	
259 109	砥石	長 14.5cm 幅 11.1cm 厚 6.2cm 重1298.6 g	埋没土中	砂岩	表面には筋が明瞭に認められ、断面は丸く凹むことからすると、玉砥石と考えられる。裏面及び下面の砥石面は比較的平坦であり、金属を研いだものと考えられる。	全体に鉄分が付着。
204 109	砥石	長 5.9cm 幅 4.5cm 厚 3.0cm 重 142.0 g	L-24G 埋没土中	粗粒安山岩	正面及び上面は平坦であり、使用面と思われる。線状痕は風化のため認められない。	全体に風化している。
239 109	砥石	長 7.5cm 幅 4.9cm 厚 1.1cm 重 58.4 g	N-31G 埋没土中	牛伏砂岩	いくつかの面によって構成されるが、線状痕の方向は不明である。面はいずれも平坦であり、玉砥石ではない。石斧用の可能性が高い。	上部欠損。
185 109	砥石	長 13.1cm 幅 10.9cm 厚 6.9cm 重 971.0 g	埋没土中	細粒安山岩	ほぼ全面を使用している。左側面には刃ならし痕が残る。表裏面と右側面は緩い凹面となっている。	
167 110	砥石台石 凹石	長 22.0cm 幅 16.5cm 厚 12.7cm 重4200.0 g	M-32G 底上1.0cm	粗粒安山岩	裏面及び右側面には敲打痕が明瞭に残る。ほぼ全面に研いた筋が残る。筋は幅が狭い。	凹を有する。
168 110	砥石台石 凹石	長 33.5cm 幅 20.3cm 厚 7.8cm 重5500.0 g	M-28G 底上2.0cm	粗粒安山岩	表裏面に凹を残すが、表面は深く回転により面が滑かで、裏面は浅く敲打によりザラザラしている。	

1号河川跡出土遺物観察表〈石器〉 図224

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
169 110	磨石?	長 13.0cm 幅 15.5cm 厚 11.2cm 重3050.0g	埋没土中	粗粒安山岩	表面と側面にやや光沢をもつ平坦面があり、使用された可能性がある。	下半欠損。
208 110	凹石	長 11.0cm 幅 8.1cm 厚 3.6cm 重 266.4g	L-24G 埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面に凹みが多くある。大きさ等は不規則であり、回転による深い凹みはない。加熱を受けているものと思われる。	完形。表面風化。
219 111	磨石敲石	長 13.4cm 幅 6.5cm 厚 3.7cm 重 456.2g	L-27G	黑色頁岩	両側縁に磨り面を、表面上部に敲打痕を残す。	
170 111	磨石	長 28.4cm 幅 18.0cm 厚 9.5cm 重3630.0g	埋没土中	粗粒安山岩	表・裏面に磨り面を残すが、あまり強いものではない。	完形。

1号河川跡出土遺物観察表〈木器〉 図225・226

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
408 112	くさび (杭状木製品)	17.6×6.7×4.0	L-26G 底上4.0cm	柾目 クリ	完形	先端部はきれいに一面から削り出す。平坦部には一部削り痕が残る。	
426 112	杭	22.3+α×4.7×3.6	L-27G 底下2.0cm	分割材 サカキ	頭部欠損	先端部は四方向から削られ、尖っている。	
423 112	杭	26.0+α×5.0×3.5	L-27G 底上17.0cm	分割材 モミ属	頭部欠損	先端部分は削り出されている。最先端部分はつぶれている。	
405b 112	杭	50.4+α×5.5×4.2	M-29G 底上24.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	先端部分は細く削り出している。最先端部はわずかにつぶれている。	
430 112	杭	46.1+α×5.5×4.5	L-26G ピット内	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部分を尖らせている。表面は炭化している。	
432 112	杭	43.6+α×5.3×4.5	L-26G 埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	頭部分はねじ切れている。先端部分は尖らせている。表面は炭化している。	
394 112	杭	43.0×7.2×3.4	L-27G 底上13.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部欠損	頭部は二方向から斜めに切断して。先端部は一部が欠損し、最先端部分はつぶれている。	
386 112	杭?	15.2+α×7.2×3.3	L-25G 底上6.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	二側面から削り尖らせている。	
436 112	杭	18.4+α×4.2×3.4	K-28G 埋没土中	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	先端の一部 が残存	先端部分は尖らせている。最先端部はわずかにつぶれている。頭部側は欠損し、劣化が激しい。	
431 112	杭	40.0+α×6.6×4.0	L-26G 埋没土中	分割材 モミ属	頭部欠損	頭部分はねじ切れている。先端部は削り尖らせる。節部が残る。	



1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図226~228

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
418 112	杭	66.6×11.3×3.9	M-31G 底上9.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	先端部は尖らせている。平面に割り痕が残る。	
437 112	杭	8.9+ $\alpha$ ×3.5×2.8	L-28G 埋没土中	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	先端の一部 が残存	先端部分は尖らせている。最先端部はわずかにつぶれている。頭部側は欠損し、劣化が激しい。	
396 113	角杭	36.7+ $\alpha$ ×3.5×3.0	L-28G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部は尖らせている。	
438 113	杭	19.7+ $\alpha$ ×2.0 $\phi$	L-26G 埋没土中	芯持 広葉樹 (散孔材)	頭部欠損	枝杭である。先端部分は周辺から削られ尖っている。最先端部はつぶれている。杭には打ったときの折部がある。	
411 113	丸杭?	75.5+ $\alpha$ ×3.6 $\phi$	L-26G 底上18.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	枝が払ってある。	
403 113	杭	62.7+ $\alpha$ ×4.3 $\phi$	K-29G 底上4.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	頭部欠損	先端部はきれいに削り出され、尖っている。節部は残る。最先端部はつぶれている。	
425 113	杭	32.8+ $\alpha$ ×4.7 $\phi$	L-27G 底下8cm	芯持 サクラ属	先端の一部 と頭部欠損	先端部は周辺から削り尖らせている。樹皮が残る。	
435 113	杭	15.3+ $\alpha$ ×3.7×3.0	L-31G 底下2cm	芯持 モミ属類似種	先端の一部 が残存	先端部分は四面から切断されるが一面から大きく切り込んでいる。頭部側は劣化が激しい。	
397 113	杭	62.8+ $\alpha$ ×5.5 $\phi$	L-28G 底上13.5cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	頭部欠損	先端部分は四面から切断される。樹皮を残す。	
420 b 113	杭	33.2+ $\alpha$ ×3.4 $\phi$	M-31G 底上14.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	頭部欠損	先端部は四面から切断されている。最先端部はわずかにつぶれている。	
404 113	杭	44.7+ $\alpha$ ×7.2 $\phi$	K-30G 底上1.5cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	先端部付近 が残存	先端部は四面から切断し尖らせる。節部が残る。	
422 113	杭	38.4×4.2 $\phi$	L-28G 底上1cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	完形	先端部は削り出し、尖っている。頭部はつぶれている。	
414 113	丸棒	50.0+ $\alpha$ ×2.2×1.7	M-30G 底上14.0cm	芯持 モミ属	両端部欠損	わずかにしなっている。	
400 114	杭?	72.6+ $\alpha$ ×5.7×4.3	L-28G 底上3.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	節は落としてあり、節部は残る。	

1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図228~230

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
409 114	杭	166.7+ $\alpha$ ×7.2 $\phi$	L-26G 底上16.0cm	芯持 サクラ属	頭部欠損	先端部は削り尖らせている。最先端部はつぶれ、枝は払ってある。樹皮は残っている。	
398 114	杭	155.2×5.0 $\phi$	L-28G 底上10.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	完形	先端部は尖らせている。頭部は面取りをしている。枝を払ってある。	
428 114	丸杭	121.0+ $\alpha$ ×4.5 $\phi$	L-26G 底上19.0cm	芯持 カエデ属類 似種	頭部欠損	先端部は周辺から尖らせている。枝は払ってあり、樹皮が残る。	
402 114	角杭	104.0×4.2×3.4	M-28G 底上28.0cm	分割材 クリ	頭部の一部 欠損	先端部を尖らせている。頭部は剥離している。	
413 114	角材	88.0+ $\alpha$ ×4.0×2.8	L-26G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	分割材の一部を削っている。	
412 114	杭	78.1×7.8×5.2	L-26G 底上10.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は削り尖らせている。頭部はつぶれ、一部剥離している。	
410 114	杭	90.2×9.8×6.0	L-26G 底上16.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部一部欠 損	先端部は尖らせている。頭部は一部つぶれている。割り痕が残る。	
381 114	丸杭	97.3+ $\alpha$ ×3.0 $\phi$	K-25G 底上16.5cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	先端部わず かに欠損	頭部は面取りされ、先端部は尖らせている。枝は落としている。	
399 114	丸棒	136.9+ $\alpha$ ×3.6 $\phi$	L-28G 底上3.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	わずかに樹皮が残る。節部がある。両端部欠損のため、成作痕不明。	
1130 114	建築材?	122.5+ $\alpha$ ×11.0×7.0	L-28G 底上8.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	一端部欠損	一端部は切断され、工具痕が残る。節部が残る。	
385 114	棒状木製品	46.8+ $\alpha$ ×3.5×2.8	L-25G 底上16.0cm	分割材 (加工) モミ属	両端部欠損	表面は丸く仕上げられている。農具の柄の可能性はある。	
429 115	柄?	57.9+ $\alpha$ ×6.0×5.1	L-26G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	一端部は細く、他端部は太めになる。加工木であり、石斧直柄になる可能性をもつ。	
392 115	農具膝柄	着装部 20.2+ $\alpha$ ×2.8 $\phi$ × 削り部1.6 $\phi$ 柄部 6.8+ $\alpha$ ×2.4 $\phi$	K-28G 底上15.5cm	コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	股本部分の み残存	枝分れ部分を利用する。一端部は長さ3cm程の間に削り込まれている部分がある。全体に劣化が進む。	
393 115	鋏	43.0+ $\alpha$ ×7.7+ $\alpha$ ×3.8	L-27G 底面直上	板目 モミ属	長辺・短辺 とも欠損	鋏身の内側に節部がくる。各面は荒れている。柄を装着する部分は隆起しており、断面は台形である。	

1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図230～232

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
389 115	台形木製品	20.2×15.2×8.4	L-26G 底上10.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	両端部分に作成時の工具痕が残る。 使用痕は認められない。	
387 115	くさび状木製品	16.2×5.4×4.0	L-25G 底上4.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	先端部は三面から切断されている。 頭部は面取りを行っている。	
417 115	不明木製品	24.0+α×2.0×0.9	M-31G 底上12.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	板状を呈す。細身からわずかにひろがりをもつ。表面には削り痕を残す。	
416 115	柄?	22.8+α×3.2×2.6	M-31G 底上15.0cm	芯持 ウコギ属	柄の一部残存	柄から敲打部に移るわずかなカーブがあるが、他は欠損の為不明。	
415 115	横槌	22.5+α×8.4×(7.5) 柄 2.5φ	M-31G 底上19.0cm	分割材加工 コナラ属 アカガシ亜属	柄と敲打部 先端部欠損	敲打部の長さは19.0cmで先端部に向かい太くなる。柄との接点は緩やかな丸みをもつ肩部であり、丁寧なつくりである。	
407 115	くさび?	15.5×10.5×4.7	L・M-28G 底上38.0cm	分割材 ヤマグワ	完形	先端部分は二側面から切断。頭部は平坦である。節の部分を使っている。	
433 115	くさび?	16.5+α×5.5×3.5	L-26G 底面直上	分割材 カヤ	一端部欠損	一面は曲状、他面は平面を呈す。曲状部は真上から切り込み、斜めから削った部分をつくる。平面部には細かな削り痕がある。	
382 115	くびれ状木製品	27.8+α×7.5×4.8	K-25G 底上16.5cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	くびれを入れた木製品であり、くびれに近い端部は斜めに切断する。他端部は欠損、表面は炭化している。	
391 115	丸杭	22.7+α×5.7φ	K-27G 底上6.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	頭部欠損	一部に樹皮が残る。先端部は削り尖らせている。	
420 a 116	板	21.5×3.7×2.2	M-31G 底上14.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	端部の一部欠損	ほぼ形状を保つ板材である。端部は斜方向と水平方向から切断されている。	
383 115	糸巻き具	13.5×8.2φ くびれ部径 3.5φ	K-25G 底上20.5cm	芯持 ヤマグワ	長軸方向に 1/3欠損	両端部は面取りを行っている。くびれは深い。	
424 116	角材	16.0+α×3.3×3.2	L-27G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は一方から切断される。断面はほぼ四角形を呈し、削り痕を残す部分がある。	
405 a 116	?	45.0+α×5.3×3.7	M-29G 底上24.5cm	分割材 クリ	一端部欠損	一端部は残存し、斜めに切断されている。一部にコの字状の切り込みがある。工具痕が残る。	
401 116	丸棒	56.8+α×2.7×2.3	L-28G 底上7.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	一端部欠損	端部は周辺から面取りされている。端部から約6cmの部分は削られ、くびれている。	

1号河川跡出土遺物観察表《木器》 図232-233

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
427 116	厚板	68.5+ $\alpha$ ×10.5×4.6	L-26G 底下1.0cm	分割材 カヤ	両端一側欠損	平滑面をつくり出している。	
388 116	板	4.8+ $\alpha$ ×2.1+ $\alpha$ ×1.4	L-26G 底上3.5cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一部残存	分割材を加工してつくられた板の残片である。	
439 116	板状木製品	19.5+ $\alpha$ ×2.9×1.6	K・L-25G 埋没土中	柾目 ヒノキ属	一端部欠損	平坦面をつくり出している。一面には鋭い傷跡とあたり面がある。	
434 116	不明木製品	19.0+ $\alpha$ ×4.5×3.4	L-30G 底下11.5cm	分割材 クリ	一端部欠損	一端部は大きく欠損し、他端部はわずかに欠損する。四面をつくり他端部分はわずかに薄くなり、幅の狭い溝(長さ7.0cm、深さ1.6cm)が残る。	
390 116	板	28.8+ $\alpha$ ×6.0×2.2	L-26G 底上23.0cm	柾目 モミ属	一端部欠損	分割材を加工し、板材としている。あたり部分が残る。	
406 116	板	56.7+ $\alpha$ ×5.5+ $\alpha$ ×2.1	M-29G 底上4.5cm	柾目 モミ属	一端部がわずかに残存	現存する端部は一面方向から斜めに切断する。規模は不明。	
384 116	板	40.0+ $\alpha$ ×5.8+ $\alpha$ ×1.1	L-25G 底上21.5cm	柾目 スギ	一側面のみ残存	全体の形状は不明。平滑な板材である。	
421 116	板	40.2×6.7+ $\alpha$ ×0.7	M-32G 底上18.5cm	板目 スギ	一側面を欠損	平滑な二面をつくり出す。一側面に斜めに面を落とす部分がある。一端部付近に円形の小孔を穿つ。	

2号河川跡出土遺物観察表《縄文土器》1 図237

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
635 117	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部近くの破片。やや幅広い沈線により、逆U字状の区画文が描出されるものと思われる。接合部に刻み目を加えている。加曾利E3式に比定される。	
643 117	縄文土器 深鉢	口縁部破片	2D-64G 12層	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③黄褐10YR5/6	大形土器の口縁部破片。凹線状の幅広い沈線と起伏の小さな幅広い隆帯により、文様構成される。隆帯上にはRL縄文が施されている。加曾利E3式に比定される。	
409 121	縄文土器 ミニチュア	口縁部欠損 底 3.8cm	2C-63G 底面上90.0cm	①かなり多量の粗砂を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5YR6/2	脚台付きのミニチュア土器と思われる。横位の刺突文列が重帯施文される。脚台部の付け根には、右手の第1指～第4指を使った押え痕が残るが、刺突文の施文後に行われている。加曾利B式期の所産と思われる。	
626 117	縄文土器 深鉢	口縁部付近の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③明褐灰5YR7/2	口縁部近くの破片である。凹線状の幅広い沈線で、楕円区画文が描出されるものと思われる。区画内にはRL縄文が充填される。加曾利E3式に比定される。	
644 117	縄文土器 深鉢	体部破片	2C-64G 12層	①砂礫を多量に含む。 ②良好。 ③浅黄2.5Y7/3	大形土器の体部破片。凹線状の幅広い沈線で懸垂状の区画文、蕨手状文が施される。区画内にはLR縄文が充填される。加曾利E3式に比定される。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》1 図237

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
642 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫が混入。 ②良好。 ③灰褐5YR5/2	内面は荒れている。	外面には沈線による区画の中を、交互に縄文と無文部をつくり出す。沈線文が直角に曲がる部分に円形竹管の刺突文がつく。	縄文施文部分に塗彩を行う。
623 117	弥生土器 鉢	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	内面は横撫で整形。	外面口縁部は縄文LRを施文し、下位には沈線による平行線文が明瞭に残る。内面口縁部下位に棒状工具による横線文が一条施文される。	
625 117 117	弥生土器 甕？	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②良好③にぶい黄褐10YR5/4	内外面とも横方向の整形を行っている。	表面には縄文LRが施文されている。	表裏面とも酸化鉄が付着。
624 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③黒褐5YR2/1	口縁端部は鋭く外傾する口唇部である。内面は横撫で整形が行われている。	口唇部を含め、外面には縄文LRを施文。	煤が付着。
640 117	弥生土器 壺？	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR4/1	内面は荒れている。	外面には沈線文の中に縄文LRが施文される。	外面の一部に塗彩。
622 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物を多量に含む。	内面は横方向に器面整形を行い、光沢がある。	外面は横方向に刷毛目整形後縄文LRを施文。これを棒状工具による横線文が切る。	煤が付着。
630 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物を混入。②良好。 ③灰褐5YR5/2	内面は荒れている。	外面は多くの部分が縄文LRで施文される。3本1対の横線文が棒状工具により施文。	一部塗彩されている。
629 117	弥生土器 甕	胴部破片	埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR7/1	内面は横方向に器面調整。	棒状工具による平行沈線文下に縄文LRを施文している。	
632 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量に含む。②良好。 ③褐灰7.5YR5/1	内面は横方向の整形。	縄文LRを施文後、平行沈線文を施文している。	外面に煤が付着。
641 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。③暗赤褐2.5YR3/2	外面の一部は鈍磨き、内面は横撫で。	縄文LRを施文後、横方向に棒状工具による沈線文を施文。	外面に煤が付着。
627 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を少量含む。②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	口縁部は外傾する。	口縁部は縄文施文後、塗彩される。胴上位は2～3重の沈線区画内に縄文LRを施文。	
638 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰褐5YR4/2	内面胴部は荒れている。	縄文をLR施文後、横方向に平行沈線文を配す。	縄文の一部に塗彩。
636 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物を含む。②良好。 ③黒10YR1.7/1	外面は鈍磨きが行われている。	沈線による平行線・斜線が施文される。	沈線内に塗彩。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》1 図237

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
634 117	弥生土器 甕	胴部破片	2C-64G VI層	①白色・黒色鉱物 を含む②やや緩い ③黄灰2.5Y5/1	わずかに外に張りをもつ。内面 は横方向に整形。	棒状工具による沈線文と縄文 充填部を区画。縄文はLR。	
639 117	弥生土器 壺	胴上半破片	第II河道 埋没土中	①黒色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	外面は縦方向に器面整形。	下位には沈線による斜向沈線 文を施文する。	外面一部塗 彩。
628 117	弥生土器 甕?	胴部破片	第II河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③褐7.5YR4/3	内面は横方向に篋磨きが行われ ている。	縄文を地文に施文後、沈線文 を施す。下位には沈線による 斜向沈線文を施文する。	
631 117	弥生土器 壺	胴部破片	第III河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	外面に大きく張りをもつ。内面 は横方向に撫でによる整形痕が 残る。	縄文LR施文後、棒状工具に よる平行沈線文を施文。	
637 117	弥生土器 甕	胴部破片	第III河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③暗赤灰10R3/1	内面は荒れている。	縄文LR施文後、棒状工具に よる沈線文を施文。一部、横 方向の沈線文の間は無文。	

2号河川跡出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図237

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
645	須恵器 羽釜	口縁部破片 口(25.0cm)	埋没土中	①微細砂・黒色鉱物粒 を含む。②普通。 ③灰7.5Y6/1	紐づくり。ロクロ整形。内外面回転で調整。鈔は、 やや内湾して付されている。	
478	須恵器 羽釜	口縁部破片	埋没土中	①砂粒・石英粒を多く 含む。②酸化焙焼成。 ③にぶい黄橙10YR7/2	紐づくり。内外面回転で調整。	
449	土師器 壺	口唇部欠損	埋没土中	①微細砂を多く含む。 ②普通③淡黄2.5Y8/3	有段口縁の壺形土器の口縁部破片。段上の外面には円 形の押型文を付した円形付文を貼付している。	
407 121	土師器 小形高杯	脚部破片	埋没土中	①小石・細砂を多量に 含む。②普通。 ③橙5YR6/6	外面で調整。杯部内面丁寧な磨き調整。脚部中位に は、焼成前に外面から4孔が穿たれている。	
438	土師器 高杯	杯部下半~脚部 上半残存	埋没土中	①細砂・石英粒を多量 に含む。②やや軟質。 ③浅黄橙7.5YR8/4	内外面ともなでられているが、磨耗が著しく、整形痕 の単位は看取できない。	
667	土師器 小形高杯	脚部1/2残存	埋没土中	①細砂・雲母細片を含 む。②やや硬質。 ③にぶい橙5YR7/3	脚部外面縦方向篋磨き。内面横・斜方向刷毛目調整の 後、横方向篋磨き。裾部はなだらかに、大きく開く。 脚部上半には、焼成前に外面から4孔が穿たれている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》2 図238

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
593 117	弥生土器 甕	口縁付近の破 片	第III河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む②やや緩い ③褐灰10YR6/1	口縁部付近は厚く、文様帯をも つ。頭部にかけては縦方向に篋 磨き。内面は荒れている。	口縁部付近には縄文が施文さ れている。縄文はLRLである。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》2 図238

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
458 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・礫を 含む。②良好。 ③黒褐5YR3/1	口縁部は受口状を呈す。内外面 頸部は、篋磨きが横方向に行わ れている。	口縁部から口縁端部にかけて 地文に縄文を施した後ボタン状 貼付文と波状沈線文を施文。	外面に煤が 付着。
419 117	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色夾雑鉱物を 含む。②緩い。 ③淡黄2.5Y8/3	口縁部は受口状を呈す。内外面 とも口縁部は、横方向の撫で整 形。頸部寄り縦方向の磨き。	口縁部は、櫛描波状文と円形 刺突文施文のボタン状貼付文 を付している。	
433 117	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64G 12層	①小礫・雲母を含 む。②良好。③に ぶい橙10R6/4	口縁部は受口状を呈す。外面は 櫛状工具による横方向の整形、 内面は撫でによる整形痕を残す。	口縁端部は刻み目、口縁部は 2条の波状沈線文を施文して いる。	外面は塗彩。
584 117	弥生土器 壺?	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。②良好。 ③灰白10YR8/1	口縁部は受口状を呈し、内外面 とも横方向の撫で、頸部は斜方 向に器面調整を行っている。	口縁部から口縁端部にかけて 地文に縄文を施した後、波状沈 線文を施文。	外面口縁部 は塗彩。
594 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③褐灰7.5YR6/1	口縁部はわずかに受口状を呈し ている。内面は横方向に器面整 形を行い、光沢をもっている。	口縁端部は縄文、口縁部は2 本の沈線による波状文を施文。	
464 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑鉱物を 含む。②やや緩い。 ③浅黄橙10YR8/3	口縁部は外反する。内外面とも 横方向に器面整形を行う。	口縁端部は縄文、頸部と肩部 に櫛描波状文を施文。	3条1単位 の櫛。
558 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉱物・雲母 を含む②やや緩い ③黒褐7.5YR3/1	口縁部は外反する。外面は荒れ ている。口縁部は外面横撫で、 内面は篋磨きが行われている。	口縁端部は刺突文、頸部は櫛 状文が右廻りで施文されてい る。	
447 117	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-63G 12層	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好 ③灰黄褐10YR4/2	口縁部は外反し、外面は横撫で、 内面は磨き痕が残る。	口縁端部は刻み目、頸部は櫛 描横線文(糜状文?)を施文し ている。	
659 117	弥生土器 甕	口縁部～肩部 破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	口縁部は外反する。口縁部外面 は横方向に撫で、内面も横方向 に整形されている。	口縁端部は縄文、肩部には櫛 描羽状文が施文されている。	
595 117	弥生土器 壺?	頸部破片	埋没土中	①小礫・雲母・白 色鉱物を含む②緩 い③黒褐10YR2/3	内面は荒れている。	棒状工具による横線文間に、 縄文RLを施文している。	
570 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。②良好。 ③灰黄2.5Y6/2	胴部外面と内面の一部は斜・横 方向に棒状工具による器面調整、 内面の一部は篋(棒)状工具によ り器面整形が行われている。	沈線による横線文がほぼ等間 隔で配され、地文に縄文を施 文後には波状沈線文、他は斜 方向に沈線文を配す。	591と同一 個体
590 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を少量含む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR6/1	内外面とも横方向の器面整形。 外面の一部は斜方向の器面調整 を行っている。	地文に縄文を施文後、2本の 沈線による平行線文と曲線文 を施文している。	
617 117	弥生土器 壺?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	内面は撫でによる整形と思われ る。	沈線内に縄文RLを充填して いる。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》2 図238

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
619 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物を少量 含む②やや緩い。 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部はわずかに丸みをもつ。外 面は横方向に器面調整、内面は 不明瞭である。	沈線内に縄文RLを充填して いる。縄文は不明瞭である。	
565 117	弥生土器 甕	胴部破片	2C-63G 底面上46.0cm	①多量の白色鉾物 と雲母を含む。 ②良好。 ③黒10YR2/1	外面は斜方向の刷毛目整形、内 面は横方向の器面整形を行って いる。	沈線による横線文の間に、沈 線による鋸歯文(地文に縄文 LR)と櫛描横線文を施文。	
579 117	弥生土器 甕?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉾物・ 雲母を含む②良好 ③黒7.5YR2/1	二次的な火を受けて、表面が発 泡したかのようにみられる。内 面も荒れている。	沈線による横線文と鋸歯文が が施文され、後者の地文に縄 文がみられる。	
566 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物・小礫 を含む。②良好。 ③にぶい橙2.5YR 6/4	やや長めの頸部の一部である。 外面は斜、内面は縦・横方向の 器面調整を行っている。	平行沈線文が4本確認でき、 間隔の広い部分には地文に縄 文RLを充填させ、2本の沈 線による鋸歯文を施文。	
585 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・雲母を少 量含む②やや緩い ③灰黄褐10YR6/2	胴部内面は横方向に篋で整形が 行われている。	地文に縄文RLを施文し、平 行沈線文間に沈線による鋸 歯文を施文している。	外面は煤が 付着。
597 117	弥生土器 甕	胴部破片	埋没土中	①白色鉾物・雲母 を含む。②良好。 ③灰5Y4/1	内面は横方向に器面調整を行っ ている。	沈線による横線文と舌状文が あり、後者内を縄文RLで充 填している。	
582 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂粒子を含む。 ②良好。 ③灰白7.5Y7/1	内外面とも横方向に器面調整を 行っている。	沈線による横線文を境とし、 上位に縄文LRを施文する。	
606 117	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①小礫・白色鉾物 を多量に含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	内面は荒れている。	縄文施文後、沈線による横線 文を施文。口縁部付近の縄文 は磨消している。	
575 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉾物 を多量に含む。 ②やや緩い。 ③灰黄褐10YR5/2	器面は荒れており、整形技術を 読み取ることが不可能である。	地文に縄文LRを施文し、沈 線による横線文を施文。	
616 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/2	外面は斜方向・内面は横方向に 器面調整を行っている。	平行沈線文間を縄文LR、櫛 描波状文により充填している。	
589 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉾物を多量 に含む②やや緩い ③灰白7.5YR8/2	器面が荒れている。胴部中位付 近の破片である。	地文に縄文LRを施文した後 に、沈線による連弧文を施文 する。	
583 117	弥生土器 壺	口縁部-頸部 破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉾物粒を多 量に含む。②良好。 ③灰5Y5/1	口縁部は大きく外反する。外面 は斜方向、内面はほぼ横方向に 器面整形を行っている。	頸部は沈線による横線文の下 位に、縄文LRで施文した後、 沈線による鋸歯文を施文。	
448 117	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63G 12層	①白色鉾物粒・雲 母を含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	内面は横方向の器面整形を行っ ている。	櫛描横線文と縄文RLを施文 している。	



2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》2 図238

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
572 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈳物・小礫 を含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	やや内湾し、内外面とも斜方向 に器面調整を行っている。	沈線による横線文と連弧文が あり、部分的に規則的な縄文 R L 充填がある。	
485 117	弥生土器 甕	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②やや緩い。 ③灰白5Y8/1	内外面とも横方向の器面調整を 行っている。	沈線による横線文の上に、 櫛描波状文が施文される。	
471 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈳物・雲母 を含む②やや緩い ③灰黄2.5Y7/2	わずかに内湾し、外面は縦方向、 内面は横方向の器面整形を行っ ている。	6条1単位の櫛描波状文と沈 線による横線文が施文される。	
633 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鈳物・雲母 を含む。②緩い。 ③灰白2.5Y7/1	形状はわずかに内湾している。 外面は一部に刷毛目整形が行わ れており、内面は荒れている。	沈線による曲線と縄文L Rが 施文されている。	
599 117	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鈳物粒を含 む。良好。 ③黒褐2.5Y3/1	口縁部は内側で横方向の艶磨き が行われている。	口縁部・口縁端部は縄文L R が施文されている。	外面は煤が 付着。
403 117	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G 底面直上	①小礫・白色鈳物 を含む②良好③に ぶい橙10YR6/3	外面文様部は縦方向に刷毛目、 文様下部は艶磨き、内面は横方 向に器面調整を行っている。	櫛描波状文、沈線による横線 文が施文されている。	
602 117	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈳物粒を含 む。②緩い。 ③灰白5Y8/1	頸部は輪積痕が内外面とも残る。 器面は内外面とも荒れている。	縄文L Rが施文される。	
568 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鈳物 を含む。②良好。 ③黒褐5YR2/1	内面は横・斜方向に器面整形が 行われている。	縄文L Rが施文されている。	外面は煤が 付着。
578 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈳物を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR5/1	内面は横方向の器面調整が行わ れている。	縄文L 捻糸(絡条体回転圧痕) が施文されている。	外面は煤が 付着。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》3 図239

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
580 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。 ③明褐灰7.5YR7/1	頸部付近の破片である。	平行沈線文が頸部に4本確認 され、下位に斜方向の沈線文 が施文されている。	内面は炭素 が付着。
603 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈳物粒・雲 母を含む②やや緩 い③明褐灰5YR7/1	わずかに外反する。内面は荒れ が激しい。	沈線による平行線文と斜行線 文が施文されている。	沈線の一部 に塗彩。
569 117	弥生土器 壺	肩部破片	埋没土中	①小礫・白色鈳物 を含む②やや緩い ③灰褐10YR5/1	頸部付近はやや外反する。内面 は荒れている。	沈線文は平行に施文され、間 隔の広い部分に縄文を施文。	
445 117	弥生土器 壺	胴部破片	2C-63G 12層	①白色鈳物を多量 に含む②やや緩い ③にぶい橙7.5YR7 /3	胴部最大幅部分から肩部にかけ て、内湾しながら立ち上がる。 内面は横撫で整形が行われてい る。胴最大幅部分に突起をもつ。	沈線による平行線文の間に鋸 歯文が入る。突起部分は土器 表面との接点で円形の穴を有 している。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》3 図239

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
613 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①細砂粒子をわず かに混入。②良好。 ③灰5Y5/1	表面は斜方向に器面調整が行わ れ、内面は横方向にわずかの器 面調整が行われている。	平行沈線文が施文されている 中に、沈線による鋸歯文が数 条に1回の割りで施文される。	
573 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。③にぶい 褐7.5YR6/3	くびれ部は外反し、内面は横方 向に器面調整を行っている。	平行沈線間に鋸歯文が施文さ れている。	
452 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂粒子・雲母を 少量含む。②良好。 ③灰白2.5Y8/2	くびれ部外面は縦方向に近い刷 毛目調整、内面は横方向の刷毛 目調整が行われている。	2条1単位の波状沈線文2組 4本が、平行沈線文内にある。 下位の直線文に波状沈線最下 段は切られている。	
604 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を少量 含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 6/3	外面頸部は斜方向の刷毛目、肩 部と内面は横方向の器面調整を 行っている。	平行沈線文内に2条1単位の 波状文2組4本が施文、平行 線上下に寛描鋸歯文内斜方向 の平行沈線文が施文される。	
574 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②やや緩 い。③灰白5Y8/1	胴部は丸身をもつ。内面は横方 向に整形が行われている。	平行沈線文と波状文が施文さ れている。	
586 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫が混入する。 ②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	くびれ部内面は横方向の器面調 整が行われている。	沈線による平行線文や波状文 の他に、刺突文が施文される。	
577 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 が混入。②良好。 ③褐灰10YR6/1	内面は黒く炭化し、器面がくず れやすい状況である。	沈線による平行垂下文と波状 垂下文が施文されている。	
576 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む②やや緩 い③灰黄2.5Y7/2	全体に二次的な火を受け、内面 は黒くなっている。	平行沈線文間の一区画に、刺 突状の刻み目を入れる。	
596 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色粒子をわず かに含む②良好 ③褐灰7.5YR6/1	内面が荒れている。	波状沈線文内に刺突文を施文 する。	
474 117	弥生土器 甕?	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③明褐灰5YR7/2	内外面とも横方向に器面調整が 行われている。	先の尖った篋状工具使用と思 われる刺突文が施文。	
620 117	弥生土器 壺	頸部～肩部 破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/2	外面頸部は縦方向の刷毛目、内 面は横撫で、外面肩部は篋磨き が行われている。	3条の平行沈線文が施文され ている。	
567 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂質、白色粒子 が多い。 ②良好。③にぶい 褐7.5YR5/4	外面は縦方向の篋磨き。内面は 横方向の器面調整が行われてい る。	沈線による横線文が施文され ている。	
571 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR6/1	外面は縦方向に篋磨き、内面は 幅1cm前後の工具で器面調整。	沈線による横線文を施文。	
454 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。③にぶい 橙5YR7/3	内外面とも横方向の器面調整。	沈線による横線文を施文。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》3 図239

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
614 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③淡橙5YR8/3	二次的な火を受けているため、 整形方法は不明。	沈線による平行線文が施文さ れている。	
610 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。③にぶい 黄橙10YR7/2	外面は縦方向、内面は横方向の 器面調整を行っている。	頸部には沈線による横線文が 施文されている。	
607 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。 ③灰7.5Y4/1	内外面とも横方向に器面調整を 行っている。	沈線による横線文が施文され ている。	
581 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	胴部内面は輪積痕が残り、横方 向に器面整形を行う。外面は斜 方向に器面調整を行っている。	沈線による波状文と思われる 文様が残る。	
609 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	胴部外面は斜方向、内面は横方 向に器面調整が行われている。	沈線による垂下文が施文され ている。	
605 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・小 礫を含む。②良好。 ③褐灰10YR4/1	胴部内外面は幅1cm内外の木口 状工具により、横方向の器面調 整。	平行沈線文を施文。	
618 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。③に ぶい黄橙10YR7/3	頸部は縦方向の鈍磨き。内面は 荒れが激しい。	平行沈線文を施文。	
615 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①雲母を少量含む。 ②良好。 ③褐灰10YR4/1	胴部の破片であり、外面は斜方 向の鈍磨き、内面は横方向の刷 毛目調整が行われている。	沈線による連弧文が施文され ている。	
612 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂質。雲母を含 む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	内外面とも横方向の器面調整が 行われている。	平行沈線文が施文されている。	
598 117	弥生土器 壺	胴部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好。 ③灰黄橙10YR5/2	胴最大幅部分であり、外面は横 方向の鈍磨き、内面は横撫で整 形。	沈線による連弧文が施文され ている。	
611 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・小 礫を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y5/1	胴部は横方向の鈍磨き。内面は 荒れているが、横方向の撫で痕 が残る。	沈線による連弧文が施文され ている。	
608 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を多 量に含む。②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	外面は横方向の鈍磨き、内面は 横撫で。内外面とも黒い炭化物 が付着。	沈線による連弧文が施文され ている。	
592 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰白7.5Y7/1	内外面とも横撫でが行われてい る。	沈線による平行線文と連弧文 が施文されている。	
470 117	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物 粒を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	胴下半部の破片と思われる。外 面は鈍磨き、内面は横撫でが行 われている。	沈線文の間に縄文が施文され た後、鈍磨きで文様が消され ている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》3 図239

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
587 117	弥生土器 壺	頸部破片	埋没土中	①砂質。小礫が混入。②良好。 ③灰5Y5/1	外面は縦方向に刷毛目整形、内面は横撫でが行われている。	櫛描波状文の下に沈線による横線文が施文されている。	
658 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅲ河道埋没土中	①小礫・白色粒子を少量含む②良好 ③赤黒2.5YR2/1	くびれ部内面は、横方向の器面調整が行われている。	沈線による横線文の中を篋状工具による羽状文が施文されている。	
509 117	弥生土器 壺	頸部付近の破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③浅黄橙7.5YR8/3	口縁部は大きく外反する。内外面とも横方向の刷毛目整形を主としている。	頸部には櫛描横線文が施文され、肩部には平行沈線文がある。	516と同じ固体と考える。
516 117	弥生土器 壺	頸部～肩部の破片	第Ⅱ河道埋没土中	①小礫・雲母を含む。②良好。③に ぶい橙7.5YR7/3	頸部は大きく、くびれる。内外面とも横方向の刷毛目整形が行われている。	頸部には櫛描横線文が施文され、肩部には平行沈線文がある。	509と同じ固体と考える。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》4 図240

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
663 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	胴上半部はわずかに内湾する。内面は横方向に器面調整が行われている。	櫛状工具により、細かく羽状文が施文されている。	二次的な火を受けている。
559 117	弥生土器 甕	肩部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③褐灰10YR5/1	頸部に近接する。外面は横方向に刷毛目、内面は横方向に篋磨きが行われている。	6条1単位の櫛状工具により羽状文を密に施文している。	
662 117	弥生土器 甕	頸部～肩部破片	第Ⅲ河道埋没土中	①白色鉱物粒・雲母を含む。②良好。 ③褐灰5YR4/1	頸部はわずかにくびれる。内面は横方向に磨きかけられている。	頸部は篋状文、肩部から胴部にかけては櫛状工具により、羽状文が施文されている。	外面に煤が付着。
522 117	弥生土器 甕	胴部破片	埋没土中	①白色鉱物粒・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	器肉はやや薄く、内湾している。外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向の器面調整痕が残る。	4条1単位の櫛状工具による羽状格子目文が施文されている。	
396 117	弥生土器 甕	胴部破片	2C-63G 底面直上	①夾雑鉱物を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	胴部最大幅部分はわずかに丸みをもち、内面は横方向に篋磨きが行われ、光沢をもっている。	7条1単位の櫛状工具による羽状格子目文が施文されている。	外面に煤が付着。
660 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道埋没土中	①白色鉱物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	胴部は内湾しており、内面は横方向に磨き痕が残る。	5条1単位の櫛状工具による羽状文が施文されている。	外面に煤が付着。
446 117	弥生土器 甕	胴部破片	2C-63G 12層	①小礫を多量に含む。②良好。 ③灰褐5YR5/1	外面は櫛状工具、内面は撫でによる横方向の整形。	4条1単位の櫛状工具による羽状文が施文されている。	
468 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色鉱物粒を少量含む。②良好。 ③灰5Y6/1	内外面とも器面整形が行われ、刷毛目痕が横走する。	肩部に櫛描波状文を施文後、櫛状工具による格子目文が胴部に施文されている。	
557 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道埋没土中	①白色鉱物粒を含む。②良好。 ③黒5Y2/1	胴上半部は丸みをもつ。内面は横方向の器面整形。	肩部は櫛描波状文。胴部は櫛状工具による羽状文を施文。	外面に煤が付着。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》4 図240

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
521 117	弥生土器 甕	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物を少量含む。②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	内面は横方向に器面調整を行っている。	頸部は右廻りの簾状文、肩部に6条1単位の櫛描波状文を施文している。	
402 117	弥生土器 甕	肩部破片	2C-63G 底面上35.0cm	①白色鉾物粒・雲母を含む。②良好。 ③黒褐5YR3/1	頸部はわずかにくびれる。内面は器面整形され、光沢がある。	棒状工具によりコの字重文を施文後、ボタン状貼付文を配す。	
601 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	胴中位の破片は丸みをもち、内外面とも横方向の器面調整を行っている。	棒状工具により、コの字重文を施文している。	
600 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物を含む。 ②良好。③にぶい 橙7.5YR7/4	胴中位は内湾している。外面は縦、内面は横方向の器面整形を行っている。	棒状工具により、横線文が施文されている。コの字重文になる可能性がある。	
473 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①砂質。白色鉾物を多量に含む。 ②良好。③にぶい 赤褐5YR5/3	内外面とも横方向の器面調整を行っている。	篋状工具にて、直線文が描かれている。	
523 117	弥生土器 小形甕	口縁部～胴部 の破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む。②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	口縁部は大きく外反し横方向の整形、内面胴部は櫛状工具・棒状工具による横方向の器面整形が行われている。	頸部から胴下半部まで波状文が施文され、2本の直線区画として垂下文がある。	
666 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・砂粒子を含む②良好③にぶい 赤褐2.5YR4/4	胴部は内湾する。内面は横方向の器面調整が行われている。	肩部上位に櫛描横文と、胴部に垂下文を配され、間を櫛描波状文で充填している。	
588 117	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉾物を含む。 ②良好。 ③灰白5YR8/1	口縁部は大きく外反する。口縁外面は横撫で、内面は篋磨き。	櫛描波状文施文後、櫛状工具による垂下文を施文。	
465 117	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴下半部はわずかに内湾する。外面胴部は横方向の刷毛目、下位と内面は磨かれ、光沢がある。	櫛描波状文による垂下文施文後、同文様を横方向に充填している。	外面には煤が付着する。
398 117	弥生土器 壺	肩部破片	2D-63G 底面直上	①白色鉾物・植物茎を含む。②良好。 ③暗褐7.5YR3/3	頸部はわずかにくびれ、外反する。外面文様部分は横方向に荒く器面調整、他は多方向へ篋磨き。内面は横方向の器面調整。	頸部は櫛描横線文、肩部は引き続いて篋工具により鋸歯文内に平行沈線文を充填、ボタン状貼付文を配す。	
543 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫をわずかに含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	外面は縦横に器面整形が行われている。	頸部には右廻りの簾状文をが施文される。篋状工具による平行沈線文を直下の鋸歯文内に充填。	
545 117	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物・雲母を含む。②良好。 ③灰白10YR8/1	外面は斜方向、内面は横方向に器面調整が行われている。	7条1単位の簾状文が右廻りで施文。篋状工具による平行沈線文を直下の鋸歯文内に充填。	
532 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉾物を含む。 ②良好。 ③橙7.5YR7/6	頸部外面は横、内面は斜方向に器面整形が行われている。	沈線文の上下を、篋状工具により鋸歯文内を平行沈線文で充填。	

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉4 図240

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
461 117	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7 /3	外面は縦方向に器面整形が行わ れる。内面は荒れている。	頸部は簾状文が左廻りに施文。 直下に、篋状工具により鋸歯 文を施文。内側に斜向沈線文 を充填。	
457 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 を含む②良好③に ぶい橙7.5YR7/4	外面は縦方向に篋磨き、内面は 横撫でが行われている。	頸部には櫛描波状文、直下の 篋先による鋸歯文内に斜格子 目文を施文している。	
491 117	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む②良好③に ぶい褐7.5YR6/3	頸部内面は横方向の器面調整を 行っている。	頸部には右廻りの簾状文が施 文。直下に、篋先による斜格 子目文を施文。	
536 117	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G 底面上10.0cm	①白色鉱物を少量 含む②良好③にぶ い黄橙10YR7/2	内外面とも櫛状工具により、器 面調整を行っている。	沈線による鋸歯文内に円形刺 突文を施文している。	
535 117	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母・白 色鉱物を少量含む。 ②やや緩い。 ③明褐灰5YR7/2	外面は縦方向の器面調整。内面 は横方向の撫で整形を行って いる。	頸部は櫛描波状文、直下に、 篋先による鋸歯文を施文し、 頂点にボタン状貼付文、両文 様内に円形刺突文を充填。	

2号河川跡出土遺物観察表〈弥生土器〉5 図241

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
554 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫や白色鉱物 を含む。②焼きし まっている。③に ぶい橙5YR7/3	折返し口縁をわずかに認める。 口縁端部は丸みをもつ。内面は 横撫でによる整形痕がある。	折返し口縁部とその下には6 条1単位の櫛描波状文が施文 されている。	
664 118	弥生土器 甕	口縁部破片	埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白5Y7/2	折返し口縁を有す。外面は横方 向に篋磨き痕がある。内面は横 方向に撫で痕がある。	口縁端部は縄文RL(2本の 付加条)を施文。	
477 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2D-64G 12層	①雲母を多量に含 む。②良好。 ③褐灰7.5YR5/1	折返し口縁を有す。口縁端部は 丸みをもつ。	外面は6条1単位の櫛描波状 文を有す。	
564 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②焼きし まっている。③褐 灰7.5YR4/1	折返し口縁を有す。口縁端部は わずかに丸みをもつ。外面は縦、 内面は横方向に器面調整。	折返し口縁外面に5条1単 位の櫛描波状文を施文。	外面に煤が 付着。
412 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①夾雑鉱物を含む。 ②焼きし まっている③褐灰10YR5/1	折返し口縁を有す。口縁端部は 丸みをもつ。内面は横方向の撫 で整形。	6条1単位の櫛描波状文が施 文されている。	
528 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物をわず かに含む②良好 ③暗灰黄2.5Y5/2	折返し口縁を有す。口縁端部は 丸みもち、部分的に刻みを入 れる。内面は横方向の撫で整形。	外面口縁部は櫛描波状文を施 文。	内面は塗彩。
482 118	弥生土器 壺	口縁部～胴部 破片	2D-64G 12層	①雲母をわずかに 含む②ややあまい ③灰白10YR8/2	折返し口縁を有す。外面は縦、 内面は横方向に器面調整を行っ ている。	折返し口縁部に櫛描波状文が 施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》5 図241

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
551 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物・ 雲母を含む。②良 好。③にぶい褐7. 5YR6/3	口縁部は大きく外反し、折返し を有した上に棒状付文がある。 外面上位は横、下位は縦方向に 器面調整され、内面は横撫で。	口縁部には1本の棒状付文が 見られる。	
539 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰褐5YR6/2	折返し口縁を有す。口縁端部は 丸みをもつ。折返し部分には棒 状付文が貼付されている。	口縁部には棒状付文が2本あ り、櫛描波状文が施文されて いる。	内面は塗彩。
529 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y6/2	折返し口縁を有す。外面は横撫 で、内面は光沢をもつ整形であ る。	口縁端部は縄文R Lの圧痕を 施文している。	
481 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2D-64G 12層	①小礫を多量に含 む。②やや緩い。 ③淡橙5YR8/3	折返し口縁を有す。外面口縁部 付近は横撫で、下位は縦方向、 内面は横方向の器面調整。	口縁端部は刻み目を入れる。	
483 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	折返し口縁を有す内面と外面口 縁部付近は横撫で、外面下部に は横方向の磨き痕がある。	内面は塗彩が行われている。 折返し口縁部は刻み目を入れ る。	
425 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰白7.5Y7/1	折返し口縁を有す。口縁端部は 尖っている。内外面とも斜方向 に刷毛目調整痕がある。	折返し口縁に長さ1.3cm、幅 1.5mmの櫛(篋)状工具によ る押圧文がある。	
434 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G Ⅵ層	①砂質。白色粒子 を含む。②緩い。 ③黄灰2.5Y4/1	折返し口縁を有す。口縁断面は 三角形に近い形状をしている。 外面は斜方向の刷毛目、内面 には横方向の整形痕がある。	口縁部は刻み目をもつ。	
429 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	折返し口縁を有す。内外面とも 横、斜方向に器面整形を行って いる。	折返し口縁部に横方向の沈線 を施文後、斜方向に刻み目状 の沈線を施文している。	
413 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色・夾雑鉱物 を含む。②やや緩 い③褐灰7.5YR5/1	折返し口縁を有す。口縁部は丸 みをもつ。内外面とも横方向の 器面調整を行っている。	頸部から口縁部にかけて櫛描 波状文を施文している。	
439 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-62G Ⅵ層	①白色鉱物を含む。 ②緩い。③にぶい 橙7.5YR7/4	折返し口縁を有し、大きく外反 する。内外面とも器面は荒れて いる。	折返し口縁部外面には櫛状工 具による押圧文が入る。	
432 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②やや緩い。 ③橙7.5Y7/6	折返し口縁を有す。口縁端部は わずかに丸みをもつ。内面と外 面折返し部付近は横撫で、下位 は縦方向の器面調整。	折返し口縁部外面に縦方向の 浅く、広目の刻み目が入る。	
431 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色粒子を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y8/2	折返し口縁を有す。内面と外面 口縁部は横方向の整形、外面頸 部は縦方向の刷毛目整形が行わ れている。	口縁端部は刻み目を入れる。	
422 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物をわず かに含む②やや緩 い③灰黄2.5Y7/2	口縁部は外反し、口縁端部は尖 っている。外面は櫛状工具によ る斜、内面は横方向の器面整形。	口縁端部寄りには細かな櫛描波 状文を施文。以下は荒く7条 1単位の櫛描波状文を施文。	外面にわず かに煤が付 着。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》5 図241

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
400 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63G 底面上8.0cm	①白色鉱物・小礫 を含む②良好③に ぶい橙7.5YR7/4	折返し口縁を有す。外面整形は 横方向の刷毛目後、縦方向の篋 磨き。内面は横方向の器面調整。	外面折り返し口縁部に文様 があるが器面が荒れており不明。	
399 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 底面上79.0cm	①白色鉱物を含む。 ②やや緩い。 ③褐灰10YR4/1	頸部から口縁部にかけてわずか に外反する。口縁端部は丸みをも つ。内外面とも横方向の整形。	7条1単位の櫛描波状文が4 段施文。頸部には簾状文が施 文されている。	47と接合。 同一個体。
553 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-63G 底面上16.0cm	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄褐10YR4/2	頸部から口縁部にかけて外反す る。内面は黒色で光沢を帯びて おり、横方向の器面調整。	櫛描波状文が口縁部から頸部 にかけて施文、さらに下部へ と施文されている。	外面に煤が 付着。
517 118	弥生土器 壺	口縁部・胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白10YR8/1	口縁部は外反し、口縁端部は丸 みをもつ。内面は横方向の器面 調整を行っている。	頸部に右廻りの簾状文を施文 後、口縁部・胴部に櫛描波状 文を施文。	
420 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物を含む、 堅緻。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 6/3	口縁部は外反し、口縁端部は尖 っている。内面は横方向の器面 整形を行っている。	櫛描波状文が口縁部から頸部 方向に向け、順次施文されて いる。	
480 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64G 12層	①輝石・白色鉱物 を含む、堅緻②良 好③黄灰2.5Y5/1	口縁部は外反しながら、わずか に内湾する。内面横撫で整形。	5条1単位の細かい櫛描波状 文が上位から下位へ施文。	外面にわず かに煤が付 着。
556 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①輝石・小礫を含 む。②やや緩い。 ③黒褐10YR3/1	口縁部は外反する。内面は横方 向の器面調整が行われている。	5条1単位の櫛描波状文を施 文。4段確認ができる。	
560 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 を含む。②良好。 ③暗赤灰2.5YR3/1	口縁部は外反する。口縁端部は 丸みをもつ。内外面とも刷毛目 による器面整形が行われている。	口縁部付近に3段分櫛描波状 文が施文されている。施文は 荒れている。	外面に煤が 付着。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》6 図242

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
561 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③黒褐5YR3/1	内面は横方向に篋磨き。口縁部 付近にボタン状貼付文(円形刺 穴4個)がある。	櫛描波状文が外面全体と口縁 端部に施文されている。	外面に煤が 付着。
563 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③黒褐10YR3/1	口縁部は外反する。口縁端部は 丸みをもつ。内面は横方向の器 面整形を行っている。	櫛描波状文が口縁部から胴中 位まで施文されている。(3 段分)	外面に煤が 付着。
459 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。②良好。③オ リーブ黒5Y3/1	口縁部は外反しながら立ち上が り、端部は立つ。内外面とも横 方向の器面整形を行っている。	6条1単位の櫛状工具により 波状文を施文。曲面が多く、 櫛状工具の当たらない場所が 多い。	内外面に煤 が付着。
479 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2D-64G 12層	①小礫・雲母を含 む。②やや緩い。 ③暗赤灰2.5YR3/1	内外面とも横方向に器面整形が 行われている。	4条1単位の櫛描波状文が施 文されている。3段分確認。	



2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》6 図242

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
488 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2D-64 G 12層	①白色粒子・雲母を含む。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	口縁部は外反し、端部外面はわずかに立つ。内面は横方向の撫で。	口縁部から頸部にかけて櫛描波状文が施文されている。	
486 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物粒を多量に含む砂質土。 ②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部は外反し、端部は丸みをもつ。内外面とも横方向の器面整形痕が残る。	8条1単位の櫛描波状文が口縁部に施文されている。	
416 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64 G 12層	①小礫が混入。 ②良好。 ③黄灰2.5Y5/1	頸部から口縁にかけ外反し、口縁部では受口状に変化する。外面口縁と内面は横、外面頸部は縦方向の器面整形を行っている。	櫛描波状文が口縁端部に細かく行われ、頸部には大きな波長で施文されている。 7条1単位。	
462 118	弥生土器 甕	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含む。②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	口縁部は受口状を呈す。外面頸部上位は斜方向の器面整形を櫛状工具で行い、内面は横方向に篋磨きが行われている。	口縁端部は篋状工具により刻み目を入れ、口縁部は6条1単位の櫛描波状文。頸部は等間隔止の右廻り。	外面にわずかに煤が付着。
397 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63 G 底面上21.0cm	①多量の白色鉾物と小礫を含む。 ②良好。③オリープ黒7.5Y3/1	口縁部は大きく外反する。外面口縁は横撫で。以下頸部間は縦方向の刷毛目、内面は横方向の篋磨きが行われている。	口縁端部付近に櫛描波状文が施文され、頸部には2連止の簾状文が右廻りに施文されている。	内外面に煤が付着。
427 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64 G 12層	①白色粒子・小礫を含む②やや緩い ③灰褐5YR6/2	焼成後、器面が荒れている。外面は縦方向の刷毛目、内面は横撫で整形が行われている。	口縁端部付近は櫛描波状文、頸部は櫛描横線文(簾状文と考えられる)が施文。	
469 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①わずかに白色粒子を含む②良好 ③灰白2.5Y8/2	口縁部はわずかに受口状を呈す。外面は横方向の撫で、内面は磨きが行われている。	口縁部に3回にわたり、櫛描波状文が施文されている。	
404 118	弥生土器 壺	口縁部破片	2C-63 G 底面上20.0cm	①雲母・礫を含む。 ②良好。 ③黒褐2.5Y4/1	頸部から口縁部に向けて外反し、口縁端部は立ち上がる。外面は縦方向に櫛状工具による整形、内面は横方向に篋磨き整形。	口縁端部付近は櫛状工具による波状文を施文。頸部は簾状文が右廻りに施文されている。	外面にわずかに煤が付着。
466 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を含む砂質土②やや緩い ③灰黄褐10YR4/2	口縁部はわずかに内湾する。外面口縁と内面は横方向、外面頸部までは縦方向の器面調整。	口縁端部は刻み目が施文されている。	
548 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・小礫を含む。②やや緩い。 ③褐灰10YR4/1	口縁部は外反する。口縁外面は横撫で、内面は板状工具による器面整形を行っている。	口縁端部は櫛描波状文を施文後、円形刺突文6穴を持つボタン状貼付文、頸部は簾状文を施文している。	内外面にわずかに煤が付着。
455 118	弥生土器 甕	口縁部破片 口(11.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物粒を多量に含む。②良好。 ③黒褐5YR3/1	口縁部は受口状を呈す。外面は刷毛目整形、内面は横方向に磨きかけられている。	頸部には右廻りの簾状文が施文されている。	外面に煤が付着。
411 118	弥生土器 甕	口縁部破片	2C-64 G 12層	①白色粒子・雲母を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y4/1	内外面とも横方向に撫で整形後、内面口縁部は篋磨きを行っている。	頸部は7条1単位の右廻りの2連止簾状文を下位の櫛描波状文を切って施文。	外面に煤が付着。
526 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物粒を多量に含む。②良好。 ③赤7.5R4/6	折返し口縁を有し、口縁端部は丸みをもつ。内外面とも横方向の器面調整を行っている。	折返し口縁部に縦方向の刻み目を入れている。	内外面とも塗彩。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》6 図242

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
520 118	弥生土器 壺	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鈹物を 多量に含む。 ②良好。 ③明赤褐2.5YR5/6	折返し口縁を有す。内面は篋磨 き。焼成後、器面が荒れる。	口縁端部に細かな刻み目を入 れる。	内外面とも 塗彩。
519 118	弥生土器 高坏	坏部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫が多量に入 る。②良好。 ③赤10R4/6	口縁端部は大きく外反する。外 面は縦方向、内面は横方向に器 面調整を行っている。	内外面とも塗彩が行われ ている。	
525 118	弥生土器 高坏?	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物粒を多 量に含む。②良好。 ③赤褐10R4/4	口縁部は立ち上がる。内面は磨 きによる整形で、光沢をもつ。	口縁部に櫛描横線文を入れる。	内外面とも 塗彩。
518 118	弥生土器 高坏	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物粒を含 む砂質土。②良好。 ③赤10R4/6	内湾しながら外反し、口縁端部 は平坦をつくる。器面は篋磨き。	口縁端部に細かな刻み目が入 る。	内外面とも 塗彩。
489 118	弥生土器 高坏	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物を含む。 ②やや緩い③にぶ い橙7.5YR7/3	口縁部は大きく外反する。外面 は荒れている。	口縁端部は刻み目を入れる。	内面は塗彩。
555 118	弥生土器 甕	口縁部～胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物を含む。 ②やや緩い。 ③灰黄2.5Y7/6	外面は横撫で、内面は横方向の 篋磨き整形。内面は黒い。	口縁部は細い工具により、刻 み目を入れる。	
437 118	弥生土器 高坏	口縁部破片	2C-64G 12層	①小礫を含む。 ②良好。 ③橙5YR6/6	口縁部は鶏冠状を呈し、口縁付 近で外反する形状である。外面 は横撫で。		内面は塗彩。
527 118	弥生土器 高坏	口縁部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物・小礫 を含む。②良好。 ③褐灰5YR4/1	口縁部は鶏冠状を呈し、口縁付 で外反する形状である。内外面 とも篋磨き。	内面全体と外面の一部に塗彩 が行われている。	
540 118	弥生土器 甕	胴部上半部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小砂を含む砂質 土。②良好。③に ぶい黄橙10YR7/2	肩部から胴部にかけて丸身をも つ。外面は縦方向に刷毛目整形、 塗彩部分は篋磨き、内面は横方 向に器面調整。	頸部寄りには櫛描波状文が施文。 胴部に櫛描による羽状文を施 文、羽状文下位には塗彩が行 われている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》7 図243

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
467 118	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鈹物・雲母・ 小礫を多量に含む。 ②良好。 ③褐灰5YR6/1	内面は横方向の撫で、外面は不 明。	頸部には左廻りの等間隔止簾 状文が施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》7 図243

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
460 118	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③褐灰10YR4/1	外面頸部は横方向の撫で、内面 は横方向に器面整形が行われ、 光沢をもつ。	8条1単位の櫛状工具により 右廻りの等間隔止簾状文と波 状文が施文されている。	外面にわず かに煤が付 着。
440 118	弥生土器 甕	頸部破片	2C-62G Ⅵ層	①砂粒子が混入。 ②やや緩い。 ③灰白5Y7/2	内外面とも磨耗を受けている。 内面の一部に横方向の磨磨きが 行われている。	口縁部下位に櫛描波状文、頸 部に簾状文が施文されている。	
430 118	弥生土器 甕	頸部破片	2C-64G Ⅵ層	①白色鉾物・雲母 が混入。②良好。 ③灰5Y4/1	口縁部は大きく外反する。内面 は横方向に細かく磨磨きが行わ れている。	頸部には右廻りの等間隔止簾 状文、肩～胴部には櫛描波状 文が施文。9条1単位。	
487 118	弥生土器 甕	頸部破片	2D-64G 12層	①白色鉾物粒・雲 母を混入。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	内面口縁部は横撫で、頸部から 下位は磨磨きが行われている。	頸部は簾状文と思われる櫛描 横線文と、肩部以下には櫛描 波状文が施文されている。	外面に煤が 付着。
538 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物を多量 に含む。②良好。 ③明褐灰5YR7/2	内面は横方向の器面調整を行っ ている。	頸部には11条1単位の等間隔 止簾状文、肩部には櫛描波状 文が施文されている。	簾状文は右 廻り。
537 118	弥生土器 壺	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物粒をわ ずかに含む②良好。 ③浅黄橙10YR8/3	頸部付近の破片は外反し、内外 面とも一部に器面調整痕が残る。	7条1単位の簾状文が右廻り に施文されている。	
415 118	弥生土器 甕	肩部破片	2C-64G 12層	①白色鉾物を含む。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	頸部から肩部にかけての破片で ある。外面は斜、内面は横方向 の器面調整が行われている。	櫛状工具による右廻り簾状文 を頸部に施文後、波状文がす く下位に一段分施文。	
475 118	弥生土器 壺	頸部～肩部破 片	2D-64G 12層	①白色粒子をわず かに含む②良好 ③黒N2/	頸部から肩部にかけての破片で あり、外面は縦、内面は横方向 に器面調整が行われている。内 面の一部に輪積痕を残す。	頸部には右廻りの簾状文が等 間隔に施文されている。この 下に6条1単位の櫛描波状文 が施文されている。	外面に煤が 付着。
421 118	弥生土器 甕	肩部～胴部上 位破片	2C-64G 12層	①砂質っぽい。 ②やや緩い。 ③灰白10YR8/2	内面は幅2cmの輪積痕を残す。 外面は櫛状工具により横方向に 整形後、縦方向の調整痕が残る。 内面胴部は横方向の撫で、頸部 は縦方向の調整痕が残る。	頸部には右廻りの簾状文、こ の下位に櫛描波状文が1単位 分施文されている。施文技術 は乱れた感が強い。	
524 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・小礫を含 む。②良好。 ③明褐灰5YR7/2	くびれ部内外面ともいわゆる刷 毛目整形を行っている(厚さの 薄い弾力のある工具を使用)。	頸部に8条1単位の右廻り簾 状文を施文。この下位に櫛描 波状文を施文。	
463 118	弥生土器 甕	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物と雲母 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	外面は横方向の撫で整形、内面 は横方向に器面調整を行って いる。	頸部は8条1単位の2連止簾 状文を施文後、下段の簾状文 を描く。肩部には2段分の櫛 描波状文を施文。	
544 118	弥生土器 壺	頸部～肩部破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物をわず かに含む②良好 ③にぶい黄橙10YR 7/2	頸部はくびれる。外面は斜方向 の刷毛目整形後、磨磨き。内面 は横方向の刷毛目整形後頸部付 近に横方向の磨磨き痕が残る。	頸部には2段分の2連止簾状 文が施文され、肩部から胴部 にかけて3段分の櫛描波状文 を施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》7 図243

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
542 118	弥生土器 甕	頸部付近の破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③黒褐2.5Y3/1	頸部はくびれ、口縁部は外反す る。外面は横撫で、内面は斜方 向に篋磨きが行われている。	頸部は2連止簾状文が2段、 肩部から胴部に櫛描波状文を 施文後、円形刺突文を6個施 文したボタン状貼付文がある。	外面頸部には 煤が付着。
534 118	弥生土器 壺	頸部～肩部破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母を含む。 ②良好。 ③黒褐10YR3/1	頸部はくびれ、口縁部は外反す る。外面は縦方向に櫛状工具に よる器面整形、内面は横方向に 刷毛目整形。	口縁部付近と肩部には櫛描 波状文を施文、頸部には等間 隔止簾状文を施文。波状文下 部にボタン状貼付文がある。	外面に煤が 付着。
395 118	弥生土器 壺	頸部破片	2D-63G 底面上9.0cm	①白色鉱物を多量 に含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	頸部はくびれ、口縁部に向けて 大きく外反。外面は縦、内面は 横方向に器面調整を行っている。	頸部には2連止簾状文が施文 されている。	内面頸部には 幅7mmの 塗彩確認。
472 118	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR6/3	内面は横方向に器面調整を行っ ている。	頸部には2連止簾状文、肩部 から胴部にかけて8条1単位 の櫛描波状文を施文。	
476 118	弥生土器 甕	頸部破片	2D-64G 12層	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③灰褐5YR6/2	くびれ部内面は輪積痕を残す。 外面は斜方向に刷毛目調整、内 面は横方向に磨きかけられて いる。	頸部には櫛描波状文が右廻り で2連止施文され、口縁部と 肩部には櫛描波状文が施文さ れている。	肩の一部に 煤が付着。
490 118	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。②良好。③に ぶい橙7.5YR6/4	頸部はわずかにくびれている。 内面は横方向に器面調整される。	頸部は右廻り2連止簾状文、 肩部は櫛描波状文を施文。	
444 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G Ⅵ層	①細砂粒子を含む。 ②やや緩い。③に ぶい橙5YR7/3	頸部の一部と肩部の破片であり 整形痕等は不明。	頸部は櫛描横線文に櫛描のT 字文を入れ、肩部は櫛描波状 文を施文。	
562 118	弥生土器 甕	頸部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子をわず かに含む②良好 ③灰褐5YR4/2	頸部はくびれ、外面は斜方向に 刷毛目調整、内面は横方向に磨 きが行われている。	頸部は櫛状工具によるT字文 が施文されている。	546と同一 固体?外面 に煤が付着。
546 118	弥生土器 甕	頸部～胴部破 片	埋没土中	①白色粒子を僅か に含む。②良好。 ③褐灰5YR4/1	肩部から胴部にかけては内湾す る。外面は斜・横方向に刷毛目、 内面は横方向に磨きが行われる。	頸部は櫛状工具によるT字文 が施文され、下位に円形刺突 文を施文したボタン状貼付文 がある。	外面に煤が 付着。562 と同じ破片 ?。
552 118	弥生土器 壺	頸部～肩部破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 6/3	頸部は大きく、くびれる。外面 胴部は縦方向に篋による調整。 内面は横方向に篋状工具による 器面調整が行われている。	頸部は櫛状工具による簾状文 が2連止右廻りで施文。肩部 は4段分櫛描波状文が施文さ れ、最下段にボタン状貼付文 がある。	
531 118	弥生土器 壺	肩部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒を含 む。②良好。 ③灰白7.5YR8/2	くびれ部であり、内面は横方向 に整形されている。	櫛状工具によるT字文が頸部 にある。	
453 118	弥生土器 壺	肩部付近破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫をわずかに 含む②良好③にぶ い黄橙10YR7/3	頸部から肩部にかけての破片で ある。	頸部は簾状文が右廻りに施文 され、肩部は櫛状工具による T字文が施文されている。	内面に煤が 付着する。
414 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-64G 12層	①細砂粒子を含む。 ②良好。③灰白2. 5Y8/2	くびれ部の破片であり、器面が 厚い。内面は荒れている。	数段の櫛描横線文と1条、な いし2条の沈線によるT字文 の施文がみられる。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》7 図243

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
423 118	弥生土器 壺	頸部破片	2C-64G 12層	①白色鉾物粒を含む②やや緩い③に ぶい黄橙10YR7/3	くびれ部と思われる破片であり 内面は荒れている。	櫛描横線文に沈線によるT字 文が施文されている。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》8 図244

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
410 118	弥生土器 甕	頸部破片	2C-64G 12層	①白色鉾物を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR4/1	頸部付近で外反する。外面は斜 方向に刷毛目、内面は横方向に 磨きによる器面調整を行う。	7条1単位の櫛描波状文を施 文。	外面の一部 に煤が付着。
484 118	弥生土器 甕	胴部破片	2D-64G 12層	①白色鉾物粒を含 む。②良好。 ③暗赤灰7.5R4/1	頸部付近の破片と考えられる。 内面は斜方向に器面整形を行う。	櫛描波状文が乱雑に施文され ている。	内外面の一 部に煤が付 着。
435 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色鉾物粒を含 む。②良好。 ③浅黄2.5Y7/3	胴部の破片であり、わずかに内 湾する。外面は縦、内面は横方 向に器面調整が行なわれている。	櫛描波状文が胴部中位に施文 されている。	外面に煤が 付着。
426 118	弥生土器 甕	胴部破片	2C-64G 12層	①白色粒子・小礫 を混入する。②や や緩い。③にぶい 黄橙10YR7/2	内外面とも横方向の器面調整を 行っている。	櫛描波状文が施文されている。	
677 118	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②良好。 ③黒10YR2/1	内面は横方向に整形。	櫛描波状文を施文後、櫛状工 具による羽状文を施文。	外面に煤が 付着。
443 118	弥生土器 甕	肩部破片	2C-63G 12層	①白色鉾物粒を含 む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	外面は縦方向に刷毛目、内面は 横撫で整形が行われている。	櫛描波状文が肩部に施文され た下位に、ボタン状貼付文を 施文。	
450 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-63G Ⅵ層	①白色鉾物を含む。 ②良好。③にぶい 橙7.5YR6/4	内面は横方向の器面調整を行っ ている。	櫛描波状文を施文後、ボタン 状貼付文を貼り、円形刺突文 (13個)を施文する。	
456 118	弥生土器 壺	胴部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉾物を含む 砂質土②良好③に ぶい黄橙10YR7/2	外面は櫛状工具による横方向の 整形後、斜方向に磨き。内面 は横方向の撫で整形。	肩部には櫛描波状文を施文後 波状文下部にボタン状貼付文 がある(6個の円形刺突文)。	
533 118	弥生土器 壺	肩部破片	埋没土中	①白色鉾物・雲母 を含む。②良好。 ③暗赤灰10R4/1	外面は斜方向に櫛状工具により 整形後、多方向に磨き、内面 は横方向に撫で整形。	櫛描波状文施文後、ボタン状 貼付文を施文(横線文を入れ る)。	
424 118	弥生土器 壺	胴部破片	2C-64G 12層	①白色鉾物・雲母 を含む。②良好。 ③黒褐5YR2/1	外面は斜方向の櫛状工具による 器面調整、内面は横方向の調整 により光沢がある。	7条1単位の櫛描波状文が施 文されている。	外面に煤が 付着。
442 118	弥生土器 甕	肩部破片	2C-62G Ⅵ層	①白色粒子を多量 に含む。②良好。 ③灰黄褐10YR5/2	外面文様部分は器面を櫛状工具 により調整、下位は縦方向に磨 き、内面は横方向に整形。	櫛描波状文を胴中位から上位 に施文している。	
418 118	弥生土器 壺	肩部破片	2C-64G 12層	①小礫を含む砂質 土。②良好。③に ぶい黄橙10YR6/3	外面は縦方向の磨き、内面は 横方向の撫でによる整形。木口 状工具の使用痕が見られる。	肩部には4段分の櫛描波状文 を上位から下位へ施文。5条 1単位。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》8 図244

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
661 118	弥生土器 円盤	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を少量 含む。②良好。 ③褐灰10YR5/1	土器を転用したもの。周りを打ち割り、円形に成形している。内外面とも同一方向の磨き。		
665 118	弥生土器 紡錘車	1/2欠損 直径 4.3cm 器肉中心部 1.0cm 外郭部 0.8cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を多量 に含む。②良好。 ③黄灰2.5Y4/1	円盤形を呈し、中心に同形の穴を穿つ。		器面には条痕がある。
653 118	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色粒子・夾雑 鉱物を含む②良好 ③褐灰10YR6/1	僅かに外反する。内外面とも櫛状工具による器面整形を行っている。	外面の器面整形が明瞭なため、文様のようにも思われる。	656と接合同一個体。
654 118	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・雲母・夾 雑鉱物を含む②良 好③灰白10YR8/2	幅約2cmの工具により、内外面とも横方向の器面調整が行われている。	外面の器面整形が明瞭なため、文様のようにも思われる。	
657 118	弥生土器 甕?	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①小礫・白色の夾 雑鉱物・雲母を含 む。②良好。 ③明褐灰5YR7/2	外面は櫛状工具、内面は外面より幅広い工具により横方向に器面整形している。	外面の器面整形が明瞭なため、文様のようにも思われる。	
655 118	弥生土器 甕	胴部破片	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・夾 雑鉱物を含む。 ②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	外面は斜方向、内面は横・斜方向に櫛状工具により器面整形を行っている。	外面の器面整形が明瞭なため、文様のようにも思われる。	
428 118	弥生土器 甕	胴下部破片	2C-64G 12層	①白色鉱物・雲母 を含む。②やや緩 い。③灰5Y4/1	外面は縦方向に磨き、内面は斜方向に、多方向に器面調整を行う。	縄文R.Lを施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》9 図245

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
361 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 1/3残存 口 (25.2cm)	2D-64G 底面上20.0cm	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③明褐灰5YR7/2	口縁部は大きく外反し、折返しである。折返し部には2本1単位の棒状付文がある。外面は縦方向の磨き、内面は横撫で整形が行われている。	折返し口縁部には櫛描波状文、くびれ部には籐状文が施文されている。	内面は塗彩。
494	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (29.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒をわ ずかに含む。②や や緩い。③にぶい 橙7.5YR7/3	口縁部は大きく開き、折返しである。折返し部には2本1単位の棒状付文がある。器面は荒れており、外面に磨きが縦方向に行われている。	折返し口縁部には櫛描波状文が施文されている。	内面は塗彩。
508 119	弥生土器 壺	口縁部1/4残 存 口 (20.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物 を含む。②良好。 ③灰白10YR7/1	口縁部は大きく外反する。口縁端部は折返し口縁を呈し、2本1単位の棒状付文がある。口縁部は横撫で、外面は木口状工具による器面整形、内面は横方向の磨きが行われている。		内面は塗彩。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》9 図245

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
499 119	弥生土器 壺	口縁部1/2残 存 口 (20.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む砂質土。 ②良好。③にぶい 橙7.5YR7/3	口縁部は外反し、折返す。外面 は縦、内面は斜方向に器面整形 を行っている。	口縁端部は刻み目を施文する。	
379 119	弥生土器 壺	口縁部破片 口 (19.2cm)	2C-63G 底面上66.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	口縁部は外反し端部は折返す。 外面は縦方向の撫で整形後、横 方向に一部磨く。内面は横方向 に撫で整形後、磨きを行う。	折返し口縁外面は篋状工具と 思われる鋭い先で、縦方向に 直線文を入れる。	
371 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 口 14.7cm 頸 8.4cm	2C-64G 底面上37.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む砂質土。 ②良好。 ③灰白2.5YR8/2	口縁部に向けて、大きく外反す る。外面口縁端部付近は、横撫 で、他内外面とも篋状工具によ り器面整形を行っている。	7条1単位の櫛状工具による 簾状文が、等間隔で右廻りに に施文。肩部の一部に波状文 が認められる。	
495 119	弥生土器 壺	口縁部～肩部 1/3残存 口 (16.3cm) 頸 10.3cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑鉱物・ 雲母を含む。 ②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部に向けて、大きく外反す る。外面は横方向の撫で整形後 磨き、内面は横方向の器面整 形を行っている。	頸部は櫛状工具により右廻り の簾状文、肩部寄りに2段分 の櫛描波状文を施文している。	
502 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 破片 口 (21.8cm) 頸 (8.4cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・雲母を含 む。②やや緩い。 ③にぶい黄橙10YR 7/3	頸部から受口状を呈す口縁部ま で、大きく開く。端部付近は横 撫で、以下頸部まで縦方向の整 形。		内面は塗彩。
383 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 1/3残存 口 (18.0cm) 頸 (10.6cm)	2D-63G 底面上21.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/3	口縁部に向けて大きく外反する。 口縁端部は丸みをもち、横方向 に磨き、他は縦方向に同様な 整形を行う。	頸部は右廻りの2連止簾状文 が施文されている。	
648 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 2/3残存 口 14.5cm 頸 (7.8cm)	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色夾雑鉱物を 含む。②良好。 ③黄灰2.5Y6/1	口縁部は大きく外反する。内外 面とも横方向の磨きによる整 形を行っている。	口縁端部には縄文、頸部には 太い沈線による横線文を施文 している。	
391 119	弥生土器 壺	口縁部～頸部 破片 頸 (12.0cm)	2C-63G 底面上34.0cm	①白色鉱物粒を多 量に含む。②良好。 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部は大きく外反する。櫛状 工具により器面調整後、外面は 縦方向に磨きを行う。	右廻りの2連止簾状文が施文 されている。	
497 119	弥生土器 壺	口縁部付近～ 頸部破片 頸 (11.5cm)	第Ⅱ河道	①白色鉱物を多量 に含む。②やや緩 い。③にぶい黄橙 10YR5/4	口縁部は大きく外反する。内外 面とも、一部器面整形を確認す ることができる。	頸部には2連止簾状文が施文 されている。	内面は塗彩。
507 119	弥生土器 壺	頸部～胴部 1/3残存 頸 (8.8cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫・白色鉱物 など、粒が大きめ のものを含む。 ②良好。③にぶい 黄橙10YR6/3	雑なつくりである。器面調整は 篋削りを縦方向に行っている。		
496 119	弥生土器 壺	口縁部付近～ 胴部1/4残存 頸 10.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む②良好③に ぶい黄橙10YR7/3	口縁部に向けて外反する。頸部 上位は斜、肩部は縦方向に器面 整形を行っている。	頸部は8条1単位の右廻り等 間隔止簾状文、肩部は櫛描波 状文を2段施文。	
370 119	弥生土器 壺	頸部～胴下半 部1/3残存 頸 9.4cm 胴 (25.0cm)	2C-63G 底面上15.0cm	①白色夾雑鉱物を 含む。②良好。 ③灰白5Y7/1	胴最大幅部はそろばん玉状を呈 す。外面は櫛状工具による調整 後、磨きが行われている。	頸部に9条1単位の櫛状工具 による右廻り等間隔止簾状文、 接して下位に同単位の波状文 を施文している。	

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》10・11 図246・247

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
394 119	弥生土器 壺	頸部～胴部 1/4残存 頸 (15.0cm) 胴 (40.1cm)	2D-64G 底面上70.0cm	①白色鉍物粒を含む砂質土。②やや緩い。 ③明褐7.5YR5/6	胴部は丸みをもち、頸部から口縁部に向け、大きく外反する。外面は縦方向に器面調整を行っている。全体に荒れている。	頸部は右廻りの簾状文、肩部は4段の櫛描波状文が施文されている。	
492	弥生土器 壺	頸部～胴部 1/4残存 頸 12.4cm 胴 (40.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉍物を含む。 ②良好。 ③淡赤橙2.5YR7/3	胴部は丸身をもつ。頸部は締まり、口縁部に向かいわずかに開きはじめている。内外面ともわずかに器面調整痕が残る。胴中位には塗彩。胴上位の三角形文様部分は塗彩はない。	9条1単位の2連止簾状文が右廻りに施文。肩部はボタン状貼付文を沈線で結び、簾状文との間を3段の櫛描波状文で充填。胴上位は円形刺突文により三角形の文様を施文している。	
505	弥生土器 壺	口縁部～肩部 1/4残存 口 (17.6cm) 頸 (14.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉍物粒を含む。②良好。 ③黒5YR1.7/1	口縁部は外反し、端部でわずかに受口状を呈す。外面口縁から頸部にかけては櫛状工具により縦方向、内面は匏磨きが横方向に行われている。	7条1単位の櫛状工具により、頸部は等間隔止右廻り簾状文、口縁部と肩部は波状文が施文されている。	外面には煤が附着。
498	弥生土器 壺	肩部～胴部 破片 頸 (11.2cm) 胴 (14.4cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①雲母・白色の夾雑鉍物を含む。 ②良好。③にぶい黄橙10YR6/3	頸部はくびれ、胴部は丸みをもつ。外面は刷毛目調整、内面は磨きがかけられている。	6条1単位の2連止簾状文を右廻りに施文後、櫛描波状文が直下に施文されている。	
367 119	弥生土器 壺	頸部～胴部 1/2残存 頸 (10.8cm) 胴 22.8cm	2C-63G 底面上17.0cm	①白色鉍物を含んだ砂質土。②良好。 ③にぶい褐7.5YR5/4	胴部上位に最大幅をもち、丸い。頸部は締まり、口縁部に向かい開く。内外面とも刷毛目調整痕が残る。外面はその後、匏磨きを上下に行っている。頸部より上位は調整段階の刷毛目が残る。	頸部には9条1単位の等間隔止簾状文が右廻りに施文。直下の肩部に接して、2～3段分の櫛描波状文が施文されている。匏磨きが後に行われている。	胴最大幅部分に4cm幅で煤が附着。
363	弥生土器 甕	口縁部欠損 頸 10.4cm 底 (7.2cm) 胴 18.4cm	2D-63G 底面直上	①白色の夾雑鉍物を含む。②良好。 ③にぶい橙7.5YR6/4	胴上位に最大径があり、丸みをもつ。外面は櫛目状の整形痕、内面は刷毛目状の整形痕が残る。	頸部は9条1単位の等間隔止簾状文が右廻りに施文。直下の肩部に櫛描波状文を施文。	
373	弥生土器 壺	口縁部～胴部 1/6残存 口 (15.4cm) 頸 (11.6cm)	2C-64G 底面上80.0cm	①夾雑鉍物・雲母を含む。②良好。 ③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部は外反し、端部はわずかに受口状を呈す。内外面とも横方向の調整を行っている。	口縁端部は刻み目。端部は右廻り2段の等間隔止簾状文。口縁と肩部に櫛描波状文、肩部から胴部は羽状文を施文。	
368	弥生土器 壺	口縁部～胴部 2/3残存 口 16.7cm 頸 13.6cm 胴 20.8cm	2C-63G 底面上23.0cm	①白色鉍物・雲母を含む。②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴部は丸みをもち、口縁部は外反する。内外面とも櫛状工具と思われる器面整形痕を残す。	櫛状工具により頸部に2連止右廻り簾状文、口縁に1段、肩部に2段の波状文を施文。	外面に煤が附着。
387	弥生土器 壺	頸部～胴部 上位1/4残存 頸 (13.2cm) 胴 (24.0cm)	2C-63G 底面上16.0cm	①白色の夾雑鉍物を含む。②良好。 ③明褐灰5YR7/2	胴は丸みをもつ。器面が荒れており、外面の一部と内面には刷毛目状の整形痕が残る。	頸部は右廻りの簾状文、肩部から胴部にかけては櫛描波状文を数段施文している。	
506	弥生土器 壺	頸部～胴部 破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①細砂粒子・雲母を含む。②良好。 ③灰白2.5Y7/1	胴部から頸部にかけての破片であり、内外面とも横方向の器面整形。整形道具は幅約2cm。	頸部は右廻りの簾状文、肩部は4段の櫛描波状文を施文後、円形刺突文をもつボタン状貼付文が最下波状文上に施文。	



2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》11 図247

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
366	弥生土器 甕	胴部上半部 1/2残存 口 13.9cm 頸 12.2cm 胴 15.4cm	2C-64G 底面上53.0cm	①白色夾雑鉱物を含む。②良好。 ③黒褐10YR3/1	口縁端部がわずかに直立する。内外面とも口縁部は横方向の撫で、外面胴部は斜方向の刷毛目整形。	8条1単位の櫛状工具により頸部は右廻りの簾状文を2段施文後、肩部に2段の波状文。	外面に煤が付着。
501	弥生土器 甕	口縁部～頸部 2/3残存 口 12.5cm 頸 (9.6cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子・夾雑 鉱物を含む。 ②良好。 ③灰白2.5Y7/1	口縁部は外反する。外面は斜方向に刷毛目状整形痕の上に施文。内面は横方向に磨き痕が残る。	口縁部には6条1単位の櫛描波状文を4段、頸部に右廻りの2連止簾状文を施文。	
500	弥生土器 甕	口縁部～頸部 破片 口 (17.0cm) 頸 (14.2cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉱物を含む。 ②良好。 ③褐灰5YR4/1	口縁部は外反する。外面には幅1.2cmの刷毛目状工具痕が残る。内面は横方向の整形。		
378	弥生土器 甕	口縁部～底部 3/4残存 口 12.0cm 底 6.5cm 高 13.2cm	2C-64G 底面上63.0cm	①小礫・白色夾雑 鉱物を混入する。 ②良好。③にぶい 橙10YR7/2	口縁端部はわずかに内湾する。外面胴下半部には整形痕が残る。胴中位は刷毛目、下半部は篋磨き、内面は横・斜方向に磨き痕が残る。	櫛描波状文が口縁部から胴最大幅分まで施文されている。櫛描波状文は5段分である。	
451	弥生土器 甕	底部付近の破 片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②良好。 ③橙7.5YR7/6	底部と胴部の接合部分は外面では篋押し、指押しえ。内面は横方向に篋押しえ痕がある。	底面には糶・藁の圧痕が残る。	
365	弥生土器 甕	口縁部の一部 と底部欠損 口 12.7cm 底 (6.0cm) 高 14.9cm 頸 10.2cm 胴 11.7cm	2C-64G 底面上53.0cm	①白色夾雑鉱物を含む。②良好。 ③褐灰10YR4/1	胴中位に張りもち、口縁部は外反する。内外面とも口縁部は横撫で、胴部外面は縦、内面は横方向に刷毛目整形痕を残す。		
374	弥生土器 壺	胴部～底部 3/4残存 胴 (20.8cm) 底 8.0cm	2C-64G 底面上57.0cm	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③明黄褐10YR7/6	胴部は丸みもち、内外面とも櫛目状の整形痕が明瞭に残る。		
372	弥生土器 壺or甕	胴下半部～底 部1/3残存 底 10.3cm	2C-63G 底面上16.0cm	①白色夾雑鉱物を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR7/2	胴部に向かい、大きく開く。内外面とも櫛状工具による器面調整後、磨きを行っている。		
547	弥生土器 甕	底部残存 底 5.2cm 孔 2.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色夾雑鉱物を含む。②良好。 ③黄灰2.5Y4/1	底部付近のみ残存する。胴部との境は篋おさえ。内面は横方向に磨きが行なわれている。		
549	弥生土器 壺or甕	底部破片	第Ⅱ河道 埋没土中	①小礫を含む。 ②緩い。 ③灰黄褐10YR6/2	櫛状工具痕が外面に残る。	底部には木葉痕が残る。	
550	弥生土器 壺or甕	底部残存 底 9.3cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・砂 質土を含む。 ②良好。 ③明褐灰5YR7/2	大型の甕か、壺の底部である。外面は櫛状工具で底部接合部分を成形。底部外面はほぼ円形の石か、先の丸い圧痕が残る。		

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》11・12 図247・248

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
541	弥生土器 甕?	底部2/3残存	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR4/2	外面底部は藁状圧痕が残る。内 面は鈍磨き痕が残る。		底部に煤が 付着。
647	弥生土器 甕	口縁部～胴部 1/3残存 口 (11.0cm) 頸 (10.3cm)	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/2	口縁部はわずかに外反。胴部半 部分は縄文を施文後、縦方向に 鈍磨き。内面は横方向の鈍磨き。	口縁端部と頸部は縄文O段多 条LR、胴部最大幅部分は付 加状LRを施文。	
375	弥生土器 甕	頸部～胴部 1/4残存 頸 (22.3cm) 胴 (30.2cm)	2D-63G 底面上15.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③明褐灰7.5YR7/2	胴部は丸みをもち、大きく張る。 内外面とも幅1.7cmの櫛状工具 により整形を行っている。	9条1単位の櫛状工具により 頸部に右廻りの等間隔止簾状 文を施文、直下に波状文を1 段施文。	胴中央部に 煤が付着。
651	弥生土器 甕	口縁部～胴部 1/4残存 口 (13.0cm)	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③黒褐7.5YR3/1	胴は丸張りをもち、口縁部は 外反する。内外面とも櫛状整形 痕を残す。外面胴下半部は縦方 向に鈍磨き痕を残す。	7条1単位の櫛状工具により 頸部は横線文、肩部から胴部 にかけて羽状文を施文。	外面に煤の 付着。
649 120	弥生土器 甕	胴下半部～底 部残存 底 8.0cm	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰5Y4/1	内面は荒れており、一部横方向 の器面調整痕が残り、外面は縦 方向に磨きがかけられている。	胴部に刻み目が一周し、その 上位に波状文の一部が施文さ れている。	
364 120	弥生土器 甕	胴下半部～底 部残存 底 7.2cm	2D-64G 底面上27.0cm	①白色粒子・雲母 を含む。②良好。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	胴下半部は胴部に向かいわずか な丸みをもち、立ち上がる。外 面は縦方向に刷毛目・鈍磨き、 内面は横方向の整形痕が残る。		
376 120	弥生土器 甕	胴下半部～底 部残存 底 8.0cm	2D-64G 底面上57.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰白2.5Y8/2	器面は二次的な火を受け、一部 が荒れている。外面は縦、内面 は横方向の整形痕が残る。		内面に灰白 色の有機物 が付着。
515 120	弥生土器 手捏	完形 口 2.7-3.2cm 底 2.7-2.9cm 高 1.9cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒子を含む。 ②良好。 ③灰褐7.5YR5/2	小形の手捏土器で、深さ約6mm である。内面は横撫で、外面は 指頭、又は棒状工具による押さ え痕が残る。		
390 120	弥生土器 ミニチュ ア	完形 口 6.2cm 底 3.8cm 高 4.0cm	2C-63G 底面上32.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰褐7.5YR6/2	手捏による作成後、器面調整を 行っているため歪みがある。撫 で、押さえによる整形痕が残る。		
381 120	弥生土器 鉢	口縁部～底部 1/2残存 口 13.8cm 底 (3.8cm) 高 7.8cm	2D-64G 底面上54.0cm	①白色鉱物・砂粒 子が混入。②良好。 ③赤10R4/8	器面は部分的に荒れている。内 外面とも鈍磨きを主に整形。		
650 120	弥生土器 鉢	口縁部～体部 1/5残存 口 (18.3cm)	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 を含む。②良好。 ③赤10R5/6	器面はわずかに荒れる。内外面 とも横撫で。外面下部は鈍調整。		内外面塗彩。
362 120	弥生土器 鉢	口縁部～底部 1/2残存 口 (17.3cm) 底 6.0cm 高 13.2cm	2D-64G 底面上30.0cm	①白色・夾雑鉱物 を含む。②良好。 ③淡黄2.5Y8/3	底部からはほぼ直線的に口縁まで 開き、口縁端部は丸い。外面口 縁は横撫で、他は木口状工具等 による調整痕が残る。		

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》12 図248

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
377 120	弥生土器 高坏	完形 口 13.2cm 底 9.3cm 高 14.2cm	2C-64G 底面上56.0cm	①夾雑鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③淡橙5YR8/3	脚部・坏部ともに直線的に開く。 脚端部は平たい。坏内外面と脚 内面は櫛目状の調整痕、坏下半 部と脚部外面は縦方向の磨き が行われている。		坏内部は塗 彩。
504 120	弥生土器 高坏	坏部1/2残存 口 (18.0cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 を含む。②良好。 ③赤10R5/6	口縁部付近で僅かに内湾する。 器面は内外面とも荒れ、整形痕 が僅かに残る。	口縁部に櫛描波状文が施文さ れている。	
510 120	弥生土器 小形台付 甕	口縁部-胴下 半部1/4残存 口 (12.2cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・砂粒 子を含む。②良好。 ③赤10R5/8	口縁部は大きく外反する。口縁 端部は刻み目をもつ。器面は荒 れており、口縁横撫で整形痕の み確認できる。		内外面塗彩。
503 120	弥生土器 高坏	脚部1/3残存 底 15.4cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物・雲母 を含む。②良好。 ③灰赤10R6/2	脚底部は平たい。外面は縦、内 面は横方向に刷毛目調整後、外 面脚部上位は磨きを行っている。		脚内面以外 塗彩。
406 120	弥生土器 高坏	口縁部-脚部 上位1/3残存 口 (13.3cm)	2D-64G 12層	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③赤褐10R4/4	坏部は大きく開き、口縁付近で 僅かに立つ。内面下半部は塗彩 が剥がれている。内面と外面口 縁部は横、外面下部は縦方向に 磨き痕が残る。		内面下半部 は火を受けて 黒色化して いる。 内外面塗彩。
511 120	弥生土器 高坏	坏部1/2残存 口 (10.2cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物粒・雲 母を含む。②良好。 ③赤褐10R4/4	坏部は直線的に口縁まで開く。 内外面とも磨き痕が残る。		内外面塗彩。
401	弥生土器 甕	口縁部破片 口 (12.2cm)	2D-64G 底面上27.0cm	①小礫・白色鉱物 を含む。②良好。 ③赤10R5/6	口縁部は大きく外反する。内外 面とも横方向の器面調整を行い、 光沢をもつ。	口縁端部には刻み目を入れる。	内外面塗彩。 外面に煤が 付着。
386 120	弥生土器 ミニチュ ア高坏	完形 口 3.6cm 底 4.0cm 高 5.0cm	2C-64G 底面上50.0cm	①白色鉱物粒・夾 雑鉱物を含む。 ②良好。 ③灰黄2.5Y7/2	手握土器である。脚部は一部磨 整形を行っている。脚端部は平 たい。		
385 120	弥生土器 高坏	脚部残存 裾部1/2欠損 底 7.5cm	2D-63G 底面上18.0cm	①白色鉱物を含む 砂質土が混入②良 好③赤褐10YR5/4	高坏脚部の可能性があるが、脚 内面は僅かに凹める手法である。 外面は磨整形を行っている。		外面塗彩。
384 120	弥生土器 高坏	脚部残存 裾部欠損	2D-63G 底面上9.0cm	①白色鉱物・雲母 を含む②良好③に ぶい赤橙10R6/4	外面は縦方向を主に整形、脚内 面は横方向に刷毛目が残る。坏 内面は塗彩が剥がれる。		脚内面以外 塗彩。
512 120	弥生土器 高坏	脚部2/3残存 底 (8.2cm)	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色粒を含む細 砂粒土②良好③に ぶい赤橙10YR6/4	器面は磨耗を受けている。外面 は縦方向の磨き、内面は横撫 で。		脚内面以外 塗彩。
392 120	弥生土器 高坏	脚部上位-坏 下半部残存	2D-64G 底面上4.0cm	①夾雑鉱物を含む 砂質土。②良好。 ③赤7.5R4/6	脚部はやや棒状を呈し、裾で広 がりをもつ。坏内面と脚内面 には櫛状工具で整形、外面は磨 き整形を行っている。		脚内面以外 塗彩。

2号河川跡出土遺物観察表《弥生土器》12 図248

番号 PL	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
514 120	弥生土器 ミニチュ ア高坏	脚部一坏下半 部残存 底 4.0cm	第Ⅱ河道 埋没土中	①夾雑鉱物を含む 砂粒土。②良好。 ③にぶい橙7.5YR7 /3	脚部は短く、裾に向かいわずかに 広がる。坏内面は横撫で、脚 部外面は鈍磨きが縦方向に行わ れている。		脚内面以外 は薄く塗彩。
408 120	弥生土器 高坏	坏部下位一 脚部2/3残存 底 9.4cm	2C-62G Ⅵ層	①白色鉱物粒を含 む砂粒土。②緩い。 ③にぶい橙5YR7/4	脚端部は平たい。内外面とも器 面は荒れている。接合部付近に 縦方向の鈍磨き痕が残る。		
389 120	弥生土器 高坏	脚部残存 底 9.0cm	2D-63G 底面上直上	①夾雑鉱物を含む 細砂粒土。②良好。 ③灰白5YR8/2	脚端部は平たい。端部付近は横 方向の撫で、外面は縦方向の鈍 磨きが行われている。		
382 120	弥生土器 高坏	脚部3/4残存 底 (8.8cm)	2D-63G 底面上9.0cm	①白色鉱物が混入 する砂質土。②良 好。③赤10R4/6	脚部は裾でわずかに開き、端部 は平たい。脚外面は縦方向に鈍 磨き、内面は横撫で整形。		
388 120	弥生土器 高坏	脚部残存 底 8.6cm	2C-64G 底面上12.0cm	①夾雑鉱物・小礫 が混入②良好③に ぶい橙7.5YR6/4	外面は縦方向、内面は明瞭な楕 状工具による器面調整痕を残す。		脚部の一部 にも塗彩。
380 121	弥生土器 高坏	坏部3/4残存 口 10.0cm	2C-64G 底面上15.0cm	①白色鉱物・砂粒 子を含む②緩い。 ③にぶい黄橙10YR 7/2	坏部である。内面の調整が横方 向の鈍磨きである。外面は横撫 で、鈍磨き痕を残す。		
513 121	弥生土器 高坏	脚部残存 裾部欠損	第Ⅱ河道 埋没土中	①白色鉱物を含む。 ②良好。 ③赤7.5R4/6	接合部付近に突帯がある。脚外 面は縦方向の鈍磨き痕を有す。		外面と坏内 部に煤が付 着。
652 121	弥生土器 台付鉢	完形 口 13.2cm 底 6.8cm 高 11.0cm	第Ⅲ河道 埋没土中	①白色・夾雑鉱物 を含む。②良好。 ③にぶい橙5YR7/3	脚部は大きく裾ひろがり呈す。 内外面とも細かく鈍磨き痕が残 る。杯部は直線的に外反する。		
369 121	弥生土器 台付鉢	胴部一底部 底 8.0cm	2D-64G 底面上70.0cm	①白色鉱物・小礫 を含む。②良好。 ③明黄褐10YR6/6	脚部は厚い。鉢外面は縦、脚部 と鉢内面は横方向に鈍磨きが行 われている。底部は荒れている。		鉢外面に煤 が付着。

2号河川跡出土遺物観察表《石器》 図249

番号 PL	器種	大きさ・重 量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
260 121	石鏃	長 2.2cm 幅 1.2cm 厚 0.4cm 重 1.0g	2C-63G 底上62.0cm	珪質頁岩	剥片を素材とし、周辺部に浅い調整剥離を施し、左側縁部を 研磨している。	先端部一部欠 損。
297 121	磨製石鏃	長 3.0cm 幅 1.5cm 厚 0.2cm 重 1.4g	2B-64G 埋没土上層	珪質頁岩	偏平な小剥片を素材として、研磨している。尖頭部が丸く、 左右非対称であり、未成品と考えられる。	
302 121	磨製石鏃	長 3.5cm 幅 1.6cm 厚 0.3cm 重 2.1g	2C-63G 底上44.0cm	珪質頁岩	偏平で薄い。全体を良く研磨しているが、上部と左脚部に一 部剥離痕を残す。	右側1/3欠損
325 121	剥片	長 1.5cm 幅 3.6cm 厚 0.5cm 重 1.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	準頁岩	玉類製作時の調整剥片である。	石材は滑石質。

2号河川跡出土遺物観察表《石器》 図249・250

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
328 121	剥片	長 1.8cm 幅 1.6cm 厚 0.9cm 重 4.5g	埋没土中	準片岩	右側縁を部分的に研磨している。上下両端は節理面で剥がれる。	滑石質。
323 121	剥片	長 7.1cm 幅 2.7cm 厚 0.9cm 重 18.5g	第Ⅱ河道 埋没土中	黒色頁岩	風化が激しく、表面観察が困難であるが、形の整った縦長剥片であるので、使用した可能性はある。	風化が顕著。
309 121	剥片	長 5.4cm 幅 2.0cm 厚 1.7cm 重 28.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	珪質頁岩	自然面の左側面に研磨痕が認められる。砥石もしくは玉の素材と思われる。下端は折り取った痕跡がある。	暗緑色を呈する。
307 121	磨石	長 6.0cm 幅 2.4cm 厚 0.9cm 重 12.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	表面側に磨面を残す。磨石から使用中に剥がれたものと思われる。	部分剥片。
329 121	剥片	長 3.9cm 幅 2.7cm 厚 0.6cm 重 12.1g	2C-64G 12層	準片岩	節理面や石の目に沿って板状に剥がしたもので、磨製石鏃の素材と思われる。	石質は滑石質。
321 121	石製円板	長 4.5cm 幅 4.0cm 厚 1.4cm 重 8.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	板状剥片の周辺部を若干調整して、円形に仕上げたものである。磨製石鏃の素材の可能性はある。	完形。薄く板状に割れる石材を使用。
319 121	錐形石器	長 5.7cm 幅 7.1cm 厚 1.8cm 重 71.1g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	横長剥片の側縁部に、尖頭部を作出している。右側縁の調整加工は微細であり、やや不規則である。	
294 121	錐形石器	長 3.8cm 幅 4.7cm 厚 1.8cm 重 20.9g	第Ⅲ河道 埋没土中	砂石	先端中央部に幅広の鈍い尖頭部を作出している。そのための調整加工は粗い。	
324 121	錐形石器	長 3.5cm 幅 3.7cm 厚 1.5cm 重 17.3g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	剥片の下端に尖頭部を作出している。打点部は鈍角の調整によって除去されている。尖頭部は幅広であり、使用によるものと思われる。	
305 121	削器	長 4.9cm 幅 6.2cm 厚 1.8cm 重 78.3g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	表面に自然面を大きく残す。裏面周辺に比較的整った調整剥離が並ぶ。上半部欠損後、剥離が施され、引き続いて使用されている。	
330 121	磨石	長 2.2cm 幅 3.1cm 厚 0.8cm 重 12.9g	2C-64G 12層	緑色片岩	表面側に部分的に敲打痕を残す。両側縁は両面に比べて良く磨かれている。	上下両端欠損。
333 121	砥石	長 4.2cm 幅 3.0cm 厚 0.9cm 重 16.9g	2D-64G 12層	緑色片岩	左側縁に磨り面を有する。きめは細かい。	下部欠損。
288 122	U F	長 5.0cm 幅 6.1cm 厚 1.7cm 重 36.3g	2C-63G 底上45.0cm	黒色頁岩	下縁に、微細で不規則な剥離痕を有する。打面は自然面である。	
291 122	U F	長 3.1cm 幅 1.1cm 厚 6.4cm 重 14.6g	2C-64G 底上7.0cm	黒色頁岩	横長剥片の縁部を使用している。左側には数個の剥離面がある。	
293 122	U F	長 5.2cm 幅 3.9cm 厚 1.2cm 重 21.7g	2C-64G 底上54.0cm	黒色頁岩	縦長剥片の両側縁を使用している。打面は剥離面である。	下端は折れている。
304 122	U F	長 5.4cm 幅 7.9cm 厚 1.7cm 重 65.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	珪質頁岩	横長剥片の下縁を刃部として使用しており、不規則な剥離痕が並ぶ。	
271 122	U F	長 7.2cm 幅 6.9cm 厚 1.7cm 重 100.4g	2D-63G 底上28.0cm	頁岩	下縁に帯状に自然面を残す。裏面左側の一部に剥離が施されている。刃縁は比較的鋭い。打面は剥離面である。	
306 122	R F	長 4.2cm 幅 4.7cm 厚 1.1cm 重 23.6g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	縁辺部に、比較的同じくらいの大きさの小剥離が並ぶ。打面は自然面である。	

2号河川跡出土遺物観察表《石器》 図250~252

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
322 122	R F	長 4.9cm 幅 6.2cm 厚 1.5cm 重 36.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	横長剥片であり、左肩と右肩に部分的に自然面を残す。右肩の自然面をはさんで、両側を調整している。	
320 122	R F	長 6.7cm 幅 5.8cm 厚 1.6cm 重 51.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	撥形を呈する剥片の周辺部に、小剥離が施されている。打面は剥離面である。	右下端は折れている。
292 122	R F	長 4.7cm 幅 6.1cm 厚 1.6cm 重 48.7g	2C-64G 底上63.0cm	黒色頁岩	右上周縁部は、鈍く敲き潰している感じであり、左下周縁部は鋭く、細かい剥離も認められ、使用したことがわかる。	
300 122	R F	長 2.7cm 幅 2.7cm 厚 0.6cm 重 4.9g	2C-63G 底上97.0cm	黒曜石	縦長剥片の両側縁に、微細な剥離痕が認められる。打面は自然面である。	
303 127	R F	長 6.2cm 幅 4.2cm 厚 1.9cm 重 50.1g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	裏面図右下半部に調整剥離が認められる。その他の両側縁には使用痕が残る。	下端欠損。
312 122	R F	長 6.5cm 幅 7.5cm 厚 2.7cm 重 167.5g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	両側縁から上縁にかけて、鋭い角度の調整剥離が施される。表面は自然面を大きく残す。上端からの剥離が一番新しく、本来は錐状に尖頭部が突出していたものかもしれない。	
266 122	打製石斧	長 8.0cm 幅 4.0cm 厚 1.2cm 重 50.0g	2D-64G 底上17.0cm	細粒安山岩 (色調は黒色)	薄手のつくりである。素材は横長剥片とし、両側縁を潰し、短冊形に仕上げられている。	刃部欠損。全体に煤が付着暗褐色を呈す。
326 122	打製石斧	長 10.5cm 幅 6.7cm 厚 3.4cm 重 212.9g	K-28G 埋没土中	かんらん岩	両頭分銅形であり、両側縁の挟り込みもほぼ対称的である。	全面が極度に風化している。
296 122	打製石斧	長 9.7cm 幅 6.5cm 厚 1.8cm 重 126.1g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	分銅形を呈するが、両頭ではない。刃縁は直線的となっているが、使用によって若干内湾ぎみとなっている。両側縁の挟り込みも対称的となっている。	
284 123	砥石	長 12.0cm 幅 2.8cm 厚 2.2cm 重 81.8g	2C-63G 底上12.0cm	細粒安山岩	側面は剥離面である。表裏両面を砥石として使用している。使用面は緩い凹面をもつ。対象は鉄器ではないと思われる。	
318 123	砥石	長 8.3cm 幅 4.3cm 厚 1.2cm 重 65.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	緩い研磨痕を残すが、研磨方向を示す線状痕は不明瞭である。周縁部は打ち欠きにより整形している。	
331 123	砥石	長 4.0cm 幅 6.8cm 厚 1.8cm 重 74.0g	2D-64G 12層	砂岩	両側縁及び上端部には敲打痕が残る。欠損後も使用されているものと思われる。表裏両面には擦痕だけでなく、敲打痕も認められる。	上半部欠損。
311 123	砥石	長 5.4cm 幅 4.2cm 厚 2.0cm 重 58.9g	第Ⅱ河道 埋没土中	砂岩	上端は敲石として、裏面は砥石として使用されている。	下半部欠損。全体に煤が付着し黒変する。
295 123	砥石	長 21.3cm 幅 10.4cm 厚 6.9cm 重2300.0g	第Ⅲ河道 埋没土中	石英閃緑岩	表裏両面及び側面に線状痕が認められる。右側面上部に幅1mm強の細い筋状の傷が残る。硬い部分も削られているので、金属を研いでいるものと思われる。	
272 124	石核	長 7.8cm 幅 10.0cm 厚 3.2cm 重 266.2g	2D-64G 底上32.0cm	砂岩質頁岩	剥片を素材とする石核であり、裏面は自然面を大きく残す。石材は脈が不規則に入り込む粗いものであり、あまり良好ではない。	
270 124	石核?	長 6.2cm 幅 6.4cm 厚 2.8cm 重 127.7g	2C-63G 底上42.0cm	珩質頁岩	上部に自然面を残す。主に縁辺部に新しい剥離痕が認められる。左縁は鋭い縁辺を有する。	下半部欠損。
332 124	石核?	長 6.4cm 幅 8.2cm 厚 3.1cm 重 155.6g	2D-64G 12層	珩質頁岩	剥片を素材とし、側縁に剥離痕が認められる。剥片の打面には帯状に自然面を残す。石核としての打面は剥離面を用いる。	煤が付着する。

2号河川跡出土遺物観察表《石器》 図252～254

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
334 124	石核	長 9.0cm 幅 12.7cm 厚 5.8cm 重 682.8g	第Ⅲ河道 埋没土中	黒色頁岩	表裏両面に自然面を残す。横長剥片を目的として、剥離作業を行っている。作業面は上端から両側縁であり、下端からの剥離はない。	全体にローリングを受け、光沢をもつ。
286 124	石核?	長 4.0cm 幅 6.4cm 厚 2.1cm 重 46.8g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	上半部は節理面で欠損しているが、欠損後にも上端からの調整が認められる。縦断面をみると、下縁は鋭い刃角をもつことがわかる。	
290 124	石核	長 7.0cm 幅 9.4cm 厚 5.3cm 重 321.5g	2D-64G 底面直上	黒色頁岩	表面右下側に自然面を残す。裏面には大きく第一次剥離面を残す。素材となる剥片を剥離した際に、二つに欠けた面を作業面として、数枚の小形横長剥片を作出している。	
313 123	磨石?	長 6.7cm 幅 5.6cm 厚 1.4cm 重 82.6g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	硬い粒子が削られていないし、線状痕も不明瞭であるが、若干光沢をもつ。あまり硬くないものを擦ったと思われる。	表面風化剥脱。
317 123	磨石	長 8.1cm 幅 4.8cm 厚 1.9cm 重 122.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表面は弱い磨面であり、光沢はない。裏面は良く磨かれており、やや光沢をもつ。周縁部に敲打痕はない。	
267 123	磨石	長 7.4cm 幅 4.3cm 厚 6.7cm 重 270.9g	2C-63G 底上57.0cm	粗粒安山岩	自然面の一部を磨っているものであり、正面に残るものは強く光沢をもち、右側面のものは弱く、光沢はない。	部分的に煤が付着。裏面と上下両端欠損。
327 123	磨石	長 6.9cm 幅 5.7cm 厚 2.5cm 重 171.7g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は磨痕が明瞭に付き、やや光沢をもつ。裏面の線状痕は特にはっきりとしている。	側面から裏面は黒変し、やや光沢をもつ。
310 123	敲石	長 6.1cm 幅 2.7cm 厚 1.4cm 重 33.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	雲母石英片岩	両側縁に敲打痕を残す。側面の剥離は敲打の際にできたものである。	下半部欠損。
274 123	敲石	長 10.1cm 幅 5.4cm 厚 2.1cm 重 163.0g	2C-63G 底上55.0cm	黒色片岩	左側縁は下端に、右側縁は上部に打撃を加えた際にできた剥離痕を有する。	下半部欠損。
262 123	敲石	長 5.9cm 幅 5.2cm 厚 1.9cm 重 102.2g	2C-63G 底上92.0cm	雲母石英片岩	左側縁から上端にかけて敲打痕が残る。表裏両面ともに滑らかであり、砥石もしくは磨石として使用された可能性がある。	下半部欠損。
261 125	磨石	長 11.0cm 幅 9.1cm 厚 6.7cm 重 1042.2g	2C-63G 底上84.0cm	粗粒安山岩	右側面及び下面は非常に良く磨られていて、両者の境は稜をなす。それに比べると表裏両面は簡単であり、敲打痕を残す。	
263 125	磨石	長 12.0cm 幅 6.9cm 厚 6.5cm 重 657.5g	2C-64G 底上71.0cm	粗粒安山岩	かなり明確な線状痕が付く。裏面は平坦で、表面が山形に盛り上がる。上部折損後、右側面を調整し、使用している。	左半部欠損。
273 125	磨石	長 8.2cm 幅 6.4cm 厚 5.8cm 重 355.0g	2C-63G 底上57.0cm	花崗岩	自然面の凹面を利用して、磨石として使用している。	剥脱が顕著。
289 125	敲石?	長 13.1cm 幅 8.3cm 厚 2.0cm 重 252.7g	2C-64G 底上4.0cm	細粒安山岩	偏平角礫の下縁部に剥離が施される。全体がローリングを受け、磨滅しており、線状痕は不明である。	全面磨滅。
277 125	砥石敲石	長 7.4cm 幅 6.8cm 厚 3.5cm 重 281.9g	2D-64G 底面直上	粗粒安山岩	多面により構成され、面の境界は明瞭である。面は比較的平坦であるが、緩いカーブを有する。周辺部及び表面・上面に敲打痕を残す。	一部に煤が付着。
278 123	磨石敲石	長 7.7cm 幅 4.8cm 厚 1.7cm 重 105.1g	2D-64G 底上3.0cm	凝灰岩質砂岩	表裏両面は磨石として、周縁部は敲石として使用されている。硬質の粒子が削られていないので、比較的軟質のものを磨ったと思われる。	
282 125	磨石敲石	長 10.6cm 幅 4.7cm 厚 3.7cm 重 279.6g	2C-63G 底上23.0cm	ひん岩	上部及び左側縁の一部に敲打痕を残す。表面側には研磨稜を残す。かなり良く磨られており、やや光沢をもつ。	

2号河川跡出土遺物観察表《石器》 図254~256

番号 PL	器種	大きさ・重量	出土位置	石質	形状・調整加工の特徴	備考
316 125	磨石敲石	長 12.5cm 幅 5.5cm 厚 4.3cm 重 441.2g	第Ⅱ河道 埋没土中	石英閃緑岩	硬い部分が削られており、硬質なものを磨ったと思われる。左側縁下端と上端部に敲打痕を残す。	下半部欠損。
308 125	敲石磨石	長 8.8cm 幅 4.9cm 厚 2.6cm 重 113.5g	第Ⅱ河道 埋没土中	頁岩	下半部は上下両端から敲き折っている。表面の自然面には細長い傷が残る。鉄器もしくは石器の刃部を潰したものと思われる。両側面は滑らかであり、磨石として使用された可能性がある。	
314 125	磨石敲石	長 8.5cm 幅 5.0cm 厚 3.0cm 重 209.4g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表裏両面は良く磨られていて、弱い稜をもつ。上端及び右側縁には敲打痕を残す。下半欠損後も使用していると思われる。	下半部は打撃により欠損。
268 126	磨石	長 11.9cm 幅 5.6cm 厚 7.1cm 重 611.4g	2D-64G 底上26.0cm	変質安山岩	表面は非常に滑らかに磨られている。裏面は表皮が剥がれていて、一部に自然面を残す。	上下両端及び両側縁は剥がれている。
279 126	敲石	長 8.7cm 幅 7.0cm 厚 5.0cm 重 349.9g	2D-64G 底上37.0cm	粗粒安山岩	敲いた際に一部欠損している。風化しているため、敲打痕の範囲は不明瞭である。	風化が顕著。
315 126	凹石	長 7.0cm 幅 7.1cm 厚 3.8cm 重 174.0g	第Ⅱ河道 埋没土中	粗粒安山岩	表面の凹みは深く、明瞭であるが、裏面の三つの凹みは浅く形も不明瞭である。裏面中央のものはやや深い。	石材は多孔質。
301 126	凹石	長 9.4cm 幅 6.6cm 厚 6.2cm 重 305.7g	2C-64G 底上90.0cm	粗粒安山岩	断面は三角形を呈する。三面に一つづつ、しっかりした凹みを有する。その凹みは回転によるものと思われる。	正面のみ、鉄分はほとんど付着しない。
264 126	磨石	長 9.7cm 幅 10.4cm 厚 10.2cm 重1660.8g	2D-64G 底上15.0cm	はんれい岩	平坦面はすべて磨石として使用され、側縁部には敲打痕が明瞭に残る。良く磨られている左側面は部分的に光沢をもつ。	欠損品。剥脱面がある。
269 126	磨石敲石	長 10.1cm 幅 7.5cm 厚 4.6cm 重 469.5g	2D-64G 底上17.0cm	溶結凝灰岩	表裏両面の凹みは敲打によるものであるが、裏面の中央は回転による。側面には良く敲打痕が残るが、その上を磨痕（使用痕）が覆う。	
281 127	磨石敲石	長 10.7cm 幅 5.6cm 厚 5.9cm 重 455.3g	2D-64G 底上33.0cm	石英閃緑岩	上下両端及び側縁部に敲打痕が残る。表裏両面及び側面には磨痕が残る。	
276 126	敲石磨石	長 14.1cm 幅 8.2cm 厚 4.2cm 重 687.2g	第Ⅱ河道 埋没土中	細粒安山岩	表裏両面の研磨面は凹む。側面の敲打痕は明瞭であるが、右側面は敲打後、磨られている。	下半部欠損。煤が付着。
275 126	磨石敲石	長 9.7cm 幅 7.4cm 厚 1.9cm 重 247.4g	2D-64G 底上34.0cm	細粒安山岩	表裏両面は非常に滑らかになっている。上下両端及び側縁に敲打痕が残る。	
265 127	磨石凹石	長 7.5cm 幅 8.0cm 厚 4.7cm 重 373.5g	2D-64G 底上14.0cm	粗粒安山岩	表面中央に敲打による凹みを有する。表裏両面を磨っており強い部分はやや光沢をもつ。	全体に黒変。下半部欠損。
287 127	磨石敲石	長 13.1cm 幅 10.9cm 厚 8.7cm 重1474.4g	2C-63G 底面直上	石英閃緑岩	断面は三角形を呈し、左右両側面及び底面に研磨痕を有する。底面のものは研磨後が明瞭に残る。左側面及び稜部に敲打痕が残る。	完形。
285 127	敲石磨石	長 9.4cm 幅 8.1cm 厚 4.2cm 重 492.2g	2D-63G 底面直上	粗粒安山岩	表裏両面には磨石として使用した際の線状痕が残るが、表側が強く、裏側が弱い。ほぼ全周縁に敲打痕が残る。	
283 127	敲石磨石	長 15.9cm 幅 8.9cm 厚 4.1cm 重 699.2g	2C-63G 底上20.5cm	砂岩	スタンプ状を呈し、尖出部三ヶ所とも良く敲かれて、潰れている。表裏両面とも磨れている。	
280 127	磨石敲石	長 12.3cm 幅 8.2cm 厚 3.4cm 重 536.8g	2D-64G 底上12.0cm	蛇紋岩?	表裏両面ともよく磨られている。特に裏面は長軸に対し、やや斜め横方向に幅2mm前後の線状痕が付く。側面に敲打痕を残す。	



2号河川跡第Ⅰ・Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図258～260

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1125 128	棒状木製品	27.2+ $\alpha$ ×1.9×1.0	埋没土中	板目 カヤ	片端部欠損	欠損する端の断面は正円に近く、他端部は偏平状に近い楕円形の断面をもつ。	
1126 128	梳櫛	6.6+ $\alpha$ ×4.8×1.1	2D-64G 埋没土中	不明 ヒサカキ類似種	一部欠損	全長は概ね7cm前後と推定される。隅切り半月形を呈し、歯間0.4cm、歯厚0.2cmである。	
975 128	杭	38.9×6.6×5.2	2D-63G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	頭部がわずかに割れている。先端部は削られ、細くなっている。	
840 128	杭?	30.7+ $\alpha$ ×3.2×2.1	2C-63G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一部にあたり痕が残る。	
991 128	股鋏	44.7+ $\alpha$ ×5.7×2.3	2C-63G 底上2.0cm	板目 ヌルデ	一刃部残存	両面とも平坦に削られており、上面側部と先端部は薄く削られる。	
960 128	狭鋏	36.5×9.3×2.8	2D-63G 底上1.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	柄穴付近は厚くなる。両側辺と刃部付近は薄く仕上げられている。	
933 128	杭	31.2×6.8×3.0	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	一端部は炭化している。端部は丸くつぶれ、表面には割り痕が残る。	
777 128	板材	26.9+ $\alpha$ ×3.5×1.4	2D-63G 底上2.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	平面にはわずかに割り痕が残る。	
927 128	容器状木製品 (未製品)	18.6×15.2×5.0 底径 6.0×5.7	2D-63G 底上6.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、一端部が木取り時の切断部分を残す。底面は円形に近く平滑である。上面から下面にかけては大きく、11回に渡る割り痕が残る。	
928 128	容器状木製品 (未製品)	16.2×14.7×4.0 底径 6.5×5.4	2D-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、底面は丸く平滑である。上面から下面にかけてはきれいに削られ、八角形を呈している。	
971 128	容器状木製品 (未製品)	41.0×25.2×9.6	2C-63G 底上3.0cm	柁目 ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、底面は楕円形で平滑である。上面から底面にかけては丁寧な削られた割り痕が残る。突起状の柄が1対ある。	
773 128	容器状木製品	18.5×11.7×5.0	2C-63G 底上32.0cm	柁目 ケヤキ	完形	両端部は切断されている。平面及び側面は平滑である。底部は丸く周辺は斜めに細かく削られている。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図260～263

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
926 129	容器状木製品 (未製品)	22.8×21.0×7.6 底径 8.4×6.8	2C-63G 底面直上	分割材 (加工) ニレ属	完形	上面は平滑に削られ、削り痕が残る。底面は丸く平滑である。上面から下面にかけては、きれいに削り痕が残る。	
959 129	容器状木製品 (未製品)	27.0×25.2×7.8 底径 9.5×8.2	2C-63G 底上8.0cm	榎目 ケヤキ	完形	上面は隅丸方形、底面は円形に近く、ともに平滑に削られている。上面から下面にかけて丁寧な削り痕が残る。	
929 129	容器状木製品 (未製品)	26.7×17.6×6.2 底径 9.4×8.4	2C-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	上面は平滑に削られ、ほぼ八角形を呈す。底面はほぼ円形に近く平滑に削られている。上面から底面にかけては細かく削り痕が残る。	
333 129	環状葦製品	31.8×29.0のドーナツ形 最大幅約6.0cm、厚さ約2.0cm	2D-63G 底面直上	葦	?	鍋敷状を呈す。葦を20～30本まとめて輪をつくる。わずかにねじりをかける。全体につぶれている。	
855 129	容器?	30.6+ $\alpha$ ×4.3×2.3	2D-63G 底上11.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一端部は炭化している。一側端部はL字状に高くなっている。裏面は平坦に仕上げられている。	
1077 130	容器状木製品	48.8×8.8×4.5	2D-63G 底上38.0cm	分割材 クリ	一部欠損	半截した木材の中心をえぐる。一端部は中を細くえぐり、注口状のものを作出している。この為容器の壁は注口部分が厚くなっている。	
1063 130	容器?	49.0+ $\alpha$ ×16.2×5.3	2D-63G 底上12.0cm	板目 トチノキ	一端部欠損	端部・両側面はわずかに薄くなり舟底状を呈す。内面は中央が削られ凹状を呈す。	
932 129	杵?	29.8+ $\alpha$ ×6.1×4.6	2C-63G 底上3.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部が残存	端部は切断部分がわずかに残る。端部中央はつぶれている。分割材の表面は一部が削られている。	
995 130	杵状木製品	48.8+ $\alpha$ ×7.0×5.1	埋没土中	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	一端部欠損	端部が薄くなり、握り部分が細くなる。杵の先が細くなっている為杵以外の可能性もある。	
1059 130	弓?	54.0+ $\alpha$ ×1.0 $\phi$ ×1.1	2C-64G 底上4.0cm	芯持 イヌガヤ	両端部欠損	表面は削っている。	
825 130	弓	8.6+ $\alpha$ ×1.4×0.6	埋没土中	榎目 カヤ	一端部残存	弓筈を削り出している。わずかに湾曲している。	
1086 130	広楾	16.0+ $\alpha$ ×15.8+ $\alpha$ ×1.3	2D-63G 底上37.0cm	榎目 コナラ属 アカガシ亜属	刃部・着柄部が部分的に欠損	装着部と楾身部とがはっきり分かれ、装着部分が隆起している。着柄部分は丸く、斜めに柄穴が貫通している。刃部は欠けている。	
982 131	着柄楾 (未製品)	96.2×21.9×7.4	2D-63G 底上4.0cm	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	広口楾の未製品であり、両突起部は着柄の装着部になる。表面には工具痕が残る。二分割して使うものと考えられる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表〈木器〉 図263-266

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
937 130	弓	34.9×1.5×1.3	2C-63G 底上24.0cm	芯持 イヌガヤ	一端部欠損	両側面から二段階に削られている 弓管部分を残す。弓管部分に向かい 表面を削り調整している。	
962 131	農具膝柄	92.3+α×2.8φ×22.0+α	2D-64G 底上4.0cm	芯持 クリ	各端部とも 欠損	枝を握り部とし、幹を分割して平坦 面づくり、装着部とする。	
694 131	棒状木製品	9.5×2.7φ×2.6	2D-63G 底上24.0cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	両端部を削り出している。分割材 を丸棒状に加工している。	
979 131	杭	32.2×3.6×2.3	2C-63G 底上35.0cm	分割材 スギ	ほぼ完形	頭部はつぶれ、先端の一部は欠け ている。	
724 131	板(用途不明 木製品)	15.3+α×9.8×2.2	2C-63G 底上22.0cm	柾目 カヤ	一部欠損	各辺は切断されており、一部が細 く延びる接点で欠損。切断面には 多くの工具痕が残る。	
935 131	板	24.3×10.9×0.7	2C-63G 底上22.0cm	柾目 スルデ類似種	一側面が欠 ける。	両面とも平滑に仕上げられている。 一端部は両面から斜めに削られ、 切り落とされる。下端部は一方 向から切られている。	
970 131	板材	57.2+α×8.3×2.4	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	両面は平らにつくられている。端 部には切断痕が残る。	
967 131	横鋸 (未製品)	67.1×18.0×3.8	2C-63G 底上20.0cm	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	平滑な両面である。柄穴穿孔前の 状態であり、隆起部が作出される。	
961 132	横鋸 (未製品)	59.0×14.8×2.7	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	表面はすべてきれいに仕上げられ ている。	
1073 131	角材	75.0×12.0×8.4	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は斜めに切断され、節部が 残る。製品前段階の材料であると 考えられる。	
726 132	用途不明木製 品	15.5×9.1φ×7.5	2C-64G 底面直上	分割材 (加工) ケヤキ	完形	両端部をきれいに切断している。 表面は幅約2cmの工具できれいに 削り出している。	
945 132	柄?	79.4+α×4.0φ 80.4×3.0φ	2C-64G 底上41.0cm	芯持 ヤマグワ	端部欠損	二股に分かれた芯持の材である。 付根部は直径5.8cmである。端部 が延びる。	
779 132	二股股木	26.0×2.6φ 枝部 19.2+α×2.4φ	2D-63G 底上14.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	枝は一部残 存	幹の部分は両端部が面取りされ、 枝は途中から欠損する。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図267～270

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
957 132	板 (未製品)	55.3×6.7×2.4	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	両面両側ともきれいに削られている。	
948 132	板	32.0+α×10.4×3.5	埋没土中	板目 ヤマグワ	多くを欠損	一面は偏平。中央長軸方向に突起があり、隆起する。割り痕が残る。	
983 133	クレウチ	68.7+α×3.5φ 31.0×10.3×3.8~3.0	2D-64G 底上22.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	枝は端部で 欠損	枝折りをした柄と幹を利用した偏平・幅広い身からなり、枝分かれする部分を細かく削っている。枝には樹皮が残る。工具痕が全体に良く残る。	
981 133	長柄鋤	124.3×20.5×3.2	2C-63G 底上8.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一部欠損	鋤身の部分に肩ができ、柄との区別が明瞭である。柄の先にはグリップエンドが作出される。鋤身の先は両側面から削り、先端は細くなる。側面からみて厚みは変わらず、先端部でわずかに薄くなる。	
955 133	長柄鋤 (未製品)	74.2×20.3×5.8	2C-63G 底上6.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	装着の為の細身の部分と刃先の部分の山形のつくりは大ざっぱである。側面に向かい薄くなり、柄の部分の厚くなる。細かな調整痕がある。	
1088 134	鋤先?	7.0+α×4.0+α×1.6	2D-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	刃部の一部 残存	刃部の角が残存する刃側部分は薄く削られている。刃側部から中央にかけて徐々に厚くなる。	
966 134	不明(材料)	75.4×22.8×10.0	2C-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	一面は平滑、他面は丸みをもつ。両端部は切断され、切断面には細かく工具痕が残る。製品をつくるものと考えられる。	
954 134	板状木製品	34.0+α×12.7×3.0	2C-63G 底上10.0cm	柾目 カヤ	両端部欠損	表裏面とも平らに削られる。表面の一部が炭化する。ほぼ中央部と割れ口の一部に方形の穴が貫通するが表裏両面から穿孔している。	
1050 134	板状木製品	35.4+α×4.0×1.8	2D-63G 底上4.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一端部は炭化している。	
976 134	板状木製品	40.2×4.8×1.6	2C-63G 底面直上	柾目 クリ	わずかに欠損	両面は平滑で、端部には丸みを持たせている。一側面端部付近は斜めに切り落とされている。	
1110 134	板材	21.4+α×6.6×2.4	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	両面は平滑に仕上げられている。両側面は篩部である。	
1053 134	板	37.5+α×6.3×3.4	2C-63G 底上13.0cm	板目 ケヤキ	両端部欠損	片端部は炭化している。表面に削り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図270~272

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
997 134	板	52.1×5.7×1.6	2C-64G 底面直上	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	表面は加工され、きれいに整えられている。両端部は斜めに切断されている。	
1068 134	板状木製品	60.5×7.1×2.1	2D-63G 底上10.0cm	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	完形	両端部は斜めに切断され、一端部最先端は平面方向から切られている。表裏面とも細かく削られる。	
1065 134	不明	45.1+ $\alpha$ ×4.3×1.7	2C-63G 底上13.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端一側部 欠損	分割面に割り痕が残る。	
861 134	不明	28.9+ $\alpha$ ×6.1×3.0	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	一面が炭化している。節部を残す。	
1060 134	不明	43.4+ $\alpha$ ×5.8 $\phi$ ×5.8	2D-64G 底上8.0cm	分割材 ヤマグワ	一端部欠損	分割材を丸く削り出している。表面には削り痕がある。	
828 135	不明 (未製品)	31.6×7.2×7.5	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	端部は細かく削り、切断されている。節部を残す。	
1081 135	角材	51.8+ $\alpha$ ×11.7×8.8	2C-64G 底上9.0cm	分割材 (加工) クリ	一端部欠損	端部には切断痕が残る。	
1072 135	角材	59.0×5.6×4.8	2C-63G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	端部は斜めに切断されている。	
1064 135	角材	93.7×10.5×9.6	2C-64G 底上43.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	分割痕が残る。両端部は斜めに切断され、節部が残る。製品前段階の材料であると考えられる。	
985 135	角材	41.9+ $\alpha$ ×7.3×3.8	2D-63G 底上21.0cm	柾目 カヤ	一端一側欠 損	数カ所の切り込みが見られる。裏面は平滑である。上面は長軸方向に沿い、長く段をもつ。	
986 135	角材	39.0+ $\alpha$ ×2.2×1.4	2C-63G 底上36.0cm	柾目 モミ属	両端部欠損	角材は加工している。	
1089 135	杭	23.6×6.5×3.2	2D-63G 底上30.0cm	分割材 ケンボナシ	先端の一部 と頭部欠損	頭部は敲かれて欠損したと考えられ、周辺部分が剝離している。	
947 135	棒状木製品	65.0+ $\alpha$ ×3.1×2.8	2D-63G 底上5.0cm	芯持 クリ	一端部欠損	一端部は二股に分かれ、それぞれ端部は丸みをもつ。	
1004 135	棒状木製品	43.7+ $\alpha$ ×2.4×2.1	2C-63G 底上30.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	一部に加工痕が見られる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図273

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
656 135	板	16.0+ $\alpha$ ×4.6×1.9	2D-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	片端部欠損	端部が炭化している。割りっぱなし。一面はわずかに平滑にする。篩部が残る。	
660 135	板状木製品	16.0+ $\alpha$ ×6.8+ $\alpha$ ×1.6	2D-63G 底上3.0cm	柁目 コナラ属 アカガシ亜属	一側一端部 がわずかに 残存	端部は太く、欠損端部方向に向かい薄くなる。	
662 136	板	11.0+ $\alpha$ ×5.5+ $\alpha$ ×1.3	2C-63G 底上25.0cm	柁目 モミ属	両端と一側 面欠損	一面が炭化している。表面にはわずかに傷が残る。	
664 136	板	19.4+ $\alpha$ ×4.3+ $\alpha$ ×0.9	2D-63G 底上11.0cm	板目 モミ属	一端一側が 一部残存	真ん中に折れが残る。	
666 136	板	22.5+ $\alpha$ ×8.5+ $\alpha$ ×2.0	2C-64G 底上13.0cm	板目 クリ	一端一側が わずかに残 存	端部は一平面方向から斜めに切断。切断面には工具痕が残る。裏面は平滑である。	
668 136	板	14.0+ $\alpha$ ×6.2+ $\alpha$ ×2.3	2C-63G 底上14.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側欠 損	表裏面にわずかに削り痕が残る。	
670 136	杭	18.7+ $\alpha$ ×5.3×2.4	2C-63G 底上3.0cm	分割材 ムクロジ	頭部欠損	先端部は削られ、尖っている。	
688 136	板状木製品	20.2+ $\alpha$ ×6.7×1.7	2C-63G 底面直上	板目 カツラ	一端部欠損	表面は炭化が激しい。側面と一端部も炭化する。裏面には鋭利な工具痕が残る。用途不明。	
695 136	板	15.3+ $\alpha$ ×5.5×1.8	2C-63G 底上13.0cm	柁目 ヤマグワ類 似種	一端部欠損	端部は斜方向に切断。両平面にはわずかな削り痕が残る。	
700 136	板	12.8+ $\alpha$ ×4.3+ $\alpha$ ×0.7	2D-63G 底面直上	板目 モミ属	両端と一側 面欠損	薄い板材をつくり出している。	
701 136	板状木製品	16.2+ $\alpha$ ×3.3+ $\alpha$ ×1.2	2D-64G 底上3.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側欠 損	表面にはわずかに削り痕が残る。	
712 136	板	20.8+ $\alpha$ ×19.5×2.0	2C-64G 底上71.0cm	柁目 クリ	両端部がわ ずかに残存	端部は平坦面から斜めに切断している。篩部が残る。	
723 136	板	13.6+ $\alpha$ ×5.7×2.3	2C-63G 底面直上	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は炭化している。表面はわずかに加工されている。	
731 136	板	19.3+ $\alpha$ ×7.2×2.8	2D-63G 底上4.0cm	分割材 (板目) クリ	両端部欠損	一面は割りっぱなし。他面にはわずかに削り痕が残る。篩部が一部に残る。	
733 136	板	21.0+ $\alpha$ ×2.7×0.9	2D-64G 底上23.0cm	柁目 コナラ属 アカガシ亜属	両端部欠損	一辺が薄く、ヘラ状を呈す。表面に削り痕を残す。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表〈木器〉 図274・275

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
735 136	板状木製品	16.5+ $\alpha$ ×3.4×1.0	2D-64G 底面直上	板目 ヤナギ属	両端部欠損	一部が炭化している。表面の一部が削られている。	
739 136	板	19.9+ $\alpha$ ×3.3×1.3	2C-63G 底上37.0cm	柁目 ヒノキ属	片端部欠損	割りっぱなし。	
770 136	板	12.7×2.6+ $\alpha$ ×0.5	2C-63G 底上3.5cm	不明 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一側面が欠損	非常に薄い。両端部及び両面は削られている。	
778 136	板	29.3+ $\alpha$ ×4.9×2.0	2D-63G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	薄い割材であり、節部が残る。	
780 136	板	25.8+ $\alpha$ ×4.6×1.4	2C-63G 埋没土中	分割材 広葉樹 (散孔材)	一端部欠損	割り痕が残る。一端部は丸みをもつ。	
809 136	板	27.4+ $\alpha$ ×2.9×1.1	2D-64G 底面直上	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	薄く仕上げられているが、表面が荒れていて調整痕は見当たらない。	
807 137	板	21.7+ $\alpha$ ×4.8×2.6	2D-63G 底上29.5cm	板目 マツ属 複雑管束亜属	両端部欠損	表面は平滑に削られ、仕上げられている。	
810 137	板	28.8+ $\alpha$ ×3.7×2.1	2D-64G 底上4.5cm	分割材 広葉樹 (環孔材)	片端部欠損	一端部は炭化している。割り痕が残る。一面をわずかに削る。	
822 137	板	22.4+ $\alpha$ ×3.1×1.3	2D-63G 底上24.0cm	柁目 カヤ	両端部欠損	薄く仕上げられている。中央部分で撥ね上がっている。	
829 137	板	28.6+ $\alpha$ ×7.7×2.1	2D-63G 底面直上	板目 エノキ属	片端部欠損	一端部は一平面から切り落とされ段状に切り痕が残る。	
827 137	板	32.5+ $\alpha$ ×9.5×2.8	2C-64G 底上43.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	端部は一部 残存	一面・両端部は炭化している。割り痕がある。	分割材を加工。
832 137	板	24.8+ $\alpha$ ×3.4×0.6	2D-63G 底上23.0cm	柁目 ケヤキ	両端部欠損	平滑に仕上げられている。	
834 137	板(横楸)	26.7+ $\alpha$ ×8.7×1.3	2C-64G 底上58.0cm	板目 コナラ属 アカガシ亜属	一端一側を 欠く。	端部は斜めに切り落としてある。平面は平滑に仕上げられている。	
826 137	板	12.3+ $\alpha$ ×6.0×1.4	埋没土中	板目 オニグルミ	片端部欠損	分割面をわずかに削っている。	
835 137	棒状木製品	26.0+ $\alpha$ ×3.2×1.1	埋没土中	柁目 カヤ	一端部欠損	薄く仕上げられている。先端部は丸みをもつ。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図275・276

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
839 137	板	18.3+ $\alpha$ ×5.5×1.9	2C-62G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	分割材を平滑にしている。	
859 137	板	26.1+ $\alpha$ ×3.8×2.1	2D-63G 底上27.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一面には節部が残る。端部は約2回に渡り切断されている。	
856 137	板	28.6+ $\alpha$ ×7.6×1.8	2D-64G 底上62.0cm	板目 モミ属	両端部欠損 側面も欠損	一面が全面炭化している。	
963 138	板	72.0×3.3×2.0	2C-64G 底上20.0cm	分割材 モミ属	ほぼ完形	一端部は三方向から切断されている。他端部は薄くわずかに割れている。一面には節部が残る。両端部ともにわずかにつぶれている。	
858 137	板	43.3+ $\alpha$ ×3.5×1.4	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	削り痕が一面に残る。	
860 138	板	28.5×9.4×3.6	2C-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	端部が一部 欠損	一端部は炭化している。他端部には切断痕、平面には削り痕がある。	
931 138	板状木製品 (不明)	14.1×18.2×2.6	2C-63G 底上26.5cm	柾目 コナラ属 アカガシ亜属	わずかに欠 損部がある	表裏面は平滑に削られている。各辺には加工痕を残す。	
951 138	板状木製品	12.6+ $\alpha$ ×6.5+ $\alpha$ ×2.0	2C-63G W969の下	板目 キリ	形状不明	各辺と一面が炭化している。他面に削り痕がわずかに残る。	
952 138	板状木製品	10.7+ $\alpha$ ×5.7×1.4	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端一側欠 損	一面は平らに仕上げられている。一辺は中央から徐々に薄くなる。	
974 138	板	70.7+ $\alpha$ ×4.0×1.5	2C-64G 底面直上	柾目 カバノキ属	一端両側欠 損	表面は削られ平滑面をつくっているが、欠損面が多く形状は不明。	
1057 138	板	54.2+ $\alpha$ ×6.7×2.8	2C-63G 底面直上	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	両平面を削る。一面は平滑で、他面はわずかに丸みもち、側辺部分は薄くなる。股鉾の刃部？	
1074 138	板材	52.1+ $\alpha$ ×8.9×2.7	2D-63G 底上33.0cm	分割材 ケンボナン	両端部欠損	節部を残す。削り痕を残す。	
1079 138	板	11.9+ $\alpha$ ×2.1×0.9	埋没土中	柾目 ケヤキ	両端部欠損	切断面は斜めに切断されている。	
1097 138	板	6.2+ $\alpha$ ×3.0×0.3	埋没土中	柾目 カヤ	両端部欠損	両側端部は薄くされている。	



2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図276・277

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1111 138	板	23.7+ $\alpha$ ×4.8×1.8	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部と一 側一面欠損	平面には割り痕が残る。	
655 139	角材	13.3+ $\alpha$ ×5.4×4.1	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	片端部欠損	節部が残る。端部は炭化している。 木芯寄面は割りっぱなし。	
684 139	角材	13.0+ $\alpha$ ×7.4×4.9	2C-63G 底上23.0cm	分割材 モミ属	片端部欠損	一面が炭化している。	
686 139	角材	8.8+ $\alpha$ ×5.1×4.1	2D-63G 底上9.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	頭部がわずかにつぶれている。	
742 139	杭	21.0×3.2×1.8	2D-63G 底上18.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	ほぼ完形	頭部はつぶれている。	
1114 139	不明	15.8+ $\alpha$ ×5.1×3.7	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	大部分を欠 損する。	割材を利用したL又はU字形の削 り込みをもつ木製品である。	
823 139	丸棒状木製品	27.2+ $\alpha$ ×1.9×1.6	埋没土中	分割材 (加工) モミ属	一端部欠損	割材を削り出してつくっている。 残存する端部と端部付近は加工さ れ、わずかに凹む。柄?	
830	棒状木製品	26.3+ $\alpha$ ×2.3×1.6	2C-63G 底上26.0cm	分割材 (加工) 広葉樹 (散孔材)	一端部欠損	端部は細かく削り出される。節部 を残す。	
1054 139	不明	26.7+ $\alpha$ ×2.4×1.9	2D-63G 底上1.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	工具痕が表面にわずかに残る。	
1094 139	丸棒状木製品 (柄?)	70.9+ $\alpha$ ×2.7 $\phi$ ×2.2	2D-63G 底上15.0cm	分割材 ケヤキ	両端部欠損	割材を面取りして、丸くつくり出 している。	
988 139	棒状木製品	41.0+ $\alpha$ ×2.4×2.5	2D-63G 底上8.0cm	分割材 カヤ	一端一側欠 損	二面に割り痕が残る。一端部と一 部分が炭化している。	
1098 139	不明	8.9+ $\alpha$ ×4.2×3.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	節部が残る。	
746 139	角棒	16.2+ $\alpha$ ×1.8×1.2	2C-63G 底上32.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	分割面は分割後、削っている。	
749 139	丸棒	20.0×2.8×2.2	2C-63G 底上29.0cm	芯持 スルズ類似種	完形	樹皮がわずかに残る。両端部は焼 けている。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図277・278

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
776 139	棒状木製品	28.4+ $\alpha$ ×4.3×2.4	2D-63G 底面直上	分割材 モミ属	両端部欠損	分割材を加工し、平坦をつくっている。	
1066 139	不明木製品	29.0+ $\alpha$ ×13.0×7.2	2D-63G 底上15.0cm	芯持 カヤ	一部欠損	断面が菱形を呈し、長軸に沿い、半分を斜めに切断、残り半分を円錐状に加工。調整痕はしっかりと残る。用途不明。	
747 139	角棒	16.2+ $\alpha$ ×1.4×1.7	2C-63G 底上21.0cm	分割材 モミ属	両端部欠損	分割面一面は分割後、削っている。	
710 139	角材	13.9+ $\alpha$ ×2.5×2.9	2C-64G 底上39.0cm	分割材 クリ	一端部欠損	一端部が炭化している。	
871 139	角材	25.5+ $\alpha$ ×5.5×4.2	2C-63G 底上43.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面がわずかに削られている。	
774 139	角材	22.4×4.4×4.8	2D-63G 底上24.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は切られている。工具痕が細かく残る。	
783 139	角材	28.4+ $\alpha$ ×3.7×2.8	2C-62G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	表面には削り痕が残る。先端部は斜めに崩されている。	
745 139	角材	12.4+ $\alpha$ ×6.3×3.6	2C-63G 底上35.0cm	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部を残す。両側面は削り痕を残す。	
808 139	角材	14.4+ $\alpha$ ×2.4×2.1	2C-63G 底上10.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	両端部欠損	分割材を面取りしている。各面は平滑である。	
821 140	角材	25.8+ $\alpha$ ×5.3×3.1	2C-63G 底面直上	分割材 カエデ属	両端部欠損	節部・削り痕を残す。	
936 140	角材	24.5+ $\alpha$ ×7.5+ $\alpha$ ×3.4	2D-64G 底上38.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端一側欠損	分割材を一部加工し、断面四角形に近い形状をとる。	
1084 140	角材	25.5+ $\alpha$ ×3.9×2.6	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面は炭化している。	
812 140	不明木製品	23.4+ $\alpha$ ×3.2×3.2	2D-63G 底上22.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部を残す。	
734 140	不明木製品	15.4+ $\alpha$ ×3.1×1.7	2D-64G 底上16.0cm	分割材 サクラ属	両端部欠損	表面にはわずかに工具痕が残る。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表〈木器〉 図278・279

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
738 140	不明木製品	13.2+ $\alpha$ ×3.0×1.6	2C-64G 底上2.0cm	分割材 オニグルミ	一端部欠損	一面に篩部が残り、割った面は炭化している。	
736 140	不明木製品 鑽臼	19.7+ $\alpha$ ×3.2×1.8	2D-63G 底上2.0cm	分割材 (加工) クリ	両端欠損	断面三角形。両端部を削り止まる。三角形の頂点に三カ所の凹みが確認できる。	
696 140	棒状木製品	9.1×3.4×2.9	2D-64G 底上57.0cm	芯持 モミ属	完形	両端部を周辺から削り出し、尖らせている。表面は篩部である。	
718 140	木片	8.2×4.5×2.8	埋没土中	分割材 クリ	完形	両端部には切り落とされた痕跡が残る。部分的に炭化している。	
719 140	木片	5.1×4.8×2.9	埋没土中	板目 広葉樹	完形	全面炭化している。一面は平滑で他面は丸みをもち、端部は斜めに切断された痕跡を残す。	
737 140	木片(板)	12.5×6.0×2.2	2C-63G 底面直上	板目 ヤマグワ	ほぼ完形	両端部は切断されている。表面は磨耗が激しい。	
743 140	木端	11.8×7.5×4.5	2C-63G 底上29.0cm	分割材 クリ	完形	両端部を数回に渡り切断した痕跡がある。	
775 140	木片	11.2×9.3×6.1	2D-64G 底上20.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	一端部には数回に渡る切断痕がある。他端部と一面は炭化している。	
819 140	木端	14.1+ $\alpha$ ×5.8×4.8	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	片端部欠損	一端部は炭化している。一面は篩部である。	
820 140	木端	8.9×7.0×3.3	2D-64G 底上35.0cm	分割材 モミ属	完形	両端部は斜めに切り落とされている。一端部は炭化している。	
838 140	木片 (用途不明)	6.0×3.6×2.7	埋没土中	分割材 コナラ属 アカガシ亜属	完形	端部は斜めに切断されている。	
836 140	木端	10.8+ $\alpha$ ×4.1×3.7	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	端部は炭化している。篩部を残す。	
946 140	木端	10.1+ $\alpha$ ×2.8×2.4	2C-64G 底上41.0cm	分割材 カツラ	一端部欠損	一面を削り、一端部は両面から削り薄くさせている。	
864 140	木端	10.3+ $\alpha$ ×4.5×3.6	2C-63G 底上27.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一面(篩部側)は炭化している。	
1106 140	木端	9.0×5.2×4.0	2D-64G 底上28.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	完形	分割材の両端部が数回に渡り、切り落とされている。篩部を残す。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図279~281

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
707 140	割材	16.0+ $\alpha$ ×4.7×1.7	2D-63G 底上18.0cm	分割材 クリ	両端部欠損	一部が炭化している。	
725 140	丸棒状木製品 (丸杭?)	14.5+ $\alpha$ ×3.1 $\phi$ ×3.5	2D-64G 底上7.0cm	芯持 ケンボナシ	一端部欠損	頭部がつぶれている。	
714 140	棒状木製品	21.3+ $\alpha$ ×2.7×1.5	2D-63G 底上14.0cm	分割材 モミ属	両端部欠損	一面は平坦で割りっぱなし。	
833 140	くさび	29.4×9.3×5.7	2D-63G 底上8.0cm	建築材 トチノキ	完形	先端部は三面から削り出される。 頭部は断面四角形で、一側面中央から頭部に向かい切断されている。	
677 140	くさび (板状木製品)	11.0×12.0×2.1	2C-63G 底上15.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	両端部は斜めに切られている。切断面の工具痕の幅は約1cmである。表面には一カ所円形の作業痕と平滑にした工具痕が残る。	
682 140	くさび状木製品	11.6×11.7×6.0	2C-63G 底上25.0cm	分割材 カヤ	完形	先端部と頭部は二面から切断されている。表面には節部が残る。節部を利用している。	
744 140	杭	13.4+ $\alpha$ ×6.6×4.3	2C-63G 底上3.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	分割材を加工し、杭にする。先端部及び両側面は削り痕を残す。	
925 141	杭状木製品	28.5×11.8×6.7	2C-63G 底上45.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	一端部は丸めに加工され、他端部は杭の先状に切られている。	
969 141	不明(材料)	86.0×28.4×15.3	2C-63G 底面直上	分割材 ムクノキ	完形	一面は平坦、他面は丸みをもつ。両端部は切断され、切断面には細かく工具痕が残る。製品をつくるものと考えられる。節部が残る。平面には削り痕が残る。	
964 141	くさび	39.6×4.2×5.3	2C-63G 底上10.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	刃部一部欠損	先端部は幅広く、平坦に削られている。頭部には斜めに削り痕が残る。	
1070 141	杭状木製品	45.6×9.6×3.4	2C-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	頭部はつぶれ、先端部は削り尖らせている。	
661 141	杭	21.6+ $\alpha$ ×4.6 $\phi$ ×3.5	2D-64G 底面直上	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	頭部欠損	先端部が細かく削られている。節部が多く残る。	
669 141	杭	23.7×5.7 $\phi$ ×4.3	2C-64G 底上15.0cm	芯持 カバノキ属	頭部一部欠損	先端部を周辺から尖らせている。一面は炭化している。頭部は扁平を呈す。	
702 141	杭	25.5+ $\alpha$ ×2.8 $\phi$ ×1.9	2D-63G 底上20.0cm	芯持 オニグルミ	ほぼ完形	先端部は周辺より削り出されている。頭部と最先端部はつぶれる。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図281~283

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
857 141	杭	55.8+ $\alpha$ ×3.4×3.2	2D-64G 底上42.0cm	芯持 ヤマグワ	頭部欠損	先端部は三方向から削り出されている。	
729 141	丸杭	17.3+ $\alpha$ ×2.4 $\phi$ ×2.3	2C-63G 底上5.0cm	芯持 コナラ属 アカガシ亜属	頭部欠損	先端部はわずかに削り尖らせているが、欠損部分が約1/2ある。	
732 141	杭	17.0+ $\alpha$ ×4.4 $\phi$ ×3.6	2C-63G 底上18.0cm	芯持 ハンノキ属	頭部欠損	先端部は炭化している。	
768 141	杭	23.2×2.3×2.1	2C-63G 底上34.0cm	芯持 サクラ属	完形	先端部は一方向から切断され、部分的に炭化している。頭部面には浅い沈線が2本入る。	
978 141	杭?	33.2×3.5×3.0	2C-63G 底上30.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部一部欠損	一端部は炭化している。	
740 141	丸杭	11.6×3.2 $\phi$ ×3.1	2C-63G 底上5.0cm	芯持 イヌガヤ	一端部欠損	節部を残す。端部は削られた後に表面が炭化している。	
784 141	杭	34.0+ $\alpha$ ×3.8 $\phi$ ×2.7	2C-63G 底上11.0cm	芯持 オニグルミ	一端部欠損	先端部は斜方向に一方向から切断されている。	
781 141	杭	25.3+ $\alpha$ ×5.2×4.8	2C-63G 底上11.0cm	芯持 ヤマグワ類 似種	頭部欠損	一端部は削っている。	
1055 142	杭	32.7+ $\alpha$ ×4.9 $\phi$ ×6.1	埋没土中	芯持 クリ	最先端部と 頭部一部欠損	先端部は二面から削られ、頭部はつぶれている。	
1061 142	杭	51.4×4.9×3.4	2C-63G 底上4.0cm	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部一部剥離	両面にあたり痕がある。	
1069 142	杭?	56.5+ $\alpha$ ×7.0 $\phi$ ×6.0	2C-63G 底上30.0cm	芯持 ニワトコ	一端部欠損	端部は斜めに切り落とされ、1/4が炭化している。	
1083 142	杭	87.6+ $\alpha$ ×4.9 $\phi$ ×4.2	2D-63G 底上26.0cm	芯持 ヤマグワ	一端部欠損	一端部の頭部がつぶれ、周辺が剥離している。	
1051 142	杭	28.0×11.5 $\phi$ ×9.2	2D-63G 底上10.0cm	芯持 ヤマグワ	完形	枝が払ってある。両端部は斜めに切断され、工具痕が多数残る。周辺部は節部がほとんどであり、一部に長さ3.5cm、幅3cm、深さ0.7cmほどの切り込みがある。	
691 142	杭?	25.0+ $\alpha$ ×5.4×2.7	2D-64G 底上19.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	節部が残る。一端部は節付近を切断している。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図283・284

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
727 142	杭?	12.7+ $\alpha$ ×4.0×3.3	2D-63G 底上37.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	表面の一部が炭化している。	
728 142	杭?	17.2+ $\alpha$ ×4.0×3.0	2D-64G 底上17.0cm	分割材 カエデ属	両端部欠損	一面で削り痕が明瞭に残る。	
730 142	杭?	14.5+ $\alpha$ ×3.5×2.6	2D-64G 底上14.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	節部が残る。分割部は割りっぱなしで、調整痕は認められない。	
757 142	杭	19.1+ $\alpha$ ×4.3×2.5	2D-63G 底上17.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部はつぶれている。節部が残る。	
741 142	丸杭	15.7×4.5 $\phi$ ×4.1	2C-63G 底上21.0cm	芯持 ウコギ属	ほぼ完形	両端部は斜めに切られている。端部は炭化し、枝は払ってある。	
782 142	杭	24.0+ $\alpha$ ×4.8×4.9	2C-63G 底上9.0cm	分割材 ウコギ属	一端部欠損	一端部は炭化している。節部を残す。	
846 142	杭	27.3+ $\alpha$ ×2.8×2.7	2D-63G 底上8.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	節部を残す。先端部は一方向から削られている。	
956 142	杭	93.8×6.5×5.8	2C-63G 底上11.0cm	芯持 ヤナギ属	頭部一部欠損	先端部は削られ、最先端部はつぶれる。全体的に劣化している。	
934 142	杭	36.7+ $\alpha$ ×4.2×3.6	2C-63G 底上47.5cm	分割材 ヤナギ属	頭部は割れ 先端部欠損	一面が焼けている。端部にはわずかに削り痕が残る。	
767 142	杭	9.4+ $\alpha$ ×3.8×2.6	2D-64G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部は削り尖らされている。	
950 142	杭状木製品	20.5+ $\alpha$ ×9.4×8.7	2C-63G W969の下	分割材 クリ	頭部残存	劣化が激しい。端部にはわずかに切断痕がある。	
831 142	杭	27.6×3.2×2.1	2D-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	ほぼ完形 先端部欠損	頭部がつぶれている。	
973 142	杭	73.0+ $\alpha$ ×8.8×5.8	2C-63G 底上13.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部と先端 の一部欠損	頭部はつぶれている。先端部は一部が尖らされ、欠損している。	
984 143	杭?	35.6×3.2×2.0	2D-64G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	裏面が一部 欠損	割り痕がある。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図284・285

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
996 143	杭	38.8×8.5×4.4	2D-63G 底面直上	分割材 (半載) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	先端部は尖らされ、頭部付近は斜めに切断されている。	
987 143	杭	36.9×3.9×2.9	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	頭部は炭化している。一面にわずかに加工痕が残る。	
990 a 143	杭	46.1+ $\alpha$ ×7.4×4.9	2C-63G 底上6.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	頭部周辺は一部剝離し、あたり痕がある。頭部は敲かれ、つぶれている。表面には割り痕が残る。	
994 143	杭	37.6×3.5×2.3	2D-63G 底上10.0cm	芯持 広葉樹 (散孔材)	頭部欠損	頭部は炭化している。先端部は周辺から削られ、尖っている。両側面は節部である。両面には削り痕が残る。	
990 b 143	建築材	25.0+ $\alpha$ ×6.0×2.8	2C-63G 底上6.0cm	柁目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	両面とも平滑に削られている。一面に柎穴がある。	
993 143	杭	45.0×7.6×2.3	2D-63G 底上27.0cm	分割材 クリ	最先端部欠損	先端部に向かい細くなる。頭部は敲かれている。	
999 143	杭	38.1+ $\alpha$ ×3.0×2.7	2D-64G 底上15.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部はつぶれている。	
1000 143	杭	37.0+ $\alpha$ ×5.5×3.7	2C-64G 底上25.0cm	分割材 クリ	先端部欠損	頭部は周辺から切断されている。	
1071 143	杭	51.2+ $\alpha$ ×5.4×3.3	2D-63G 底上46.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	先端部はつぶれ、わずかに欠損する。先端部から16cm上位に、幅2cm深さ0.5cm程のあたり痕がある。	
1056 143	杭	54.2+ $\alpha$ ×3.8×2.0	2D-64G 底面直上	分割材 モミ属	一端部欠損	先端部は削り出して、細くしている。頭部は欠けている。	
1062 143	杭	48.9×5.4×3.7	2C-63G 底上7.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	先端部は細く、全体に削られている。最先端部及び頭部はつぶれている。	
1007 143	杭	40.3+ $\alpha$ ×3.2×3.2	2C-63G 底上5.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	頭部欠損	表面にあたり痕がある。	

2号河川跡第Ⅱ河道出土遺物観察表《木器》 図285~287

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1112 143	杭	27.0+ $\alpha$ ×7.3×5.0	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端部わず かに欠損	頭部は削られている。先端部は周 辺から削り出されている。	
1100 143	杭	14.7+ $\alpha$ ×3.3×1.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部欠損	先端部は丸みをもつ。	
1078 144	杭	80.0×6.2 $\phi$ ×5.8	2C-63G 底上41.0cm	芯持 クリ	ほぼ完形	先端部は周辺から削られている。 頭部は斜めに加工され、頭頂部は 蔽かれつぶれている。	
1067 144	杭	77.6×3.4×2.9	2C-63G 底面直上	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	先端部を尖らせている。頭部は薄 くつくられている。	
1113 144	杭	38.2×5.2×2.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一部欠損	先端部はつぶれている。頭部は剥 離している。	
1090 144	杭	93.1×8.2×7.9	埋没土中	分割材 クリ	頭部一部欠 損	先端部は細く削られている。頭部 は斜めに切断され、剥離も激しい。 頭部から20cmほどの所にわずかに あたり痕があり、表面にはわずかに 削り痕を残す。	
1085 144	柄	88.0×3.3 $\phi$ (太) 1.9 $\phi$ (細)	2D-63G 底上68.0cm	分割材 (加工) ムクロジ	端部の一部 を欠損	丸棒状を呈す。年輪から分割材の 加工木と判明。丁寧に仕上げられ ている。	
965 144	丸木	52.5×12.3 $\phi$	2C-64G 底上6.0cm	分割材 (加工) ケヤキ	完形	分割材を加工し、丸木をつくる。 表面には幅2~3cmの工具痕、両 端部には細かく加工痕が残る。	
958 144	杭 くびれ状木製品	42.6×7.5×7.0	2D-63G 底上6.0cm	芯持 クリ	くびれ部と 先端部付近 は炭化	頭部は二方向から斜方向に切断さ れ、先端部は細く尖っている。頭 部付近はくびれている。	



2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表《木器》 図287～289

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1043 150	不明	36.4×12.2×8.6	埋没土中	芯持 ヤナギ属	完形	両端部には切断痕、表面には削り痕が残る。未製品と考えられる。	
938 145	広鋏	22.4+ $\alpha$ ×4.5+ $\alpha$ ×4.1	2C-63G 底上28.0cm	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	約1/3残存	装着部と鋏身部分のはっきりと分かれている。装着部分は隆起している。鋏先・鋏側は薄く作出されている。	
876 145	板 鋏?	21.6+ $\alpha$ ×9.4×1.5	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部はわずかに欠損 他端部欠損	両側端部は薄くなる。平面には削り痕が残る。	
886 145	不明	15.8+ $\alpha$ ×6.1×3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	半截。節部が残る。分割面は加工していない。	
906 145	不明	15.5+ $\alpha$ ×2.7×1.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	二面に削り痕が残る。	
872 145	農具膝柄	21.6×4.9×4.9	埋没土中	分割材 カヤ	柄が欠損	枝分かれ部分を使い、枝を柄に利用している。幹部分は半截し、平坦面を装着部としている。緊縛部分が作り出されている。柄が炭化している。	
1018 145	鋤鋏?	38.0×8.0×2.0	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部わずかに欠損	一端部は炭化している為、本来の形状を失う。側面は薄くなる。平面に削り痕が残る。	
874 145	農具膝柄	21.6+ $\alpha$ ×7.4×3.6	埋没土中	分割材 シラキ類似種	柄が欠損。 装着部の両端部欠損。	枝分かれ部分を使い、枝を柄に利用している。幹部分は半截し、平坦面を装着部としている。	
885 145	不明	17.0+ $\alpha$ ×3.4×3.6	埋没土中	分割材 サクラ属	両端部欠損	断面三角形。一端部は炭化している。	
908 145	杭状木製品 (杭?)	8.8+ $\alpha$ ×2.8 $\phi$ ×2.6	埋没土中	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部は斜めに切り落とされているが、杭の切断面とは異なる。	
900 145	容器	23.0+ $\alpha$ ×5.2+ $\alpha$ ×4.9+ $\alpha$	埋没土中	板目 トチノキ	わずかに残存	皿部は中央に向かい、鑄底状に凹む。縁はわずかに隆起させている。凹部表面はきれいに仕上げられ、側面には削り痕が残る。	
1022 145	柄	32.8+ $\alpha$ ×3.5×1.5	埋没土中	分割材 (加工) マツ属 榎維管束亜属	一端部欠損	一端部はソケット状に削り出されている。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表《木器》 図289・290

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1011 146	弓	27.4 + $\alpha$ × 2.5 × 1.7	埋没土中	分割材 イヌガヤ	一端部欠損	端部は細く、弓筈が作出されている。表面は割材を加工。削り痕が細かい。	
919 146	弓	26.5 + $\alpha$ × 1.7 $\phi$ × 1.4	埋没土中	芯持 イヌガヤ	両端部欠損	表面を削り、調整している。	
1036 146	不明	14.0 + $\alpha$ × 3.5 $\phi$ × 2.9	埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	一端部は炭化し、表面は劣化している。	
922 146	くさび	10.7 × 5.1 × 3.1	埋没土中	分割材 ヤマグワ	ほぼ完形	一端部は斜めに切断されている。他端部はほぼ水平に切られている。	
909 146	杭?	20.5 + $\alpha$ × 4.4 × 3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	頭部一部欠損	一端部は炭化している。頭部はつぶれ、周辺は割れている。節部を残す。削りっぱなし。	
888 146	杭	15.0 + $\alpha$ × 6.1 × 2.1	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両端部欠損	板状の杭と考えられる。平面には削り痕がある。	
916 146	不明	10.5 + $\alpha$ × 3.6 × 2.6	埋没土中	分割材 ヤナギ属	両端部欠損	一面に削り痕が残る。	
904 146	不明	12.7 + $\alpha$ × 3.5 × 0.5	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	薄く削られている。欠損部付近は隆起を持つ。裏面はわずかに湾曲している。	
1075 146	くさび	47.0 × 6.4 × 4.3	2C-63G 底上38.0cm	分割材 クリ	一部欠損	頭部は斜めに切断されている。先端部は偏平に削られている。	
877 146	板	17.4 + $\alpha$ × 5.6 + $\alpha$ × 0.5	埋没土中	榎目 広葉樹 環孔材	各辺欠損	薄い板。	
1031 146	板材	66.4 + $\alpha$ × 7.8 × 3.7	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	端部は斜めに切断されている。平面には削り痕が残る。	
1037 146	板材	68.6 × 7.6 × 2.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	両側一端部 欠損	両側端部に向かい薄くなる。一端部は丸みをもつ。	
1026 146	板	40.5 + $\alpha$ × 7.2 × 3.4	埋没土中	榎目 広葉樹 環孔材	両端部欠損	節部が残る。器面は荒れている。	
917 146	板	26.0 + $\alpha$ × 5.8 × 1.6	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	一端部欠損	削り痕がある。一端両側部はわずかに薄くなる。	
1017 147	板	40.0 × 7.5 × 2.7	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節	完形	両端部が炭化している。表面には削り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表《木器》 図290～292

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1045 147	板材	35.0+ $\alpha$ ×6.3×2.0	埋没土中	板目 広葉樹 (環孔材)	両端部欠損	表面は削られ、平坦になっている。 一面に樹皮が残る。	
1040 147	板材	46.5×15.5×3.0	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一部欠損	両端部は切断され、切断面には細 かな工具痕が残る。平面には平滑 にした工具痕が残る。	
1048 147	板材	46.5+ $\alpha$ ×5.5×2.5	埋没土中	柾目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	端部は斜めに切り落とされる。	
1047 147	板	66.0+ $\alpha$ ×7.0×4.0	埋没土中	柾目 広葉樹 (散孔材)	両端部欠損	表面は炭化している。一面が焼け ている。劣化が激しい。	
887 147	板	18.3+ $\alpha$ ×7.2×2.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面が炭化している。	
880 147	木端	12.2+ $\alpha$ ×8.5×2.9	埋没土中	柾目 オニグルミ	一端部欠損	三角形を呈す。一端部は平面方向 から切り落とされた痕跡が残る。 斜辺部は炭化している。当初は板 材として使用されていたとわかる。	
901 147	不明	10.3+ $\alpha$ ×4.3×2.2	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	割り痕が残る。割り痕等は見られ ない。	
924 147	不明	8.3+ $\alpha$ ×3.8×1.5	2C-63G 底上35.0cm	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	節部が残る。一面には分割痕が残 る。	
881 147	不明	33.4+ $\alpha$ ×4.5×1.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	上端部欠損	分割面は整形された様子はない。 きれいに分割されている。	
1034 147	厚板	30.5×23.7×7.6	埋没土中	板目 トチノキ	完形	両端面は斜めに切断され、細かく 工具痕が残る。側面及び裏面は平 滑な面が作出されている。	
1035 147	角材 建築材	47.5+ $\alpha$ ×10.5×7.5	埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	表面が炭化している。一面端部か ら10cmの位置に長さ7.0cm、幅4.0 cm、深さ1.5cmの方形の納穴があ る。	
930 148	不明木製品	24.3×12.8 $\phi$ ×10.2	2C-63G 底面直上	分割材 ケヤキ	完形	両端部には分割時の細かな工具痕 が残る。表面には幅約3cm程の削 り痕が残る。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表《木器》 図292-295

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
939 147	板状木製品	20.4+ $\alpha$ ×7.3×2.9	2C-63G 底面上27cm	分割材 (加工) コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面は平滑で、他面は湾曲し、削り痕を残す。	
1029 148	股木 (建築材)	58.1+ $\alpha$ ×9.3×5.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	端部はすべて欠損。	建築材として利用された可能性がある。股木の一端部には削り痕が残る。表面には鋭い傷が残る。	
896 148	木端	17.0+ $\alpha$ ×14.4×4.2	埋没土中	板目 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	ほぼ完形	裏面にはわずかに工具痕が残る。節部が残る。	
920 148	丸棒状木製品	14.6+ $\alpha$ ×3.1 $\phi$ ×3.0	埋没土中	芯持 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	一端部欠損	一端部が炭化している。	
1042 148	股木	51.8+ $\alpha$ ×3.0 $\phi$ ×2.4	埋没土中	芯持 ヤナギ属	一端部欠損	樹皮が残る。枝は払われている。	
923 148	木端	14.9×5.8×2.3	埋没土中	分割材 ヤマグワ	一部欠損	多面に渡り、切断痕が残る。	
910 148	木端	10.6×6.5×3.5	埋没土中	分割材 エノキ属	完形	切断面が随所に残る。	
878 148	木端	11.8×4.6×3.0	埋没土中	分割材 ケヤキ	完形	両端部は斜めに切り落とされる。	
1039 148	杭	43.5+ $\alpha$ ×7.5×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	頭部はつぶれている。器面は荒れている。	
1027 148	杭	47.6×8.0×6.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	先端部付近 一部欠損	先端部付近が剥がれている。両端部には斜めに切断される工具痕が残る。	
912 148	不明	15.5+ $\alpha$ ×6.7×5.8	埋没土中	分割材 エノキ属	両端部欠損	節部、削り痕が残る。	
1005 148	杭	38.3+ $\alpha$ ×4.6 $\phi$ ×4.0	埋没土中	芯持 ヤマグワ	頭部一部欠損	先端部は二方向から削られ、頭部はつぶれている。劣化が激しい。	
1046 148	不明	38.5+ $\alpha$ ×8.0×4.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	杭の可能性がある。節部が残る。	
1025 148	角材	29.4+ $\alpha$ ×6.4×3.8	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	器面は荒れている。	

2号河川跡第Ⅲ河道出土遺物観察表《木器》 図295-297

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
873 148	板	38.6+ $\alpha$ ×3.9×1.5	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	両端部欠損	一側面は薄く削られている。股楾の刃部の可能性も考えられる。	
1044 148	丸棒状木製品	52.9+ $\alpha$ ×2.2 $\phi$ ×2.3	埋没土中	分割材 (丸く加工) ケヤキ	一端部欠損	一端部は炭化している。長辺に沿い、細い溝が二本切られている。	
1016 148	不明	38.6+ $\alpha$ ×4.3×3.2	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	割り痕が残る。	
1001 149	棒状木製品?	38.8+ $\alpha$ ×2.8×1.2	2C-63G 底上36.0cm	分割材 カヤ	両端部欠損	一面は平滑にされている。他面は割れており、全体に削られている。	
879 149	木端	13.5×8.0×3.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	完形	割材の両端部を一部加工した木端。	
875 149	板	13.0+ $\alpha$ ×5.6×1.5	埋没土中	榎目 コナラ属 コナラ亜属 コナラ節	一端部欠損	端部は丸くつぶれている。表裏面には削り痕がわずかに残る。	
911 149	丸棒状木製品	20.4+ $\alpha$ ×4.0 $\phi$ ×3.1	埋没土中	分割材 トネリコ属	両端部欠損	分割材を丸く仕上げている。	
1033 149	角材	77.8×13.1×7.6	埋没土中	板目 ケヤキ	完形	節部を残す。両端部は斜めに切断され、切断面には工具痕が残る。	
1015 149	角材	38.7+ $\alpha$ ×4.8×4.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	一面が炭化している。	
883 149	角材	13.7+ $\alpha$ ×3.7×3.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	両端部欠損	分割面は整形された様子はない。きれいに分割されている。	
882 149	角材	14.0+ $\alpha$ ×4.4×4.0	埋没土中	分割材 ケンボナシ類似種	両端部欠損	一面にあたり痕がある。	
1041 149	角棒	48.0+ $\alpha$ ×3.3×3.0	埋没土中	分割材 (加工) クリ	両端部欠損	表面を削り、加工してある。	
1024 149	杭	59.8+ $\alpha$ ×9.0×5.0	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ亜属 クスギ節	先端部欠損	頭部は周辺から切断されている。分割面には削り痕が残る。	
1052	杭	40.5+ $\alpha$ ×3.7 $\phi$ ×4.0	2C-63G 底上11.0cm	芯持 ヤマグワ	一端部欠損	先端部は一方向から切り落とされている。	

2号河川跡第三河道出土遺物観察表《木器》 図297・298

番号 PL	器種	長さ×幅×厚さ×径(cm)	出土位置	木取り 樹種	遺存状態	加工形状の特徴	備考
1028 149	丸杭	40.0×3.6φ×2.7	埋没土中	芯持 エノキ属類似種	完形	先端部と頭部の一部が周辺から削られ、両頂部はつぶれている。樹皮が一部残る。	
972 149	杭	45.5+α×4.6×3.2	2C-63G 底上65.0cm	分割材 クリ	一部欠損	先端部は切り落とされ、頭部は周辺から削り出されている。樹皮が残る。	
889 149	杭	12.6+α×5.6×4.3	埋没土中	分割材 ヤマグワ	一端部欠損	杭の頭と考えられる。頭部は面取りが行われ、わずかにつぶれる。	
1019 149	杭	35.7×6.3×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 コナラ節	完形	両端部を削り、つくられている。節部が残る。頭頂部がつぶれている。	
992 150	角杭	38.8×3.3×3.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	頭部はつぶれる。	先端部は丸い。湾曲している。	
1020 150	杭	39.7×7.5×7.5	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 コナラ節	完形	先端部は分割材の頂点を削り、平坦面を作り出している。頭部は周辺から数回に渡り削り出している。	
1032 150	杭?	104.6×11.6×6.6	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	先端一部欠損	先端部は二面から削られている。頭部は平坦である。節部が残る。	
989 150	建築材?	91.0+α×9.4×5.3	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	一端部欠損	一端部は斜めに切断されている。表面には割り痕が残る。	
1049 150	建築材	32.5+α×9.0×5.6	埋没土中	分割材 オニグルミ	一端部欠損	節部が残る。一端部は斜め方向に分割されている。	
1014 150	杭	32.4×3.5×2.9	埋没土中	分割材 コナラ属 コナラ垂属 クヌギ節	頭部一部欠損	先端部は二方向から削られている。あたり痕がある。	

2号河川跡出土種子一覧表

番号	出土位置	種名	写真・PL	番号	出土位置	種名	写真・PL	番号	出土位置	種名	写真・PL
1	2C-64G	モモ		61	(第Ⅱ河道)	ツバキ	155	116	(第Ⅲ河道)	クルミ	
2	2D-64G	モモ		62	2C-64G	モモ		117	(第Ⅲ河道)	トチの木	
3	2D-64G	モモ		63	2C-64G	ノモモ	154	118	(第Ⅲ河道)	クルミ	
4	2C-64G	モモ		64	(第Ⅱ河道)	モモ		119	(第Ⅲ河道)	クルミ	
5	2C-63G	モモ	154	65	2C-64G	モモ		120	(第Ⅲ河道)	クスギ	
6	2D-64G	モモ		66	(第Ⅱ河道)	クルミ		121	(第Ⅲ河道)	カヤの木	154
7	2D-64G	モモ		67	(第Ⅱ河道)	クルミ		122	(第Ⅲ河道)	ツバキ	155
8	2D-64G	モモ		68	(第Ⅱ河道)	モモ		123	(第Ⅲ河道)	ウリ類	155
9	2D-64G	モモ		69	(第Ⅱ河道)	モモ		124	(第Ⅲ河道)	クスギ	155
10	2D-63G	モモ		70	(第Ⅱ河道)	ツバキ	155	125	(第Ⅲ河道)	ウリ類	155
11	2D-64G	モモ		71	(第Ⅱ河道)	シバグリ		126	(第Ⅲ河道)	不詳	
12	2D-64G	モモ		72	(第Ⅱ河道)	シバグリ		127	(第Ⅲ河道)	不詳	
13	2D-64G	モモ		73	(第Ⅱ河道)	シバグリ	155	128	(第Ⅱ河道)	不詳	
14	2C・2D-64G	モモ		74	(第Ⅱ河道)	シバグリ		134	(第Ⅱ河道)	モモ	
15	2C-64G	モモ		75	(第Ⅱ河道)	シバグリ		135	(第Ⅱ河道)	モモ	
16	2C-64G	モモ		76	(第Ⅱ河道)	クルミ		136	(第Ⅱ河道)	モモ	
17	2C-64G	モモ		77	(第Ⅱ河道)	クルミ		137	(第Ⅱ河道)	モモ	
18	2C-64G	モモ		78	(第Ⅱ河道)	モモ		138	(第Ⅱ河道)	モモ	
19	2C-64G	モモ		79	(第Ⅱ河道)	クルミ		139	(第Ⅱ河道)	アンズ	
20	2C-63G	モモ	154	80	(第Ⅱ河道)	モモ		140	(第Ⅱ河道)	クリ	
21	2C-63G	オニグルミ	154	81	(第Ⅱ河道)	ジュズダマ?	155	141	(第Ⅱ河道)	クルミ	
22	2D-63G	オニグルミ	154	82	(第Ⅱ河道)	クリの皮 の一部		142	(第Ⅱ河道)	モモ	
23	2D-63G	モモ		83	(第Ⅱ河道)	シバグリ	155	143		モモ	
24	2D-63G	モモ		84	(第Ⅱ河道)	ウリ類(マ クワウリ)		144		マテバシイ?	
25	2D-64G	モモ									
26	2D-63G	オニグルミ		85	(第Ⅱ河道)	モモ					
27	2D-63G	オニグルミ		86	(第Ⅱ河道)	オナモミ (毛のある もの)	155				
28	2D-63G	クルミ		87	(第Ⅱ河道)	不詳					
29	2C-63G	モモ		88	(第Ⅱ河道)	不詳					
30	2D-64G	オニグルミ		89	(第Ⅱ河道)	不詳					
31	2D-64G	モモ		90	(第Ⅱ河道)	不詳					
32	2D-64G	シバグリ		91	(第Ⅱ河道)	不詳					
33	2D-64G	不詳		92	(第Ⅱ河道)	不詳					
34	2D-64G	モモ	154	93	(第Ⅱ河道)	不詳					
35	2D-64G	モモ		94	(第Ⅱ河道)	不詳					
36	2D-64G	モモ		95	(第Ⅱ河道)	不詳					
37	2D-63G	モモ		96	(第Ⅱ河道)	不詳					
38	2D-64G	ユウガオ (ヒョウタン)	155	97	(第Ⅱ河道)	不詳					
39		トチの木	154	98	(第Ⅱ河道)	不詳					
40		オニグルミ		99	(第Ⅱ河道)	不詳					
41		クルミ		100	(第Ⅱ河道)	不詳					
42		オニグルミ		101	(第Ⅱ河道)	不詳					
43		オニグルミ		102	(第Ⅱ河道)	不詳					
44		オニグルミ		103	(第Ⅲ河道)	不詳					
45		オニグルミ		104	(第Ⅲ河道)	不詳					
46		モモ		105	(第Ⅲ河道)	クルミ					
47		モモ		106	(第Ⅲ河道)	不詳					
48		クルミ		107	(第Ⅲ河道)	ユウガオ (ヒョウタン)	154				
49		オニグルミ		108	(第Ⅲ河道)	ヤブツバキ (大)	155				
50		オニグルミ		109	(第Ⅲ河道)	トチの木	154				
51		クルミ	154	110	(第Ⅲ河道)	ヒョウタン	155				
52		クリ	155	111	(第Ⅲ河道)	クスギ	155				
53		クルミ	154	112	(第Ⅲ河道)	クルミ	154				
54		トチの木		113	(第Ⅲ河道)	トチの木	154				
55		クルミ		114	(第Ⅲ河道)	カヤの木	154				
56		トチの木	154	115	(第Ⅲ河道)	モモ					
57	(第Ⅱ河道)	クルミ(大)									
58	(第Ⅱ河道)	クルミ									
59	(第Ⅱ河道)	モモ									
60	(第Ⅱ河道)	モモ									

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
1	イノシシ	後臼歯、齒槽片							下顎M <sub>1</sub> ?
2	イノシシ	後臼歯片							
3		骨片							
4	イノシシ	尺骨片	右	成?					
5	イノシシ	下顎結合部	左	成	♂			PL151	I <sub>1</sub> I <sub>2</sub> 保存
6	イノシシ	骨片							
7		骨片							
8		骨片							
9		骨片							
10	ニホンシカ	角片					○?		
11		細骨片							
12	イノシシ	尺骨片	右	成				PL151	
13	イノシシ	上腕骨	右	成				PL151	
14		骨片							
15	イノシシ又はニホンシカ	上腕骨片	右						
16	イノシシ?	下顎頭?	右?	成					
17		骨片							
18		骨片							
19		骨片							
20		四肢骨片					○		
21		頭蓋骨片							
23		骨片							
24		頭蓋骨片							
25		骨片							
26	ニホンシカ	角片					○		
27		手根骨又は足根骨					○		
28	イノシシ又はニホンシカ	四肢骨片		成					
29		骨片		成					
30		骨片		成					
31	イヌ?	距骨							
32	ニホンシカ	距骨	左	成				PL153	
33		四肢骨片							
34	イノシシ	上顎犬歯	左	成	♂			PL151	
35		四肢骨片							
36		四肢骨片							
37		骨片							
38		四肢骨片							
39		四肢骨片							
40		寛骨片?							
41a	ニホンシカ	脛骨片?							
41b		手根骨又は足根骨					○		
42	ニホンシカ	種子骨					○		
43		骨片							
44		骨片							
45	ニホンシカ	上腕骨片	左	成					
46		椎骨片							
47		骨片							
48	ニホンシカ?	中手骨?		成					
50		骨片							
51	ニホンシカ	大腿骨骨幹近位部	右	成				PL153	
52	ニホンシカ	橈骨	右	成					
53		骨片							
55	ニホンシカ	橈骨遠位端	右	成				PL153	
56	イノシシ	脛骨遠位端	左	成				PL152	
57	ニホンシカ	上腕骨遠位端	左	成				PL153	
58		骨片							
59	ニホンシカ	上腕骨遠位端	左	成				PL153	
60		四肢骨片							
61		骨片							



2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年令	性別	加工	焼骨	写真	備考
62	ニホンシカ	中足骨骨幹部		成					
63	イノシシ	下顎結合部			♂			PL151	
64		四肢骨片							
65	ニホンシカ	角分岐部片			♂				第一分岐部?
66	ニホンシカ	踵骨片	左	成			○	PL153	
67		細骨片							
69	イノシシ	上腕骨片	左	成					
70	イノシシ	脛骨片	右	成					
71	ニホンシカ	踵骨	右	成				PL153	
72	ニホンシカ	角坐骨	左	成	♂	○		PL152	後内側に角切断のための切り傷あり。図299
73	イノシシ	臼歯片							
74	イノシシ	前肢中節骨					○	PL152	第2指または第4指
75	ニホンシカ	橈骨近位端	左	成					
76	イノシシ	踵骨	左	成					
77	ニホンシカ	上顎第三後臼歯	左	成				PL152	
78		骨片							
79	ニホンシカ	中手骨	左	成				PL153	
80		骨片							
82		骨片?							
84		椎骨片							
85		骨片							
86		四肢骨片							
87	ニホンシカ	角片							
89		骨片							
90		骨片							
91	ニホンシカ	角片							
92	イヌ	下顎骨片							
93	ニホンシカ	橈骨片	左	成?	♀?				
94	イノシシ	臼歯片						PL151	
95	イノシシ	臼歯片							
96	イノシシ	上顎臼歯2個	左	3才±	♂?			PL151	M <sup>2</sup> 、M <sup>3</sup>
98		骨片					○		
99		四肢骨片							
100	ニホンシカ	踵骨	左	成					
101		骨片							
102		骨片							
103	イノシシ	上顎第三後臼歯片	右	3.5才	♂			PL151	
104	イノシシ	臼歯片							
105	イノシシ	下顎骨片?							
107		骨片					○		
108	イノシシ?	踵骨片							
109	ニホンシカ	臼歯片							
110		骨片							
111		距骨片?							
112	ニホンシカ?	四肢骨片		成					
113	ニホンシカ	角片							第一分岐部か?
114	ニホンシカ	橈骨片	左	成					
115		骨片							
116		骨片							
117	ニホンシカ?	角片?							
118		骨片							
120		骨片							
121		骨片							
122	ニホンシカ	距骨	左	成					
123		骨片							
124	ニホンシカ	足根骨					○		
125		骨片							
126		骨片							

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年齢	性別	加工	焼骨	写真	備考
128	ニホンシカ	角付き前頭骨	右	成	♂	○		PL152	第一枝分岐部に切断痕
129	イノシシ	上顎第四前臼歯	右	2才±	♂			PL151	
130		骨片							
131	ニホンシカ	桡骨遠位端	左	成					
132		骨片							
133	ニホンシカ	臼歯片						PL152	
134	ニホンシカ?	角片?						PL153	M <sub>2</sub> 、M <sub>3</sub>
135		骨片						PL151	
136	ニホンシカ	上腕骨遠位端片	右	成					
137	ニホンシカ	角付き前頭骨						PL152	
138	ニホンシカ	下顎臼歯2個	左	1.5才±				PL153	M <sub>2</sub> 、M <sub>3</sub>
139	イノシシ	上顎第三後臼歯	右	2.5才±	♂?			PL151	
140		頭蓋骨片							
141	イノシシ	下顎臼歯2個付き	左	2.5才±	♂?			PL151	M <sub>2</sub> 、M <sub>3</sub>
142		骨片							
143		骨片							
144		骨片							
145		四肢骨片					○		
146	イノシシ	尺骨近位端	右	成				PL152	
147	ニホンシカ	肩甲骨片	左	成	♂?				
148	イノシシ	寛骨臼片	左	成			○		
149		骨片					○		
150	ニホンシカ?	脛骨片	右	成					
152		四肢骨片							
153		四肢骨片							
154	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
155	ニホンシカ	脛骨近位半分	右	成				PL153	
156		臼歯片							
158	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
159	イノシシ	脛骨片	左	2才以下				PL152	
160		四肢骨片							
161	イノシシ又はニホンシカ	胸椎又は腰椎							
162	ニホンシカ	上顎第二前臼歯	左	10才±	♀?			PL153	
163		骨片							
164	ニホンシカ	角片							
165	イノシシ?	腰椎片							
166		四肢骨片							
167	イノシシ	肩甲骨	左	1才以下					近位骨端未癒合
168	ニホンシカ	上顎第三後臼歯	右	成				PL152	
169	ニホンシカ	上顎臼歯片							
170	ニホンシカ	下顎第一切歯	右	5才±				PL153	
171	イノシシ	肩甲骨	左	成				PL152	
172	ニホンシカ	上腕骨片	左	成					
173	ニホンシカ?	肩甲骨片	左	成					
175		骨片							
177	ニホンシカ	角片							
179		骨片							
180	イノシシ	上顎第一後臼歯	右		♂?			PL151	歯槽骨付
181	イノシシ	下顎結合部	右	亜成又は成	♂				
182	イノシシ?	頭骨片							
183	ニホンシカ	角付き角坐骨	右	成	♂			PL152	
184	イノシシ	上顎第三前臼歯	右	2.5才?	♂			PL151	
185	イノシシ	下顎第一切歯	左右					PL151	
186a	イノシシ	上顎臼歯片							
186b	イノシシ	上顎第一切歯	左	2才±	♂			PL151	
187	イノシシ	側頭骨片	左						
188	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
189	ニホンシカ	角付き前頭骨							
190	イノシシ	上顎骨臼歯2個付き	左	成	♂			PL151	

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年令	性別	加工	焼骨	写真	備考
191		脛骨近位端	左	成					
192	イノシシ	角片							角坐付近
193	ニホンシカ	角付前頭骨	左	成	♂			PL152	角坐骨付き
194	ニホンシカ	臼歯片		亞成?					
195		骨片							
196	イノシシ	上腕骨近位骨幹	左	成				PL151	
197		四肢骨片		成					
198	ニホンシカ	下顎骨片臼歯2個付き	左	10才±				PL153	M <sub>2</sub> 、M <sub>3</sub>
199		骨片							
200	ニホンシカ	橈骨片	右	成?				PL153	
201	ニホンシカ	下顎第一、第二後臼歯	右	2才±				PL152	
202	イノシシ	寛骨白片	左	成?				PL152	
203	ニホンシカ	中足骨	右	成				PL153	
204	ニホンシカ	角片	右	成	♂			PL152	落角。図299
206	ニホンシカ	上腕骨片	右	成?				PL153	
207	イノシシ	頭蓋冠片		亞成					頭頂骨+後頭骨
208	ニホンシカ	橈骨近位端	右	成	♂?			PL153	
209		四肢骨片							
210	ニホンシカ	下顎臼歯	右	3才±				PL152	P <sub>3</sub> 、P <sub>4</sub> 、M <sub>3</sub>
211	ニホンシカ	下顎臼歯	右	2.5才				PL152	
212	ニホンシカ?	踵骨	右	成				PL153	
213	ニホンシカ	腰椎						PL153	第四又は第五
214	イノシシ?	寛骨片	右	成		○?		PL152	寛骨臼に加工痕?
215		骨片							
216	イノシシ	下顎第二前臼歯	右						
218	ニホンシカ?	大腿骨骨幹遠位部	左	成				PL153	
219	イノシシ	下顎第一切歯	右	成	♂?		○	PL151	
220	ニホンシカ	上腕骨	右	成				PL153	
221		骨片							
222	イノシシ又はニホンシカ	脛骨片?							
223		骨片							
224	イノシシ?	尺骨近位部	右	成					
225		細骨片							
226		寛骨白片	右	成					
227	イノシシ	上腕骨遠位部	右	成				PL151	
228	イノシシ	下顎犬歯		成	♂	○		PL151	骨角器に加工した痕跡あり。図299
229	シカ	臼歯片	左下	3.5才?				PL152	M <sub>3</sub>
230		骨片							
231		骨片							
232	イノシシ	脛骨片	左			○		PL152	加工痕あり。図299
233	イノシシ	上顎第三前臼歯	右	成	♂?			PL151	
234	イノシシ	上顎骨後臼歯1個付き	右	4才±	♂			PL151	M <sup>2</sup>
235	イノシシ	上顎第三後臼歯	右	4才±	♂			PL151	234と同一個体
236	イノシシ又はニホンシカ	四肢骨片							
237	ニホンシカ	橈尺骨片	右	成	♂?			PL153	
238	ニホンシカ	下顎骨前臼歯3個付き	右	11才±	♀?			PL152	P <sub>2</sub> 、P <sub>3</sub> 、P <sub>4</sub>
239		骨片							
241	イノシシ	指骨片		成					前肢中節骨?
242	イノシシ	大腿骨外側顆片	右						
244	ニホンシカ	上顎第二後臼歯	左	成				PL152	
245		細骨片					○		
246		四肢骨片							
247		骨片							
248	ニホンシカ	指骨を含む骨片					○		
249		骨片					○		
250		骨片							
251a	イノシシ	第二、第三後臼歯	左	2.5才	♂?				
251b		骨片					○		

2号河川跡獣骨一覧表

番号	種名	部位名	左右	年令	性別	加工	焼骨	写真	備考
252	イノシシ?	頭骨片							
253		骨片							
254	ニホンシカ	中足骨	右	成					
255		骨片					一部○		
256a	イノシシ	下顎切歯		成	♂?			PL151	
256b		骨片					○		
257		四肢骨片					○?		
258		骨片					○		
259		骨片							
260		骨片							
261		骨片					○		
262	イノシシ又はニホンシカ	手根又は足根骨					○		
263	ニホンシカ	角細片					○	PL152	亀裂多数
264		骨片							
265	ニホンシカ	角片	左?	成	♂			PL152	落角
266	ニホンシカ	脛骨遠位部	左	成				PL153	
267	イノシシ	下顎骨歯3個以上付	左右	4.5才+	♀			PL151	C、L P <sub>4</sub> 、R M <sub>3</sub>
268a	イノシシ又はニホンシカ	中手又は中足骨							
268b	イノシシ	上腕骨遠位端							
269	イノシシ又はニホンシカ	脛骨片	右	成					
270	イノシシ	橈骨近位端	右	成	♂?				
271		骨片							
272	ニホンシカ	上腕骨遠位端	右	成	♂			PL153	
273	イノシシ	下顎結合部切歯犬歯付		成	♀			PL151	
274		骨片							
275							○	PL151	骨針。図299
276	イノシシ	歯片							
277		頭骨片その他							
278		骨片							
279	ニホンシカ	上顎骨骨幹片							
280	イノシシ	上顎第二後臼歯	左	成	♂			PL151	
281	ニホンシカ	脛骨	右	成	♂?			PL153	
282	ニホンシカ	角坐骨	左	成	♂		○	PL152	角の切断痕明瞭。図299
283	イノシシ?	四肢骨片							
284	イノシシ?	踵骨							
286	ニホンシカ	中足骨片		成					
287	ニホンシカ	下顎第三後臼歯	右	4才±				PL152	
289		細骨片							
290	ニホンシカ	脛骨骨幹片	右?	成					
291		四肢骨片							
292	ニホンシカ	上腕骨骨幹近位端	右	成					
294		骨片					○		
295	ニホンシカ	臼歯片							
296a	イノシシ	下顎犬歯	右	成	♀				
296b	ニホンシカ	中足骨片							
297	ニホンシカ	踵骨	左	成				PL153	
298	ニホンシカ	角坐骨	右	成	♂			PL152	落角の可能性あり。
489	イノシシ?	上腕骨外側滑車片							
490	ニホンシカ	距骨	右	成				PL153	
491	ニホンシカ	前肢手根骨	左	成				PL153	

## 4. 畠出土遺物観察表

畠出土遺物観察表《弥生土器》 図323

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
710	弥生土器 壺	口縁部付近破片	畝間16グループ埋没土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②やや緩い。③橙7.5YR6/6	頸部から口縁部に向かい、大きく外反する。口縁部は折り返しを呈す。内面の一部に横撫で痕がある。	外面は口縁から頸部にかけて、櫛描波状文が5段施文されていることが確認できる。	
709	弥生土器 壺	胴部半部破片	畝間16グループ埋没土中	①白色・夾雑鉱物を含む。②やや緩い。③橙5YR6/4	表面は横方向に器面調整を行う。	表面には、棒状工具による鋸歯文内に斜線文が施文される。	
715	弥生土器 壺	口縁部破片	畝間29グループ1埋没土中	①長石・小礫を含む。②良好。③赤褐5YR4/6	口縁部と頸部の境に有段をもつ。内面は横撫で整形。口縁部には絡糸体回転圧痕、口縁端部には同圧痕が施文される。	口縁部と頸部との境には棒状の刺突文があるが、1単位が2つづつの施文具を使用したと思われる。	
707	弥生土器 甕	口縁部～頸部破片	畝間13グループ3埋没土中	①白色鉱物を含む。②良好。③にぶい黄橙10YR6/3	肩部は丸みをもつ。口縁部は大きく外に開き、口縁端部は丸みをもつ。外面口縁部は横撫で。頸部には斜方向に刷毛目整形痕が残る。内面には横方向に磨き痕が残る。表面には焼成後荒れている。	頸部には8条1単位の右廻りの簾状文、肩部には櫛描波状文を施文している。	

畠出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図323

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
702	土師器 S字甕	口縁部破片 口(14.4cm)	畝間1グループ3埋没土中	①微細砂を含む。②硬質。③灰白2.5Y8/2	外面斜方向刷毛目調整。内面指などで。口縁部内外面横などで。	
703	土師器 甕	口縁部～体部破片 口(15.0cm)	畝間3グループ1埋没土中	①細砂・石英粒を多量に含む。②軟質。③にぶい黄橙10YR7/3	体部外面横方向鈍削り。内面横方向鈍などで調整。口縁部内外面横などで。	
704	土師器 小形甕	口縁部破片 口(12.8cm)	畝間4グループ1埋没土中	①微細砂を含むが、緻密な胎土である。②普通。③橙5YR6/6	外面などで調整の後、縦方向磨き。内面などで、横方向磨き。	
701	土師器 101 S字甕	口縁部～頸部破片 口(14.9cm)	畝間1グループ埋没土中	①細砂・雲母を多く含む。②やや硬質。③褐灰7.5YR4/1	胴部外面斜方向刷毛目、内面指などで。口縁部内外面横などで調整。	
705	土師器 甕	底部破片	畝間9グループ埋没土中	①砂粒を少量含む。②やや軟質。③橙2.5YR6/6	外面指などで調整。内面斜方向刷毛目調整。	
706	土師器 小形器台	脚部破片	畝間11グループ1埋没土中	①微細砂・雲母粒を含む。②やや軟質。③橙7.5YR6/6	外面縦方向刷毛目整形の後、磨き調整。内面縦方向などで調整。	外面赤色塗彩。
708	土師器 101 S字甕	脚部1/4残存底(9.6cm)	畝間15グループ2埋没土中	①細砂・雲母粒を多量に含む。②やや軟質。③淡赤橙2.5YR7/3	外面縦～斜方向刷毛目調整。内面指などで。	

畠出土遺物観察表《土師器・須恵器》 図323

番号 PL	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
711	土師器 器台	脚部上半破片	畝間18グループ 3埋没土 中	①微細砂・雲母を多く 含む。②硬質。 ③にぶい橙7.5YR7/3	外面縦方向鈍磨き。内面縦方向鈍押さえ。器受部内面 丁寧な調整。	
731	土製品 紡錘車	1/2残存 口 5.4cm 高 1.1cm	畝間10グループ 7埋没土 中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③灰白2.5Y8/2	内外面なで調整。	
712	土師器 S字甕	口縁部破片 口 (15.4cm)	畝間19グループ 1埋没土 中	①微細砂を含む。 ②やや軟質。 ③明褐灰7.5YR7/2	内外面横なで調整。	
713	土師器 甕	口縁部一部部 破片 口 (19.3cm)	畝間20グループ 4埋没土 中	①微細砂・砂粒を含む。 ②硬質。 ③灰褐7.5YR6/2	外面縦方向刷毛目調整。内面横方向なで。口縁部内 外面横なで。	

# 新保田中村前遺跡 I

## 《遺物観察表編》

一級河川染谷川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

平成2年3月15日 印刷

平成2年3月20日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

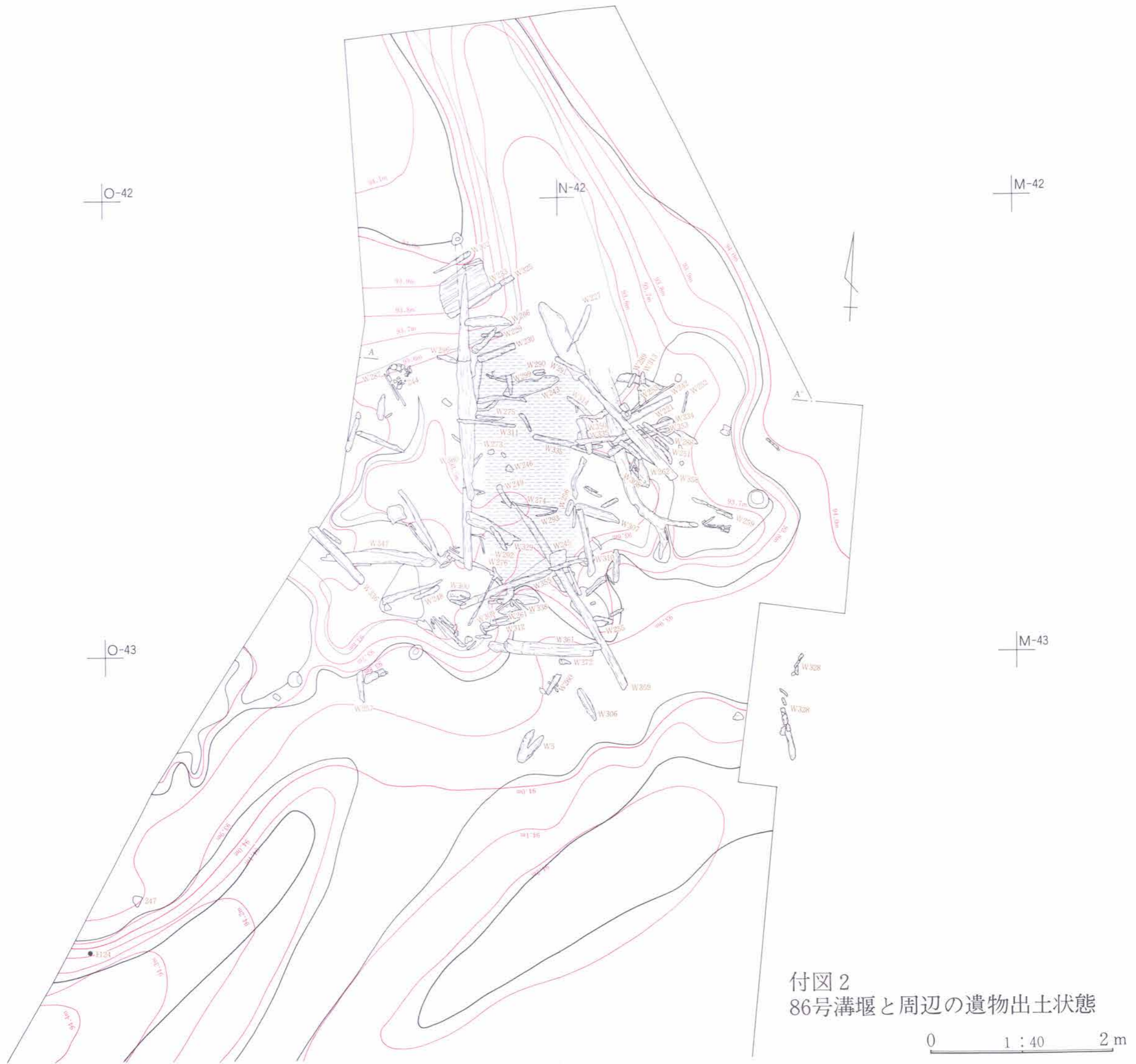
発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所



付図1 77号溝遺物出土状態





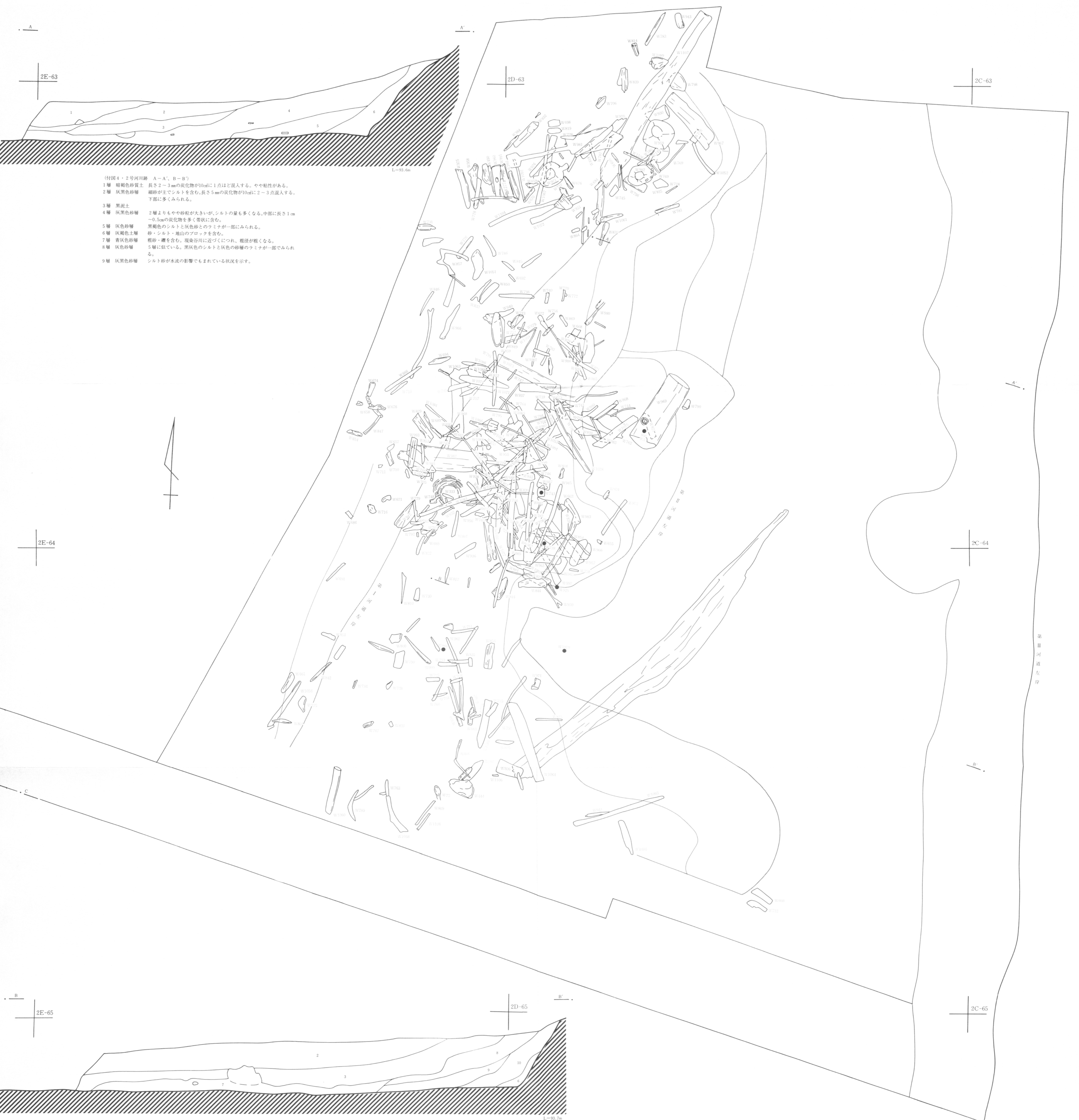
付図2  
86号溝堰と周辺の遺物出土状態

0 1 : 40 2 m



付図3 1号河川跡遺物出土状態(部分)

0 1:40 2m



(付図4・2号河川跡 A-A', B-B')

1層 暗褐色砂質土 長さ2〜3mmの炭化物が10㎡に1点ほど混入する。やや粘性がある。

2層 灰黒色砂質土 細砂が主でシルトを含む。長さ5mmの炭化物が10㎡に2〜3点混入する。下部に多くみられる。

3層 黒泥土

4層 灰黒色砂層 2層よりやや粒径が大きいが、シルトの量も多くなる。中部に長さ1cm〜0.5mmの炭化物を多く帯状に含む。黒褐色のシルトと灰色砂とのラミナが一部にみられる。

5層 灰色砂層 砂・シルト・地山のブロックを含む。

6層 灰褐色土層 粗砂・礫を含む。現象谷川に近づくにつれ、粒径が粗くなる。

7層 青灰色砂層 5層に似ている。黒褐色のシルトと灰色の砂層のラミナが一部みられる。

8層 灰色砂層

9層 灰黒色砂層 シルトが水流の影響でもまれている状況を示す。

I層 表土。茶褐色土。細かい軽石を含む。

II層 軽石を含む黄褐色土。

III層 灰黄色砂層。Hr-F/A期に伴う洪水層。

IV層 灰色砂層のラミナ。Hr-F/A期に伴う洪水層。

V層 黄色砂層。Hr-F/A期に伴う洪水層。

VI層 砂下Hr-F/A。

VII層 暗褐色粘質土。As-Cを含む。

VIII層 As-Cを多量に含む黒色粘質土。

IX層 炭化物を含む粘質黒褐色土。

X層 灰色砂層。

XI層 灰色中砂層。

XII層 黒褐色砂層。

XIII層 炭化物を含む黒色粘質土。

XIV層 灰白色粘砂。灰白色シルトのラミナ。

XV層 黒泥土。

XVI層 本井を多く含む灰黒色砂質シルト。

XVII層 炭化物を多く含む黒褐色粘質シルト。

XVIII層 炭化物を多く含む灰褐色粘質土。

XIX層 炭化物を含む黒褐色粘質土。

XX層 善勝寺層底面埋込土。黒褐色粘質土。

XXI層 YFを多量に含む砂質シルト。

XXII層 灰褐色砂質土。

XXIII層 炭化物を含む。黒褐色土。

XXIV層 灰白色シルト。

XXV層 灰褐色シルト。

XXVI層 炭化物を多く含む黒褐色粘質シルト。

XXVII層 中細砂。

XXVIII層 黒泥土。

XXIX層 炭化物粒 YFを含むシルト。

XXX層 砂。

XXXI層 砂とシルトの互層。

XXXII層 シルト。

XXXIII層 砂礫。

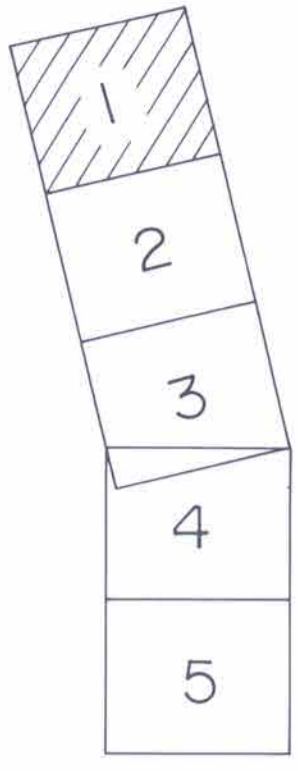
XXXIV層 褐色粘質土層。新しい遺土。

XXXV層 軽石を含む灰褐色砂質シルト。

XXXVI層 軽石を含むシルト。

XXXVII層 峰名山起源の軽石や、洪水砂のブロックと黒色泥土ブロックの混土。

付図4 2号河川跡木器出土状態



X=39.85

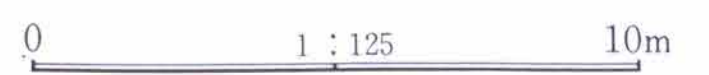
Y=70.70

X=39.85

X=39.80

Y=70.70

X=39.80



付図5-1  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅰ・Ⅱ面全体図

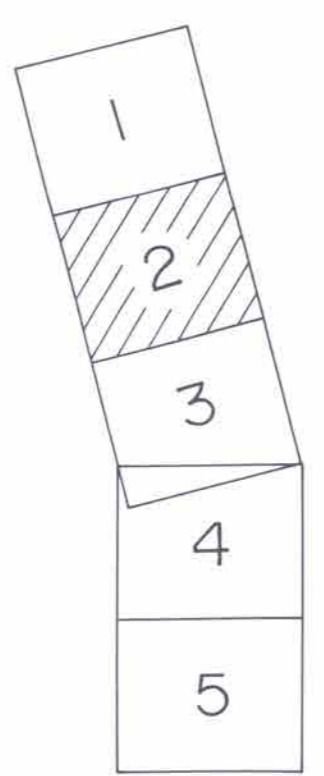
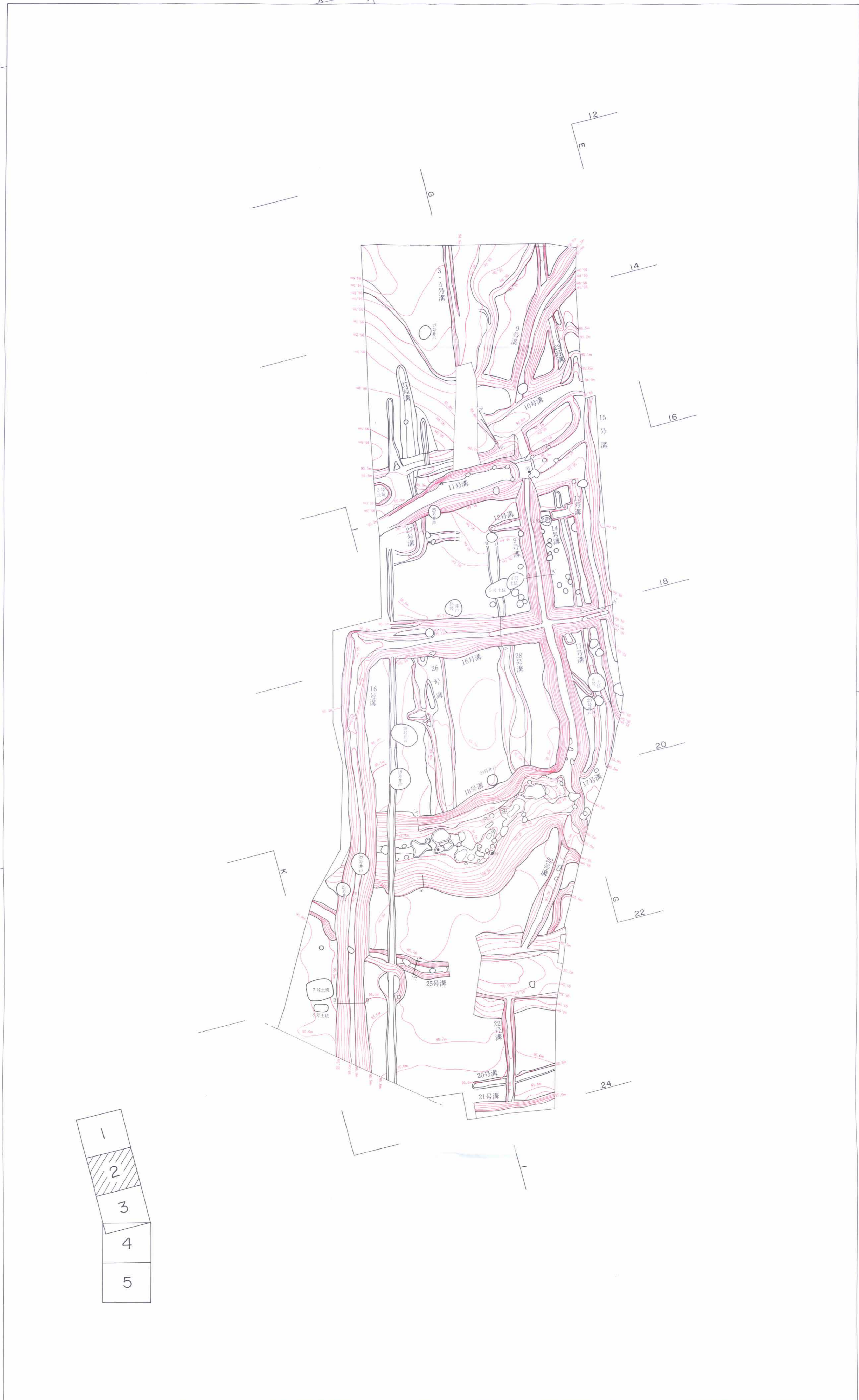
X=39.80

X=39.80  
Y=70.70

X=39.75

X=39.75

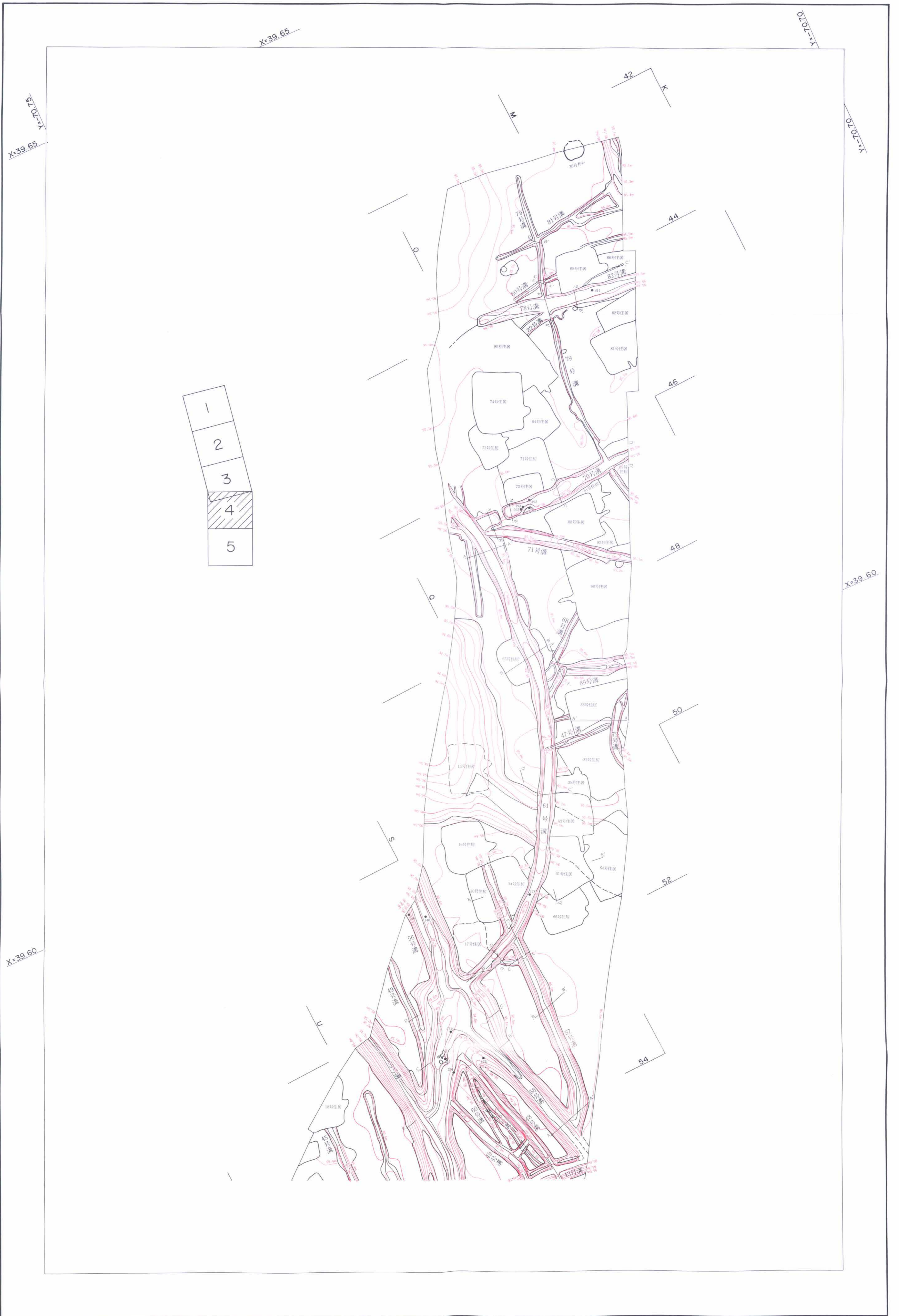
Y=70.70



0 1:125 10m

付图 5-2  
新保田中村前遗址村前地区 I · II 面全体图





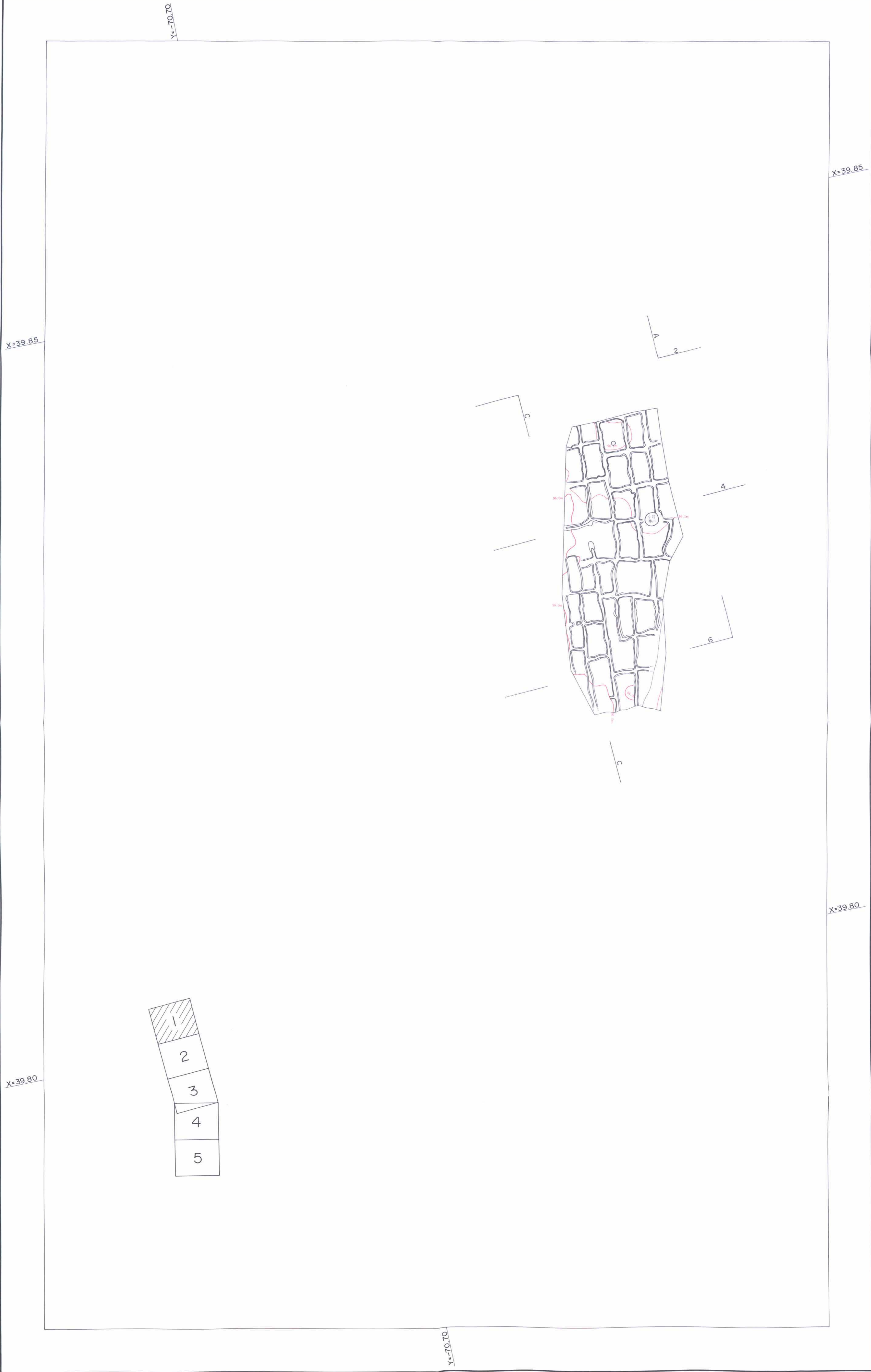
付图 5-4  
新保田中村前遺跡村前地区 I・II 面全体図



0 1 : 125 10m

付图 5-5  
新保田中村前遺跡村前地区 I・II 面全体图





0 1 : 125 10m

付図 6-1  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図

Y=70.70

X=39.70

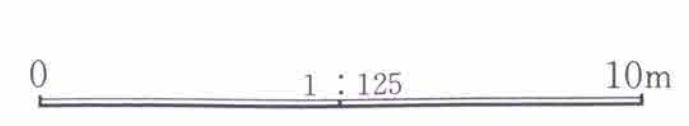
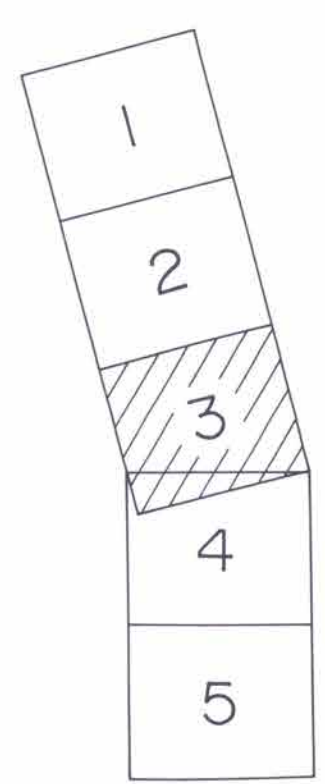
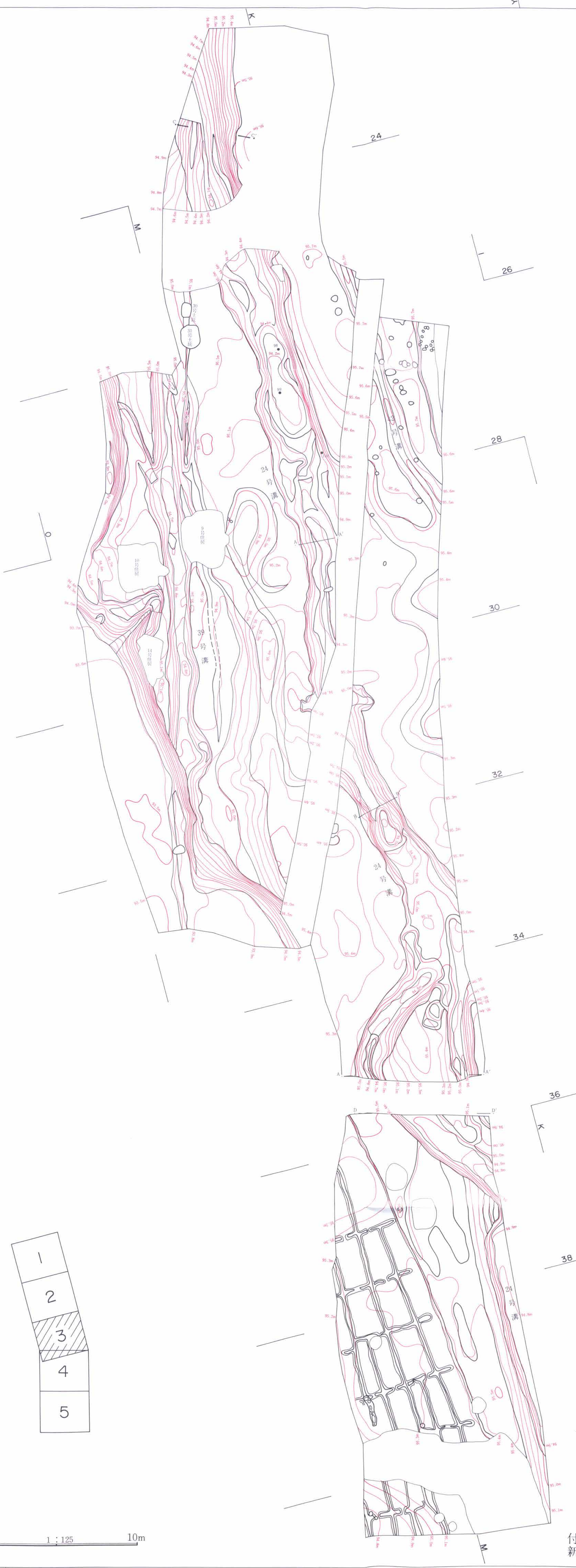
X=39.70

Y=70.75

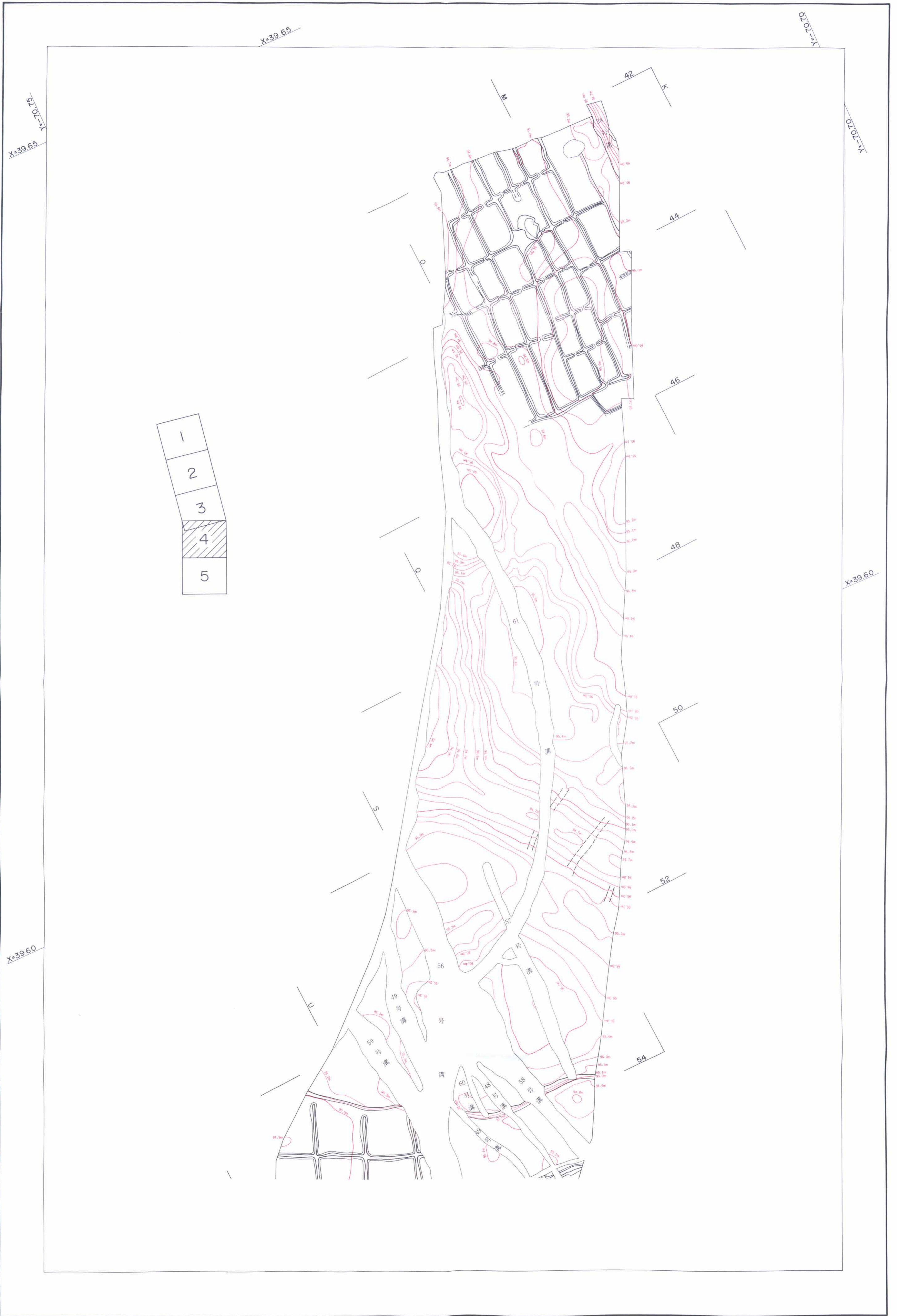
X=39.65

X=39.65

Y=70.70



付図 6-3  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図



0 1:125 10m

付図 6-4  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図



0 1 : 125 10m

付図 6 - 5  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅲ面全体図

X=39.70

Y=70.70

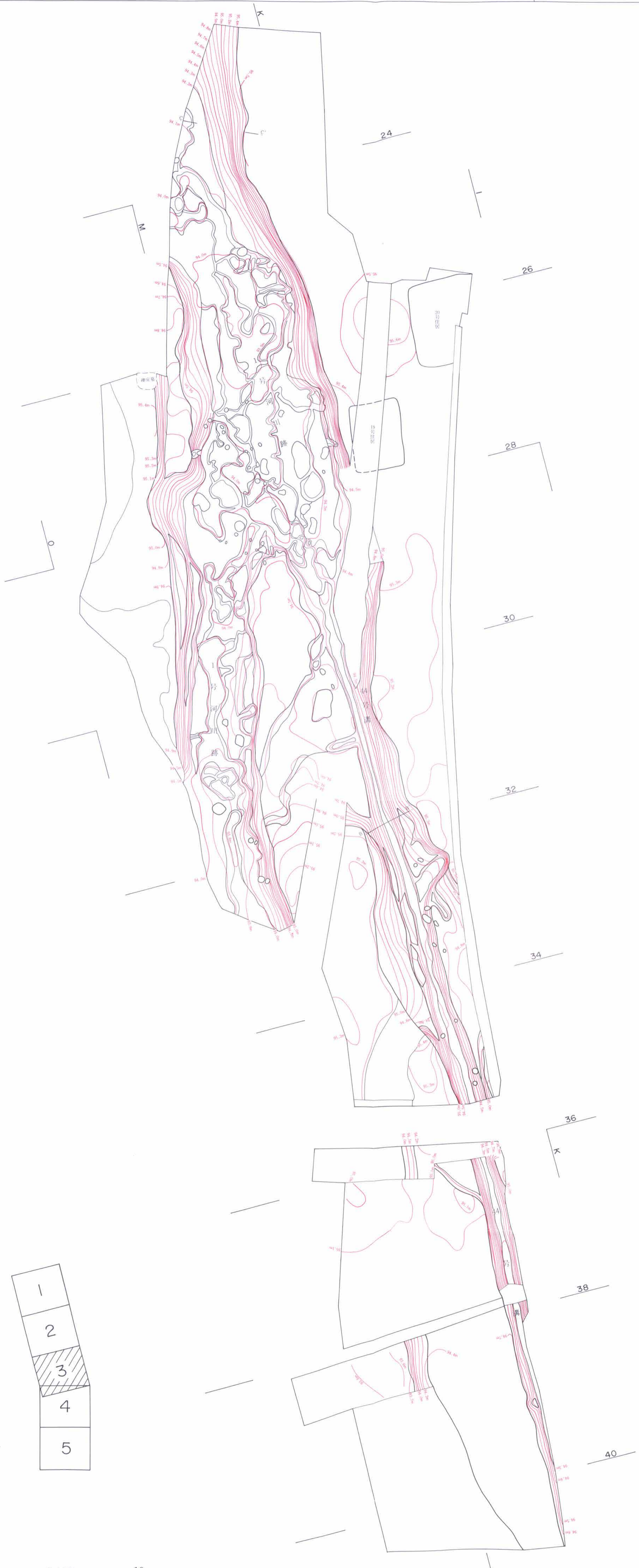
X=39.70

Y=70.75

X=39.65

X=39.65

Y=70.70



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

0 1 : 125 10m

付図 7-3  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

0 1 : 125 10m

付図 7-4  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



X=39.55

X=39.55

X=70.75

X=39.50

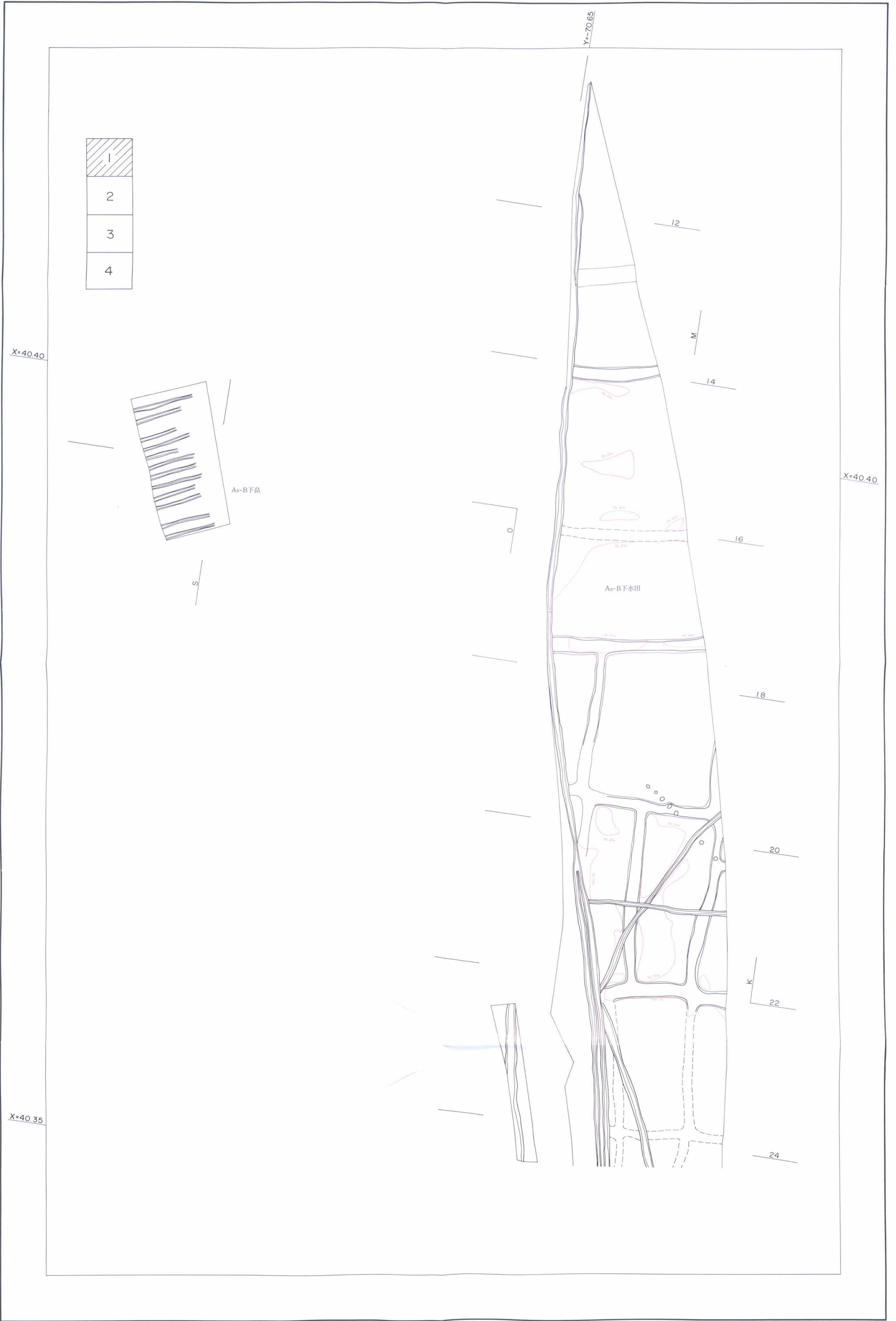
X=39.50

X=70.80

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

0 1 : 125 10m

付図 7-5  
新保田中村前遺跡村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図



付図8-1  
新保田中村前遺跡下り柳地区I面全体図



1
2
3
4

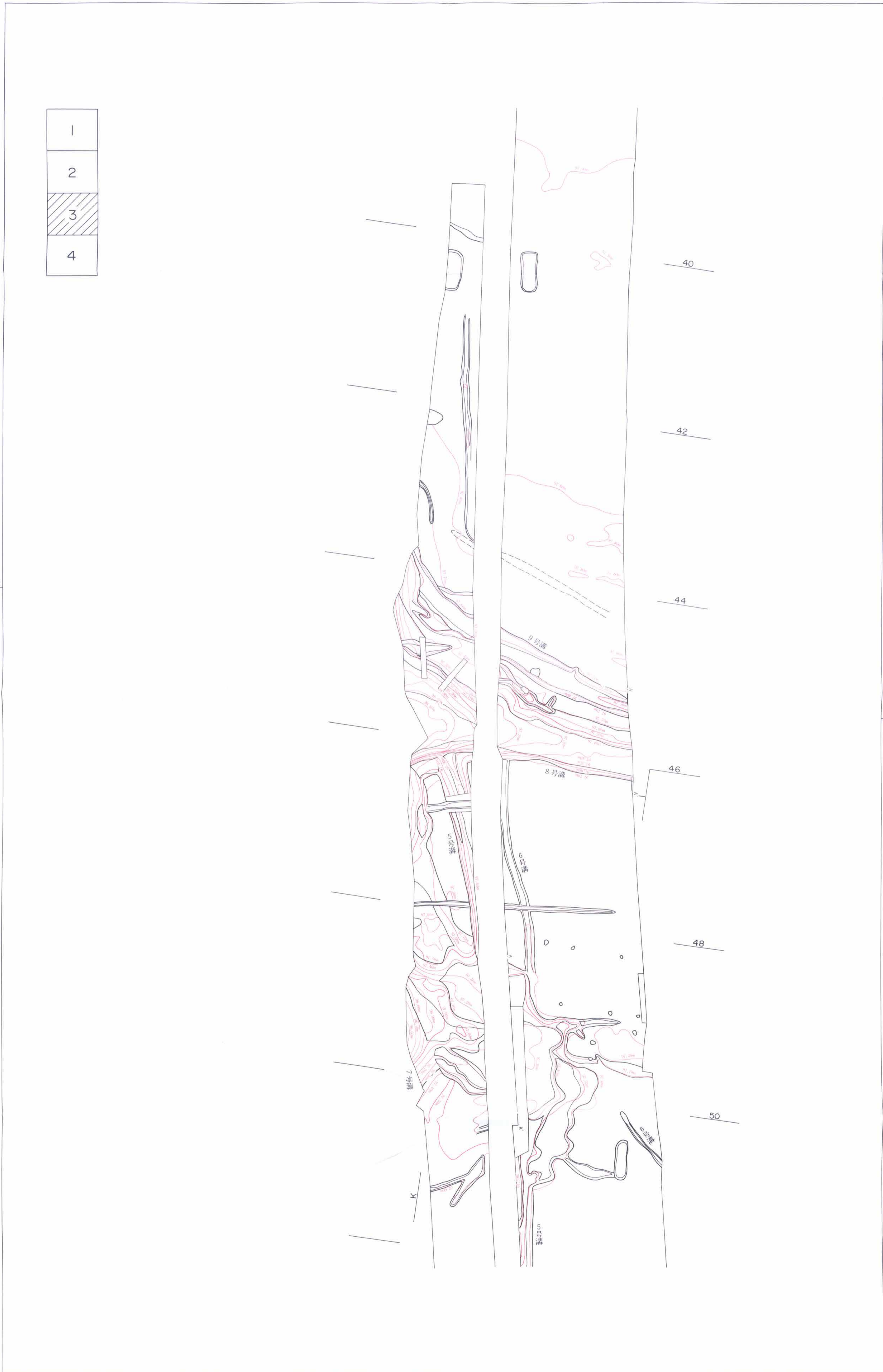


付図 8-2  
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図

1
2
3
4

X=40.25

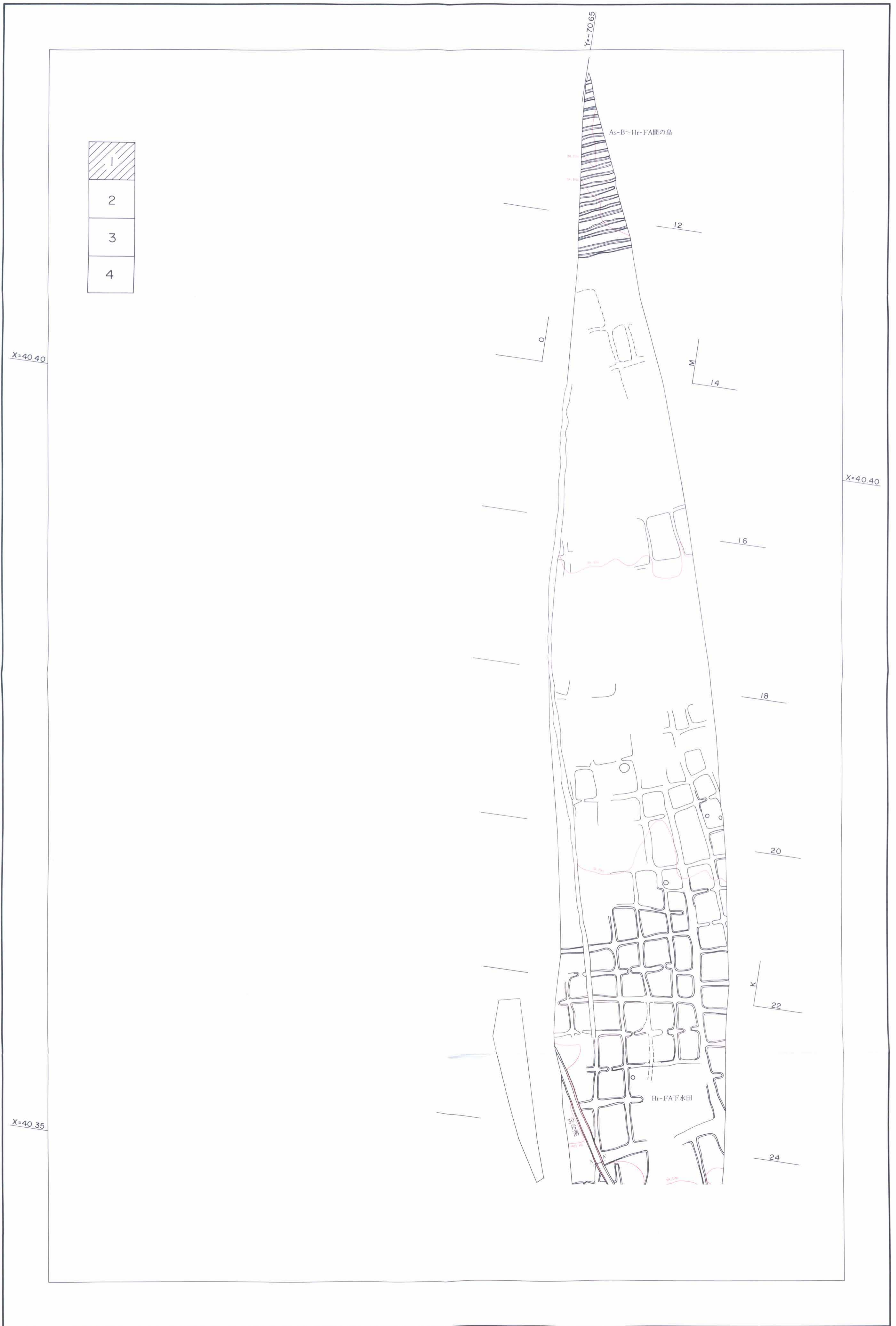
X=40.25



0 1 : 125 10m

付図 8-3  
新保田中村前遺跡下り柳地区 I 面全体図





0 1 : 125 10m

付図9-1  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図

1
2
3
4



X=40.35

X=40.30

X=40.30

0 1 : 125 10m

付図9-2  
新保田中村前遺跡下り柳地区II面全体図

1
2
3
4



X=40.25

X=40.25

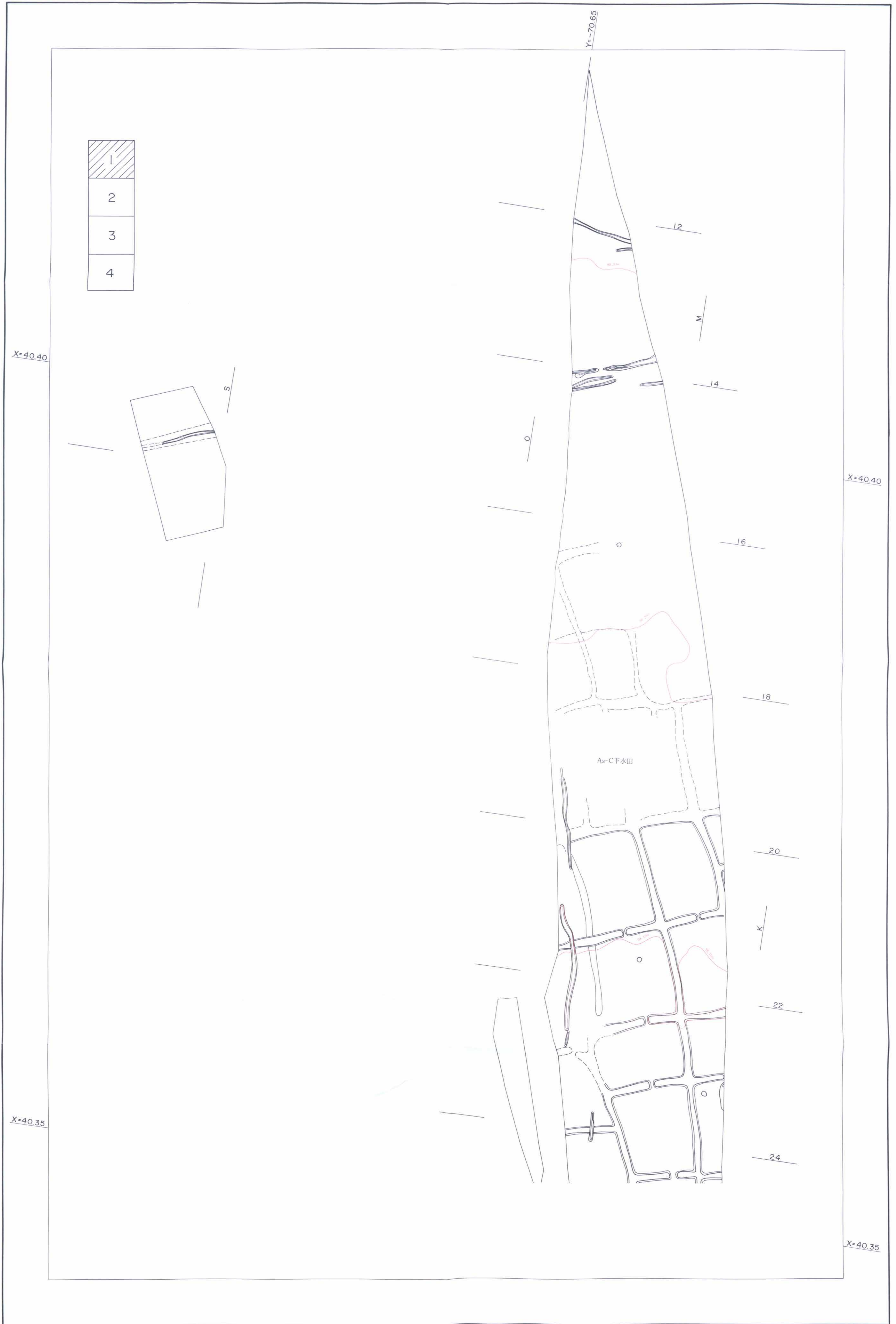


0 1 : 125 10m

付図9-3  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図



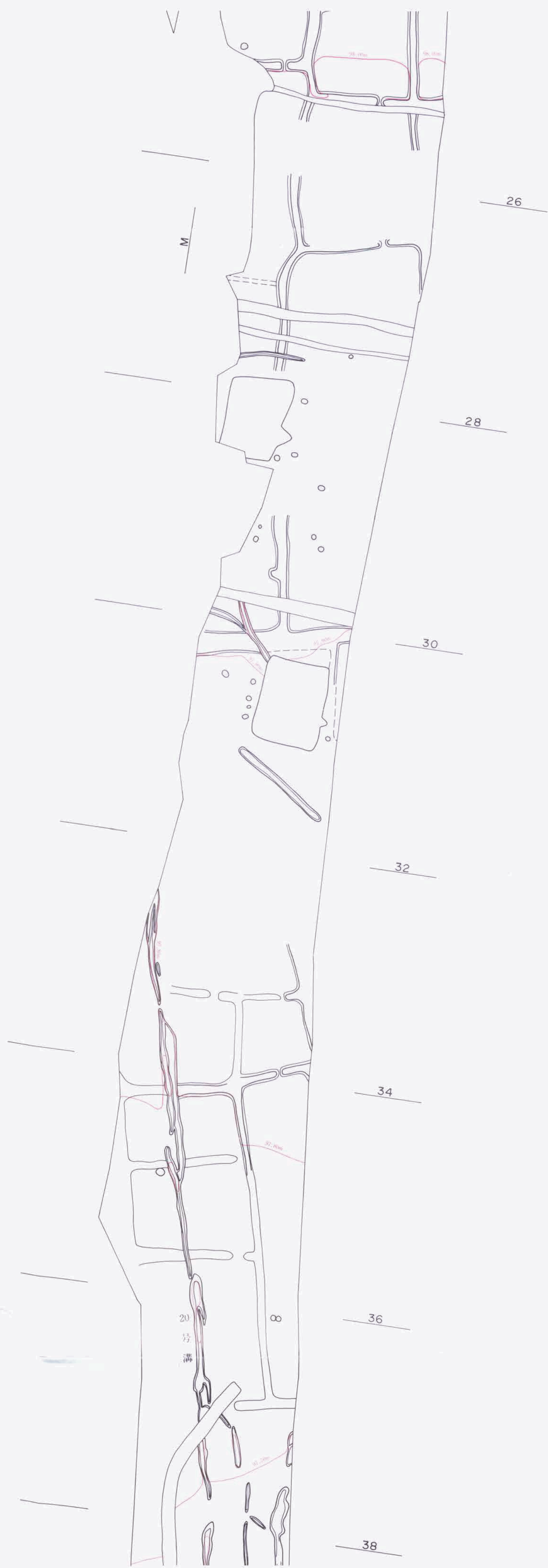
付図9-4  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅱ面全体図



付図10-1  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図



1
2
3
4



X=40.35

X=40.30

X=40.30

0 1 : 125 10m

付図10-2  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図

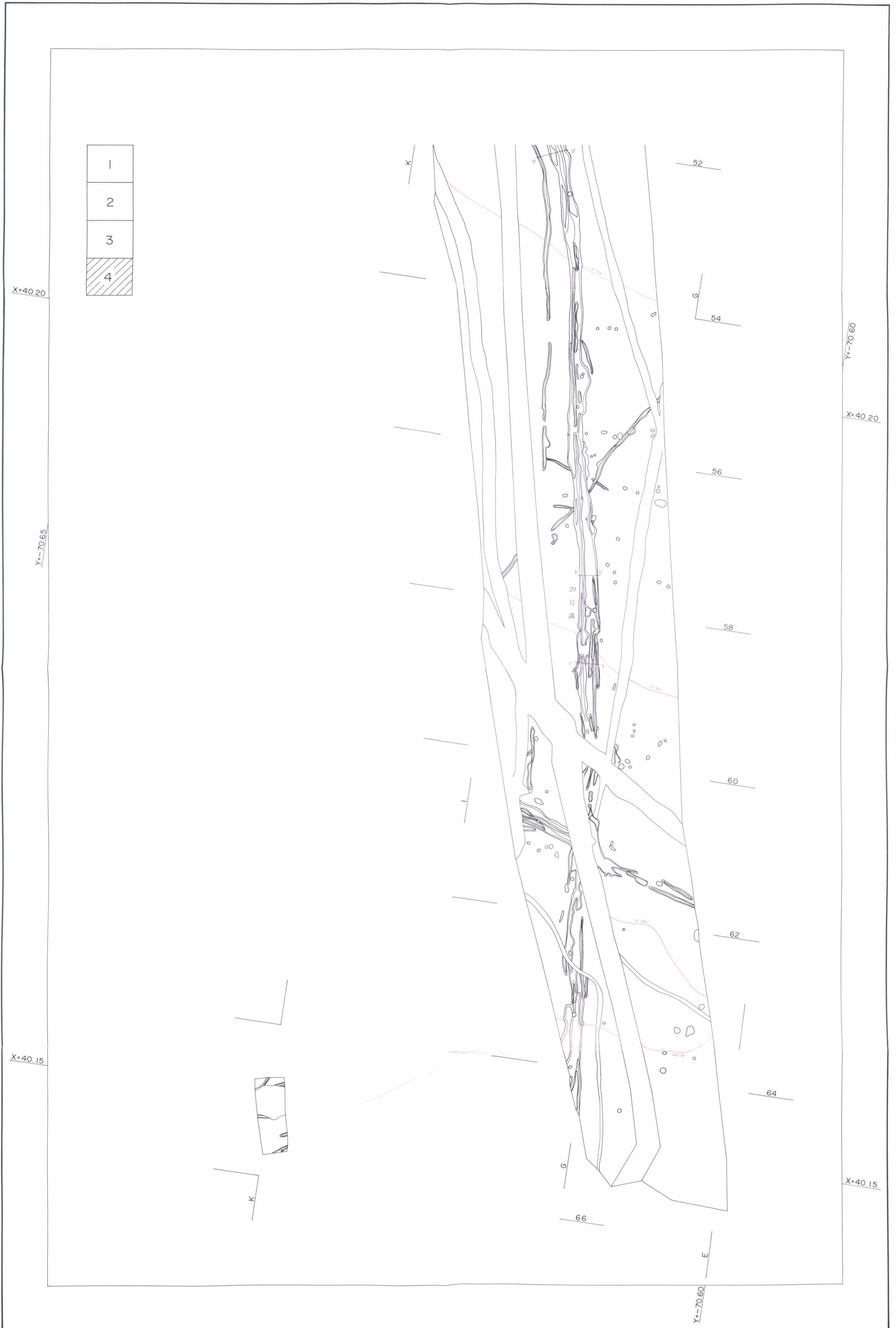
1
2
3
4

X=40.25

X=40.25



0 1 : 125 10m  
 付図10-3  
 新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図



1
2
3
4

0 1 : 125 10m

付図10-4  
新保田中村前遺跡下り柳地区Ⅲ面全体図